

PanelView Plus 6 ターミナル

400, 600, 700, 1000, 1250, 1500



お客様へのご注意

本製品の設置、構成、操作、メンテナンスの前には、本装置の設置、構成および操作に関する本マニュアルおよび参考資料に記載された資料をお読みください。ユーザは、適用されるすべての条例、法律、規格要件に加え設置、配線指示に熟知している必要があります。

設置、調整、供用開始、使用、組立て、分解、メンテナンスなどは、適切な訓練を受けた作業員が適切な実施基準に従って実施する必要があります。

製造メーカーが指定していない方法でこの機器を使用すると、機器による保護が無効になる場合があります。

Rockwell Automation, Inc. は、いかなる場合も、本機器の使用または適用により発生した間接的または派生的な損害について一切の責任を負いません。

本書で使用した図表やプログラム例は内容を理解しやすくするためのものであり、その結果としての動作を保証するものではありません。個々の導入においては数値や条件が変わることが多いため、当社では図表やプログラム例に基づいて実際に使用した場合の結果については責任を負いません。

本書に記載されている情報、回路、機器、装置、ソフトウェアの利用に関して特許上の問題が生じても、当社は一切責任を負いません。製品改良のため、仕様などを予告なく変更することがあります。

Rockwell Automation, Inc. の書面による許可なく本書の全部または一部を複製することは禁じられています。

本書を通じて、必要な場合は、安全上の注意事項として以下の記号を使用しています。



警告：人身傷害または死亡、物的損害、または経済的損失の原因となる可能性がある、危険な環境での爆発を引き起こす可能性のある操作や状況に関する情報を示します。



注意：本書内の「注意」は正しい手順を行わない場合に、人体に障害を加えうる事項、および装置の損傷または経済的な損害を生じうる事項を示します。危険を識別、回避し、起こりうる結果を認識できるようにするための注意事項です。

重要

製品を正しく使用および理解するために特に重要な事項を示します。

機器上または機器内部には、具体的な注意事項を示すラベルが付いている場合もあります。



感電の危険：危険な電圧が存在する恐れがあることを知らせるために、ドライブやモータなどの装置の上または内部にラベルを貼っています。



やけどの危険：表面が危険な温度になっている恐れがあることを知らせるために、ドライブやモータなどの装置の上または内部にラベルを貼っています。



アーク閃光の危険：機器、例えば、モータ・コントロール・センタの上または内部には、アーク閃光の可能性を注意するラベルが付いている場合もあります。アーク閃光は人体に対する重大な危険または死亡事故の原因となります。適切な保護具 (PPE) を着用してください。安全な作業習慣と保護具 (PPE) の規制要件すべてに従ってください。

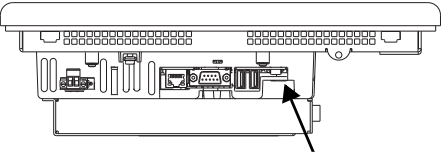
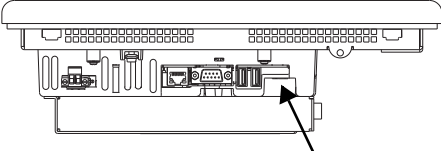
Allen-Bradley、Rockwell Software、Rockwell Automation、PanelView、FactoryTalk、RSLink、CompactLogix、ControlLogix、SLC、MicroLogix、PLC-5、およびRSView は、Rockwell Automation, Inc. の商標です。

Rockwell Automation に属さない商標は、それぞれの企業に所有されています。

本マニュアルには、新しい情報と前回リリースされたマニュアルから更新された情報があります。

新情報と更新情報

以下の表に、このリビジョンでの変更内容を示します。

項目	参照ページ
表8 のAC電圧に更新されました。	18
表26 のAC電圧および周波数(Hz)に更新されました。	25
表40 のAC電圧および周波数(Hz)に更新されました。	41
700～1500ターミナルが更新されました。新しいシリーズBターミナルには、ミニUSBポート(タイプB)は付いていません。 このユーザーズマニュアル全体を通じて、シリーズB 700～1500ターミナルに関するデータおよび図面からミニUSBポート(タイプB)がなくなりました。	17 18 25 32 38 40 42 44 120 121 122 131 132 136 140 141 142 144 146 163 173
この例では、1000 タッチターミナルを使用しています。	
 <p>ミニ USB ポート付きシリーズ A ターミナル (現在購入できません)</p>	
 <p>ミニ USB ポートなしシリーズ B ターミナル</p>	

Notes:

はじめに	参考資料	9
	パッケージの内容	9
	ファームウェアのアップグレード	9
	第1章	
概要	ターミナルについて	11
	Windows CE オペレーティングシステム	12
	オープンシステムとクロズドシステム	12
	スタートアップオプション	13
	デスクトップへのアクセス	13
	ソフトウェアのサポート	13
	400 および 600 ターミナルの機能	14
	700 ~ 1500 ターミナルの機能	17
	400/600 ターミナルの選択	20
	700 ~ 1500 ターミナルの選択	21
	アクセサリ	22
	第2章	
ターミナルの取付け	取付け隙間	30
	パネルに関する指針	30
	パネルのカットアウト寸法	30
	製品寸法	31
	400/600 ターミナルをパネルに取付け	33
	700 ~ 1500 ターミナルをパネルに取付け	35
	電源装置の端子台の取り外しおよび取付け	37
	DC 電源接続	38
	AC 電源接続	41
	初めて起動するとき	43
	ターミナルのリセット	43
	第3章	
構成モード	構成モードへのアクセス	45
	ターミナル設定	48
	アプリケーションのロードと実行	50
	スタートアップオプション	51
	デスクトップへのアクセス	54
	通信の設定	58
	イーサネットネットワーク接続	60
	ファイル管理	64
	ディスプレイ設定	67
	入力機器の設定	69
	印刷オプションの構成	72
	アプリケーションファイルの整合性チェック	74
	診断の構成	75
	システム・イベント・ログの表示と消去	76
	システム情報	76
	アラームディスプレイの有効/無効	78

時刻と日付の設定	79
地域の設定	81
フォントのリンク	84

第4章

Windows CE オペレーティング システム

Windows CE 6.0 の標準機能	85
拡張機能付きの Windows CE 6.0	87
Windows Explorer	88
タスクバー	88
入力パネル	88
Windows のコントロールパネル	89
Backup and Restore (バックアップおよび復元).....	90
Hardware Monitor (ハードウェアモニタ).....	93
Keypad Properties (キーパッドプロパティ).....	95
Touch Properties (タッチプロパティ).....	95
Display Properties (ディスプレイプロパティ).....	96
Logo Manager (ロゴマネージャ).....	98
System Information (システム情報).....	99
User Accounts (ユーザアカウント).....	102
Services (サービス).....	103
Network Server Configuration (ネットワークサーバ構成).....	104
Printer Support (プリンタのサポート).....	113
PDF Reader (PDF リーダ).....	116
Image Viewer (画像ビューワ).....	117

第5章

コンポーネントの取付け および交換

必要な工具	119
ロジックモジュールの取付けおよび交換	120
通信モジュールの取付けおよび交換	121
ディスプレイモジュールの交換	123
ベゼルの交換	124
バックライトの交換	126
バッテリーの交換	130
AC 電源モジュールの取付け	132
製品 ID ラベルの除去	134
キーパッドの刻印文字の差込みシートの交換	135
SD カードのロード	137
ディスプレイの清掃	138

	第 6 章	
ターミナルの接続	USB ポート	140
	イーサネット接続	142
	シリアル接続	144
	DH-485/DH+ 通信モジュール	147
	ControlNet 通信モジュール	150
	コントローラ接続	153
	第 7 章	
ファームウェアのアップ グレード	ターミナルのファームウェア	155
	ファームウェアファイルのダウンロード	156
	ファームウェア・アップグレード・ウィザード	156
	ストレージデバイスからのターミナルのファームウェアの アップグレード	157
	ネットワークを介してターミナルのファームウェアを アップグレード	160
	第 8 章	
トラブルシューティング	ステータスインジケータ	163
	ターミナルが正常に起動しない	164
	スタートアップメッセージおよびコード	166
	ターミナルのコンポーネントの確認	168
	イーサネット接続	169
	プログラムランチャー ActiveX コントロール	170
	アプリケーションが実行されない	170
	構成モードへのアクセス	170
	ファイル・システム・エラー	171
	高度な診断	171
	メンテナンス操作へのアクセス	172
	工場出荷時の設定の復元	174
	付録 A	
ターミナルの常駐フォント	TrueType フォント	177
	付録 B	
高輝度ディスプレイの 屋外での取付け	重要な注意事項	179
	反射防止オーバーレイの使用	179
	ソーラーバイザーの使用	179
	エンクロージャの選択	180
	バックライト	180
	ターミナルの向き	180
索引		

本マニュアルでは、PanelView Plus 6 ターミナルの取付け、構成、操作、およびトラブルシューティング方法について解説します。本マニュアルには、ターミナル上で動作するアプリケーションの作成手順は記載していません。

以下の操作も行なう必要があります。

- FactoryTalk View Studio for Machine Edition ソフトウェアを使用してターミナルで動作する HMI アプリケーションを作成する。
- HMI アプリケーションと相互作用するラダーロジックを作成する。

参考資料

以下の資料には、当社の関連製品に関する追加情報が記載されています。

マニュアル名	説明
PanelView Plus Specifications Technical Data (PanelView Plusの仕様 テクニカルデータ) (Pub.No. 2711P-TD005)	PanelView Plus 6プラットフォームの技術仕様、環境仕様、および認可について説明する。
Industrial Automation Wiring and Grounding Guidelines (配線および接地に関するガイドライン) (Pub.No. 1770-4.1)	ロックウェル・オートメーションの産業用システムを取付けるための一般的なガイドラインを提供する。
製品認証についてのWebサイト: http://www.ab.com	適合宣言書(DoC)、認可、および他の認可の詳細

これらの資料は、<http://www.rockwellautomation.com/literature/> で参照したり、またはダウンロードすることができます。技術資料をハードコピーでお求めの場合は、当社または当社代理店までお問い合わせください。

パッケージの内容

この製品は以下のアイテムが付属した状態で出荷されます。

- FactoryTalk View Machine Edition ランタイムソフトウェアがインストールされアクティブにされているターミナル
- 製品情報
- 400 および 600 ターミナルを取付けるための取付けレバー
- 700 ~ 1500 ターミナルを取付けるための取付けクリップ
- パネルのカットアウト用のテンプレート

ファームウェアのアップグレード

PanelView Plus 6 ターミナル向けの最新のファームウェアのアップグレードおよびその他のダウンロードを行なうには、<http://www.rockwellautomation.com/support> にアクセスして、Firmware Updates をクリックしてください。

Notes:

概要

項目	参照ページ
Windows CEオペレーティングシステム	12
オープンシステムとクローズドシステム	12
デスクトップへのアクセス	13
ソフトウェアのサポート	13
400および600ターミナルの機能	14
700～1500ターミナルの機能	17
400/600ターミナルの選択	20
700～1500ターミナルの選択	21
アクセサリ	22

ターミナルについて

PanelView Plus 6 ターミナルは、産業用環境下で HMI マシン・レベル・アプリケーションを実行するオペレータインターフェイス装置であり、ディスプレイのサイズは、4 ～ 15 インチです。これらの機器は、オペレータがアプリケーションのステータスを素早く理解できるように、情報をグラフィカルにモニタ、制御、および表示するために使用されます。

このプラットフォームは、多言語をサポートする共通の開発ソフトウェアによってプログラミングされ、推奨される Logix コントローラをはじめとするロックウェル・オートメーションのコントローラを備えるシステムに統合されます。

Windows CE オペレーティングシステム

PanelView Plus 6 ターミナルでは、大部分のユーザのニーズに応じて基本的な OS 機能を提供する Windows CE オペレーティングシステム (OS) が動作しています。

より複雑なアプリケーション要件を持つユーザ向けに、オプションの拡張機能とファイルビューワを提供するターミナルも存在します。

表 1 - オペレーティングシステムの機能

機能	Cat. No.	600ターミナル			700~1500ターミナル	
		400ターミナル	2711P-xxxx8	2711P-xxxx9	2711P-xxxx8 2711P-RP8x	2711P-xxxx9 2711P-RP9x
標準機能						
FTPサーバ		•	•	•	•	•
VNC クライアント/サーバ		•	•	•	•	•
ActiveXコントロール ⁽¹⁾		•	•	•	•	•
サードパーティのデバイスのサポート		•	•	•	•	•
PDFリーダ 		•	•	•	•	•
オプションの拡張機能						
Webブラウザ - Internet Explorer 		-	-	•	-	•
リモートデスクトップ接続 		-	-	• ⁽²⁾	-	•
メディアプレイヤー 		-	-	•	-	•
Microsoft Office ファイルビューワ						
• PowerPoint 		-	-	•	-	•
• Excel 		-	-	•	-	•
• Word 		-	-	•	-	•
WordPad テキストエディタ 		-	-	•	-	•

(1) ターミナルにロードされている ActiveX コントロールのリストについては、[78 ページの「FactoryTalk View ME Station 情報の表示」](#)を参照してください。

(2) 現時点では、拡張機能付き PanelView Plus 6 - 600 ターミナルは、リモートデスクトップ接続をサポートしていません。

オープンシステムとクローズドシステム

ターミナルは、オープンまたはクローズドなデスクトップ環境を実現するよう構成することができます。

- オープンシステムは、スタートアップ時に Windows Explorer デスクトップを起動します。このシステムはコントロールパネルを介して構成可能であり、Windows の操作をサポートします。
- クローズドシステムでは、スタートアップ時に FactoryTalk View Machine Edition アプリケーションが起動し、Windows Explorer デスクトップにはアクセスできません。

ターミナルはすべて、デスクトップへのアクセスが制限されるクローズドシステムとして出荷されます。システムを初めて起動すると、ターミナルの構成モードである FactoryTalk View ME Station が起動します。この時点で、スタートアップオプションを変更し、デスクトップへのアクセスを許可することができます。

スタートアップオプション

ターミナルは、スタートアップ時に以下の3つの動作のうち、いずれか1つを実行するように構成できます。

- FactoryTalk View Machine Edition HMI アプリケーションを起動する。
- ターミナルの構成モードである FactoryTalk View Machine Edition を起動する。この場合は、アプリケーションのロードと実行、スタートアップオプションとターミナル設定の構成、デスクトップへのアクセスの有効/無効にすることができます。
- Windows Explorer のデスクトップを起動する。

工場出荷時の設定状態とファームウェアアップグレード後のスタートアップオプションでは、ターミナルが構成モードで起動します。スタートアップオプションの変更方法の詳細は、[51 ページの「スタートアップオプション」](#)を参照してください。

デスクトップへのアクセス

ターミナルはすべて、デスクトップへのアクセスを許可または制限するように構成できます。デスクトップでは、システムの操作やコントロールパネルの操作を実行したり、サードパーティのアプリケーションを実行することができます。

オプションの拡張機能を備えたターミナル(カタログ番号が9で終わる製品)では、さらに、ビューワやメディアプレイヤーを実行したり、Web ブラウザを起動することができます。また、特定のタスクを実行するために一時的にアクセスを許可した後で、許可されていない変更を防ぐためにデスクトップへのアクセスを無効にすることもできます。

ヒント ターミナルはすべて、最初は、デスクトップへのアクセスが無効な状態で出荷されます。

デスクトップへのアクセスの変更方法に関する詳細は、[54 ページの「デスクトップへのアクセス」](#)を参照してください。

重要 デスクトップへのアクセスを行っても、ご使用のターミナルの機能セットは変更されません。カタログ番号が8で終わるターミナルでデスクトップを開いても、拡張機能やファイルビューワにアクセスすることはできません。

ソフトウェアのサポート 以下の表は、各ターミナルでサポートされているソフトウェアを示しています。

表 2 – PanelView Plus 6 でのソフトウェアのサポート

ソフトウェア	説明	バージョン
FactoryTalk View Machine Edition Station	FactoryTalk View Machine Editionの.merアプリケーション用のランタイム環境。Machine Edition Stationは各ターミナルにロード済みであり、FactoryTalk Viewのアクティブーションは必要ない。	<ul style="list-style-type: none"> • 6.10以降 (400および600ターミナル) • 6.0以降 (700~1500ターミナル)
FactoryTalk View Studio for Machine Edition	PanelView Plus 6ターミナルで動作するHMIアプリケーションを開発するための構成ソフトウェア。 RSLink® EnterpriseソフトウェアはFactoryTalk View Studioソフトウェアに付属しており、インストール時にロードされます。	
FactoryTalk ViewPoint (700~1500ターミナルのみ)	FactoryTalk View Studioソフトウェアに付属のアドオン機能 <ul style="list-style-type: none"> • このWebベースのシン・クライアント・ソリューションを使うと、メーカーまたは一時ユーザは、実行中のMachine Editionアプリケーションに対する変更を、インターネットブラウザを介してリモート位置からモニタまたはダウンロードできる。 • ターミナルごとに、ターミナルへの1つのクライアント接続をサポートする1つのライセンスが含まれている。追加のソフトウェアは不要。 	1.2以降
Windows CE 6.0 OS	すべてのターミナルで動作するオペレーティングシステム。	6.0

400 および 600 ターミナルの機能

400 および 600 ターミナルは、以下の通信オプションを提供します。

- RS-232 シリアルポートのみまたは
- イーサネットポートおよび RS-232 シリアルポート

図1-400 キーパッドまたはキーパッド/タッチスクリーンターミナル

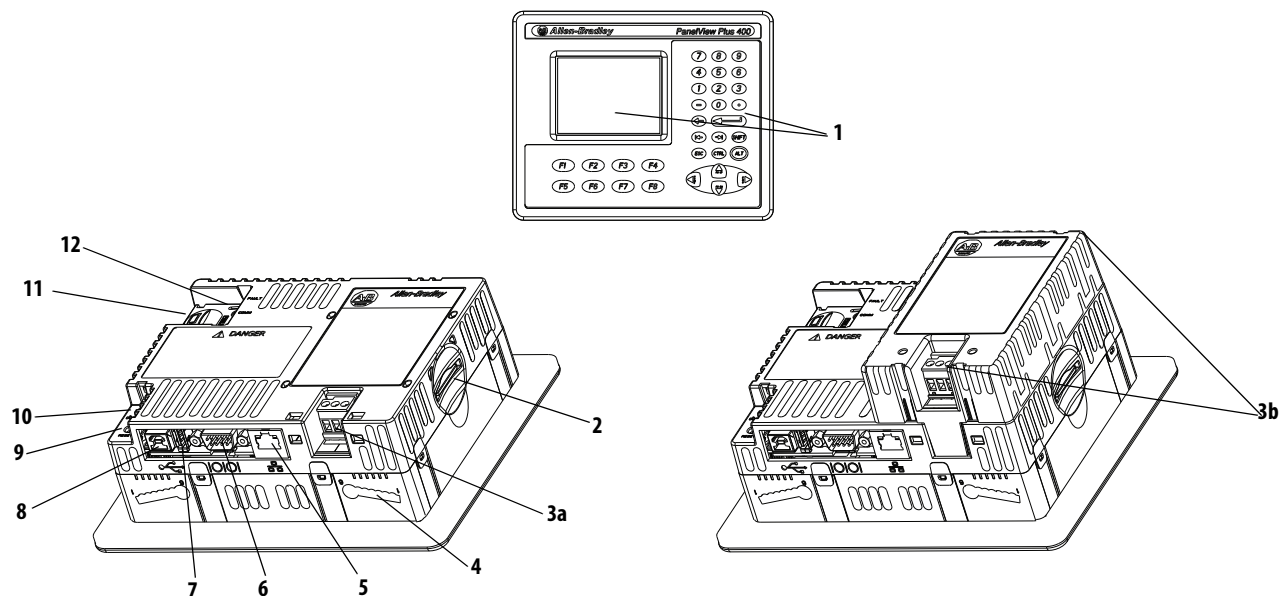


表3-PanelView Plus 6-400 ターミナルのコンポーネント

項目	コンポーネント
1	以下のオペレータ入力オプションのいずれかを備えた3.5インチのグレイスケールまたはカラーディスプレイ ・ キーパッド ・ キーパッドとタッチスクリーンの組合せ
2	Cat.No. 1784-SDxカードをサポートするセキュアデジタル(SD)カードスロット
3a	DC電源入力、非絶縁 ⁽¹⁾ 公称DC24V (DC18~30V)
3b	AC電源入力付きAC電源モジュール ⁽¹⁾ AC100~240V (50~60Hz)
4	取付けスロット(x 4)
5	コントローラ通信用のイーサネットポート、10/100Base-T、Auto MDI/MDI-X ⁽²⁾
6	コントローラ通信、印刷、またはファイル転送用のRS-232シリアルポート
7	危険ではない領域でホットスワップ可能なUSB周辺機器(マウス、キーボード、プリンタ、USBドライブを含む)接続用のUSB 2.0高速(タイプA)ホストポートx1
8	ホストコンピュータへの接続用のUSB 2.0高速(タイプB)デバイスポートx1
9	電源を切断後再投入しなくてもターミナルをリセットできるリセットスイッチ
10	工場出荷時設定の復元などのメンテナンス操作にアクセスするデフォルトスイッチ
11	バッテリーコンパートメント
12	通信およびフォルトステータスを示すインジケータ

(1) DC 電源入力または AC 電源モジュールが存在するかどうかはカタログ番号によって異なります。AC 電源モジュールを取り外すと、ターミナルの保証が無効になります。

(2) イーサネットポートが存在するかどうかはカタログ番号によって異なります。

図2-600 タッチスクリーンターミナル

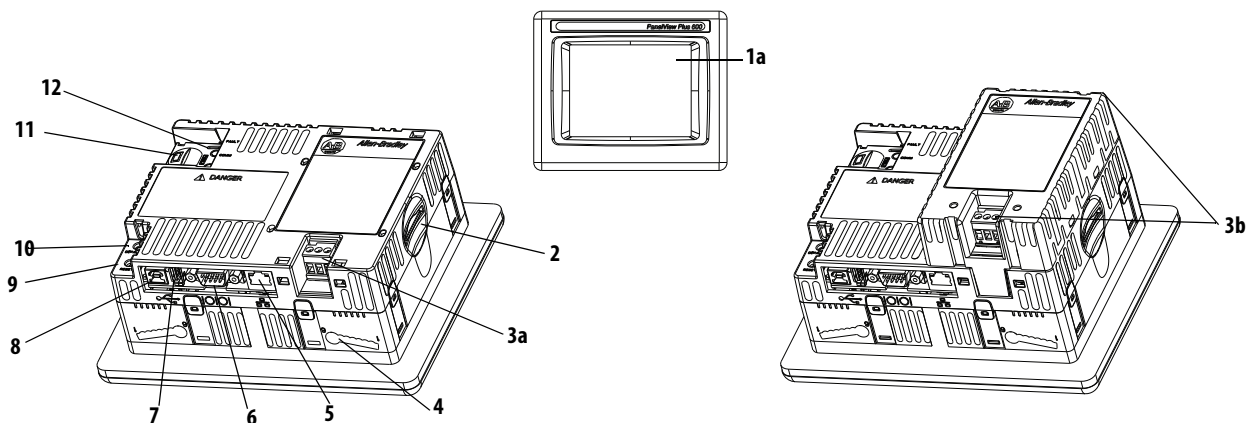


図3-600 キーパッドまたはキーパッド/タッチスクリーンターミナル

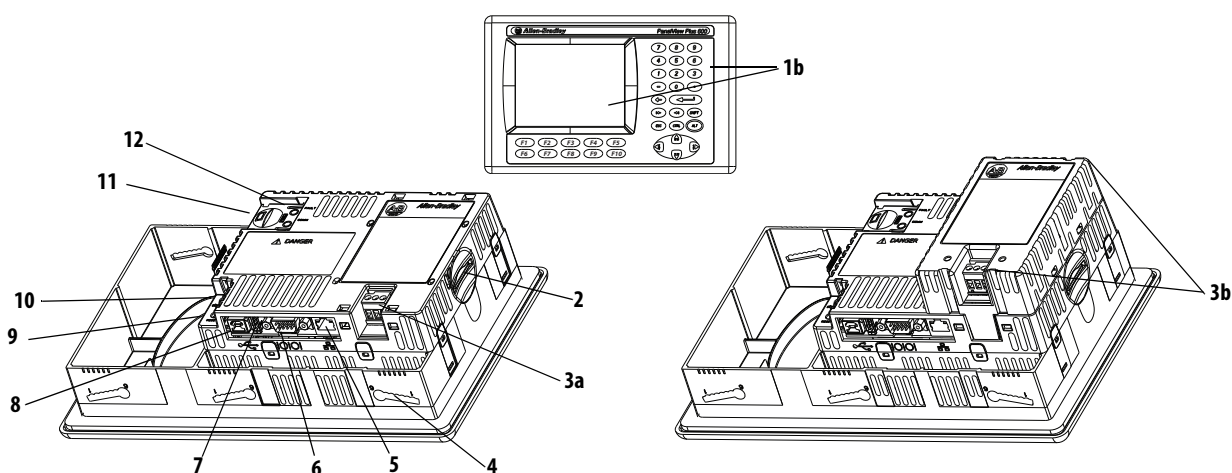


表4-PanelView Plus 6-600 ターミナルのコンポーネント

項目	コンポーネント	項目	コンポーネント
1a	タッチスクリーン付き5.7インチカラーまたはグレイスケールディスプレイ	6	コントローラ通信、印刷、またはファイル転送用のRS-232シリアルポート
1b	以下のいずれかを装備した5.7インチカラーまたはグレイスケールディスプレイ ・ キーパッド ・ キーパッドとタッチスクリーンの組合せ	7	危険ではない領域でホットスワップ可能なUSB周辺機器(マウス、キーボード、プリンタ、USBドライブを含む)接続用のUSB 2.0高速(タイプA)ホストポートx1
2	Cat.No. 1784-SDxカードをサポートするセキュアデジタル(SD)カードスロット	8	ホストコンピュータへの接続用のUSB 2.0高速(タイプB)デバイスポートx1
3a	DC電源入力、非絶縁 ⁽¹⁾ 公称DC24V (DC18~30V)	9	電源を切断後再投入なくともターミナルをリセットできるリセットスイッチ
3b	AC電源入力を備えたAC電源モジュール ⁽¹⁾ AC100~240V (50~60Hz)	10	工場出荷時設定の復元などのメンテナンス操作にアクセスするデフォルトスイッチ
4	取付けスロット(タッチスクリーンターミナルには4個、キーパッドターミナルには6個)	11	バッテリーコンパートメント
5	コントローラ通信用のイーサネットポート、10/100Base-T、Auto MDI/MDI-X ⁽²⁾	12	通信およびフォルトステータスを示すインジケータ

(1) DC電源入力またはAC電源モジュールが存在するかどうかはカタログ番号によって異なります。AC電源モジュールを取り外すと、ターミナルの保証が無効になります。

(2) イーサネットポートが存在するかどうかはカタログ番号によって異なります。

ターミナルは、以下の入力オプションを備えたグレイスケールまたはカラー LCD ディスプレイを備えています。

表 5 - オペレータ入力オプション

ターミナル	ディスプレイタイプ	キーパッド	タッチスクリーン	キーパッドおよびタッチスクリーン
400	グレイスケール	•		
	カラー	•		•
600	グレイスケール	•	•	•
	カラー	•	•	•

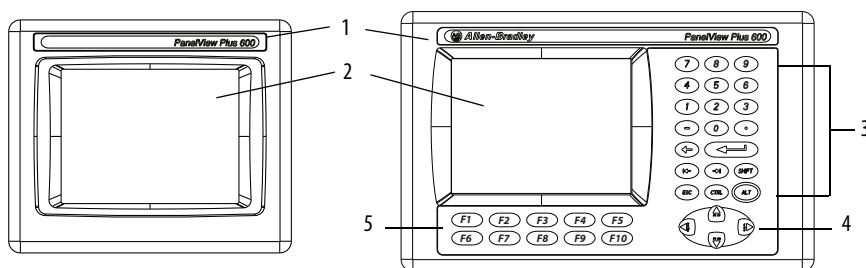


表 6 - ディスプレイおよびオペレータ入力機能

項目	機能	説明
1	製品ラベル	製品識別ラベルはカスタムラベルと交換できます。
2	ディスプレイ/タッチスクリーン	4線式の抵抗性タッチスクリーン付きまたはなし(カタログ番号による)のカラーまたはグレイスケールディスプレイ
3	数字キーパッド	0~9、Backspace、Enter、左/右タブ、Shift、Esc、Ctrl、Altキー
4	移動キー	移動には矢印キーを使用します。以下の機能を開始するには、Alt+矢印キーを使用します。 <ul style="list-style-type: none"> Alt+左矢印(Home)、Alt+右矢印(End) Alt+上矢印(Page Up)、Alt+下矢印(Page Down)
5	ファンクションキー	操作を実行するためにアプリケーション内で設定できるキー。(例えば F1は、別の画面への移動用に構成することが可能) 400 600 <ul style="list-style-type: none"> F1~F8 F1~F10



注意：キーパッドは、指または手袋をはめた指で操作します。タッチスクリーンの操作には、指、手袋をはめた指、または先端の最小半径が 1.3mm (0.051 インチ) のプラスチック製スタイラスを使用してください。これら以外の物体またはツールを使用した場合は、キーパッドまたはタッチスクリーンに損傷を与える可能性があります。



注意：複数の操作を同時に実行しないでください。意図しない操作が実行される場合があります。

- 画面上の操作要素に、一度に 1 つだけ 1 本の指で触れてください。
- ターミナル上のキーは、一度に 1 つだけ押してください。

700 ~ 1500 ターミナルの機能

より大型の 700 ~ 1500 ターミナルは、別途注文するモジュール式コンポーネントまたは構成済みのターミナルとして構成されています。モジュール式のコンポーネントは、以下の構成部品で構成されています。

- ディスプレイモジュール
- ロジックモジュール
- オプション通信モジュール

これらのコンポーネントにより、柔軟な構成、設置、およびアップグレードが可能になっています。工場を組み立てられた装置を 1 つのカタログ番号で注文することも、現場での設置状況に応じて個別にコンポーネントを注文することもできます。

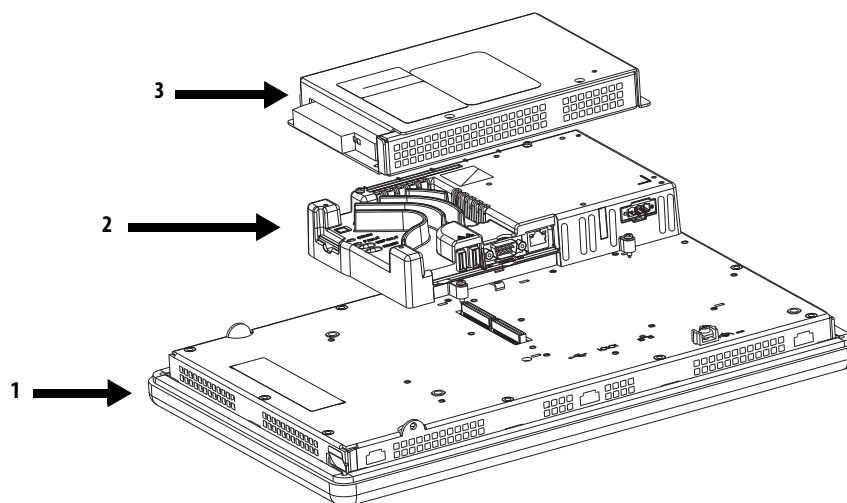


表 7 - モジュール式コンポーネント

項目	ターミナルのコンポーネント名	説明	環境条件に応じたオプション
1	ディスプレイモジュール	キーボード入力、タッチスクリーン入力、またはキーボード/タッチスクリーン組合せ入力を備えた以下の4つのサイズのフラット・パネル・カラー・グラフィックス・ディスプレイ <ul style="list-style-type: none"> • 700 (6.5インチ) • 1000 (10.4インチ) • 1250 (12.1インチ) • 1500 (15インチ) 	また、以下の特長を備えたディスプレイモジュールも提供されている。 <ul style="list-style-type: none"> • マリン認可 • コンフォーマルコーティング • 屋外で使用するための高輝度ディスプレイ • 内蔵型反射防止オーバーレイ
2	ロジックモジュール	ロジックモジュールは以下のハードウェア機能を装備しています。 <ul style="list-style-type: none"> • 電源入力、ACまたはDC • RS-232シリアルポート • イーサネットポート • USB 2.0ホストポートx2 • オプション通信モジュール用ネットワークインターフェイス • 512MB不揮発性メモリおよび512MB RAMメモリ • セキュアデジタル(SD)カードスロット • バッテリーバックアップされたリアルタイムクロック • ステータスインジケータ • リセットスイッチ • 単一のPCIスロット 	また、以下の特長を備えたロジックモジュールも提供されている。 <ul style="list-style-type: none"> • マリン認可 • コンフォーマルコーティング
3	通信モジュール	以下に示すネットワークとの通信用のオプションのモジュール <ul style="list-style-type: none"> • DH+™/DH-485 • スケジュール/非スケジュール型ControlNet • イーサネット 	また、以下の特長を備えた通信モジュールも提供されている。 <ul style="list-style-type: none"> • マリン認可 • コンフォーマルコーティング

構成済みのターミナル

単一のカatalog番号でご注文いただける構成済みのターミナルには、ディスプレイモジュールとロジックモジュールが含まれます。

追加のネットワーク機能に応じて、オプションの DH+/DH-485、ControlNet、またはイーサネット通信モジュールを後で追加することもできます。

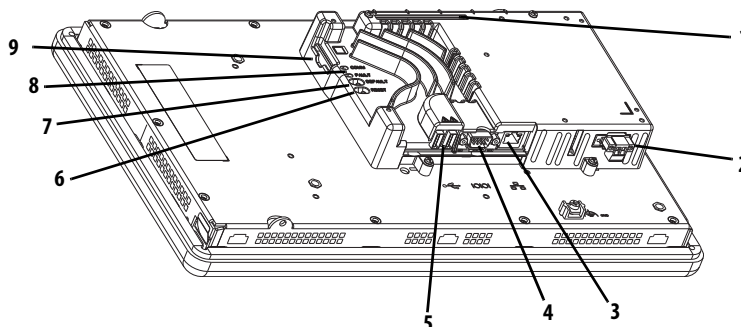


表 8 – ロジックモジュールの機能

項目	機能
1	オプションの通信モジュール用のネットワークインターフェイスのコネクタ
2	ACまたはDC電源入力 ⁽¹⁾ <ul style="list-style-type: none"> • 絶縁DC18~32V • AC100~240V
3	コントローラ通信用のイーサネットポート、10/100 BaseT、Auto MDI/MDI-X
4	ファイル転送、印刷、およびコントローラ通信用のRS-232シリアルポート
5	危険ではない領域でホットスワップ可能なUSBデバイス(マウス、キーボード、プリンタ、USBドライブを含む)接続用のUSB 2.0高速(タイプA)ホストポートx2
6	電源を切断後再投入しなくてもターミナルをリセットできるリセットスイッチ
7	工場出荷時設定の復元などのメンテナンス操作にアクセスするデフォルトスイッチ
8	通信およびフォルトステータスを示すインジケータ
9	Cat.No. 1784-SDxカードをサポートするセキュアデジタル(SD)カードスロット

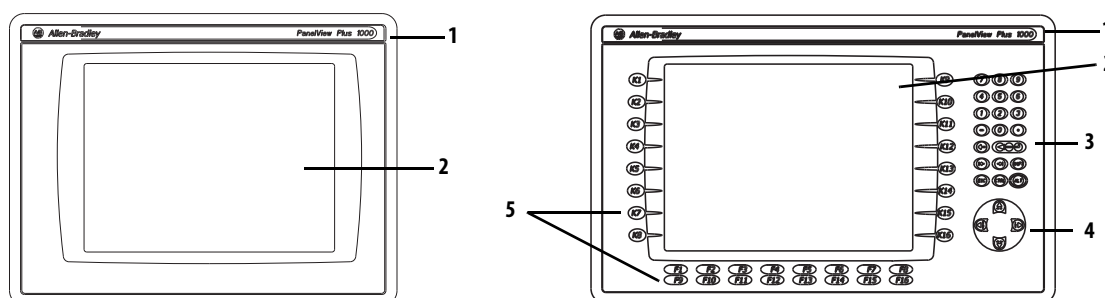
(1) AC 電源使用の DC アプリケーションの場合は、DIN レールへの取付けに外付けのリモート AC-DC 電源 (Cat.No. 2711P-RSACDIN) を使用できます。

オペレータ入力

700～1500 ディスプレイモジュールはすべて、キーパッド入力、タッチスクリーン入力、またはキーパッド/タッチスクリーン組合せ入力のいずれかを備えた TFT カラー・グラフィックス・ディスプレイを搭載しています。共通の機能とファームウェアを装備しているため、より大型のディスプレイへの移行が簡単になっています。

- 8線式の抵抗性タッチスクリーンは、オペレータインターフェイスとして極めて高い精度を保持しています。タッチスクリーン上の点を押すと、膜が接続され、電流が変化して記録および処理されます。
- キーパッド入力またはキーパッド/タッチスクリーン組合せ入力のディスプレイはすべて、ファンクションキーの数を除いて同じ製品です。

特定の環境条件における要件を満たすために、高輝度ディスプレイ、マリン認可ディスプレイ、およびコンフォーマル・コーティング・ディスプレイも提供されています。さらに、現場で交換可能なベゼルもご注文いただけます。



注意：キーパッドは、指または手袋をはめた指で操作します。タッチスクリーンの操作には、指、手袋をはめた指、または先端の最小半径が1.3mm (0.051インチ)のプラスチック製スタイラスを使用してください。これら以外の物体またはツールを使用した場合は、キーパッドまたはタッチスクリーンに損傷を与える可能性があります。



注意：複数の操作を同時に実行しないでください。意図しない操作が実行される場合があります。

- 画面上の操作要素に、一度に1つだけ1本の指で触れてください。
- ターミナル上のキーは、一度に1つだけ押してください。

表9 - ディスプレイの機能

項目	機能	説明
1	交換可能なIDラベル	製品識別ラベルはカスタムラベルと交換できます。
2	ディスプレイ	アナログ抵抗のタッチスクリーンは、タッチスクリーン入力またはキーパッド/タッチスクリーン組合せ入力のターミナルに適用される。
3	数字キーパッド	0～9、-、Backspace、Enter、左/右タブ、Shift、Esc、Ctrl、Altキー
4	移動キー	移動には矢印キーを使用します。以下の機能を開始するには、Alt+矢印キーを使用します。 <ul style="list-style-type: none"> • Alt+左矢印(Home)、Alt+右矢印(End) • Alt+上矢印(Page Up)、Alt+下矢印(Page Down)
5	ファンクションキー	操作を実行するためにアプリケーション内で設定できるキー。(例えばF1は、別の画面への移動用に構成することが可能) 交換可能な刻印文字がファンクションキーのラベルのカスタマイズ用に用意されている。
	700	F1～F10、K1～K12
	1000	F1～F16、K1～K16
	1250	F1～F20、K1～K20
	1500	F1～F20、K1～K20

400/600 ターミナルの 選択

400 および 600 ターミナルのカタログ番号の内訳を表に示します。

Bulletin	入力タイプ	ディスプレイ サイズ	ディスプレイタイプ	通信	電源	オペレーティングシステム
2711P-	K = キーパッド B = キーパッドおよび タッチスクリーン T = タッチスクリーン	4 = 3.5 インチ 6 = 5.7 インチ	C = カラー M = グレイスケール	5 = RS-232、USB 20 = イーサネット、RS-232、USB	A = AC D = DC	8 = Windows CE 6.0 9 = 拡張機能付きの Windows CE 6.0

表 10 – 拡張機能なしの PanelView Plus 6 - 400 ターミナル

Cat. No.			ディスプレイ		通信ポート		USBポート		入力 電源	メモリ(MB) ⁽¹⁾	
キーパッド	タッチスクリーン	キーパッドおよび タッチスクリーン	サイズ	タイプ	RS-232	イーサ ネット	ホスト	デバイス		RAM	不揮発性
2711P-K4M5A8	-	-	3.5 インチ	グレイ スケール	•		•	•	AC	256	512
2711P-K4M5D8	-	-			•		•	•	DC	256	512
2711P-K4M20A8	-	-			•	•	•	•	AC	256	512
2711P-K4M20D8	-	-			•	•	•	•	DC	256	512
2711P-K4C5A8	2711P-B4C5A8	2711P-B4C5A8	3.5 インチ	カラー	•		•	•	AC	256	512
2711P-K4C5D8	2711P-B4C5D8	2711P-B4C5D8			•		•	•	DC	256	512
2711P-K4C20A8	2711P-B4C20A8	2711P-B4C20A8			•	•	•	•	AC	256	512
2711P-K4C20D8	2711P-B4C20D8	2711P-B4C20D8			•	•	•	•	DC	256	512

(1) ターミナルは、FactoryTalk View Machine Edition ソフトウェアの Ver.6.10 以降および Windows CE 6.0 オペレーティングシステムをサポートしています。

表 11 – 拡張機能なしの PanelView Plus 6 - 600 ターミナル

Cat. No.			ディスプレイ		通信ポート		USBポート		入力 電源	メモリ(MB) ⁽¹⁾	
キーパッド	タッチスクリーン	キーパッドおよび タッチスクリーン	サイズ	タイプ	RS-232	イーサ ネット	ホスト	デバイス		RAM	不揮発性
2711P-K6M5A8	2711P-T6M5A8	2711P-B6M5A8	5.7 インチ	グレイ スケール	•		•	•	AC	256	512
2711P-K6M5D8	2711P-T6M5D8	2711P-B6M5D8			•		•	•	DC	256	512
2711P-K6M20A8	2711P-T6M20A8	2711P-B6M20A8			•	•	•	•	AC	256	512
2711P-K6M20D8	2711P-T6M20D8	2711P-B6M20D8			•	•	•	•	DC	256	512
2711P-K6C5A8	2711P-T6C5A8	2711P-B6C5A8	5.7 インチ	カラー	•		•	•	AC	256	512
2711P-K6C5D8	2711P-T6C5D8	2711P-B6C5D8			•		•	•	DC	256	512
2711P-K6C20A8	2711P-T6C20A8	2711P-B6C20A8			•	•	•	•	AC	256	512
2711P-K6C20D8	2711P-T6C20D8	2711P-B6C20D8			•	•	•	•	DC	256	512

(1) ターミナルは、FactoryTalk View Machine Edition ソフトウェアの Ver.6.10 以降および Windows CE 6.0 オペレーティングシステムをサポートしています。

表 12 – 拡張機能付きの PanelView Plus 6 - 600 ターミナル

Cat. No.			ディスプレイ		通信		USBポート		入力 電源	メモリ(MB) ⁽¹⁾	
キーパッド	タッチスクリーン	キーパッドおよび タッチスクリーン	サイズ	タイプ	RS-232	イーサ ネット	ホスト	デバイス		RAM	不揮発性
2711P-K6C5A9	2711P-T6C5A9	2711P-B6C5A9	5.7 インチ	カラー	•		•	•	AC	256	512
2711P-K6C5D9	2711P-T6C5D9	2711P-B6C5D9			•		•	•	DC	256	512
2711P-K6C20A9	2711P-T6C20A9	2711P-B6C20A9			•	•	•	•	AC	256	512
2711P-K6C20D9	2711P-T6C20D9	2711P-B6C20D9			•	•	•	•	DC	256	512

(1) ターミナルは、FactoryTalk View Machine Edition ソフトウェアの Ver.6.10 以降および拡張機能およびファイルビューワ付きの Windows CE 6.0 オペレーティングシステムをサポートしています。

700 ~ 1500 ターミナル の選択

700 ~ 1500 ターミナルのカタログ番号の内訳を表に示します。

Bulletin	入カタイプ	ディスプレイ サイズ	ディスプレイ タイプ	通信 (1)	電源	オペレーティングシステム	特別なオプション
2711P-	K = キーパッド	7 = 6.5インチ	C = カラー	4 = イーサネット、 RS-232 & 2つのUSB	A = AC	8 = Windows CE 6.0	K = コンフォーマル コーティング
	T = タッチスクリーン	10 = 10.4インチ			D = DC	9 = 拡張機能付きの Windows CE 6.0	
	B = キーパッド/ タッチスクリーン	12 = 12.1インチ					
		15 = 15インチ					

(1) オプションの通信モジュールが個別のカタログ番号で提供されています。

表 13 – 拡張機能なしの PanelView Plus 6 - 700 ~ 1500 ターミナル

Cat. No.			ディスプレイ		通信		入力電源	メモリ(MB) (1)	
キーパッド	タッチスクリーン	キーパッド/タッチスクリーン	サイズ	タイプ	RS-232	イーサネット		RAM	不揮発性
700モデル									
2711P-K7C4D8	2711P-T7C4D8	2711P-B7C4D8	6.5 インチ	カラー	•	•	DC	512	512
-	2711P-T7C4D8K	-			•	•	DC	512	512
2711P-K7C4A8	2711P-T7C4A8	2711P-B7C4A8			•	•	AC	512	512
1000モデル									
2711P-K10C4D8	2711P-T10C4D8	2711P-B10C4D8	10.4 インチ	カラー	•	•	DC	512	512
2711P-K10C4A8	2711P-T10C4A8	2711P-B10C4A8			•	•	AC	512	512
1250モデル									
2711P-K12C4D8	2711P-T12C4D8	2711P-B12C4D8	12.1 インチ	カラー	•	•	DC	512	512
-	2711P-T12C4D8K	-			•	•	DC	512	512
2711P-K12C4A8	2711P-T12C4A8	2711P-B12C4A8			•	•	AC	512	512
1500モデル									
2711P-K15C4D8	2711P-T15C4D8	2711P-B15C4D8	15 インチ	カラー	•	•	DC	512	512
2711P-K15C4A8	2711P-T15C4A8	2711P-B15C4A8			•	•	AC	512	512

(1) ロジックモジュールは、FactoryTalk View Machine Edition ソフトウェアバージョン 6.0 以降、FactoryTalk ViewPoint ソフトウェアバージョン 1.2 以降、および Windows CE 6.0 オペレーティングシステムをサポートしています。

表 14 – 拡張機能付きの PanelView Plus 6 - 700 ~ 1500 ターミナル

Cat. No.			ディスプレイ		通信		入力電源	メモリ (1)	
キーパッド	タッチスクリーン	キーパッド/タッチスクリーン	サイズ	タイプ	RS-232	イーサネット		RAM	不揮発性
700モデル									
2711P-K7C4D9	2711P-T7C4D9	2711P-B7C4D9	6.5 インチ	カラー	•	•	DC	512MB	512MB
2711P-K7C4A9	2711P-T7C4A9	2711P-B7C4A9			•	•	AC	512MB	512MB
1000モデル									
2711P-K10C4D9	2711P-T10C4D9	2711P-B10C4D9	10.4 インチ	カラー	•	•	DC	512MB	512MB
2711P-K10C4A9	2711P-T10C4A9	2711P-B10C4A9			•	•	AC	512MB	512MB
1250モデル									
2711P-K12C4D9	2711P-T12C4D9	2711P-B12C4D9	12.1 インチ	カラー	•	•	DC	512MB	512MB
2711P-K12C4A9	2711P-T12C4A9	2711P-B12C4A9			•	•	AC	512MB	512MB
1500モデル									
2711P-K15C4D9	2711P-T15C4D9	2711P-B15C4D9	15 インチ	カラー	•	•	DC	512MB	512MB
2711P-K15C4A9	2711P-T15C4A9	2711P-B15C4A9			•	•	AC	512MB	512MB

(1) ロジックモジュールは、FactoryTalk View Machine Edition ソフトウェア Ver. 6.0 以降、FactoryTalk ViewPoint ソフトウェア Ver. 1.2 以降、および拡張機能とファイルビューワ付きの Windows CE 6.0 オペレーティングシステムをサポートしています。

アクセサリ

表 15 ~ 表 28 に、PanelView Plus 6 ターミナル用アクセサリのリストを示します。

表 15 – ディスプレイモジュール - 700 ~ 1500 ターミナル

Cat. No.	入力タイプ	ディスプレイ	マリン 認可	コンフォーマル コーティング	反射防止 オーバーレイを装備
700モデル					
2711P-RDK7C	キーパッド	7インチ、 カラー			
2711P-RDK7CK	キーパッド		•		
2711P-RDT7C	タッチスクリーン				
2711P-RDT7CK	タッチスクリーン		•		
2711P-RDT7CM	タッチスクリーン		•		
2711P-RDB7C	キーパッド/ タッチスクリーン				
2711P-RDB7CK	キーパッド/ タッチスクリーン		•		
2711P-RDB7CM	キーパッド/ タッチスクリーン		•		
1000モデル					
2711P-RDK10C	キーパッド	10.4インチ、 カラー			
2711P-RDT10C	タッチスクリーン				
2711P-RDT10CM	タッチスクリーン		•		
2711P-RDB10C	キーパッド/ タッチスクリーン				
2711P-RDB10CM	キーパッド/ タッチスクリーン		•		

表 15 - ディスプレイモジュール - 700 ~ 1500 ターミナル

Cat. No.	入力タイプ	ディスプレイ	マリン認可	コンフォーマルコーティング	反射防止オーバーレイを装備
1250モデル					
2711P-RDK12C	キーボード	12.1インチ、カラー			
2711P-RDK12CK	キーボード			•	
2711P-RDT12C	タッチスクリーン				
2711P-RDT12CK	タッチスクリーン			•	
2711P-RDT12H ⁽¹⁾	キーボード/ タッチスクリーン				
2711P-RDT12AG	タッチスクリーン				•
2711P-RDB12C	キーボード/ タッチスクリーン				
2711P-RDB12CK	キーボード/ タッチスクリーン				•
1500モデル					
2711P-RDK15C	キーボード	15インチ、カラー			
2711P-RDT15C	タッチスクリーン				
2711P-RDT15AG	タッチスクリーン				•
2711P-RDB15C	キーボード/ タッチスクリーン				

(1) カタログ番号の最後の H は 1250 高輝度ディスプレイモジュールを示しています。

表 16 - ロジックモジュール - 700 ~ 1500 ターミナル

Cat. No.	入力電源	メモリ RAM/不揮発性	通信	マリン認可	コンフォーマルコーティング	付属ソフトウェア
標準機能なし						
2711P-RP8A	AC	512MB/512MB	<ul style="list-style-type: none"> イーサネット RS-232 通信モジュール用のネットワークインターフェイス 	•		<ul style="list-style-type: none"> Windows CE 6.0オペレーティングシステム FactoryTalk View Machine Editionランタイム Ver.6.0以降 FactoryTalk ViewPointソフトウェア Ver.1.2以降
2711P-RP8D	DC	512MB/512MB		•		
2711P-RP8DK	DC	512MB/512MB		•	•	
拡張機能付き						
2711P-RP9A	AC	512MB/512MB	<ul style="list-style-type: none"> イーサネット RS-232 ネットワークインターフェイス通信モジュール 	•		<ul style="list-style-type: none"> 拡張機能およびファイルビューワ付き Windows CE 6.0オペレーティングシステム FactoryTalk View Machine Editionランタイム Ver.6.0以降 FactoryTalk ViewPointソフトウェア Ver.1.2以降
2711P-RP9D	DC	512MB/512MB		•		
2711P-RP9DK	DC	512MB/512MB		•	•	

表 17 - 通信モジュール - 700 ~ 1500 ターミナル

Cat. No.	通信				コンフォーマルコーティング	マリン認可
	イーサネット	DH+	DH-485	ControlNet ⁽²⁾		
2711P-RN6		•	•			
2711P-RN6K		•	•		•	
2711P-RN15S				•		•
2711P-RN15SK				•	•	
2711P-RN20 ⁽¹⁾	•					

(1) すべてのターミナルにはイーサネットポートが1つあります。Cat.No. 2711P-RN20 モジュールは、追加のイーサネットポートを提供します。

(2) スケジュール / 非スケジュール通信

表 18 – セキュアデジタル (SD) カード

Cat. No.	ターミナルモデル	説明
1784-SD1	すべてのターミナル	1GBセキュアデジタル(SD)カード
1784-SD2		2GBセキュアデジタル(SD)カード
2711C-RCSD		セキュアデジタル(SD)カード用のUSB/SDアダプタ

表 19 – 交換用 CCFL バックライト (1)

Cat. No.	ターミナルモデル	シリーズ	CCFLバックライトの数
2711P-RL7C	700	AおよびB	1
2711P-RL7C2		CおよびD	1
2711P-RL10C	1000	A	1
2711P-RL10C2		BおよびC	1
2711P-RL12C	1250	AおよびB	2
2711P-RL12C2		C	1
2711P-RL15C	1500	B	2

(1) これらの交換用 CCFL バックライトのカタログ番号は、LED ディスプレイには当てはまりません。

表 20 – 反射防止オーバレイ

Cat. No. ⁽¹⁾	ターミナルモデル	オペレータ入力		
		キーパッド	タッチスクリーン	キーパッド/タッチスクリーン
2711P-RGB4	400グレイスケールまたはカラー	•		•
2711P-RGK6	600グレイスケールまたはカラー	•		•
2711P-RGT6			•	
2711P-RGK7	700カラー	•		•
2711P-RGT7			•	
2711P-RGK10	1000カラー	•		•
2711P-RGT10			•	
2711P-RGK12	1250カラー	•		•
2711P-RGT12			•	
2711P-RGK15	1500カラー	•		•
2711P-RGT15			•	

(1) カタログ番号ごとに 3 つのオーバレイが同梱されます。

表 21 – ソーラーバイザー

Cat. No.	ターミナルモデル	説明
2711P-RVT12	1250	1250高輝度ディスプレイモジュール用のソーラーバイザー (Cat.No. 2711P-RDT12H)

表 22 – ファンクションキーの機能リスト

Cat. No.	ターミナルモデル ⁽¹⁾	説明
2711P-RFK6	600キーボード	空白の刻印文字挿入キットおよびソフトウェア
2711P-RFK7	700キーボード	
2711P-RFK10	1000キーボード	
2711P-RFK12	1250キーボード	
2711P-RFK15	1500キーボード	

(1) キーボードおよびキーボード / タッチスクリーンのターミナルに適用されます。

表 23 – 取付け具

Cat. No.	ターミナルモデル	説明	数量
2711P-RTFC	400または600	交換用取付けレバー	8
2711P-RTMC	700～1500	交換用取付けクリップ	8

表 24 – 交換用バッテリー

Cat. No.	ターミナルモデル	説明
2711P-RY2032	すべてのターミナル	交換用CR2032コイン型バッテリーと同等のバッテリー

表 25 – ケーブル

Cat. No.	ターミナルモデル	説明	長さ
2711C-CBL-UU02 ⁽¹⁾	700～1500	ターミナルのUSBデバイスポートからコンピュータのUSBホストポートに接続するためのプログラミングケーブル	2m (6.5フィート)
6189V-USBCBL2	400および600	ターミナルのUSBデバイスポートからコンピュータのUSBホストポートに接続するためのプログラミングケーブル	1.8m (6フィート)

(1) ミニ USB ポート、タイプ B 付きのシリーズ A ターミナルのみ

表 26 – 電源および電源端子台

Cat. No.	ターミナルモデル	説明	数量
2711P-RSACDIN	すべてのターミナル	DINレール電源、AC-DC、AC100～240V、50～60Hz	1
2711P-RVAC	400および600	AC電源端子台	10
2711P-6RSA		ACモジュールは、DC電源ターミナルをAC電源に変換する。	1
2711P-TBDC		DC電源端子台	10
2711P-RTBAC3	700～1500	AC電源端子台	10
2711P-RTBDC2		DC電源端子台	10

表 27 – 交換用ベゼル

Cat. No.	ターミナルモデル	オペレータ入力		
		キーパッド	タッチスクリーン	キーパッド/ タッチスクリーン
2711P-RBK7	700	•		
2711P-RBT7			•	
2711P-RBB7				•
2711P-RBK10	1000	•		
2711P-RBT10			•	
2711P-RBB10				•
2711P-RBK12	1250	•		
2711P-RBT12			•	
2711P-RBT12H ⁽¹⁾			•	
2711P-RBB12				•
2711P-RBK15	1500	•		
2711P-RBT15			•	
2711P-RBB15				•

(1) Cat.No. 2711P-RDT12H 1250 高輝度ディスプレイモジュールに適用されます。

表 28 – アダプタプレート

Cat. No.	適合させる PanelView Plus 6ターミナル	対応するターミナルのカットアウト
2711P-RAK4	400キーパッドまたはキーパッド/ タッチスクリーン 600タッチスクリーン	PanelView Standard 550キーパッド
2711P-RAK6	600キーパッドまたはキーパッド/ タッチスクリーン	PanelView Standard 600キーパッド
2711P-RAK7	700キーパッドまたはキーパッド/ タッチスクリーン	PanelView Standard 900キーパッド
2711P-RAT7	700タッチスクリーン	PanelView Standard 900タッチスクリーン
2711P-RAK10	1000キーパッドまたはキーパッド/ タッチスクリーン	PanelView 1000/1000eキーパッド
2711P-RAT10	1000タッチスクリーン	PanelView 1000/1000eタッチスクリーン
2711P-RAK15	1500キーパッドまたはキーパッド/ タッチスクリーン	PanelView 1200e/1400eキーパッド
2711P-RAT15	1500タッチスクリーン	PanelView 1200e/1400eタッチスクリーン
2711P-RAK12E	1250キーパッド ⁽¹⁾	PanelView 1200/1400eキーパッド
2711P-RAT12E2	1250タッチスクリーン ⁽²⁾	PanelView 1200タッチスクリーン
2711P-RAT12E	1250タッチスクリーン ⁽²⁾	PanelView 1200e/1400eタッチスクリーン
2711P-RAK12S	1250キーパッド ⁽¹⁾ またはキーパッド/ タッチスクリーン	PanelView Standard 1400キーパッド
2711P-RAT12S	1250タッチスクリーン ⁽²⁾	PanelView Standard 1400タッチスクリーン

(1) PanelView 1000/1000e キーパッドターミナルまたはキーパッド / タッチスクリーンターミナルにも適用されます。

(2) PanelView 1000/1000e タッチスクリーンターミナルにも適用されます。

ターミナルの取付け

項目	参照ページ
USB周辺機器に必要な回路パラメータ	29
取付け隙間	30
パネルに関する指針	30
パネルのカットアウト寸法	30
電源装置の端子台の取り外しおよび取付け	37
400/600ターミナルをパネルに取付け	33
700～1500ターミナルをパネルに取付け	35
電源装置の端子台の取り外しおよび取付け	37
DC電源接続	38
AC電源接続	41
初めて起動するとき	43
ターミナルのリセット	43



注意：環境およびエンクロージャ

この装置は、過電圧カテゴリ II アプリケーション (IEC 60664-1 に定義)、高度 2000m(6561 フィート) までディレーティングなし、汚染度 2 の産業用環境での使用を意図しています。

このターミナルは、プログラマブル・ロジック・コントローラと共に使用されることを前提としています。AC 電源のターミナルは、絶縁トランスの 2 次側に接続する必要があります。

この装置は、IEC CISPR 11 に準拠したグループ 1、クラス A 産業用装置とみなされます。適切な予防策を講じないと、伝導性と放射性の外乱のため、住居や他の環境で電磁妨害波の影響を防ぐことが困難になります。

韓国電磁波適合登録 - 標章が付されている場合、この装置は家庭用機器ではなく、業務用機器 (A) として電磁波適合登録されています。販売者および使用者は、この点に注意する必要があります。

この装置は、「開放型」装置として出荷されています。特定の環境条件に適合し、帯電部への接触による人体への危険を防ぐように適切に設計されたエンクロージャ内に取付ける必要があります。また、何らかのツールを使用しなければエンクロージャの内部にアクセスできないような構造が必要です。これらのターミナルは、対応する定格のパネルまたはエンクロージャに取付けられた場合にのみ、特定の NEMA/UL タイプおよび IEC 定格を満たします。以降のセクションには、特定の製品の安全要件を満たすのに必要な特定のエンクロージャタイプの定格に関する追加情報が記載されています。

他の参考文献：

- その他の取付け要件については、『配線および接地に関するガイドライン』(Pub.No. [1770-4.1](#)) を参照してください。
- エンクロージャのタイプによって異なる保護レベルの説明については、対応する NEMA 規格 250 および IEC60529 を参照してください。

北米における危険な領域に関する規格



<p>The following information applies when operating this equipment in hazardous locations.</p>	<p>この装置を危険な場所で操作する場合に、以下の情報が適用されます。</p>
<p>When marked, these products are suitable for use in "Class I, Division 2, Groups A, B, C, D"; Class I, Zone 2, Group IIC, Class II, Division II, Groups F, G; Class III hazardous locations and nonhazardous locations only. Each product is supplied with markings on the rating nameplate indicating the hazardous location temperature code. When combining products within a system, the most adverse temperature code (lowest "T" number) may be used to help determine the overall temperature code of the system. Combinations of equipment in your system are subject to investigation by the local Authority Having Jurisdiction at the time of installation.</p>	<p>マークされている製品は、クラス I、ディビジョン 2、グループ A、B、C、D、クラス I、ゾーン 2、グループ IIC、クラス II、ディビジョン II、グループ F、G、クラス III の危険な領域および危険でない領域での使用にのみ適しています。各製品は、定格を示す銘板にマーキングされたように出荷されており、危険な場所の温度コードを示しています。システム内で製品を組み合わせて使用する場合は、最も厳しい温度コード (最低の T 番号) を使用すると、システム全体の温度コードを判別するのに役立ちます。システム内での装置の組合せは、取付け時に各地域の管轄機関による検査を受けることがあります。</p>
<div style="display: flex; align-items: center;">  <div> <p>WARNING: EXPLOSION HAZARD</p> <ul style="list-style-type: none"> Do not disconnect equipment unless power has been removed or the area is known to be nonhazardous. Do not disconnect connections to this equipment unless power has been removed or the area is known to be nonhazardous. Substitution of components may impair suitability for Class I, Division 2. Peripheral equipment must be suitable for the location in which it is used. The battery or real-time clock module in this product must only be changed in an area known to be nonhazardous. All wiring must be in accordance with Class I, Division 2, Class II, Division 2, or Class III, Division 2 wiring methods of Articles 501, 502 or 503, as appropriate, of the National Electrical Code and/or in accordance with Section 18-1J2 of the Canadian Electrical Code, and in accordance with the authority having jurisdiction. </div> </div>	<div style="display: flex; align-items: center;">  <div> <p>警告: 爆発の危険</p> <ul style="list-style-type: none"> 電源を切断するか、または領域が危険でないとわかるまでは、装置を切り離さないでください。 電源を切断するか、または領域が危険でないとわかるまでは、コネクタを外さないでください。 コンポーネントの代用は、クラス I、ディビジョン 2への適合性を損なうことがあります。 周辺機器は、使用する環境に適合している必要があります。 本製品に含まれているバッテリーまたはリアルタイム・クロック・モジュールは、周辺に危険がないことが確認された場合にのみ交換するようにしてください。 すべての配線は、全米電気工事規定 (NEC) の 501、502、または 503 の各条項に従うクラス I、ディビジョン 2、クラス II、ディビジョン 2、またはクラス III、ディビジョン 2 の配線方法、またはカナダ電気工事規定のセクション 18-1J2 や他の管轄機関に従う必要があります。 </div> </div>

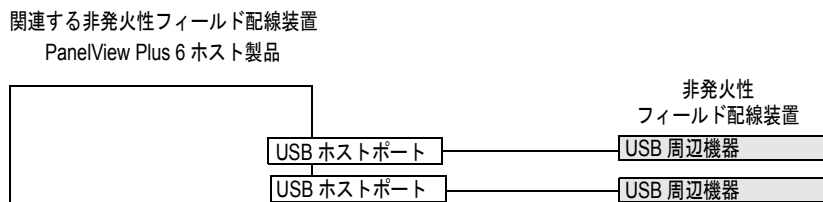
表 29 - 温度コード - PanelView Plus 6 ターミナル

ターミナルモデル	入力電源	温度コード	説明
400 および 600 ターミナル	DC	T4	大気の発火温度が 135°C (275°F) 未満の環境には T4 定格のターミナルを設置しないでください。
	AC	T4	
700 ~ 1500 ターミナル	DC	T4	大気の発火温度が 200°C (392°F) 未満の環境には T3 定格のターミナルを設置しないでください。
	AC	T3	

USB 周辺機器に必要な回路パラメータ

ターミナルは、危険な環境に適合する USB ホストポートを 1 つまたは 2 つ装備しています。米国電気工事規定の第 500 条に従い、フィールド配線の準拠要件を示します。

図 4 – PanelView Plus 6 ターミナルの制御図面



PanelView Plus 6 ターミナルは、電源が別の USB ホストポートを 1 つまたは 2 つ提供します。USB ホストポートの回路パラメータを [表 30](#) に定義します。

表 30 – USB ホストポートの回路パラメータ

パラメータ	値	パラメータの定義	
$V_{oc(USB)}$	DC5.25V	ホストUSBポートの開回路電圧 USB周辺機器の最大印加電圧定格 $V_{max(peripheral)}$ は、 $V_{oc(USB)}$ 以上である必要があります。	$V_{max(peripheral)} \geq V_{oc(USB)}$ 、 必要に応じて
$I_{sc(USB)}$	1.68A	ホストUSBポートの最大出力電流 各USB周辺機器が制約を受ける最大電流 $I_{max(peripheral)} \geq I_{sc(USB)}$ 以上である必要があります。	$I_{max(peripheral)} \geq I_{sc(USB)}$
$C_a(USB)$	10 μ F	USBホストポートに接続できる最大総静電容量。USB周辺機器と接続ケーブルの合計静電容量が指定値を超えないようにする必要があります。 最大合計静電容量 $C_i(peripheral)$ と別のUSB周辺機器のケーブル静電容量は、 $C_a(USB)$ 以下である必要があります。	$C_i(peripheral) + C_{cable(USB)} \leq C_a(USB)$
$L_a(USB)$	15 μ H	USBホストポートに接続できる最大合計インダクタンス。USB周辺機器とその関連ケーブルの総インダクタンスはこの値以下でなければなりません。 最大合計インダクタンス $L_i(peripheral)$ と別のUSB周辺機器のケーブルインダクタンスは、 $L_a(USB)$ 以下である必要があります。	$L_i(peripheral) + L_{cable} \leq L_a(USB)$

アプリケーション情報

米国電気工事規定 (NEC) では、危険な領域で使用される非発火性フィールド配線装置の回路パラメータは、ホスト製品と組み合わせて使用しても非発火性が保たれなければならないと定められています。PanelView Plus 6 ターミナルおよび USB 周辺機器はこの規定に準拠して取り扱う必要があります。

また、PanelView Plus 6 の USB ホストポートに接続して使用しても非発火性が保持されるよう、USB 周辺機器およびその接続ケーブルの回路パラメータは、[表 30](#) に記載された制限値に従う必要があります。

ケーブルの静電容量およびインダクタンスが不明な場合は、ANSI/ISA-RP 12.06.01-2003 で定められた以下の値を適用します。

$$C_{cable} = 197 \text{ pF/m (60 pF/ft)}$$

$$L_{cable} = 0.7 \text{ }\mu\text{H/m (0.20 }\mu\text{H/ft)}$$

非発火性フィールド配線の接続および切り離しは、米国電気工事規定 (NEC) ANSI/NFPA 70 の第 501 条 10(B) (3) 項、およびその他の適用し得る地域の法令に遵守して行なう必要があります。この関連する非発火性フィールド配線装置について、他の関連する非発火性フィールド配線装置と組み合わせて使用する場合は評価は行なわれていません。

取付け隙間

換気と接続のために、エンクロージャ内部のターミナルの周囲に十分な空間を確保してください。エンクロージャ内の他のデバイスによって発生する熱も考慮する必要があります。ターミナルの周囲温度は、0～55°C(32～131°F)である必要があります。

表 31 – 最低限必要な取付け間隔

製品面	最小間隔
上面	51mm (2インチ)
底面	102mm (4インチ)
側面	25mm (1インチ)
背面	0mm (0インチ)

ターミナルの側面では SD カードの挿入および取り外しのため、ターミナルの底面では接続のために 102mm (4 インチ) の間隔を確保すれば十分です。

パネルに関する指針

ターミナルは、NEMA 定格、UL タイプ定格、または IP 定格エンクロージャのドアまたは壁に取付けるパネル取付けデバイスです。

- サポートパネルの取付け部分の厚みは 1.5～4.8mm (0.060～0.188 インチ) でなければなりません。
- パネルの材料は、ターミナルを支え、水や埃が入らないように適度な密閉を維持するために十分な強度と高度を備える必要があります。
- 十分な密閉性と NEMA および UL タイプ定格を維持するため、パネル表面は平らで欠陥のない状態でなければなりません。

パネルのカットアウト寸法

ターミナルに同梱されている実寸大テンプレートを使用して、パネルのカットアウト寸法をトレースしてください。

表 32 – パネルのカットアウト寸法

ターミナル	入力タイプ	高さ: mm (インチ)	幅: mm (インチ)
400	キーパッドまたはキーパッド/タッチスクリーン	123 (4.86)	156 (6.15)
600	キーパッドまたはキーパッド/タッチスクリーン	142 (5.61)	241 (9.50)
	タッチスクリーン	123 (4.86)	156 (6.15)
700	キーパッドまたはキーパッド/タッチスクリーン	167 (6.57)	264 (10.39)
	タッチスクリーン	154 (6.08)	220 (8.67)
1000	キーパッドまたはキーパッド/タッチスクリーン	224 (8.8)	375 (14.75)
	タッチスクリーン	224 (8.8)	305 (12.00)
1250	キーパッドまたはキーパッド/タッチスクリーン	257 (10.11)	390 (15.35)
	タッチスクリーン ⁽¹⁾	257 (10.11)	338 (13.29)
1500	キーパッドまたはキーパッド/タッチスクリーン	305 (12.00)	419 (16.50)
	タッチスクリーン	305 (12.00)	391 (15.40)

(1) 高輝度ディスプレイモジュール (Cat.No. 2711P-RDT12H) にも適用。

製品寸法

表 33 および表 34 には、すべての PanelView Plus 6 ターミナルの製品寸法が示されています。

図 5 – PanelView Plus 6 - 400 キーパッドまたはキーパッド/タッチスクリーン

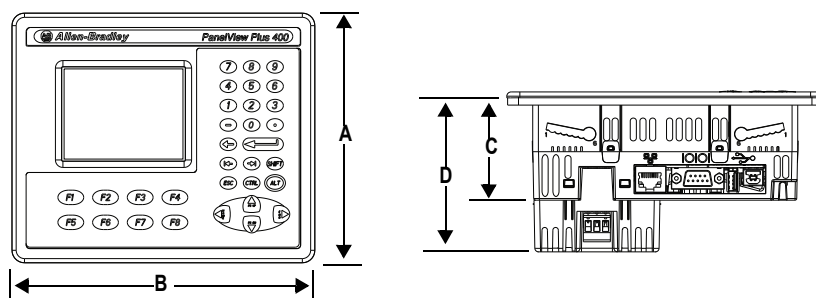


図 6 – PanelView Plus 6 - 600 タッチスクリーン

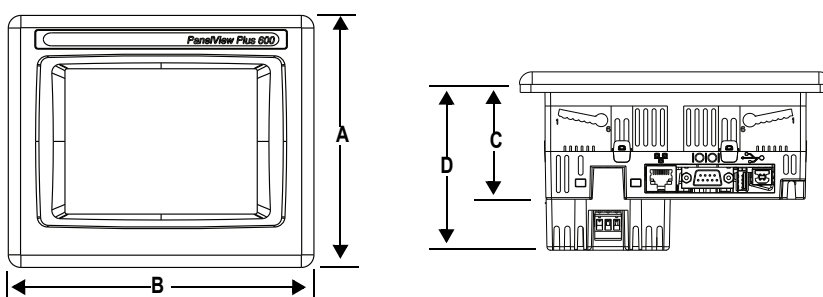


図 7 – PanelView Plus 6 - 600 キーパッドまたはキーパッド/タッチスクリーン

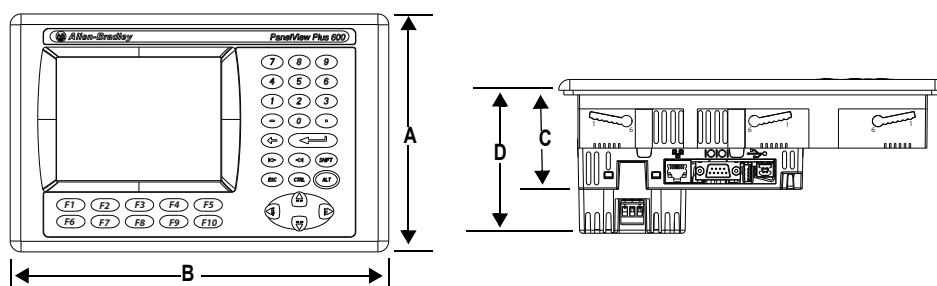


表 33 – PanelView Plus 6 - 400 および 600 製品寸法

ターミナル	入力タイプ	高さ(a) mm (インチ)	幅(b) mm (インチ)	奥行き(c) mm (インチ)	ACモジュールを含めた 奥行き(d) mm (インチ)
400	キーパッドまたはキーパッド/タッチスクリーン	152 (6.0)	185 (7.28)	60 (2.35)	90 (3.54)
600	キーパッドまたはキーパッド/タッチスクリーン	167 (6.58)	266 (10.47)	68 (2.68)	98 (3.86)
	タッチスクリーン	152 (6.0)	185 (7.28)	68 (2.68)	98 (3.86)

700 ~ 1500 ターミナルも同じです。例として、1000 キーパッドおよびキーパッド/タッチスクリーンターミナルを以下の図に示します。

図8 - PanelView Plus 6 - 1000 キーパッド、キーパッド/タッチスクリーン、タッチスクリーン

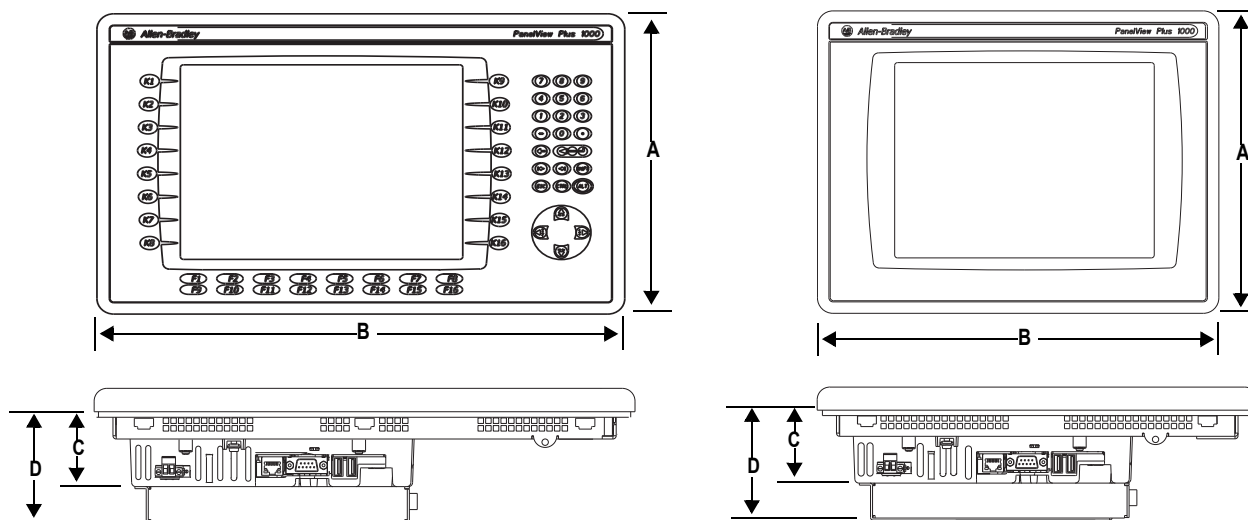


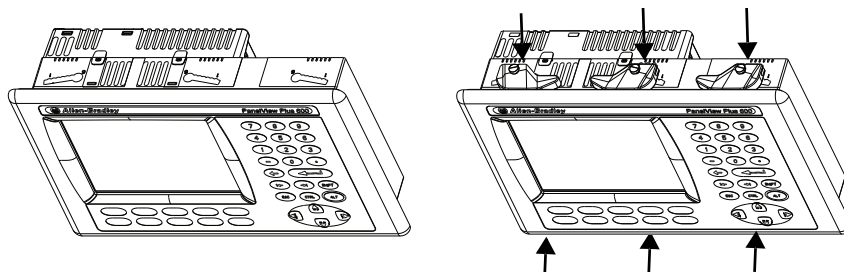
表 34 - PanelView Plus 6 - 700 ~ 1500 ターミナルの寸法

ターミナル	入力タイプ	高さ(a) mm (インチ)	幅(b) mm (インチ)	奥行き(c) ディスプレイからロジックモジュール mm (インチ)	奥行き(d) ディスプレイから通信モジュール mm (インチ)
700	キーパッドまたはキーパッド/タッチスクリーン	193 (7.58)	290 (11.40)	55 (2.18)	83 (3.27)
	タッチスクリーン	179 (7.04)	246 (9.68)	55 (2.18)	83 (3.27)
1000	キーパッドまたはキーパッド/タッチスクリーン	248 (9.77)	399 (15.72)	55 (2.18)	83 (3.27)
	タッチスクリーン	248 (9.77)	329 (12.97)	55 (2.18)	83 (3.27)
1250	キーパッドまたはキーパッド/タッチスクリーン	282 (11.12)	416 (16.36)	55 (2.18)	83 (3.27)
	タッチスクリーン	282 (11.12)	363 (14.30)	55 (2.18)	83 (3.27)
	タッチスクリーン (高輝度モジュール)	282 (11.12)	363 (14.30)	74 (2.9)	101 (3.99)
1500	キーパッドまたはキーパッド/タッチスクリーン	330 (12.97)	469 (18.46)	65 (2.55)	93 (3.65)
	タッチスクリーン	330 (12.97)	416 (16.37)	65 (2.55)	93 (3.65)

400/600 ターミナルを パネルに取付け

ターミナルは、1人で取付けられるように設計されています。パネルの
カットアウトに必要な工具以外の工具は必要ありません。

取付けレバーによって、ターミナルをパネルに固定します。ターミナル
モデルによって、4つまたは6つのレバーが必要です。レバーは、
ターミナルの上面と底面の取付けスロットに挿入します。



各取付けスロットには、レバーのロック位置をマークした刻み目が6
個あります。NEMA/UL タイプの密閉性を維持するために必要なロック
位置は、ターミナルを取付けるパネルの厚みによって決まります。

表 35 - レバーのロック位置

取付けスロット	レバーロック 位置	パネルの厚さの範囲	標準ゲージ
スロットの向きは一樣ではない 	1	1.50~2.01mm (0.060~0.079インチ)	16
	2	2.03~2.64mm (0.080~0.104インチ)	14
	3	2.67~3.15mm (0.105~0.124インチ)	12
	4	3.17~3.66mm (0.125~0.144インチ)	10
	5	3.68~4.16mm (0.145~0.164インチ)	8/9
	6	4.19~4.80mm (0.165~0.188インチ)	7

以下の手順に従って、パネル内にターミナルを取付けてください。



注意：

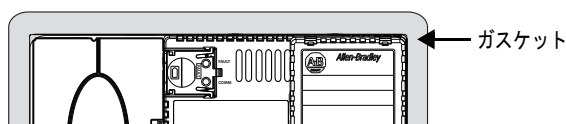
パネルのカットアウトを行なう前に、パネルからすべての電源を切断し
てください。

パネルのカットアウトの周辺に障害物がなく、パネルにゴミ、油分、ま
たはその他の化学物質が付着していないことを確認してください。

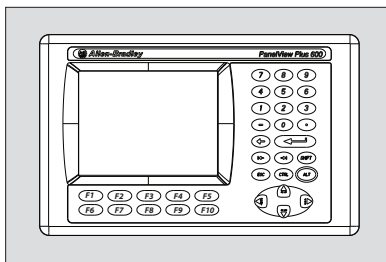
パネル内部にすでに別のコンポーネントが取付けられているようときは
、内部コンポーネントに金属の切削片が入り込むことなく、カット
アウトの端にバリや鋭い縁がないことを確認します。

この注意事項を守らないと、人体に危険が及んだりパネル内のコンポー
ネントが損傷することがあります。

1. ターミナルに付属するカットアウト用のテンプレートまたは [30 ページ](#) のカットアウト寸法に従って、パネルの開口部をくり抜きます。
2. ターミナルにシーリングガスケットがあることを確認します。
このガスケットが圧縮タイプのシールとなります。シール用コン
パウンドは使用しないでください。

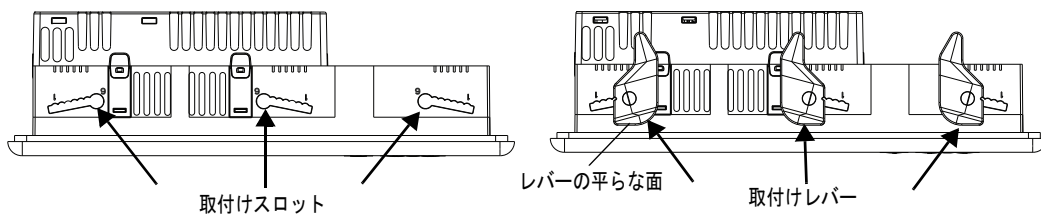


3. ターミナルをパネルのカットアウト部分にはめ込みます。



4. すべての取付けレバーをターミナルの取付けスロットに挿入します。

レバーの平らな側面がパネルの表面に触れるまで各レバーをスライドします。



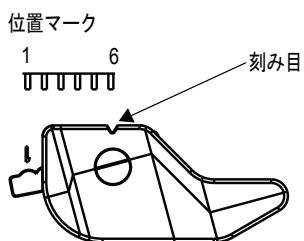
5. すべてのレバーを配置したら、カチッと音がするまで各レバーを刻み目の1つまたは2つ分さらにスライドさせます。

パネルの厚みに適したロック位置を特定するには、[33 ページの表 35](#) を参照してください。

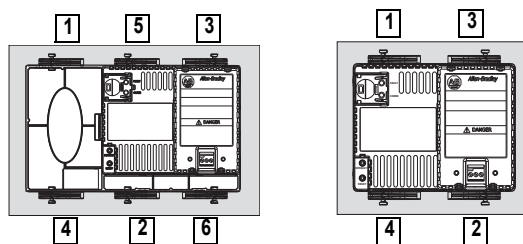
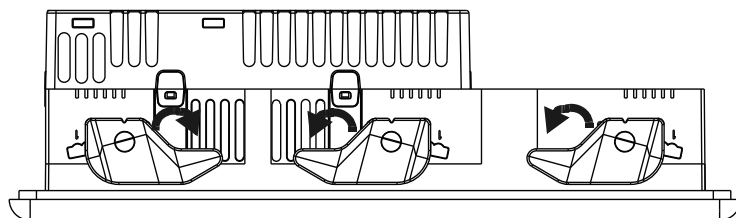
6. 最終位置まで各レバーを指定の方向に回転します。

ヒント レバーの回転方向はターミナルの上面と底面で同じです。

適切な順序でロックし、ターミナルに固定します。



レバーの刻み目がターミナルの適切な位置決めマークに合うまでレバーを回転します。



7. すべてのレバーが同じ正しいロック位置になっていることを確認します。



注意: ターミナルとパネル間でガスケットを十分密閉するには、すべてのレバーをロックする必要があります。不適切な取付けによって生じた、エンクロージャ内のターミナルやその他の装置に対する湿気や化学物質による損傷については、当社では責任を負いかねます。

700 ～ 1500 ターミナル をパネルに取付け

取付けクリップがパネルに 700 ～ 1500 ターミナルを固定します。クリップの数は、ターミナルのサイズによって異なります。取付けには、パネルのカットアウト工具、小型のマイナスドライバー、取付けクリップを締め付けるためのトルクレンチなどの工具が必要です。



注意：

パネルのカットアウトを行なう前に、パネルからすべての電源を切断してください。

パネルのカットアウトの周辺に障害物がなく、パネルにゴミ、油分、またはその他の化学物質が付着していないことを確認してください。

パネル内部にすでに別のコンポーネントが取付けられているようなときは、内部コンポーネントに金属の切削片が入り込むことなく、カットアウトの端にバリや鋭い縁がないことを確認します。

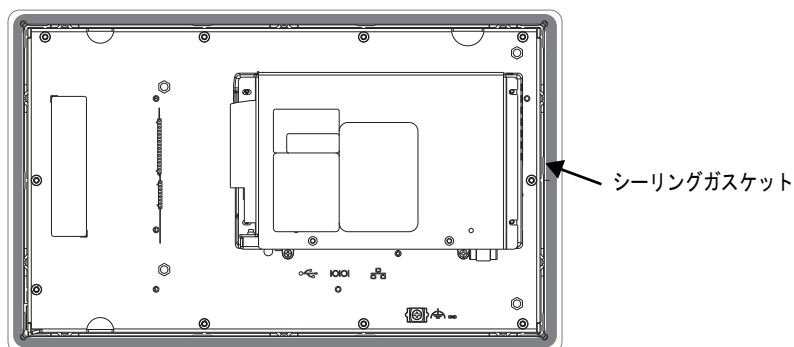
この注意事項を守らないと、人体に危険が及んだりパネル内のコンポーネントが損傷することがあります。

重要

高輝度ディスプレイモジュール (Cat.No. 2711P-RDT12H) を使用して屋外での取付けを行なう場合は、付録 B の [179 ページ](#) の取付けに関する重要な注意事項を参照してください。

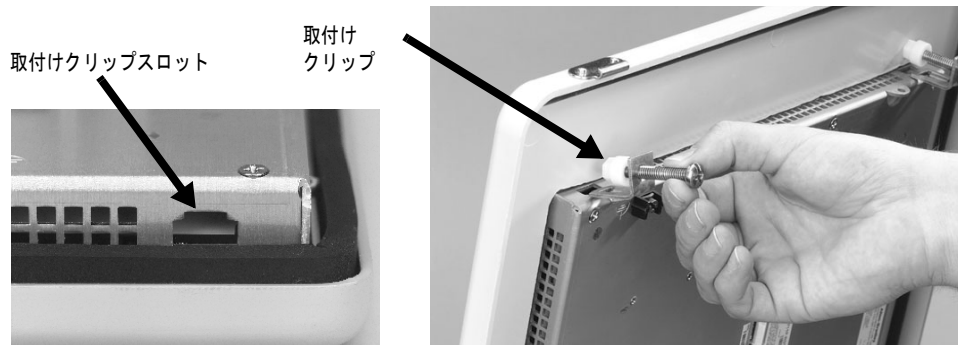
以下の手順に従って、パネル内にターミナルを取付けてください。

1. ターミナルに付属するパネルのカットアウト用のテンプレートまたは [30 ページ](#) に記載されているカットアウト寸法を使用して、パネルの開口部をくり抜きます。
2. ターミナルのシーリングガスケットが、ターミナル上に正しく置かれていることを確認します。
このガスケットが圧縮タイプのシールとなります。シール用コンパウンドは使用しないでください。



取付けの際に刻印文字シートを傷つけないように注意してください。

3. ターミナルをパネルのカットアウト部分にはめ込みます。



4. 取付けクリップの端をターミナルのスロットにスライドさせます。

5. ガasketシールが取付け面に均等に密着するまで、取付けクリップのねじを手で締めます。



6. 指定された順番で取付けクリップのねじをトルク 0.90 ~ 1.1Nm (8 ~ 10 ポンドインチ) で締めます。締め付け過ぎないように注意してください。

1	4
クリップ4個のときの ねじを締める順番	
3	2

1	5	3
クリップ6個のときの ねじを締める順番		
4	2	6

	1	6	
3	クリップ8個のときの ねじを締める順番		8
7			4
	5	2	



注意：適切なシール処理が行なわれ、かつ製品が損傷することがないように、指定のトルクがかかるまで取付けクリップを締めてください。不適切な取付けによって生じた、エンクロージャ内のターミナルやその他の装置に対する湿気や化学物質による損傷については、当社では責任を負いかねます。

電源装置の端子台の取り外しおよび取付け

ターミナルは、電源端子台が取付けられた状態で出荷されています。端子台を取り外すことで、設置、配線、および保守作業をスムーズに行なうことができます。



警告：爆発の危険性

電源が投入されている状態で配線の接続や取り外しを行なうと、電気アークが生じることがあります。危険な環境で取付けを行なった場合、電気アークは爆発を引き起こす可能性があります。作業を行なう前に、電源が切断されていて、周辺に危険がないことを確認してください。

電源を切断しないと、感電またはターミナルの損傷が発生する恐れがあります。

端子台では、AC および DC 電源接続のカラーとマークが異なります。必ず端子台のカラーを対応するコネクタと一致させてください。電源端子台は、デイジーチェーン電源向けではありません。

端子台の配線には 0.6 x 3.5mm のマイナスドライバーを使用してください。

表 36 – 電源入力装置の端子台のワイヤ仕様

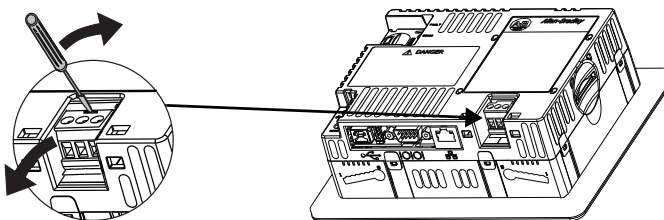
ターミナル	ワイヤタイプ	デュアルワイヤのサイズ ⁽¹⁾	シングルワイヤのサイズ	剥く長さ	ねじの締め付けトルク
400, 600	より線またはソリッド Cu 90°C (194°F)	0.3~1.3mm ² 22~16AWG	0.3~2.1mm ² (22~14AWG)	7mm (0.28インチ)	0.45~0.56Nm (4~5ポンドインチ)
700~1500					0.56~0.90Nm (5~8ポンドインチ)

(1) 端子当たり最大 2 線

400 および 600 ターミナル

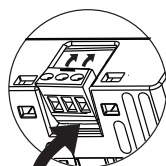
以下の手順に従って、400 または 600 ターミナルから端子台を取り外してください。

1. 端子台アクセススロットに小型マイナスドライバーの先端を挿入します。
2. 端子台をゆっくりと回転させてターミナルから引き離します。これにより、ロックが解除されます。



以下の手順に従って、端子台を交換してください。

1. まず端子台を外側に倒しながら端子台の基部を押します。

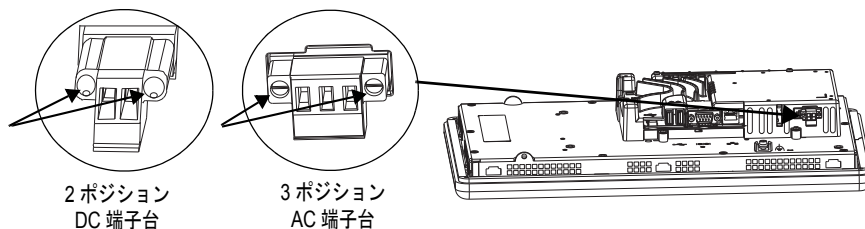


2. 端子台の上部をやさしく押して回転させます。カチッと音がすると固定します。

700 ~ 1500 ターミナル

以下の手順に従って、700 ~ 1500 ターミナルから端子台を取り外してください。

1. 端子台を固定する 2 個のねじを緩めます。
2. 端子台をコネクタからやさしく引っ張り出します。



以下の手順に従って、端子台を取付けてください。

1. 端子台をコネクタに再び取付け、ぴったりはめます。
2. 端子台を固定する 2 本のねじをトルク 0.40 ~ 0.51Nm (3.5 ~ 4.5 ポンドインチ) で締めます。

DC 電源接続

DC24V 電源を搭載したターミナルの電源定格は、以下の通りです。

表 37 - DC 電源定格

ターミナル	電源	入力電圧	消費電力
400, 600	非絶縁	公称DC24V (DC18~30V)	最大15W (DC24Vのとき0.6A)
700~1500	絶縁	公称DC24V (DC18~32V)	最大70W (DC24Vのとき2.9A)

電源は極性反転に対して内部的に保護されています。DC+ または DC- をアース端子に接続すると、デバイスが損傷することがあります。



注意： DC 電源入力付きターミナルに AC 電源を使用すると、デバイスが損傷することがあります。

外部電源

各 PanelView Plus 6 装置への電源投入には、安全特別低電圧 (SELV) または保護特別低電圧 (PELV) の DC24V 専用電源を使用してください。



注意： 取付けの際には、設置する地域の配線に関する規制によって定められた SELV 電源または PELV 電源をご使用ください。これらの電源には、通常の状態および単一故障状態において導線とアースグラウンド間の電圧が安全値を超えないようにするための保護機能が装備されています。

ヒント 絶縁 DC 電源付きターミナルには、DC 電源バスなどの他の機器と同一の電源から給電することも可能です。

PanelView Plus 6 装置は、Cat.No. 2711PRSACDIN 電源での動作をテスト済みです。別の電源を使用するには、以下の表の条件を確認してください。

表 38 – 電源基準

PanelView Plus 6装置の状態	使用する電源	説明
絶縁通信ポート付き機器に接続されている。 他の機器には接続しない。	SELVまたはPELV電源	グラウンドループが形成されていない場合は、他の装置がこの電源をPanelView Plus 6装置と共有できます。PELV電源は、負の電源端子をシャーシグラウンドに内部で接続する。
非絶縁通信ポートを使用して機器と接続している	非設置方式の専用絶縁SELV電源で各ターミナルに給電	こうすることにより、グラウンドループによるデバイスの損傷を防ぐことができます。

重要 ターミナルおよびサポートされている通信モジュールのすべての通信ポートは、USB ポートを除きすべて絶縁処理されている。

アース / グラウンド接続



DC 電源入力付きの PanelView Plus 6 装置のアース / グラウンド端子は、低インピーダンスアース / グラウンドに接続する必要があります。

- 400 および 600 ターミナルでは、アース / 接続は電源端子台上にあります。
- 700 ~ 1500 ターミナルでは、アース / グラウンド接続部は、ディスプレイモジュールの背面にあります。

重要 アース / グラウンド接続は義務付けられています。この接続は以下の目的のために必要です。

- ノイズの除去、信頼性の向上、および CE マーク適合に必要な欧州連合 (EU) EMC 指令で定められた電磁適合性 (EMC) の達成
- UL (保険業者研究所) が規定する安全性

表 39 – DC 電源のアースワイヤ仕様

ターミナル	記号	ワイヤタイプ	ワイヤゲージ	端子ねじのトルク
400, 600	 GND	より線またはソリッド Cu 90°C (194°F)	2.1~3.3mm ² (14~12AWG)	0.45~0.56Nm (4~5ポンドインチ)
700~1500	 GND	より線またはソリッド Cu 90°C (194°F)	2.1~5.3mm ² (14~10AWG)	1.13~1.36Nm (10~12ポンドインチ)



注意 : 2つの個別の接地ポイント間に電位差が存在するときに、損傷または機能不良が起こることがあります。ターミナルが、電位差のある接地点間の伝導性パスとならないようにご注意ください。

DC 電源の接続



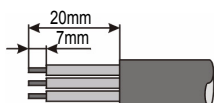
警告：爆発の危険

電源を切断し、周辺に危険がないことを確認するまでは、装置を取り外さないでください。

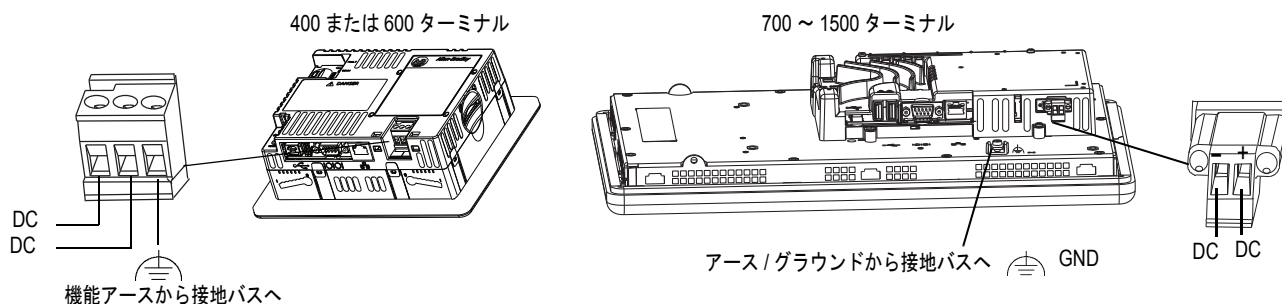
コンポーネントの取付けまたは交換の前に、すべての電源を切断してください。電源を切断しないと、感電またはターミナルの損傷が発生する恐れがあります。

以下の手順に従って、ターミナルを DC 電源に接続してください。

1. ターミナルが電源に接続されていないことを確認します。
2. ワイヤの先端から絶縁被膜を 7mm (0.28 インチ) 剥きます。



3. DC 電源ワイヤを電源端子台のマークが付いている端子 (+ および -) に固定します。
4. アース / 接地ワイヤを固定します。
 - 400 および 600 ターミナルでは、アース / 接地ワイヤを電源端子台の機能アース / 接地端子に固定します。
 - 700 ~ 1500 ターミナルでは、アース / 接地ワイヤをディスプレイの背面にある機能アースねじに固定します。



5. ターミナルの電源を投入します。

AC 電源接続

AC 電源を搭載したターミナルの電源定格は、以下の通りです。

表 40 – AC 電源定格

ターミナル	入力電圧	消費電力
400, 600	AC100~240V (50~60Hz)	最大35VA
700, 1000, 1250, 1500	AC100~240V (50~60Hz)	最大160VA

保護アースおよび機能アース接続

AC 電源入力付きの PanelView Plus 6 装置の保護アース端子は、低インピーダンスのアース/グラウンドに接続する必要があります。保護アース端子は、電源端子台上にあります。

重要 700 および 1500 ターミナルには、保護アース接続に加え、インピーダンスのアース/グラウンドに接続する必要がある機能アース端子があります。機能アース接続部は、ディスプレイモジュールの背面にあります。



注意：機能アースおよび保護アースの接続は、義務付けられています。

- 機能アースは、CE マーク適合に必要な欧州連合 (EU) EMC 指令で定められた電磁適合性 (EMC) の達成のために必要です。
- 保護アースは、安全を確保し、法規制を遵守するために必要です。

表 41 – AC 電源の保護アース / 機能アースのワイヤ仕様

アース接続		ワイヤタイプ	ワイヤゲージ	端子ねじのトルク	
保護アース 400, 600		より線またはソリッド	Cu 90°C(194°F)	2.1~3.3mm ² (14~12AWG)	0.45~0.56Nm (4~5ポンドインチ)
保護アース 700~1500		より線またはソリッド	Cu 90°C(194°F)	2.1~3.3mm ² (14~12AWG)	0.56~0.90Nm (5~8ポンドインチ)
機能アース 700~1500のみ		より線またはソリッド	Cu 90°C(194°F)	2.1~5.3mm ² (14~10AWG)	1.13~1.36Nm (10~12ポンドインチ)

AC 電源の接続



警告：爆発の危険

電源を切断し、周辺に危険がないことを確認するまでは、装置を取り外さないでください。

コンポーネントの取付けまたは交換の前に、すべての電源を切断してください。電源を切断しないと、感電またはターミナルの損傷が発生する恐れがあります。

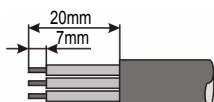


注意：電源端子台の配線を誤ると、通信コネクタシェルに電圧がかかることがあります。

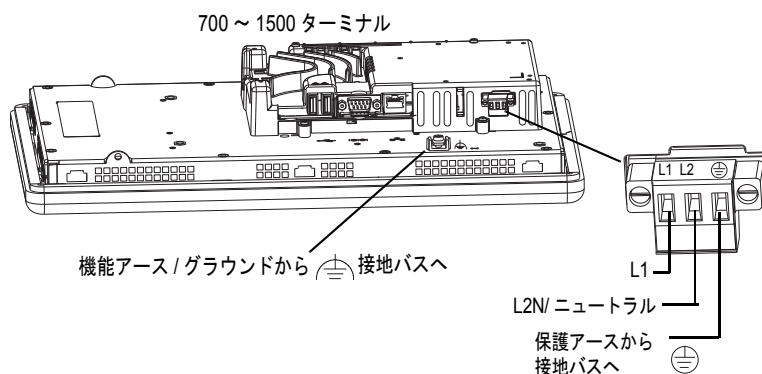
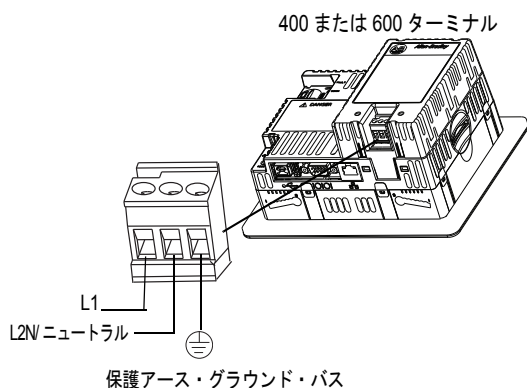
すべての配線を接続するまで、ターミナルに電源を投入しないでください。これに従わない場合は、感電の恐れがあります。

以下の手順に従って、ターミナルを AC 電源に接続してください。

1. ターミナルが電源に接続されていないことを確認します。
2. ワイヤの先端から絶縁被膜を 7mm (0.28 インチ) 剥きます。



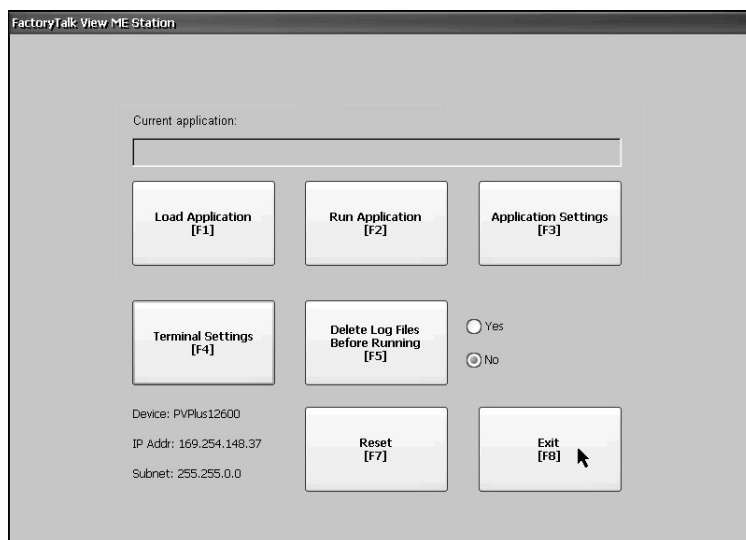
3. AC 電源ワイヤを電源端子台のマークが付いている端子 (L1 および L2N) に固定します。
4. 保護アース / グラウンドワイヤを電源端子台のマークされた位置に接続します。
5. 700 ~ 1500 ターミナルでは、機能アース / 接地ワイヤをディスプレイの背面にある機能アースねじ、そして接地バスに固定します。



6. ターミナルの電源を投入します。

初めて起動するとき

システムを初めて起動すると、電源投入シーケンスが実行され FactoryTalk View ME Station の構成モードが開始します。



ターミナルのスタートアップ時の動作を変更するには、**Terminal Settings** を押して **Startup Options** を選択します。以下のいずれかのオプションを構成できます。

- スタートアップ時に実行するよう構成された FactoryTalk Machine Edition HMI アプリケーションを実行する。
- FactoryTalk View Machine Station Configuration モードを起動し、ターミナルの構成オプションを実行する (デフォルト)。
- Windows Explorer のデスクトップを起動する。

デスクトップアクセスを許可するようターミナルを構成することもできます。ターミナルは、最初は、デスクトップへのアクセスが無効な状態で出荷されます。デスクトップへのアクセスを許可または制限するには、**Terminal Settings** を押して **Desktop Access** を選択します。

スタートアップオプションの変更およびデスクトップへのアクセスの許可/制限については、[第3章 – 構成モード](#)を参照してください。

ターミナルのリセット

電源を切断して再投入せずにターミナルを再起動する場合は、以下のオプションがあります。

- ターミナル背面にあるリセットスイッチを使う。
- ターミナルデスクトップの **Start** メニューで **Restart System** を選択します。
- FactoryTalk View ME Station の構成ダイアログボックスで、**Reset** を押します。

再起動後、ターミナルでは、一連のスタートアップテストが実行されてから、以下の動作のうちのいずれか1つが実行されます。

- スタートアップ時に実行されるように構成された HMI アプリケーションを起動する。
- FactoryTalk Machine Edition の構成モードを開始する。
- Windows Explorer のデスクトップを起動する。

実行される動作は、ご使用のターミナル用に構成されたスタートアップオプションによって異なります。詳細は、[51 ページの「スタートアップオプション」](#)を参照してください。

スタートアップ情報とエラーメッセージのリストについては、[166 ページの「スタートアップメッセージおよびコード」](#)を参照してください。

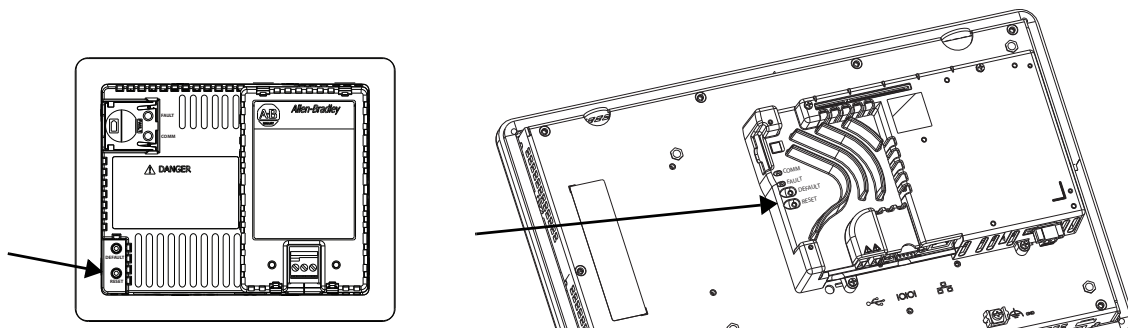
以下の手順に従って、リセットスイッチを使ってシステムを再起動してください。

1. 細い非伝導性のピンをリセット部分に挿入します。
2. スイッチを押します。



注意：リセットスイッチを押すときは非伝導性の道具を使用してください。ペーパークリップや鉛筆の先端など、伝導性のある道具を使用してはなりません。これらのうちのいずれかを使用した場合、ターミナルが損傷する恐れがあります。

図9 - リセットスイッチ



以下の手順に従って、Windows デスクトップからシステムを再起動してください。

1. Start メニューで、Programs → Restart System の順番に選択します。
再起動することを確認するメッセージが表示されます。
2. Yes をクリックしてターミナルを再起動するか、No を選択してキャンセルします。

以下の手順に従って、FactoryTalk View ME Station ソフトウェアからシステムを再起動してください。

1. 構成モードにアクセスします。
FactoryTalk View ME Station の構成モードの開始方法については、[45 ページの「構成モードへのアクセス」](#)を参照してください。
2. Reset [F7] キーを押します。

構成モード

項目	参照ページ	項目	参照ページ
構成モードへのアクセス	45	印刷オプションの構成	72
ターミナル設定	48	アプリケーションファイルの整合性チェック	74
アプリケーションのロードと実行	50	診断の構成	75
スタートアップオプション	51	システム・イベント・ログの表示と消去	76
デスクトップへのアクセス	54	システム情報	76
通信の設定	58	アラームディスプレイの有効/無効	78
イーサネットネットワーク接続	60	時刻と日付の設定	79
ファイル管理	64	地域の設定	81
ディスプレイ設定	67	フォントのリンク	84
入力機器の設定	69		

構成モードへのアクセス

ターミナルでは、スタートアップオプションの構成、アプリケーションのロードと実行、Windows デスクトップへのアクセス、および他のターミナルの操作を行なうために組み込みソフトウェアである FactoryTalk View ME Station を使用します。ターミナルをリセットすると、構成済みのスタートアップオプションに応じて、以下の動作のうちの一つが実行されます。

- FactoryTalk View ME Station 構成モードが起動される (クローズドシステム)。これが初期設定です。
- FactoryTalk View Machine Edition の HMI.mer アプリケーションが実行されるように設定される (クローズドシステム)。
- Windows Explorer デスクトップが起動される (オープンシステム)。



FactoryTalk View ME Station アイコンをダブルクリックすると、Windows Explorer デスクトップからターミナルの構成モードにアクセスできます。

重要

- 実行中のアプリケーションから構成モードにアクセスするには、Goto Configuration Mode を押します。このボタンは、アプリケーションの開発中に FactoryTalk View Studio ソフトウェアのアプリケーション画面に追加されます。アプリケーションは実行を停止しますが、引き続きロードされた状態です。
- Goto Configuration Mode ボタンが表示されないアプリケーションの場合に構成モードへアクセスする方法については、[170ページの「構成モードへのアクセス」](#)を参照してください。

図 10 – FactoryTalk View ME Station 構成モードのダイアログボックス

現在ロードされているアプリケーションの名前
アプリケーションがロード済みの場合のみ表示

60 秒おきにネットワーク情報を表示 ネット
ワークがシャットダウンされている場合は、
IP アドレスとサブネットマスクが 0.0.0.0 と
表示されます。

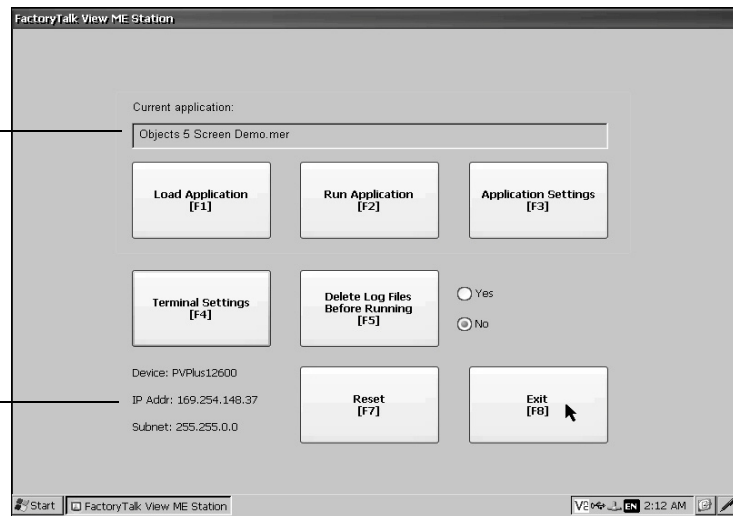


表 42 – 構成モードでの操作

ターミナルの操作	説明
Load Application (F1)	ロードするアプリケーションを選択するためのダイアログボックスを開く。ロードされたアプリケーションの名前がCurrent applicationの下に表示される。
Run Application (F2)	Current applicationの下に表示されているロードされた.merアプリケーションを実行する。アプリケーションは、実行する前にロードしなければならない。
Application Settings (F3)	ロードされている.merアプリケーションに対して定義されたデバイスショートカットなど、アプリケーション固有の構成設定メニューを開く。デバイスショートカットは読み取り専用であり、編集することはできない。 例として、.MERアプリケーションで、ControlLogix®コントローラのデバイスショートカット名としてCLXを定義できる。
Terminal Settings (F4)	PanelView Plus 6装置用のターミナル設定(アプリケーション設定以外)を構成するためのオプションのメニューを開く。
Delete Log Files Before Running (F5)	YesとNoを切換えることができる。Yesを選択した場合は、アプリケーションが実行される前に、すべてのデータ・ログ・ファイル、アラーム履歴、およびアラーム・ステータス・ファイルが削除される。Noを選択すると、最初にログファイルは削除されない。 ログファイルの削除は、ターミナルでメモリを解放する1つの手段である。
Reset (F7)	ターミナルをリセットし、構成されているスタートアップオプションによってHMIアプリケーション、構成モード、またはデスクトップを起動する。
Exit (F8)	構成モードを終了する。デスクトップへのアクセスが許可されている場合は、デスクトップにアクセスできる。

移動ボタン

多くの FactoryTalk View ME Station ダイアログボックスにはデータ入力ボタンと移動ボタンがあります。

- タッチスクリーンターミナルでは、指またはスタイラスでボタンを押す。
- キーボードターミナルでは、ボタン上に表示されているファンクションキーを押す。
- マウスが接続されている場合は、ボタンをクリックする。

表 43 – 移動ボタン

ボタン	説明	ボタン	説明
Close [F8]	直前のダイアログボックスに戻る。 構成モードダイアログボックスではこのボタンを押して、デスクトップにアクセスする(許可されている場合)。	▲ ▼	リスト内の強調表示部分を上下に移動する。
OK [F7] Cancel [F8]	変更を受入れて直前のダイアログボックスに戻るか、変更を保存せずに操作をキャンセルする。	←	強調表示された機能または項目をリストから選択する。

入力パネル

データ入力フィールドをアクティブにすると、入力パネルが開く。フィールドが数値または IP アドレスに制限されている場合は、0～9 および小数点キーだけが有効になります。

図 11 – 入力パネル

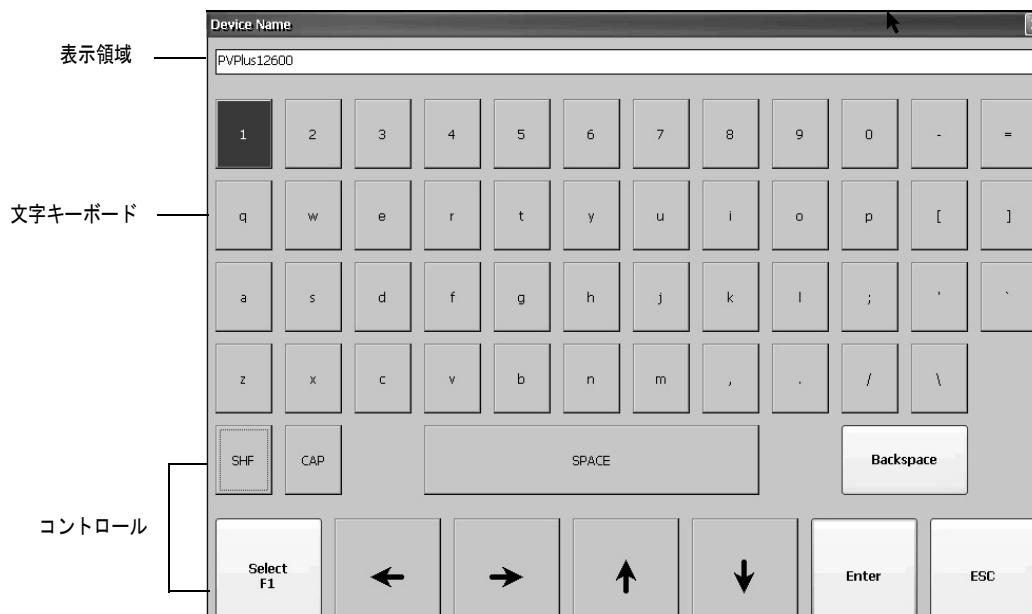


表 44 – 入力パネルの制御

入力パネルの制御	機能
SHF	キーのシフトされた状態とシフトされていない状態を切替える。初期設定はシフトされていない状態。
CAP	小文字と大文字を切替える。初期設定は小文字。
SPACE	表示領域で文字と文字の間にスペースを入力する。
Backspace	表示領域で(カーソルの左側にある)直前の文字を削除する。
Select	文字を選択して表示領域にその文字を入力する。
左、右、上、下矢印キー	現在選択されている文字の左、右、上、下側の文字を選択する。
Enter	入力された文字を受入れて、直前のダイアログボックスに戻る。
ESC	現在の操作をキャンセルして、直前のダイアログボックスに戻る。

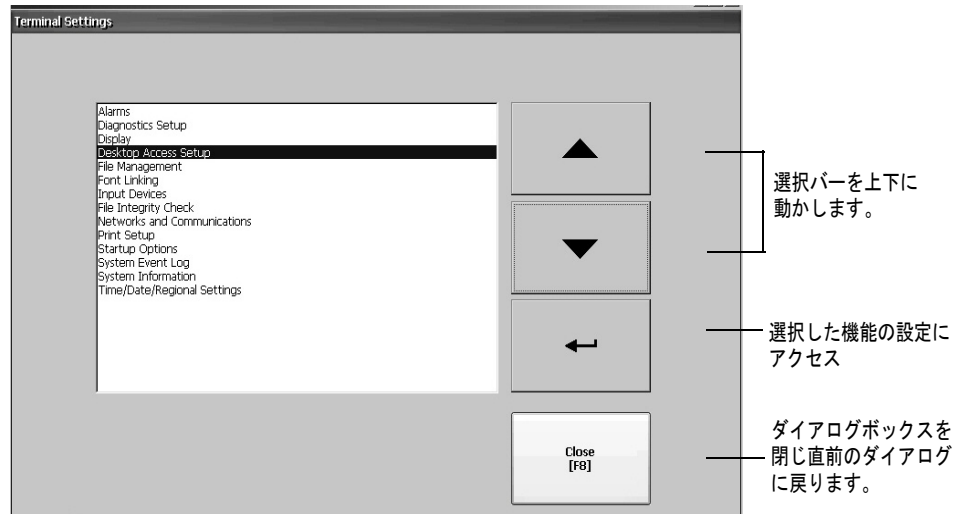
以下の手順に従って、表示領域に文字を入力してください。

- 文字キーボードで文字を選択します。
 - タッチスクリーンターミナルでは、キーを押す。
 - キーパッドターミナルでは、キーボード上の矢印キーを押してキーに移動する。
 - マウスが接続されている場合は、キーをクリックする。
- [Select] キーを押して、その文字を表示領域にコピーします。
- 完了したら [Enter] キーを押して、入力パネルを終了します。

ターミナル設定

アプリケーションに固有のものではないターミナルの設定を変更できます。

1. FactoryTalk View ME Station の構成モードのダイアログボックスから Terminal Settings を押します。

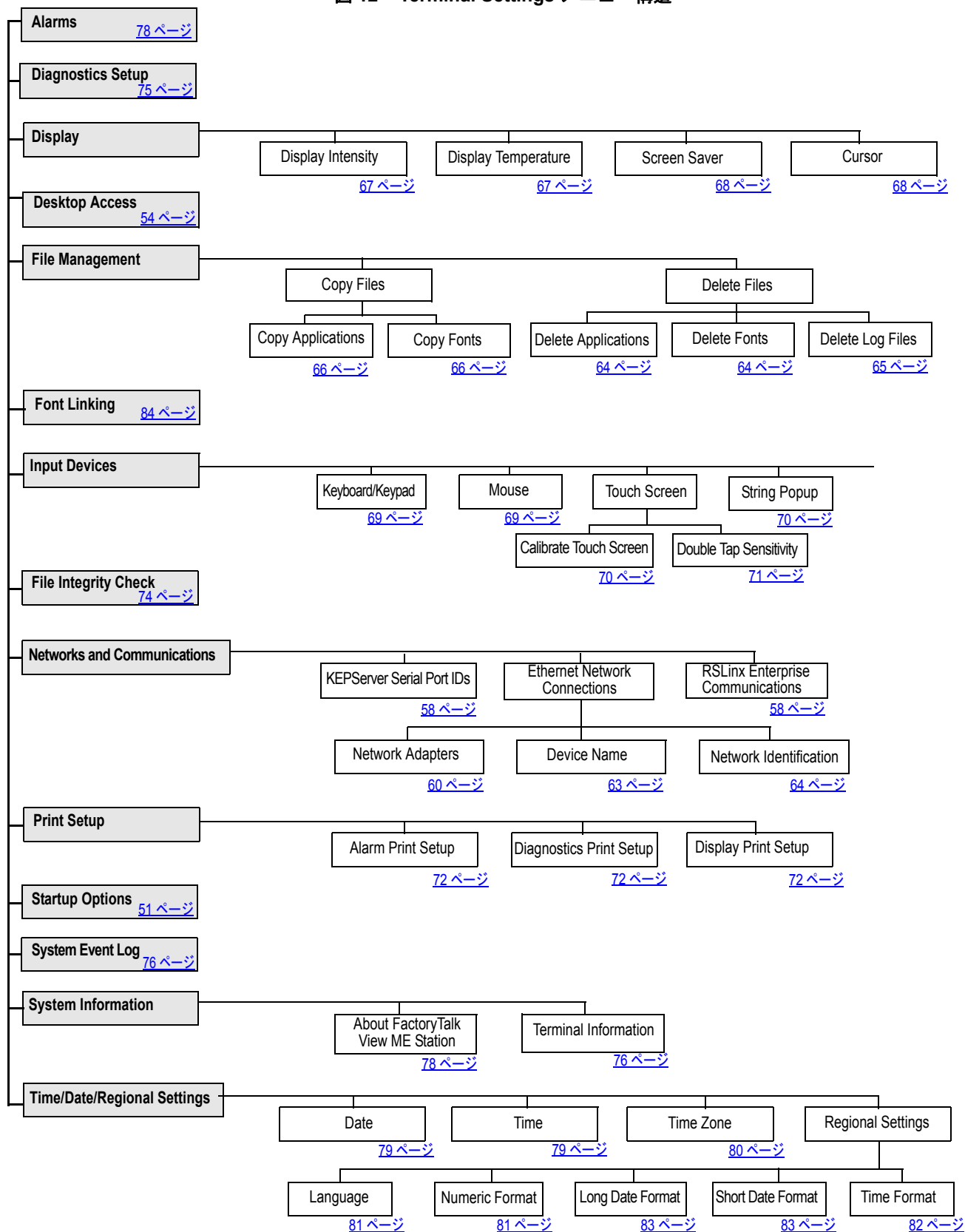


2. 上 / 下カーソルボタンを使って機能を選択します。
 - タッチスクリーンターミナルでは、ボタンを押す。
 - キーパッドターミナルでは、キーパッド上のキーまたはターミナルの対応するファンクションキーを押す。
3. [Enter] キーを押して、選択した機能にアクセスします。

表 45 – ターミナル設定

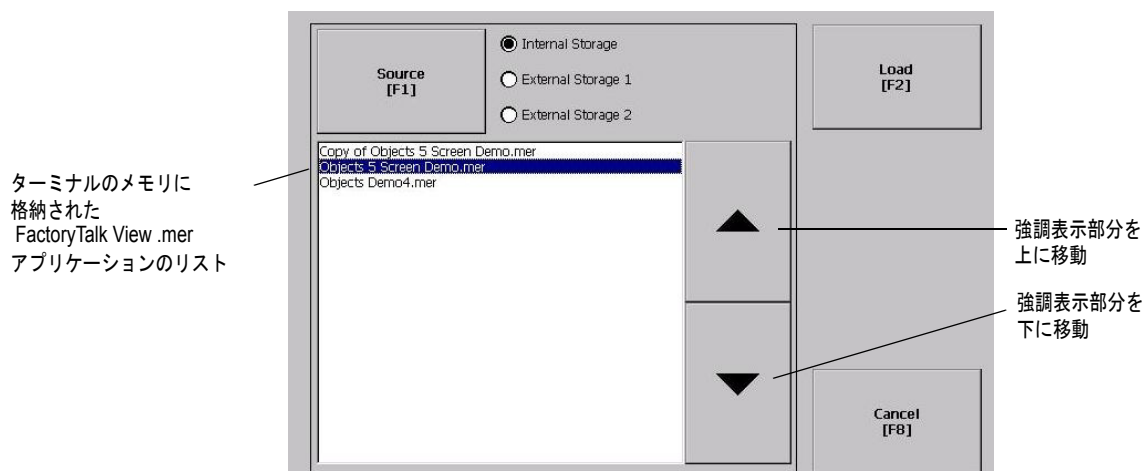
ターミナル設定	説明
Alarms	最新のアラームがオペレータによって確認されたときにターミナルのアラームディスプレイを閉じるかどうかを指定する。デフォルトでは、アラームディスプレイが閉じられます。
Diagnostics Setup	診断メッセージをリモートのログ出力先から、診断を実行中のコンピュータへ転送する。
Display	バックライトの輝度を設定し、700~1500ディスプレイの温度を表示し、スクリーンセーバを構成し、タッチスクリーンのカーソルを有効にする。
Desktop Access Setup	デスクトップへのアクセスにパスワードを使用するかどうかを指定し、パスワードの設定/再設定を可能にする。
File Management	アプリケーションファイルおよびフォントファイルをターミナル、SDカード、またはUSBフラッシュドライブにコピーする。アプリケーションファイルをターミナル、SDカード、またはUSBドライブから削除することもできる。アプリケーションによって生成されたログファイルをターミナルから削除できる。
Font Linking	フォントファイルをターミナルにロードされている基本フォントにリンクさせる。
Input Devices	タッチスクリーンのキャリブレーションをはじめとして、キーパッド、タッチスクリーン、または接続されたキーボードとマウス用の設定を構成する。また、文字列入力用にポップアップ形式文字入力またはポップアップ形式キーボードのいずれかを選ぶこともできる。
File Integrity Check	詳細情報をファイル整合性チェックログに記録することで、.merアプリケーションファイルおよびランタイムファイルの整合性をチェックする。このログはいつでも表示/消去できる。
Networks and Communications	アプリケーションのイーサネットまたはその他の通信設定を行なう。
Print Setup	ディスプレイ、アラームメッセージ、およびアプリケーションによって生成された診断メッセージを印刷するための設定を構成する。
Startup Options	ターミナルのスタートアップ時にデスクトップを起動するか、構成モードを起動するか、またはアプリケーションを実行するかを指定する。
System Event Log	ターミナルによってログに記録されたシステムイベントを表示し、ログからイベントを消去できる。
System Information	ターミナルの電源、温度、バッテリー、およびメモリに関する詳細情報を表示する。また、FactoryTalk View MEソフトウェアのファームウェア番号および技術サポート情報も表示する。
Time/Date/Regional Settings	ターミナルとアプリケーションで使用する日付、時刻、言語、および数字形式を設定する。

図 12 – Terminal Settings メニュー構造



アプリケーションのロードと実行

FactoryTalk View Machine Edition の .mer アプリケーションを実行する前に、そのアプリケーションをまずロードする必要があります。mer アプリケーションは、ターミナルの内蔵ストレージ（不揮発性メモリ）、SD カード、または USB フラッシュドライブからロードすることができます。



以下の手順に従って、アプリケーションをロードして実行してください。

1. 構成モードのダイアログボックスで Load Application を選択します。
2. Source を押して、ロードするファイルの場所を選択します。
 - Internal Storage - ターミナルの不揮発性メモリ
 - External Storage 1 - ターミナルのカードスロットに装着された SD カード
 - External Storage 2 - USB ホストポートに接続された USB フラッシュドライブ

ヒント ターミナル、USB フラッシュドライブ、または SD カード上の Machine Edition ファイルに対して認識されているパスは、`\Application Data\Rockwell Software\RSViewMERuntime\` です。ターミナルでは、パスはデスクトップの My Device にあります。

3. 上/下カーソルキーを使ってリストから .mer ファイルを選択します。
4. Load を押して、選択したアプリケーションをロードします。
ターミナルの通信構成をアプリケーションの構成に置き換えるかどうかを確認するメッセージが表示されます。
5. Yes または No を選択します。
Yes を選択すると、RSLinx Communications ダイアログボックスでデバイスアドレスまたはドライバのプロパティに対して行なわれた変更がすべて失われます。
現在ロードされているアプリケーションの名前が、メインの構成モードのダイアログボックスの上部に表示されます。
6. 構成モードのダイアログボックスの Run を押して、ロードされたアプリケーションを実行します。

ヒント アプリケーションがログファイルを生成します。アプリケーションを実行する前にログファイルを削除するには、構成モードのダイアログボックスの Delete Log Files Before Running を選択します。ログファイルを削除すると、ターミナルメモリが解放されます。

ヒント スタートアップ時またはターミナルのリセット時に自動的に実行されるようにアプリケーションを設定するには、[51 ページの「スタートアップオプション」](#)を参照してください。

スタートアップ オプション

スタートアップ時またはリセット時のターミナルの動作を指定できます。

スタートアップオプション	実行される動作	標準システム
Do not start FactoryTalk View ME Station	スタートアップ時にWindows Explorerデスクトップを起動する。	オープン
Go to Configuration Mode	スタートアップ時にFactoryTalk View ME Stationの構成モードを起動する。これが工場出荷時の初期設定。	クローズド
Run Current Application	スタートアップ時に、ターミナルにロードされているFactoryTalk View MEアプリケーションを実行する。	クローズド

重要 デスクトップへのアクセスが制限されている場合、スタートアップオプションはRun Current ApplicationまたはGo to Configuration Mode (デフォルト)に設定されなければなりません。デスクトップへのアクセスを有効または無効にする方法の詳細は、[54 ページ](#)を参照してください。

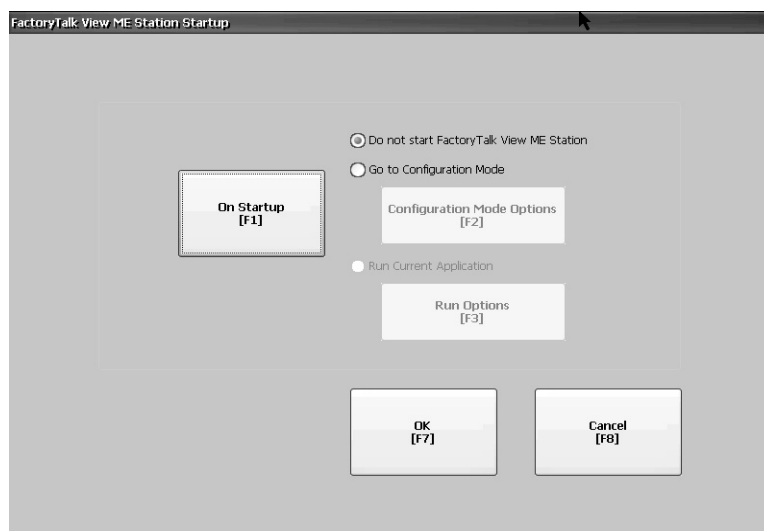
スタートアップ時の FactoryTalk View ME Station ソフトウェアの無効

拡張機能とファイルビューワ付きのターミナルは、通常はスタートアップ時に Windows デスクトップを起動するように構成されています。つまり、スタートアップ時の FactoryTalk View ME Station の起動を無効にする必要があります。

ヒント デスクトップは、Exit を押すことで、FactoryTalk View ME Station の構成モードから起動することもできます。

以下の手順に従って、スタートアップ時に FactoryTalk View ME Station を無効にし、デスクトップの起動を可能にしてください。

1. Terminal Settings → Startup Options の順に押します。



2. Do not start FactoryTalk View ME Station を選択できるまで、On Startup を押します。

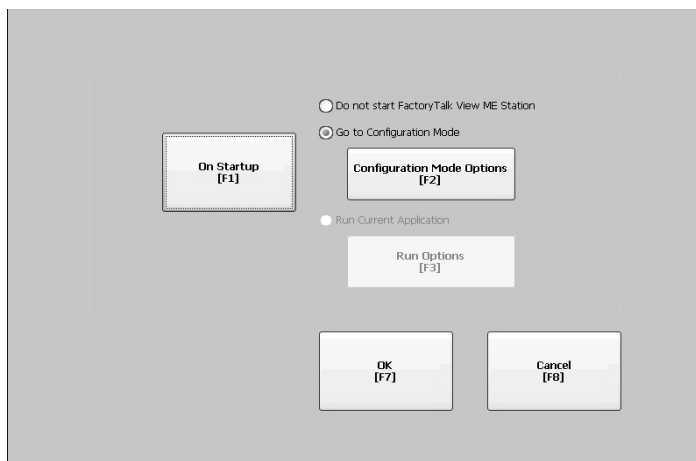
ヒント FactoryTalk View ME Station を無効にするときは、デスクトップへのアクセスを許可するように設定されている必要があります。そうでない場合は警告が表示されます。[54 ページの「デスクトップへのアクセスの有効」](#)を参照してください。

3. OK を押します。

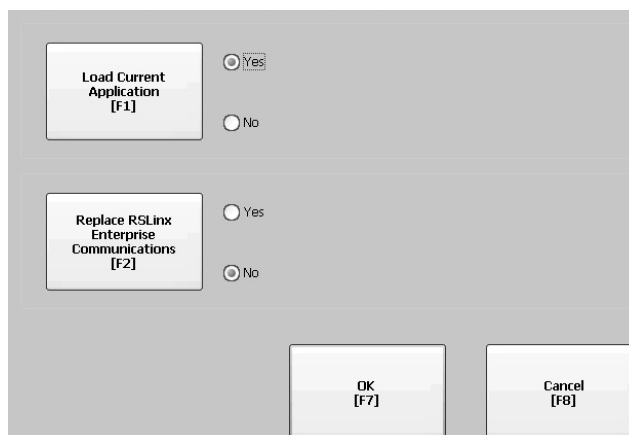
スタートアップ時の構成モードの実行

以下の手順に従って、スタートアップ時に FactoryTalk View ME Station の構成モードのダイアログボックスが自動的に起動するようにしてください。

1. Terminal Settings → Startup Options の順に押します。
2. On Startup を押して Go to Configuration Mode を選択します。



3. Configuration Mode Options を押します。

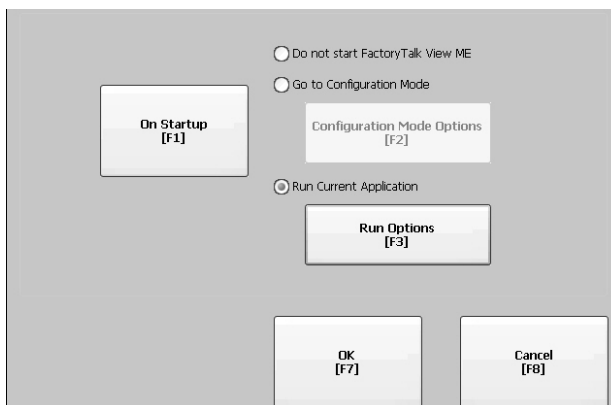


4. Load Current Application を押して、スタートアップ時に現在のアプリケーションをロードするかどうかを指定します。
5. Replace RSLinx Enterprise Communications を押して、スタートアップ時に現在のアプリケーションの通信構成を使用するか、ターミナルの通信構成を使用するかを指定します。
 - ターミナルの RSLinx 構成を使用する場合は No を選択します。
 - アプリケーションの構成を使用する場合は Yes を選択します。ターミナルの構成がアプリケーションの設定に置き換えられ、RSLinx 通信のデバイスアドレスまたはドライバのプロパティに対する変更はすべて失われます。
6. OK を押して直前のダイアログボックスに戻ります。
7. OK を押して Terminal Settings に戻ります。

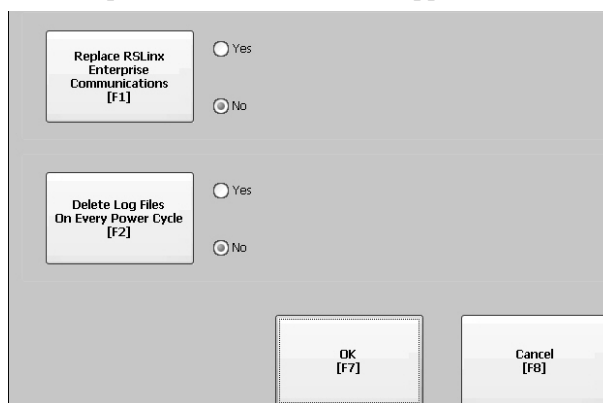
スタートアップ時のロード済みアプリケーションの実行

以下の手順に従って、現在ターミナルにロードされている FactoryTalk View .mer アプリケーションをスタートアップ時に実行してください。これは、クローズドシステム実行時の通常の動作です。

1. Terminal Settings → Startup Options の順に押します。



2. On Startup を押して Run Current Application を選択します。



アプリケーションがロードされていない場合、これらのオプションは無効になっています。

3. Replace RSLinx Enterprise Communications を押して、アプリケーションの実行時に使用する構成設定を指定します。
 - ターミナルの RSLinx 構成を使用する場合は No を選択します。
 - アプリケーションの構成を使用する場合は Yes を選択します。ターミナルの構成がアプリケーションの設定に置き換えられ、RSLinx 通信のデバイスアドレスまたはドライバのプロパティに対する変更はすべて失われます。
4. Delete Log Files On Every Power Cycle を押して、スタートアップ時のログファイルに対する処理を指定します。
 - アプリケーションを実行する前に、ターミナルで生成されたすべてのログファイル(データ、アラーム履歴、アラームステータス)を削除する場合は Yes を選択します。ファイルがシステムデフォルトの場所から削除されます。
 - すべてのログファイルを保持する場合は No を選択します。
5. OK を 2 回押して Terminal Settings に戻ります。

デスクトップへのアクセス

すべてのターミナルで Windows デスクトップへのアクセスを許可または制限することができます。デスクトップでは、システムの操作やコントロールパネルの操作を実行したり、サードパーティのアプリケーションを実行したりできます。拡張機能を備えたターミナルでは、さらに、ビューワやメディアプレイヤーを実行したり、Web ブラウザを起動したりできます。また、特定のタスクを実行するために一時的にアクセスを許可した後で、許可されていない変更を防ぐためにデスクトップへのアクセスを無効にすることができます。

通常、ターミナルでは、拡張機能が装備されていない限り、デスクトップへのアクセスは許可されません。

ヒント ターミナルはすべて、デスクトップへのアクセスが無効な状態で工場から出荷されます。

アクセスが制限されている場合は、最初にパスワードを入力する以外に、デスクトップへアクセスする方法はありません。工場出荷時に、ターミナルにはデフォルトのパスワードとユーザ確認のための質問が設定されていますので、変更することをお奨めします。

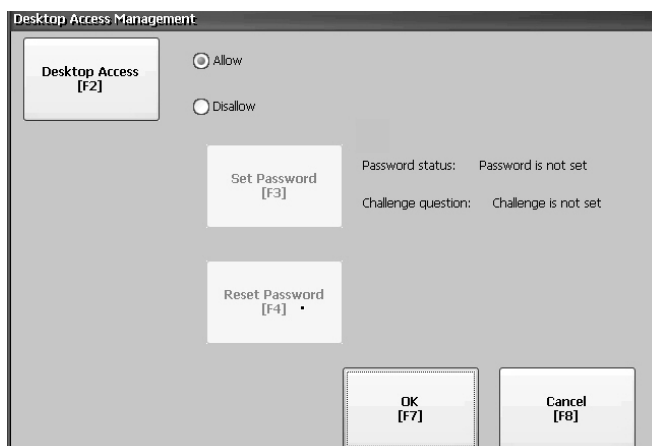
- デフォルトのパスワード = password(大文字と小文字が区別される)
- デフォルトのユーザ確認のための質問 = What is the opposite of lock?
- デフォルトのユーザ確認のための回答 = unlock(大文字と小文字が区別される)

デスクトップへのアクセスを許可するように設定されている場合は FactoryTalk View ME Station の構成モードで Exit を押してデスクトップにアクセスできます。

デスクトップへのアクセスの有効

以下の手順に従って、デスクトップへのアクセスを有効にしてください。

1. Terminal Settings → Desktop Access Setup の順に押します。
2. Desktop Access を押して、Allow を選択します。
Enter Password ダイアログボックスが表示されます。
ヒント アクセスを Disallow(許可しない)から Allow(許可する)に変更するたびに、パスワードを入力するよう求められます。初期設定のパスワードは「password」です。
3. Password を押してパスワードを入力し、[Enter] キーを押します。
4. もう一度 [Enter] キーを押して、Desktop Access Management に戻ります。



パスワードがクリアされていることに注意してください。

5. OK を押して Desktop Access Management を終了し、Close を押して Terminal Settings を終了します。
6. FactoryTalk View ME Station 構成モードで Exit を押して、デスクトップにアクセスします。
デスクトップへのアクセスを許可するように設定されている場合、パスワードの入力を求められることはありません。

デスクトップへのアクセスの無効

デスクトップへのアクセスを制限する場合は、FactoryTalk View ME Station のスタートアップオプションが以下のいずれかのオプションに設定されている必要があります。

- Go to Configuration Mode(デフォルト)
- Run Current Application

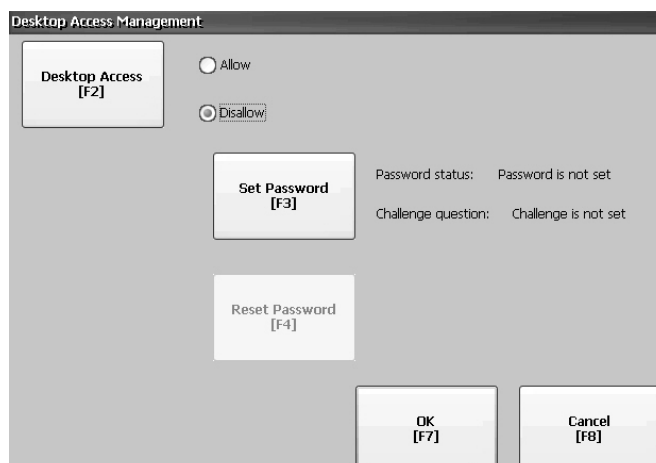
スタートアップオプションの変更方法の詳細は、[51 ページ](#)を参照してください。

また、以下の場合は、パスワードとユーザ確認のための質問を入力するよう求められます。

- Exit を押して FactoryTalk View ME Station 構成モードからデスクトップにアクセスするには、パスワードが必要です。
- Reset Password 機能によりパスワードを変更するには、ユーザ確認のための質問と回答が必要になります。

以下の手順に従って、デスクトップへのアクセスを無効にしてください。

1. Terminal Settings → Desktop Access Setup の順に押します。
2. Desktop Access を押して、Disallow を選択します。
Set Password ボタンが有効になります。



ヒント スタートアップオプションが Run Current Application または Go to Configuration Mode に設定されていなかった場合は、エラーが表示されます。

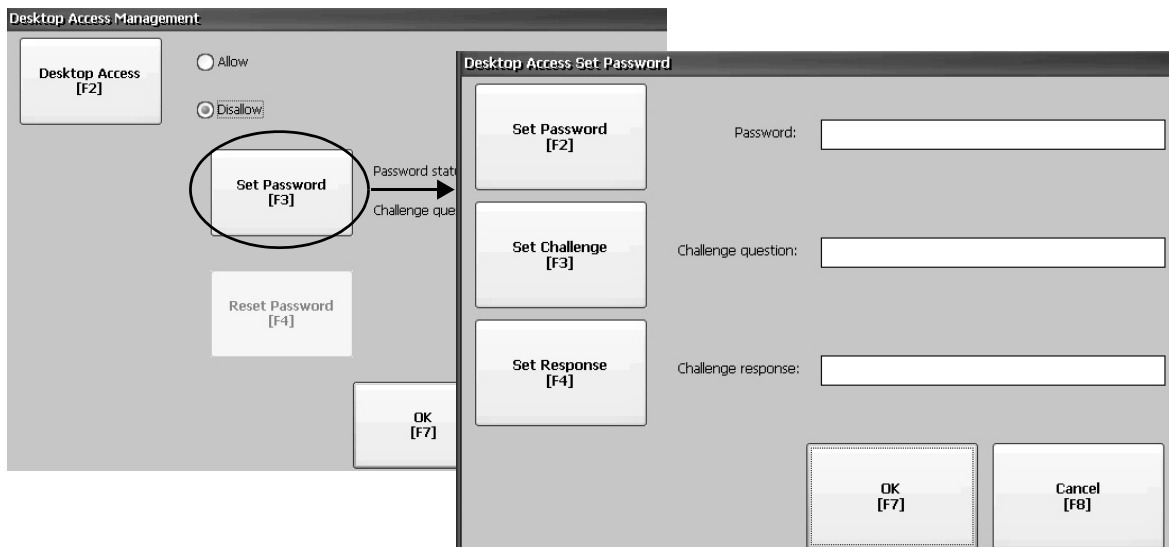
3. パスワードとユーザ確認のための質問を設定するには、[56 ページ](#)の「デスクトップのパスワードの設定」を参照してください。
デスクトップへのアクセスを無効にする場合はパスワードとユーザ確認のための質問を設定する必要があります。これを行なわないと、エラーメッセージが表示されます。

デスクトップのパスワードの設定

重要 デスクトップへのアクセスを許可しない、つまり、制限する場合は、パスワードとユーザ確認のための質問を設定するよう求められます。

以下の手順に従って、新しいパスワードを設定してください。

1. Desktop Access Management で Set Password を押します。



2. Set Password を押して、8 ～ 20 文字のパスワードを入力してから [Enter] キーを押します。

ヒント ユーザは、デスクトップにアクセスする前に、このパスワードを正確に入力する必要があります。

3. Set Challenge を押して質問を入力します。ユーザは、Reset Password ボタンを使ってパスワードを変更する前に、この質問に正しく回答する必要があります。
4. Set Response ボタンを押して、ユーザ確認のための質問に対する回答を入力してから [Enter] キーを押します。
5. OK を押します。

Desktop Access Management ダイアログボックスに、パスワードとユーザ確認のための質問が設定されたことが表示されます。

6. OK を押して Terminal Settings に戻ります。

重要 将来使うために、パスワードとユーザ確認のための質問を安全確実なものにしてください。パスワードをクリアして再設定するには、ユーザ確認のための質問に正しく回答する必要があります。回答を忘れた場合は、ターミナルを元の工場出荷時の初期設定に戻す以外に、パスワードをクリアする方法はありません。工場出荷時の初期設定に戻す方法の詳細は、[172 ページの「メンテナンス操作へのアクセス」](#)を参照してください。

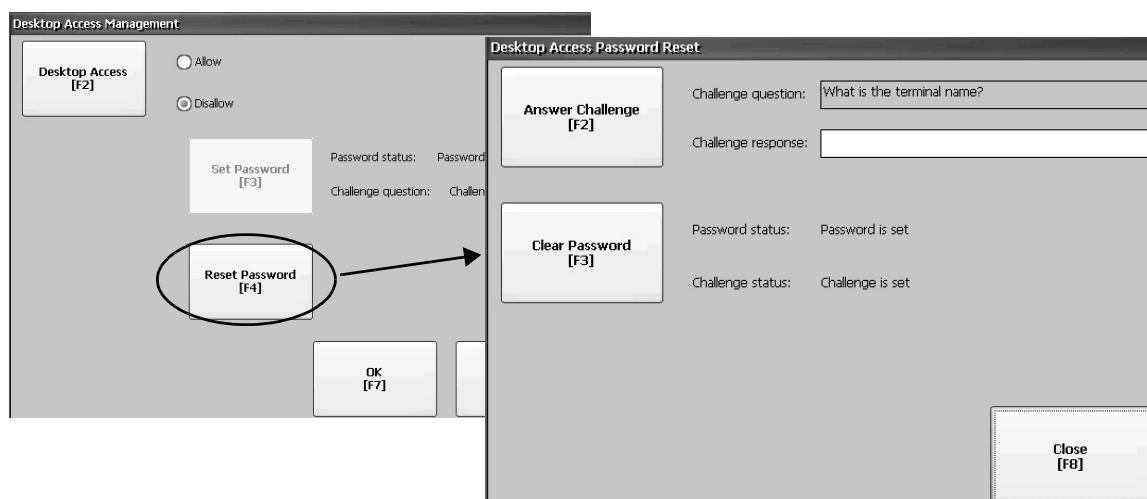
デスクトップのパスワードの再設定

現行のパスワードをクリアして新しいパスワードを再設定するには、最初に、現行のユーザ確認のための質問に正しく回答する必要があります。回答を覚えていない場合は、元の工場出荷時の初期設定にターミナルを戻す必要があります。[172 ページの「メンテナンス操作へのアクセス」](#)を参照してください。

重要 デスクトップへのアクセスが制限されている、つまり、許可しないように設定されている場合は、パスワードとユーザ確認のための質問をクリアして再設定できます。

以下の手順に従って、デスクトップへのアクセス時のパスワードを再設定してください。

1. Desktop Access Management で Reset Password を押します。



2. Answer Challenge を押して、現行のユーザ確認のための質問に対する正しい回答を入力します。
3. Clear Password を押して、現行のパスワードとユーザ確認のための質問をクリアします。

パスワードとユーザ確認のための質問のステータスが更新されます。

パスワードのステータス：パスワードは設定されていない
質問のステータス：質問は設定されていない

4. Close を押します。
5. [「デスクトップのパスワードの設定」](#)の手順 ([56 ページ](#))に従って、新しいパスワードとユーザ確認のための質問を設定します。パスワードを消去した後は、新しいデスクトップパスワードを設定するか、許可するデスクトップへのアクセスを変更する必要があります。

通信の設定

ご使用のアプリケーションとコントローラ用に通信を構成するには、RSLinx Enterprise ソフトウェアを使用します。

- KEPServer シリアルポート ID にアクセスする。
- ご使用の .mer アプリケーションで使用されているプロトコル用のドライバ設定を編集します。
- ネットワーク上のコントローラのデバイスアドレスを編集します。

KEPServer シリアルポート ID の構成

KEPServer シリアル通信にアクセスするには、ターミナルに KEPServer Enterprise がインストールされている必要があります。KEPServer Enterprise とシリアル通信の使用を予定している場合は、使用する COM ポートを指定しなければなりません。

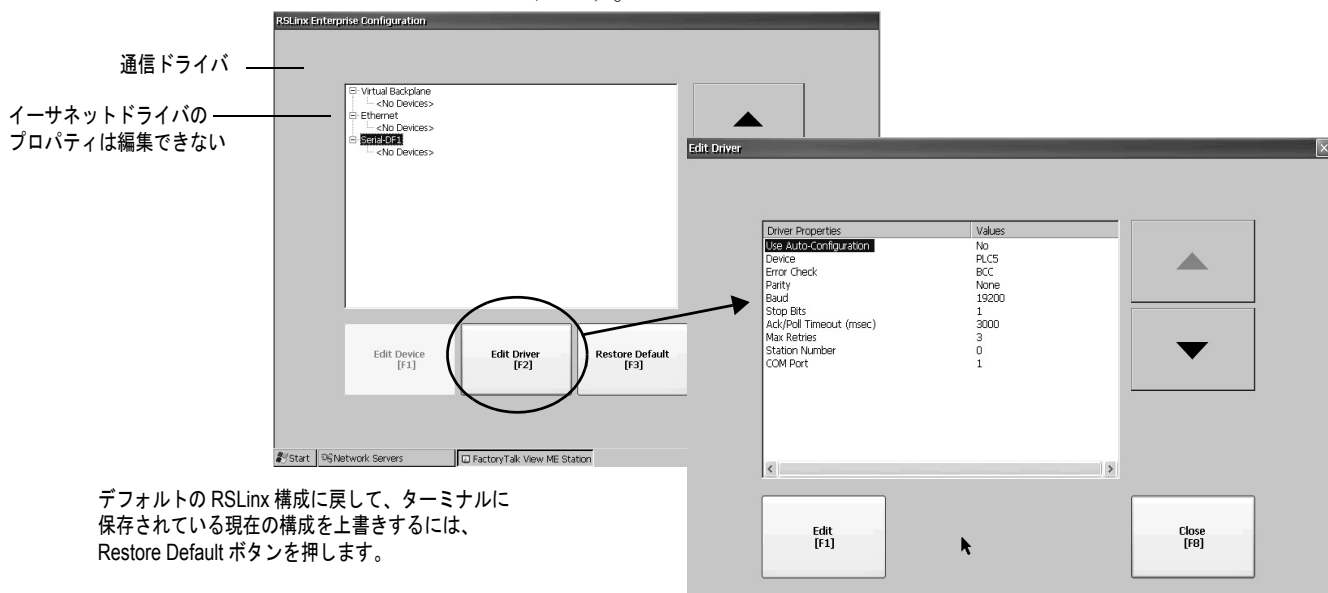
KEPServer Serial Port ID ダイアログボックスにアクセスするには、Terminal Settings → Networks を押してから Communications → KEPServer Serial Port IDs の順に押します。KEPServer Enterprise がインストールされていない場合は、エラーメッセージが表示されます。

RSLinx 通信プロパティの構成

以下の手順に従って、ご使用のアプリケーションで使用されている通信プロトコル用のドライバ設定を構成してください。

1. Terminal Settings → Networks を押してから、Communications → RSLinx Enterprise Communications の順に押します。

取付けられているカードおよびネットワーク構成がツリー表示されます。



2. ターミナルに取付けられている通信カードを選択します。
3. Edit Driver を押して、現在のドライバのプロパティを表示します。
4. 変更するプロパティを選択して、Edit を押します。
5. 設定を変更したら、[Enter] キーを押します。

直前のダイアログボックスに戻り、新たに入力されたデータが表示されます。

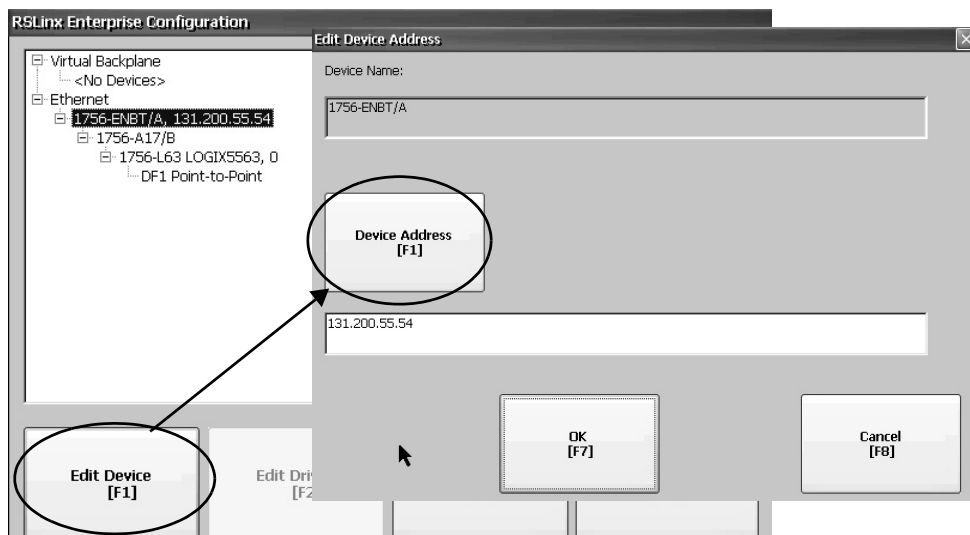
表 46 – 通信ドライバのプロパティ

フィールド	説明	有効値
シリアルのプロパティ		
Use Auto Config	自動または手動で、通信速度、パリティ、およびエラーチェックの各パラメータを構成する。	Yes (自動構成) No (手動構成)
Device	シリアルデバイス端末の接続先	PLC-5 [®] 、SLC [™] 、MicroLogix [™] 、Logixプラットフォーム
Error Check	使用されるエラーチェックのタイプ。Use Auto ConfigがYesに設定されている場合、エラーチェックは自動的に構成される。	BCC、CRC
Parity	使用されるパリティのタイプ。Use Auto ConfigがYesに設定されている場合、パリティは自動的に構成される。	None、Odd、Even
Baud Rate	シリアルドライバの通信データレート。Use Auto ConfigがYesに設定されている場合、通信速度は自動的に構成される。	110, 300, 600, 1200, 4800, 9600, 19200, 38400, 57600, 115200
Stop Bits	使用される停止ビットの数	1または2
Ack/Poll Timeout	Ack/Poll(確認/ポーリング)タイムアウト値(単位: msec)	20~60,000msec
Max Retries	シリアルドライバが機能しなくなるまでの試行回数	0~10
Station Number	個々のデバイスに基づくステーション番号	0~254
COM Port	ターミナルで使用される通信ポート	1~4
DH+のプロパティ		
Jumper ID	複数の通信カードがターミナルに取付けられている場合にカードを識別する。	0~3
Station Number	DHPlusネットワーク上におけるターミナル固有のアドレス	0~77 (8進数)
Baud Rate	DH+ネットワークの通信速度	57,600 (デフォルト) 115,200 230,400
DH-485のプロパティ		
Jumper ID	複数の通信カードがターミナルに取付けられている場合にカードを識別する。	0~3
Station Number	DH-485ネットワーク上におけるターミナル固有のステーション番号	0~31 (10進数)
Baud Rate	DH-485ネットワークの通信速度	9600 19200
MaxStationNumber	DH-485ネットワーク上の最大ステーション番号。この値はStation Number以上でなければならない。	0~31 (10進数)
ControlNetのプロパティ		
Device ID	ControlNetネットワーク上におけるPanelView Plus 6ターミナル固有のアドレス	1~99

デバイスアドレスの構成

以下の手順に従って、ロジックコントローラなどのデバイスのアドレスを編集してください。

1. RSLinx Configuration ダイアログボックスで、デバイスノードを選択します。
2. Edit Device を押して、デバイス名と現アドレスを表示します。



3. アドレスを変更するために Device Address を押します。
現アドレスが表示された入力パネルが開きます。
4. 入力パネルを使って、アドレスを変更したら、[Enter] キーを押します。
直前のダイアログボックスに戻り、新しいデータが表示されます。
5. OK を押します。
変更後の設定は、ターミナルが再起動されるまで有効にはなりません。

イーサネットネットワーク接続

ターミナルにはイーサネットドライバが組み込まれています。ターミナル用に以下のイーサネット情報を構成できます。

- ネットワーク上のターミナルの IP アドレス (リンク速度を含む)
- ネットワーク上でのターミナルを識別するデバイス名
- ネットワークリソースにアクセスするためのユーザ名とパスワード

重要

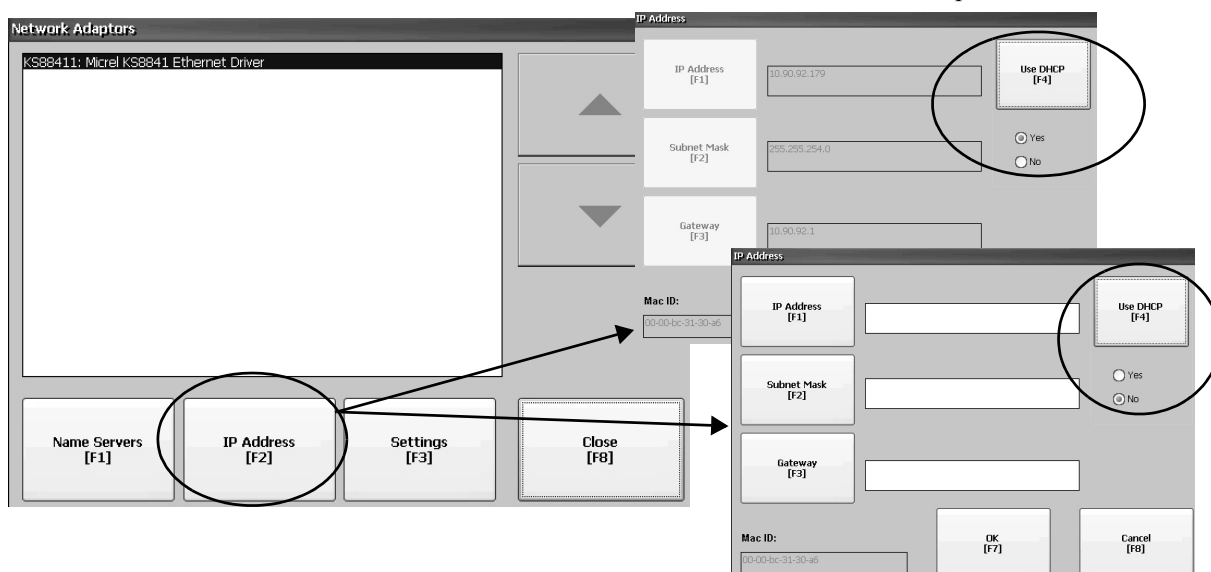
FactoryTalk View ME Station は、設置されている 2711P-RN20 イーサネットモジュールを認識しません。Network and Dial-up Connections を使用してコントロールパネルからモジュールの IP アドレスを表示して手動で構成してください。

ターミナルのイーサネット IP アドレスの設定

一部のネットワークでは、DHCP が有効になっている場合に IP アドレスが自動的にイーサネットデバイスに割り付けられます。DHCP が有効でない場合は、IP アドレスを手動入力できます。

以下の手順に従って、ターミナルの IP アドレスを表示するか、入力してください。

1. Terminal Settings → Networks を押してから、Communications → Network Connections → Network Adapters の順に押します。



2. IP Address を押して IP アドレスを表示または変更します。
3. Use DHCP を押してアドレスの DHCP 割付けを有効または無効にします。
 - DHCP が有効になっている、つまり、Yes に設定されている場合は、IP アドレスが自動的に割付けられます。
 - DHCP が無効になっている場合は、IP アドレスを手動入力できます。IP address、Subnet Mask、および Gateway を押して IP 形式のアドレスを入力します。
4. 完了したら OK を押します。
デバイスをリセットするよう求めるメッセージが表示された場合は、FactoryTalk View ME Station 構成モード・ダイアログ・ボックスでデバイスをリセットします。
5. Close を押します。

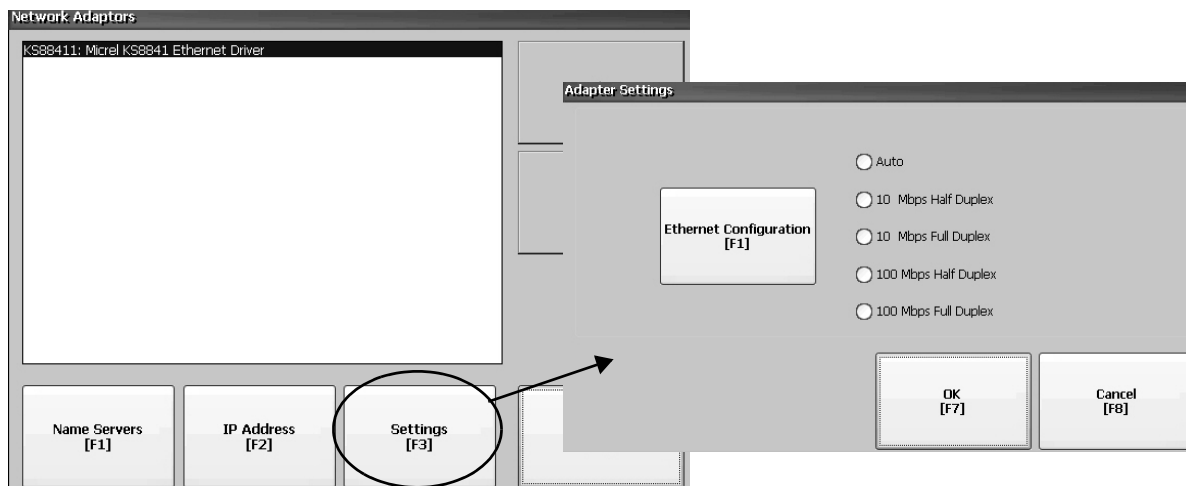
フィールド	説明	有効値
Use DHCP	Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP)設定を有効または無効にする。DHCPは、ネットワーク上で新規に接続されたデバイスに対して、ネットワークデバイスおよび構成を自動的に割付ける。 <ul style="list-style-type: none"> • DHCPがYesに設定された場合、ターミナルには、自動的にIPアドレス、サブネットマスク、およびゲートウェイが割付けられ、これらのフィールドは無効な状態になる。 • DHCPがNoに設定された場合は、IPアドレス、サブネットマスク、およびゲートウェイアドレスをユーザが入力できる。 	Yes (デフォルト) No
IP Address	イーサネットネットワーク上でターミナルを識別する固有のアドレス	XXX.XXX.XXX.XXX 000.000.000.000 (デフォルト) <ul style="list-style-type: none"> • 最初の10進数のセットにおける値の範囲は1~255(すべてのフィールドが000に設定される場合を除く) • 最後の3つの10進数のセットにおける値の範囲は0~255
Subnet Mask	アドレスはサーバのサブネットマスクと同一でなければならない。	XXX.XXX.XXX.XXX
Gateway	オプションのゲートウェイアドレス	XXX.XXX.XXX.XXX
Mac ID	読取り専用フィールド	

イーサネットリンク速度の設定

イーサネットリンクの速度と二重性の設定を設定できます。

ヒント FactoryTalk View Machine Edition Station では、2711P-RN20 イーサネットモジュールのリンク設定を設定することはできません。このモジュールは、ネットワーク上の設定を自動的に検知するように設定されています。

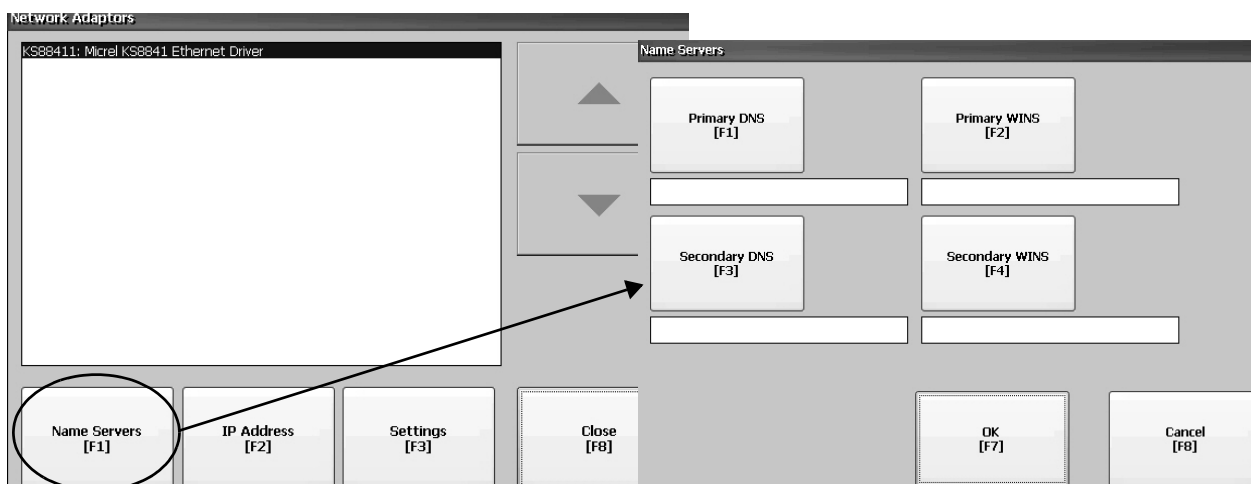
1. Terminal Settings → Networks を押してから、Communications → Network Connections → Network Adapters の順に押します。



2. Settings を押して、イーサネットリンク設定を表示または変更します。
3. Ethernet Configuration を押して、イーサネット接続用のイーサネット・リンク・オプションを選択します。
Auto オプションを選択すると、ネットワークへのターミナルの接続に基づきリンクオプションと速度が自動的に検知されます。

ネーム・サーバ・アドレスの定義

EtherNet/IP ネットワーク・アダプタに対してネーム・サーバ・アドレスを定義できます。DHCP がそのアダプタに対して有効になっている場合、これらのアドレスは自動的に割当てられます。



以下の手順に従って、ネーム・サーバ・アドレスを定義してください。

1. Terminal Settings → Networks を押してから、Communications → Network Connections → Network Adapters の順に押します。
2. Name Servers を押します。
3. 以下のフィールドを押し、ネーム・サーバ・アドレスを入力します。

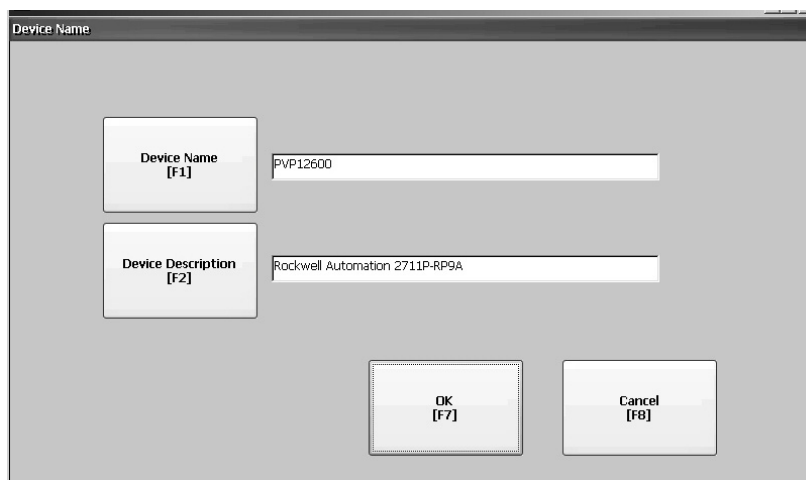
フィールド	説明	有効値
Primary DNS	プライマリDNSレゾルバのアドレス	XXX.XXX.XXX.XXX
Secondary DNS	セカンダリDNSレゾルバのアドレス	XXX.XXX.XXX.XXX
Primary WINS	プライマリWINSレゾルバのアドレス	XXX.XXX.XXX.XXX
Secondary WINS	セカンダリWINSレゾルバのアドレス	XXX.XXX.XXX.XXX

4. 完了したら OK を押します。

ターミナルのデバイス名の表示または変更

ターミナルごとに、ネットワーク上でそのターミナルを識別するために使用されるデフォルトのデバイス名と説明が用意されています。この情報を表示または変更することができます。

1. Terminal Settings → Networks を押してから、Communications → Network Connections → Device Name の順に押します。



2. Device Name を押してデバイス名を入力または編集します。
3. Device Description を押してデバイスの説明を入力します。

フィールド	説明	有効値
Device Name ⁽¹⁾	ネットワーク上の他のコンピュータに対してターミナルを識別する固有の名前	1～15文字 <ul style="list-style-type: none"> • 先頭の文字にはa～zまたはA～Zを使用する。 • その他の文字にはa～z、A～Z、0～9、または-(ハイフン)を使用する。
Device Description	ターミナルの説明を指定する。デフォルトはデバイスのカタログ番号。	最大50文字

(1) ネットワーク管理者に問い合わせ有効なデバイス名を確認してください。

4. OK を押します。

ネットワークリソースにアクセスする際の ターミナルの認証

ターミナルは、適正な識別情報によってネットワークリソースにアクセスできます。ユーザ名、パスワード、およびドメインがネットワーク管理者によって提供される必要があります。

1. Terminal Settings → Network を押してから、Communications → Network Connections → Network Identification の順に押します。

2. User Name、Password、および Domain を押して、ネットワーク管理者によって提供された情報を入力します。

フィールド	説明	有効値
User Name	ネットワークに対してユーザを識別する。	最大70文字
Password	ユーザ名と併用することでネットワークへのアクセスを可能にする一連の文字	文字に関する制限なし
Domain Name	ネットワーク管理者によって提供される。	最大15文字

3. 完了したら OK を押します。

ファイル管理

ターミナルは、ターミナル上に格納されたファイルを管理するための操作をサポートしています。

- アプリケーションの .mer ファイル、フォントファイル、または生成されたログファイルの削除
- 格納場所間でのアプリケーションファイルまたはフォントファイルのコピー

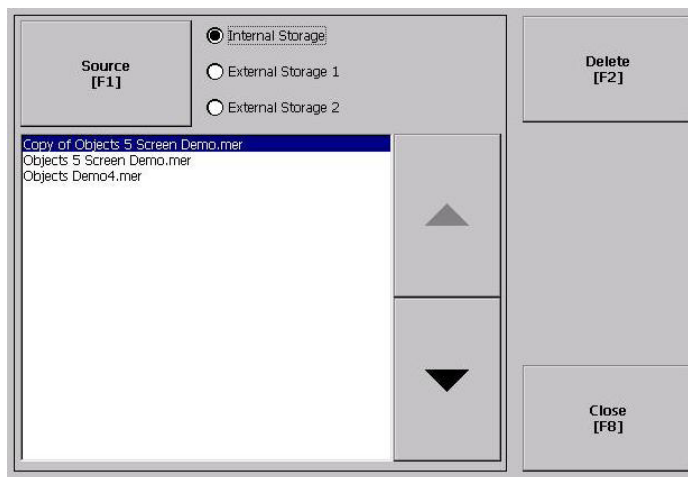
アプリケーションファイルまたはフォントファイルの 削除

ターミナルの不揮発性メモリ、装着された USB フラッシュドライブ、または装着された SD カードに存在する FactoryTalk View ME Station の .mer ファイルまたはフォントファイルを削除することができます。アプリケーションファイルとフォントファイルの削除手順は同じです。

1. Terminal Settings → File Management → Delete Files → Delete Applications または Delete Fonts の順に押します。

2. Source を押して、削除するアプリケーションまたはフォントファイルの格納場所を選択します。

- Internal Storage - ターミナルの不揮発性メモリ
- External Storage 1 - ターミナルのカードスロットに装着された SD カード
- External Storage 2 - USB ホストポートに接続された USB フラッシュドライブ



3. リストからファイルを選択します。
4. Delete を押します。
5. 選択したアプリケーションまたはフォントファイルを格納場所から削除するかどうかを確認するメッセージが表示されたら Yes または No を選択します。

ログファイルの削除

生成されたログファイル、アラーム履歴ファイル、およびアラーム・ステータス・ファイルをターミナルのシステムデフォルトの場所から削除できます。

1. Terminal Settings → File Management → Delete Files → Delete Log Files の順に押します。

以下に示すように、ファイルを削除することを確認するメッセージが表示されます。

Do you want to delete all of the FactoryTalk View ME Station Log Files?
(FactoryTalk View ME Station ログファイルをすべて削除しますか?)

2. Yes または No を選択します。

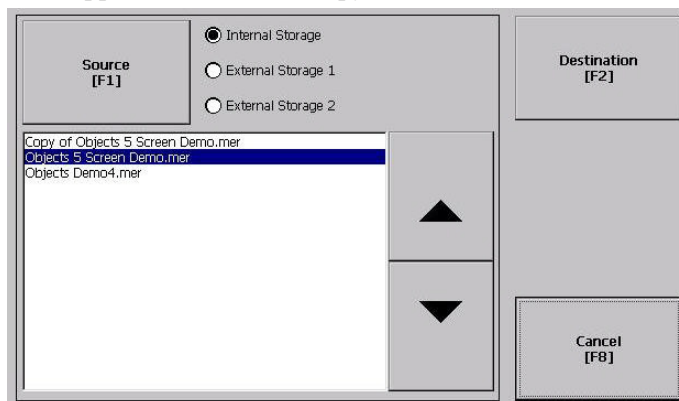
システムデフォルトの場所がないログファイルは削除されません。

アプリケーションファイルまたはフォントファイルのコピー

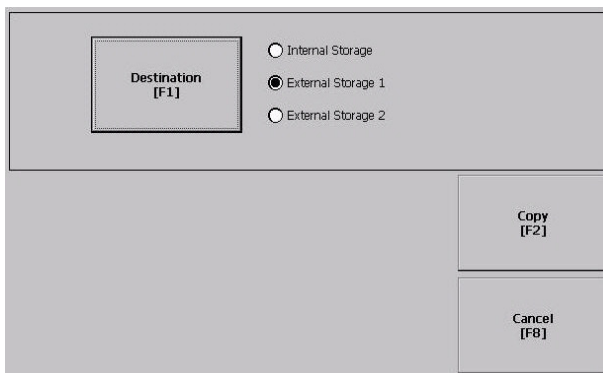
FactoryTalk View ME Station アプリケーションの .mer ファイルまたはフォントファイルをターミナルの格納場所間でコピーできます。格納場所間でのアプリケーションファイルのコピー手順とフォントファイルのコピー手順は同じです。

1. Terminal Settings → File Management → Copy Files → Copy Applications または Copy Fonts の順に押します。

ターミナルの不揮発性メモリに格納されたファイルのリスト



2. Source を押して、コピーするファイルの場所を選択します。
 - Internal Storage - ターミナルの不揮発性メモリ
 - External Storage 1 - ターミナルのカードスロットに装着された SD カード
 - External Storage 2 - USB ホストポートに接続された USB フラッシュドライブ
3. 格納場所からファイルを選択します。
4. 同じダイアログボックスの Destination を押します。



5. Destination を押して、ファイルのコピー先の場所を選択します。コピー先はコピー元の場所と違っていなければなりません。
6. Copy を押して、選択したファイルをコピー先にコピーします。そのファイルがすでに存在する場合は、そのファイルを上書きするかどうかを確認するメッセージが表示されます。
7. Yes または No を選択します。

ヒント FactoryTalk View ME Station ソフトウェアは、My Device\Application Data\Rockwell Software\RSViewME\Runtime\ フォルダ内にある .mer ファイルと \Rockwell Software\RSViewME\Fonts\ フォルダ内にあるフォントファイルを探します。

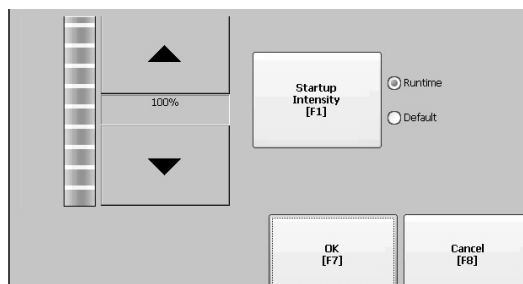
ディスプレイ設定

ターミナルディスプレイについては、輝度の調節、温度の表示、スクリーンセーバの構成、または画面上のカーソルを有効/無効にすることができます。

ディスプレイの輝度の調節

ターミナルのバックライトの輝度を変更できます。デフォルトの輝度である 100% を使用するか、実行時の操作用に輝度を変更できます。

1. Terminal Settings → Display → Display Intensity の順に押します。



2. Startup Intensity を押して、輝度を Default と Runtime の間で切替えます。
 - Runtime を選択すると、スタートアップ画面ではランタイムの輝度を使用されます。
 - Default を選択すると、スタートアップ画面ではデフォルト設定である 100% が使用されます。
3. 上/下矢印キーを押して、ランタイムの操作用の輝度を増減します。
4. 完了したら OK を押して、輝度の変更を保存します。

ディスプレイの温度の表示

700 ~ 1500 CCFL ディスプレイの現在温度だけを表示するには、Terminal Settings → Display → Display Temperature の順に押します。



冷陰極蛍光管 (CCFL) バックライト付き 700 ~ 1500 ターミナルの使用時は、製品の内部温度が 10°C(50°F) 未満になるか、60°C(140°F) を超えると、温度制御が必要になります。内部温度に応じてバックライトが以下のように設定されます。

- 10°C(50°F) 未満になると、バックライトが最低 5 分間、オーバードライブまたはフル定格電流設定に設定される。これにより、バックライトからの発熱が増加する。
- 60°C (140°F) を超えると、バックライトがアンダードライブ (フル輝度の 40% 以下) に設定される。これにより、バックライトからの発熱が低減される。

温度のモニタは、スタートアップ時にバックライトが点灯するか、スクリーンセーバがアクティブではなくなると開始されます。温度制御はディスプレイの輝度に影響を及ぼすだけで、ターミナルの使用または操作は制限されません。

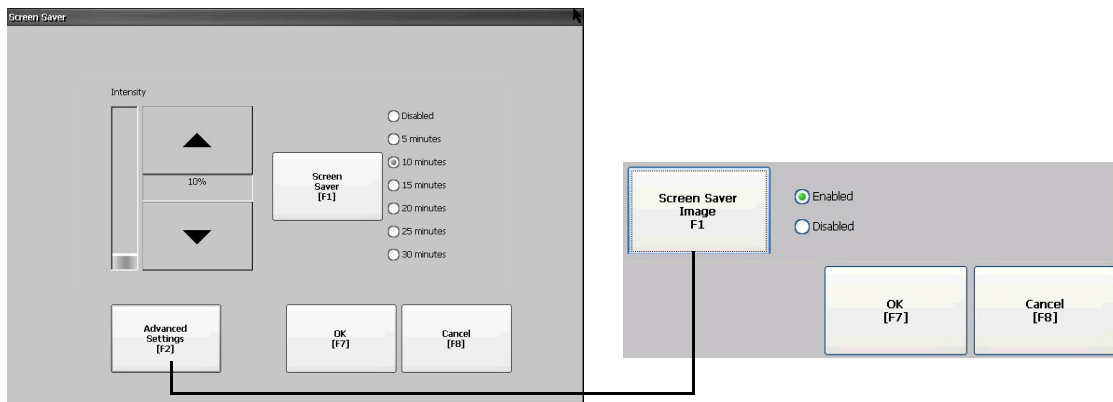
低温または高温状態が検出されると、エラーがシステム・イベント・ログに送信されます。温度制御が機能していない場合は、重要性の低いエラーがシステム・イベント・ログに送信されますが、ターミナルは通常通り動作し続けます。

ヒント 温度制御は、アプリケーションのバックライト設定より優先されます。

スクリーンセーバの構成

ターミナルでは、一定の輝度においてアイドル期間が経過すると、スクリーンセーバがアクティブになります。アイドルタイムアウトのデフォルト値は10分です。スクリーンセーバのアイドルタイムアウトと輝度レベルを調節したり、スクリーンセーバを無効にしたり、スクリーンセーバのビットマップを有効/無効にすることができます。

1. Terminal Settings → Display → Screen Saver を押します。

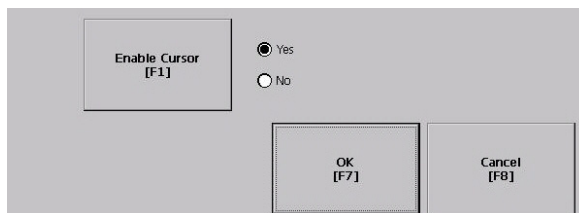


2. Screen Saver を押して、スクリーンセーバをアクティブにするためのアイドルタイムアウトを選択します。
スクリーンセーバを無効にする場合は、Disabled オプションを選択します。
3. 上/下カーソルボタンを押して、スクリーンセーバの輝度を増減します。
4. Advanced Settings を押して、ビットマップオプションにアクセスします。
 - a. Screen Saver Image を押して、スクリーンセーバのビットマップを有効または無効にします。ビットマップの設定方法の詳細は、[97 ページの「スクリーンセーバ」](#)を参照してください。
 - b. OK を押して直前のダイアログボックスに戻ります。
5. OK を押して終了し、Terminal Settings に戻ります。

画面上のカーソルの有効 / 無効

ターミナルでは、画面上のカーソルを有効または無効にすることができます。

1. Terminal Settings → Display → Cursor の順に押します。



2. Enable Cursor を押して、カーソルを有効または無効にします。
3. OK を押して終了し、Terminal Settings に戻ります。

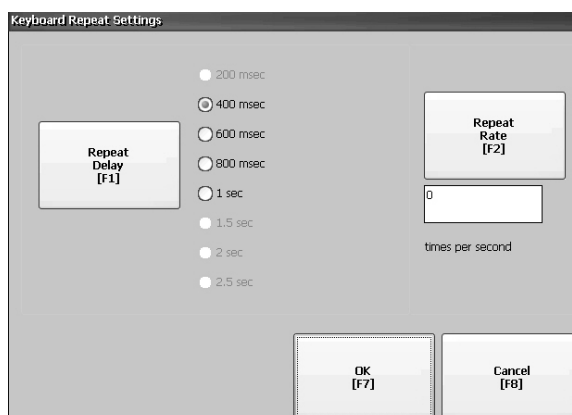
入力機器の設定

キーボード、接続されたキーボード、マウス、タッチスクリーン、文字列入力のポップアップなど、ターミナルで 사용되는入力機器の設定を調整できます。

キーボードまたはキーパッド設定の構成

接続されたキーボードまたはターミナルのキーパッド上のキーに関する設定を調整できます。

1. Terminal Settings → Input Devices → Keyboard/Keypad の順に押します。



2. Repeat Rate を押して、1つのキーを押し続けたときにキーが再入力される回数(1秒あたり)を指定します。
キーパッドの場合、有効な値は0および2～30です。キーボードの場合は装置に依存しますが、標準値は同じです。
3. Repeat Delay を押して、キーが再入力されるまでの待ち時間(1秒あたり)を選択します。
値はデバイスによって異なります。サポートされていない値は灰色表示されます。
4. 完了したら OK を押します。

マウスの感度の設定

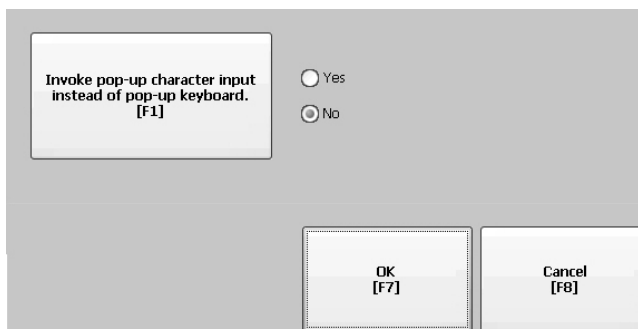
マウスをダブルクリックする間の速度と物理的距離の両方について感度を設定およびテストすることができます。このプロセスはタッチスクリーンのダブルタップの感度を設定する場合と同じです。[71 ページ](#)を参照してください。

マウスの感度を設定するには、Terminal Settings → Input Devices → Mouse の順に押します。

文字列入力用のポップアップの変更

データ入力用の標準の入力パネルを使用するか、文字列のポップアップを使用するかを指定できます。デフォルトは、ポップアップ形式キーボードです。

1. Terminal Settings → Input Devices → String Popup の順に押します。



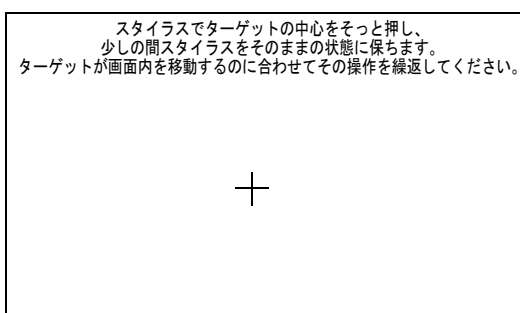
2. Invoke pop-up character input instead of popup keyboard を押して、文字列入力で優先される入力方式を選択します。
3. OK を押します。

タッチスクリーンのキャリブレーション

以下の手順に従って、タッチスクリーンをキャリブレーションしてください。

重要 タッチスクリーンが損傷することがないように、最小先端半径が 1.3mm (0.051 インチ) のプラスチック製スタイラスデバイスを使用してください。

1. Terminal Settings → Input Devices → Touch Screen → Calibration の順に押します。



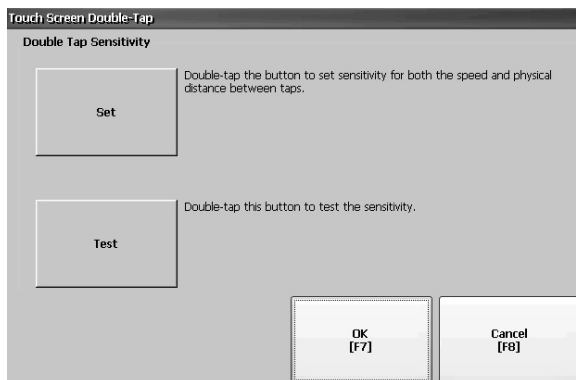
2. 画面上の手順に従います。
キャリブレーションが完了すると、新規のキャリブレーション設定が計測されたことを示すメッセージが表示されます。

タッチスクリーンのみ のターミナル	<ul style="list-style-type: none"> • 保存されたデータを登録するには画面を押す。 • 保存されたデータをキャンセルし現行の設定を保持するには30秒間待つ。
キーパッドおよびタッチス クリーン付きターミナル	<ul style="list-style-type: none"> • 新しい設定を受入れるには[Enter]キーを押す。 • 古い設定を保持するには[Esc]キーを押す。

タッチスクリーンのダブルタップの感度の設定

タッチスクリーンをダブルタップする間の速度と物理的距離の両方について感度を設定およびテストすることができます。このプロセスはマウスのダブルクリックの感度を設定する場合と同じです。

1. Terminal Settings → Input Devices → Touch Screen → Double Tap Sensitivity の順に押します。



2. Set をダブルタップして、タッチスクリーンのタップの感度を設定します。
3. Test をダブルタップして、タッチスクリーンのタップの感度をテストします。
Test ボタンの文字表示色と背景色が反転します。
4. 完了したら OK を押します。

印刷オプションの構成

ディスプレイ、アラームメッセージ、または FactoryTalk View ME Station アプリケーションからの診断メッセージを印刷するための設定を構成できます。ディスプレイとメッセージの印刷設定は同じですが、詳細設定は異なります。

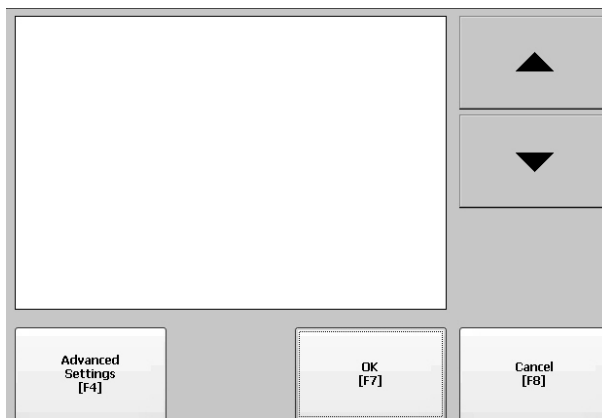
PanelView Plus 6 ターミナルは、出荷時点で、キヤノン社、エプソン社、ヒューレットパカード社、およびブラザー社のプリンタから成る幅広い製品の選択肢に対応しています。プリンタのインストールの際は、既知のプリンタが適切なドライバに自動的にマッピングされるまで USB プラグ プレイ機能が試されます。この印刷ソリューションでは、アプリケーションおよびユーザが、プリンタの基本的な詳細情報を認識することなくプリンタを選択・管理・共有することができます。自動的に適切なドライバに対応するように構成されないプリンタは手動でインストールできます。

以下の手順に従って、印刷設定にアクセスしてください。

1. Terminal Settings → Print Setup を順に押してから、以下のオプションを選択します。
 - Alarm Print Setup
 - Diagnostic Setup
 - Display Print Setup

Print Setup では、FactoryTalk View Machine Edition アプリケーションで利用可能なインストール済みのプリンタが表示されます。

出荷時にターミナルにはプリンタが事前に構成されていないため、最初はダイアログボックスに何も表示されません。このダイアログボックスの外観は、インストールするプリンタによって異なります。



2. インストール済みのプリンタを選択します。

ヒント 選択するプリンタは、コントロールパネルの Printers アプリレットにリスト表示されています。

サポートされているプリンタのリストについては、ナレッジベース (<http://www.rockwellautomation.com/knowledgebase>) にアクセスして、ID 111636 を検索してください。

プリンタの自動インストール試行の失敗は、システム・イベント・ログに報告されます。

自動的にインストールされないプリンタは、Windows Explorer のコントロールパネルを使用して手動でインストールできます。

3. Advanced を押して、追加の設定にアクセスします。
- ディスプレイの詳細設定は以下の通りです。
 - Print orientation (portrait または landscape)
 - Draft mode (enable または disable)
 - Color (yes または no)
 - 診断メッセージとアラームメッセージの印刷の詳細設定では、ネットワークまたは USB ポートに送られたメッセージをいつ印刷するかを決定します。

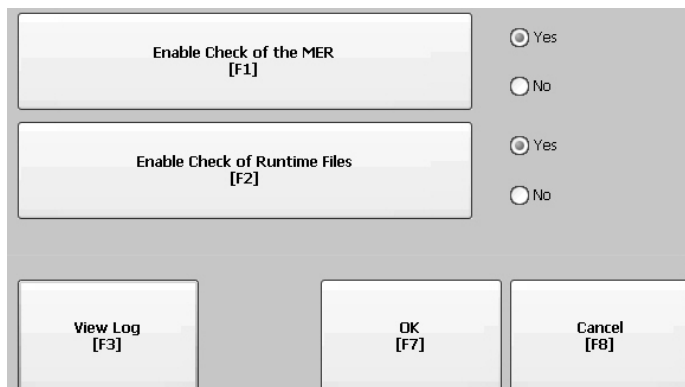
Print Messages After	デフォルト値	例
Specified number of messages	60件のメッセージ	キューに60件のメッセージが入っている場合、それらのメッセージは、キュー内に格納されていた時間に関わらず印刷される。 このメッセージ件数は変更できる。
500 messages or timeout period, whichever is first	168時間 (7日)	168時間経過後にキューに350件のメッセージが入っている場合は、それらの350件のメッセージが印刷される。 このタイムアウト期間は変更できる。
Specified number of messages or timeout period, whichever is first.	60メッセージ 168時間(7日)	24時間経過後にキューに60件のメッセージが入っている場合は、それらの60件のメッセージが印刷される。 このメッセージ件数とタイムアウト期間は変更できる。 例えば、メッセージの件数が75に、タイムアウト期間が48時間に設定されているとする。 <ul style="list-style-type: none"> • 24時間経過後にキューに75件のメッセージが入っている場合は、設定された48時間のタイムアウト以前にそれらの75件のメッセージが印刷される。 • 48時間経過後にキューに15件のメッセージが入っている場合は、設定されたそのタイムアウト期間後にそれらの15件のメッセージが印刷される。

4. 完了したら OK を押します。
5. OK を押して Terminal Settings に戻ります。

アプリケーションファイルの整合性チェック

ターミナルにロードされている FactoryTalk View ME Station アプリケーションとランタイムファイルの整合性チェックを定期的に行なってください。これらのファイルで生成されたエラー、警告、および情報メッセージはすべて、1つのファイルに記録されます。このログを定期的に表示して、すべての項目をログから消去することができます。

1. Terminal Settings → File Integrity Check の順に押します。



2. 以下のいずれかの Enable オプションを押して、ファイルの整合性チェックを有効または無効にします。

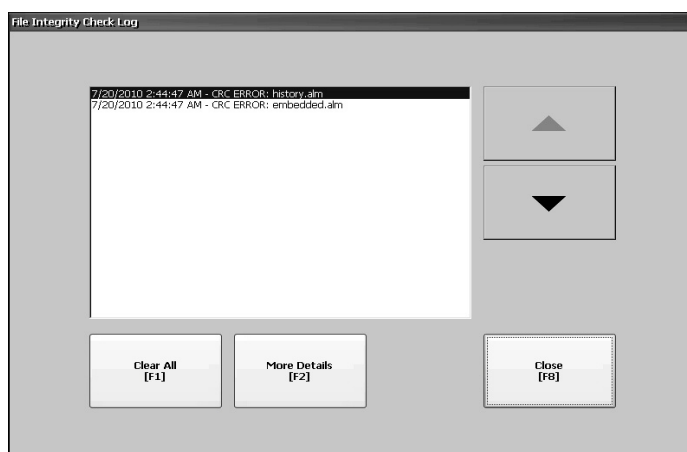
- Enable Check of the MER
- Enable Check of the Runtime Files

デフォルトで、アプリケーションの .mer ファイルとランタイムファイルに対して整合性チェックが自動的に実行されます。上記のいずれかの機能を無効にした場合は、それらのファイルに対してチェックは行なわれず、ログファイルも更新されません。

3. OK を押して変更を保存します。

以下の手順に従って、ファイルの整合性チェックログを表示してください。

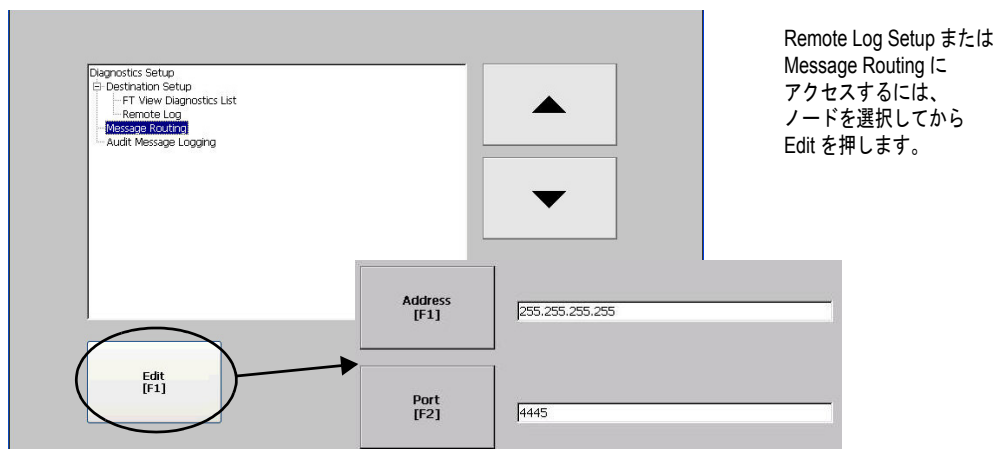
1. File Integrity Check ダイアログボックスの View Log を押します。



2. イベントを選択し、More Details を押して、特定のファイル・チェック・イベントの詳細を表示します。
3. Clear All を押して、ログからすべての詳細情報を消去します。
4. Close を押して直前のダイアログボックスに戻ります。

診断の構成

ターゲットコンピュータについて診断を構成できます。診断にアクセスするには、構成モードのダイアログボックスの **Terminal Settings** → **Diagnostic Setup** の順に押します。診断ノードがツリー表示されます。



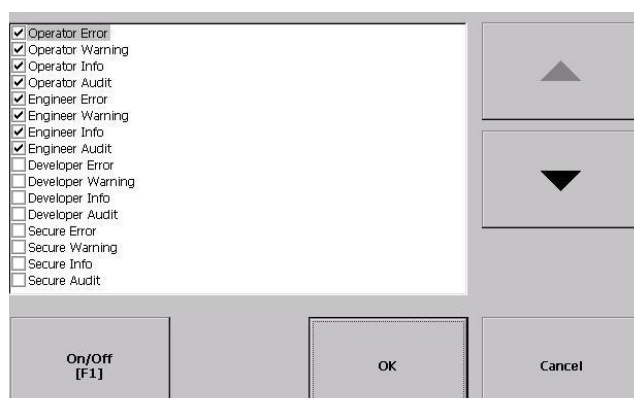
Remote Log Destination では、受信したメッセージを、診断を実行中の Windows コンピュータへ転送します。転送先の場所は IP アドレスとポート番号によって決まります。

フィールド	説明	有効値
Address	リモート Windows コンピュータのアドレス	XXX.XXX.XXX.XXX
Port	リモート Windows コンピュータとの通信に使用されるポート	4445 (デフォルト)

Message Routing ダイアログボックスでは、以下のダイアログボックスにアクセスできます。

- Remote Log
- FactoryTalk View Diagnostics List

それぞれのダイアログボックスには、当該転送先に送信可能なメッセージのリストが表示されます。このリストには各メッセージタイプのステータスが表示されます。**On/Off** を押すと、メッセージタイプをオン/オフにすることができます。チェックボックスがオンになっているメッセージタイプは有効になっています。

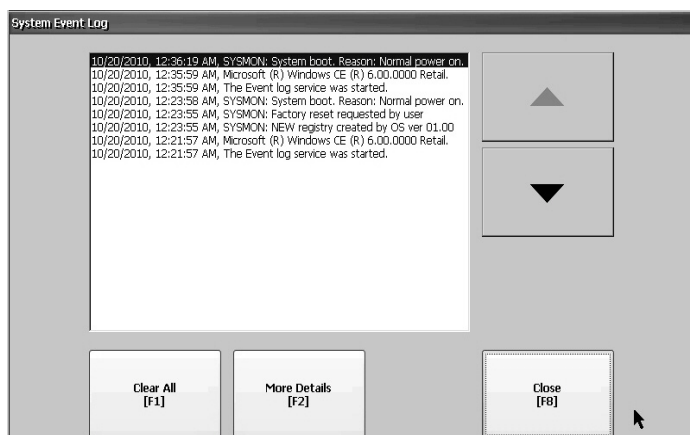


Audit Message Logging ダイアログボックスで **Edit** を押すと、メッセージを **Audit** または **Information** としてログに記録することができます。

システム・イベント・ログの表示と消去

System Event Log ダイアログボックスには、ターミナルでログに記録された警告、エラー、およびイベントが表示されます。このログは、各イベントの発生日時を示すタイムスタンプとイベントについての説明テキストを提供します。新たにイベントが発生したときにイベントログが満杯の場合は、その新規イベント用のスペースを確保するために最も古いエントリ項目が削除されます。

1. Terminal Settings → System Event Log の順に押します。



2. イベントを選択し、More Details を押して、そのイベントのログ詳細を表示します。
3. Clear All を押して、すべてのシステム・イベント・ログを消去します。
4. Close を押します。

システム情報

ターミナル情報と、ターミナルにインストールされているソフトウェアのファームウェアリビジョン情報を表示できます。これらの情報はトラブルシューティングを行なうときに役立ちます。

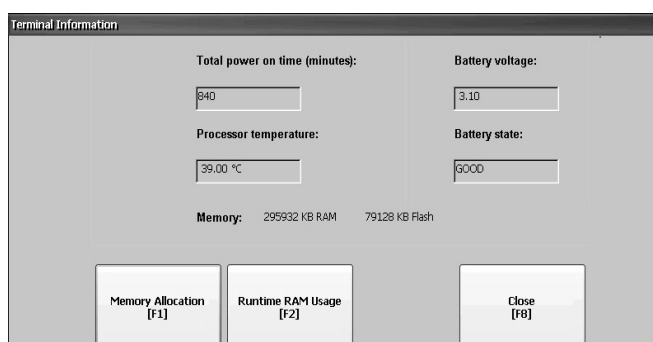
ターミナル情報の表示

ターミナルについて、以下の読取り専用情報が提供されます。

- 総稼働時間 (分)
- プロセッサの温度 (700 ~ 1500 ターミナルのみ)
- バッテリー電圧およびバッテリーの状態
- ターミナルに割当てられ使用されたメモリ
- 実行時に使用された RAM メモリ

以下の手順に従って、ターミナル情報を表示してください。

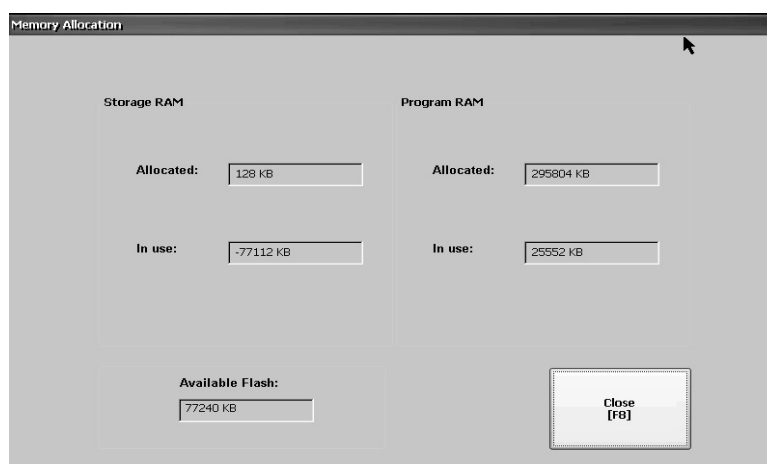
1. Terminal Settings → System Information → Terminal Information の順に押します。



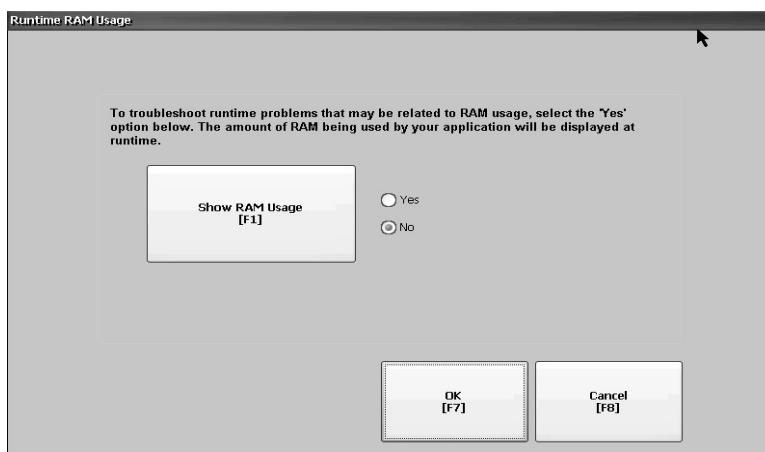
- CPU 温度は 95°C(203°F) 未満でなければならない。
- バッテリ電圧は DC2.75V 以上でなければならない。

バッテリーの状態	説明
GOOD	適正なバッテリーの状態
Failing	バッテリー電力低下。バッテリーを交換する。
Bad	バッテリーが検出されないか、不良状態である。バッテリーを交換する

2. Memory Allocation を押して、以下の情報を表示します。
 - 割当てられたストレージメモリまたはプログラムメモリの量
 - 使用中のストレージメモリまたはプログラムメモリの量
 - 使用可能な不揮発性メモリの量



3. Close を押して直前のダイアログボックスに戻ります。
4. Runtime RAM Usage を押して、実行時にアプリケーションで使用された RAM の量を表示することでランタイムの異常に対するトラブルシューティングを実行します。

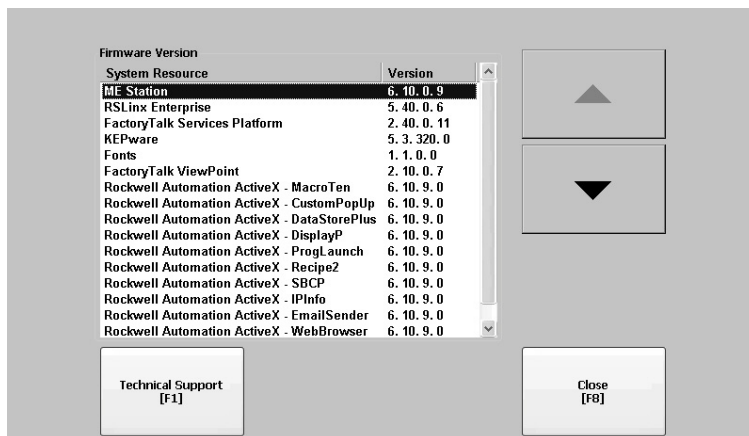


5. OK を押して直前のダイアログボックスに戻ります。
6. Terminal Settings に戻るまで Close を押します。

FactoryTalk View ME Station 情報の表示

ターミナルにインストールされているシステムコンポーネントのファームウェアおよびバージョン情報と技術サポート情報を表示できます。

1. Terminal Settings → System Information → About FactoryTalk View ME Station の順に押します。

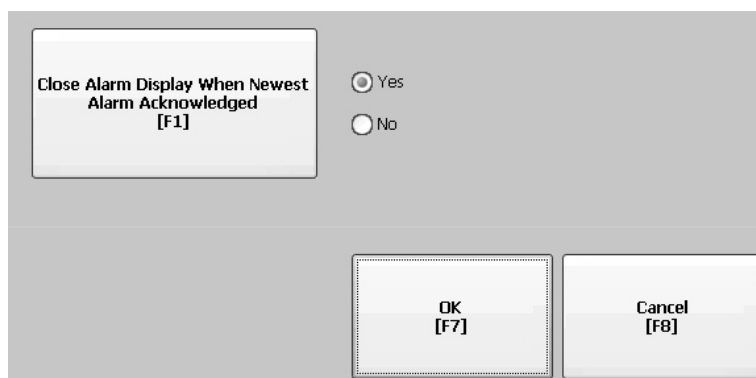


2. Technical Support を押して、ターミナルのサポート用の電話番号と Web サイトを表示します。
3. Terminal Settings に戻るまで Close を押します。

アラームディスプレイの有効 / 無効

ターミナルで新規のアラームが発生するたびに、そのアラームがアラームディスプレイまたはバナーに表示されます。最新のアラームがオペレータによって確認されたときは、アラームディスプレイを閉じるか、そのまま開いておくかを選択できます。デフォルトでは、アラームディスプレイが閉じられます。

1. Terminal Settings → Alarms の順に押します。



2. Yes または No を押します。
 - デフォルトオプションである Yes を選択すると、オペレータが最新のアラームを確認するたびにアラームディスプレイが閉じます。
 - No を選択すると、オペレータが最新のアラームを確認した後もアラームディスプレイは開いたままになります。
3. OK を押します。

時刻と日付の設定

ターミナルの操作の日付、時刻、タイムゾーン、および地域に関する設定を変更できます。

ターミナルの操作の日付の変更

以下の手順に従って、ターミナルの操作の日付を調整してください。

1. Terminal Settings → Time/Date/Regional Settings → Date の順に押します。

現在の日付が Year、Month、および Day フィールドに表示されます。

2. Year、Month、および Day を押して値を変更します。

フィールド	説明	有効値
Year	4桁形式の現在の年	1980~2099
Month	現在の月	1~12
Day	現在の日。月の特定の日が有効とされる。	0~31

3. 完了したら OK を押します。

ターミナルの操作の時刻の変更

以下の手順に従って、ターミナルの操作の時刻を調整してください。

1. Terminal Settings → Time/Date/Regional Settings → Time の順に押します。

現在の時刻が Hour、Minute、および Second フィールドに分かれて24時間形式で表示されます。

2. Hour、Minute、および Seconds を押して値を変更します。

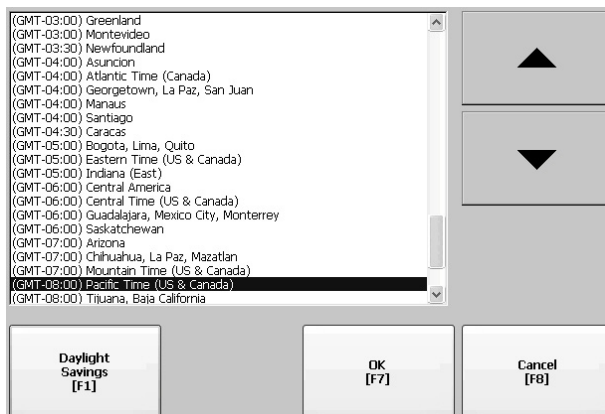
フィールド	説明	有効値
Hour	24時間形式の現在の時間	0~23
Minute	24時間形式の現在の分	0~59
Seconds	24時間形式の現在の秒	0~59

3. 完了したら OK を押します。

ターミナルの操作のタイムゾーンの変更

ターミナルにインストールされている現在のタイムゾーンを表示または変更できます。タイムゾーンは、オペレーティングシステムの一部としてインストールされます。タイムゾーンを変更して、新しいタイムゾーンに一致するように現在の時刻と日付を調整することができます。

1. Terminal Settings → Time/Date/Regional Settings → Time Zone の順に押します。



2. 上/下カーソルを押してタイムゾーンを選択します。

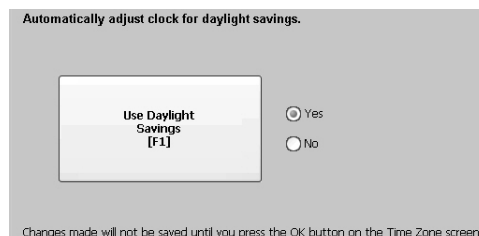
言語	デフォルトのタイムゾーン
English	(GMT -05:00) Eastern Time (US and Canada)
French	(GMT +01:00) Brussels, Copenhagen, Madrid, Paris
German	(GMT +01:00) Amsterdam, Berlin, Bern, Rome, Stockholm, Vienna
Japanese	(GMT +09:00) Osaka, Sapporo, Tokyo

選択したタイムゾーンで夏時間がサポートされている場合は、Daylight Savings を押すことができます。

3. 選択したタイムゾーンの夏時間を有効または無効にするには、Daylight Savings を押します。

夏時間がサポートされていない日本を除くすべてのタイムゾーンでは、Daylight Savings が Yes に設定されています。夏時間の変更は、Time Zone ダイアログボックスを閉じるまでは永続的に適用されません。

4. Use Daylight Savings を押して Yes または No を選択します。



5. 完了したら Close を押します。

6. OK を押して直前のダイアログボックスに戻ります。

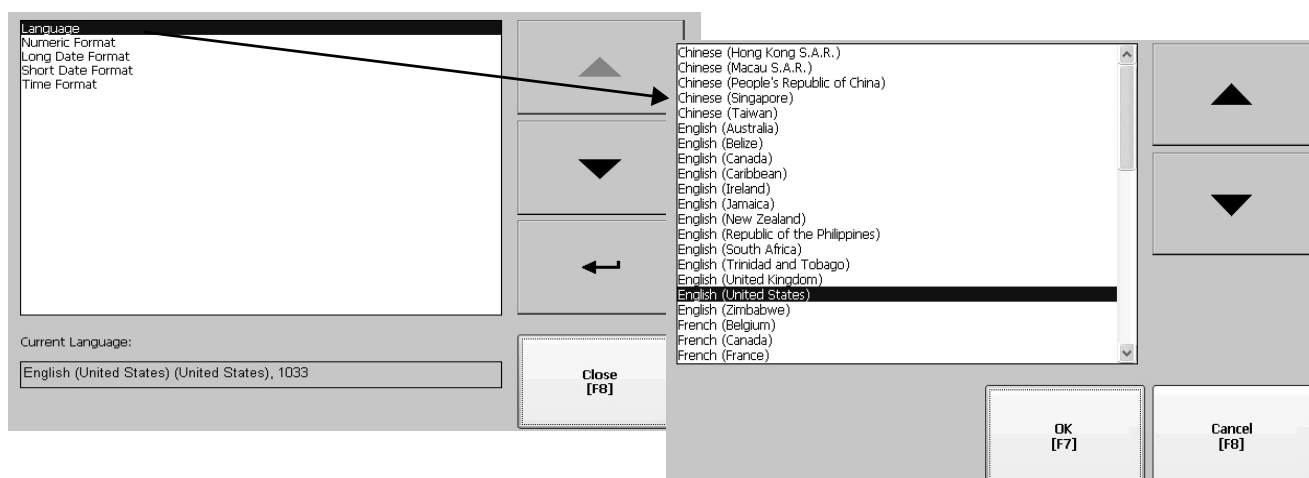
地域の設定

日付、時刻、数値の形式など、ターミナルにインストールされている特定の言語の地域の設定を調整できます。地域の設定にアクセスするには、Terminal Settings → Time/Date/Regional Settings → Regional Settings の順に押します。現在の言語が Regional Settings ダイアログボックスの下部に表示されます。

言語の選択

言語の地域の設定を変更する前に、ターミナルにインストールされている言語を選択する必要があります。言語は、オペレーティングシステムの一部としてインストールされます。

1. Terminal Settings → Time/Date/Regional Settings → Regional Settings → Language の順に押します。

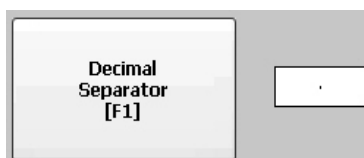


2. 上 / 下カーソルキーを使って言語を選択します。
3. OK を押します。
選択した言語が Regional Settings ダイアログの Current Language の下に表示されます。

数値形式の小数点の記号の変更

現在の言語の数値で使用されている小数点の記号を変更できます。デフォルトの小数点の記号はピリオドです。

1. Terminal Settings → Time/Date/Regional Settings → Regional Settings → Numeric Format の順に押します。

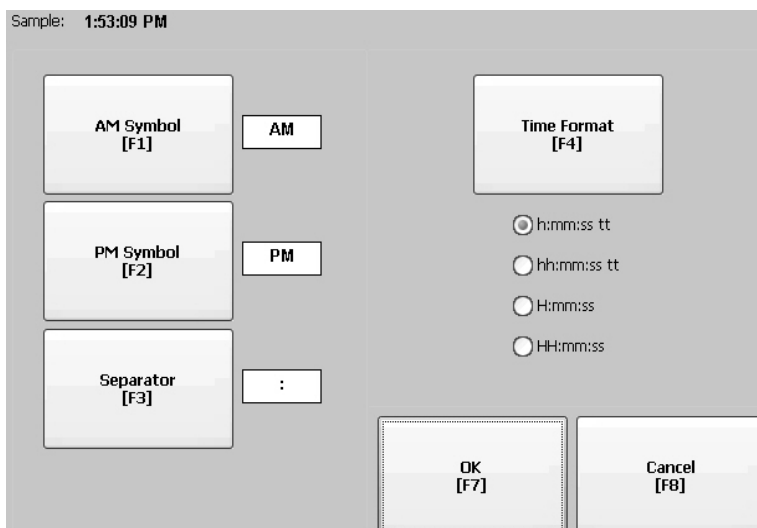


2. 新しい小数点の記号 (最大 3 文字) を入力し、OK を押します。

言語の時刻形式の変更

以下の手順に従って、選択した言語の時刻形式を変更してください。

1. Terminal Settings → Time/Date/Regional Settings → Regional Settings → Time Format の順に押します。



現在の時刻が、現在選択されている形式で表示されます。

2. 適切な選択肢を押して形式を調整します。

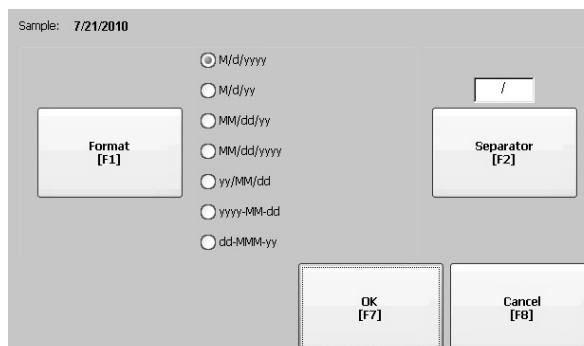
フィールド	説明	例
Time Format	h:mm:ss tt (デフォルト) h = 時間、先頭のゼロなし tt = AMまたはPM記号	7:23:02 AMまたは1:13:31 PM 11:43:59 AM
	hh:mm:ss tt hh = 時間、先頭のゼロあり tt = AMまたはPM記号	07:23:02 AMまたは01:13:31 PM 11:43:59 PM
	H:mm:ss H = 24時間形式の時間、先頭のゼロなし	7:03:42または1:13:32 23:43:59
	HH:mm:ss HH = 24時間形式の時間、先頭のゼロあり	07:03:42または01:13:22 23:43:59
AM Symbol	AM(午前)を示すための文字。時刻形式がh:mm:ss ttまたはhh:mm:ss ttに設定されている場合は、AM記号を変更できる。	AM (デフォルト) 最大12文字
PM Symbol	PM(午後)を示すための文字。時刻形式がh:mm:ss ttまたはhh:mm:ss ttに設定されている場合は、PM記号を変更できる。	PM (デフォルト) 最大12文字
Separator	時刻形式のフィールドの区切り文字	: (デフォルト) 最大3文字

3. OK を押します。

言語の短い日付形式の変更

以下の手順に従って、選択した言語の短い日付形式を変更してください。

1. Terminal Settings → Time/Date/Regional Settings → Regional Settings → Short Date Format の順に押します。



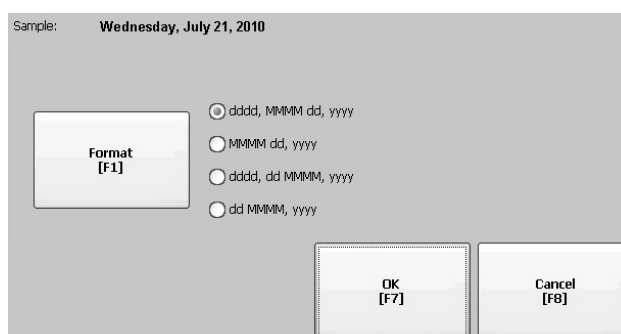
Sample 領域に、選択されている形式で現在の日付が表示されます。

2. Format を押して、使用可能な形式を選択します。
選択に伴い Sample エリアの日付が更新されます。
3. Separator を押して、日付要素の区切り文字を変更します。
区切り文字は3文字の場合があります。デフォルトの区切り文字は-または/です。
4. 完了したら OK を押します。

言語の長い日付形式の変更

以下の手順に従って、選択した言語の長い日付形式を変更してください。

1. Terminal Settings → Time/Date/Regional Settings → Regional Settings → Long Date Format の順に押します。



Sample 領域に、選択されている形式で現在の日付が表示されます。

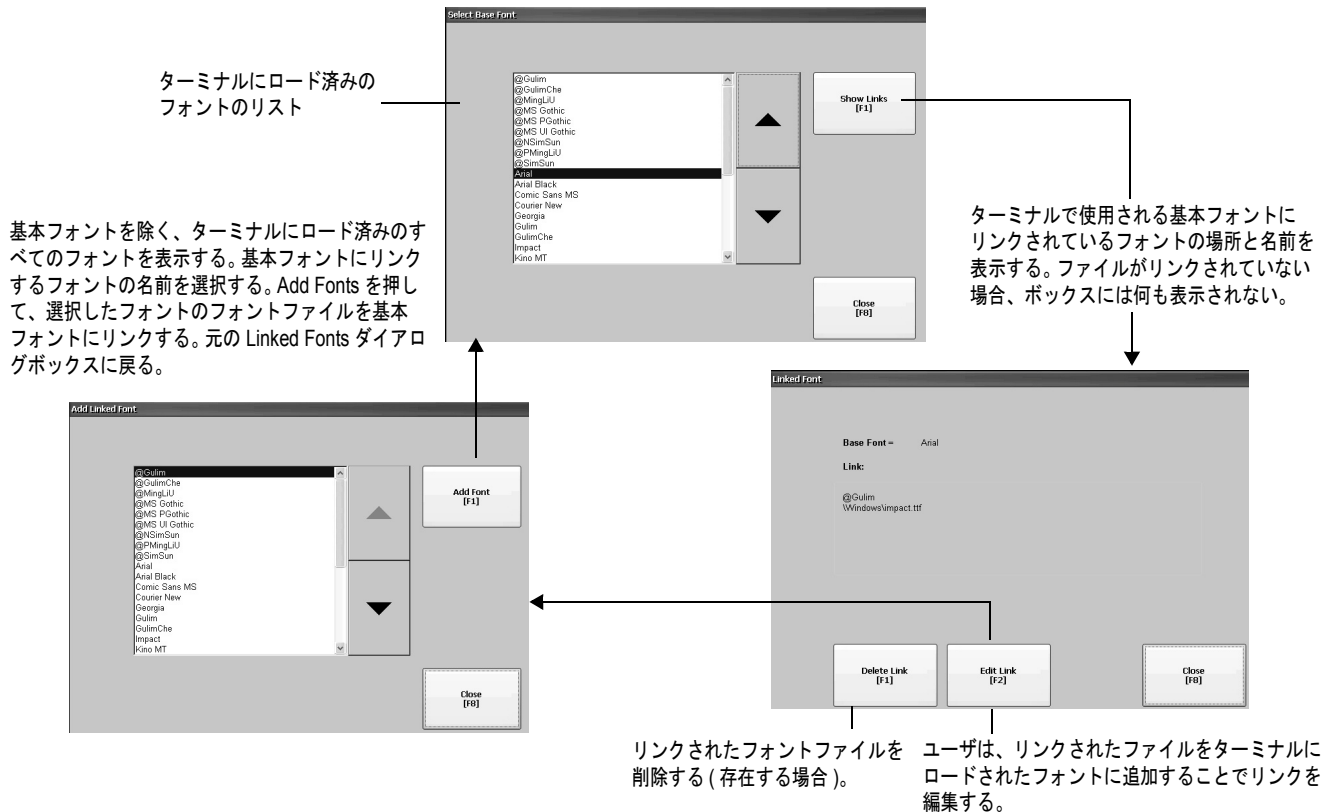
2. Format を押して、使用可能な形式を選択します。
選択に伴い Sample エリアの日付が更新されます。
3. 完了したら OK を押します。

フォントのリンク

フォントのリンクを使うと、フォントファイルを基本フォントにリンクする(中国語フォントファイルを基本フォントの Arial にリンクするなど)ことで、ターミナルで変換されたアプリケーションを実行できます。

事前にインストールされているターミナル用フォントとダウンロード可能な追加のフォントの詳細は、[177 ページの「ターミナルの常駐フォント」](#)を参照してください。

この機能にアクセスするには Terminal Settings → Font Linking の順に押します。



Windows CE オペレーティングシステム

項目	参照ページ
Windows CE 6.0の標準機能	85
拡張機能付きのWindows CE 6.0	87
タスクバーおよびWindows Explorer	88
Windowsのコントロールパネル	89
Backup and Restore (バックアップおよび復元)	90
Hardware Monitor (ハードウェアモニタ)	93
Keypad Properties (キーボードプロパティ)	95
Touch Properties (タッチプロパティ)	95
Display Properties (ディスプレイプロパティ)	96
Logo Manager (ロゴマネージャ)	98
System Information (システム情報)	99
User Accounts (ユーザアカウント)	99
Services (サービス)	103
Network Server Configuration(ネットワークサーバ構成)	104
Printer Support (プリンタのサポート)	113
PDF Reader (PDFリーダー)	116

Windows CE 6.0 の標準機能

ターミナルは、以下のシェルおよびユーザインターフェイス機能を備えている Windows CE 6.0 オペレーティングシステム (OS) を実行します。

- コマンドシェル
- コマンドプロセッサ
- コンソールウィンドウ
- Windows Explorer シェル
- マウスとタッチスクリーンのサポート
- 共通ダイアログボックス
- コントロールパネル
- ネットワーク・ユーザ・インターフェイス
- ソフトキーボード入力パネル
- PDF リーダ

- VNC サーバ/クライアントビューワ

このプラットフォームでは、2つの VNC クライアントビューワが配布されます。

- Windows CE ターミナル (PanelView Plus 6) の接続、表示、制御用に、ターミナルの \Windows フォルダにある Vncviewer.exe を PC に導入できます。
- 2 台の PanelView Plus 6 ターミナル間で VNC コネクションを確立するために、もう 1 つのビューワをターミナルで利用できます。この VNC クライアントにアクセスするには、Start → Programs → VNC Viewer の順番に選択します。

ヒント Windows Explorer シェルは右クリック機能をサポートしています。タッチスクリーンを 1 秒以上タップしたままにすると、右クリック機能を実行できます。

アプリケーションのサポート

Windows CE 6.0 オペレーティングシステムは、OS とソフトウェア開発キット (SDK) の両方で以下のアプリケーションをサポートしています。

- .Net Compact Framework (Ver. 3.5 以降)
- C++ ライブラリおよびランタイム
- DCOM/COM/OLE コンポーネントサービス
- メッセージキューイング用 MSMQ
- MSXML (Ver. 3.0 以降)
- デバイス用 MFC (Ver. 8.0 以降)
- ATL
- ActiveSync
- CAB ファイルインストーラ/アンインストーラ
- Toolhelp API
- エラーレポート (ジェネレータ、転送ドライバ、コントロールパネル)

スクリプトのサポート

Windows CE 6.0 オペレーティングシステムは以下のスクリプト機能をサポートしています。

- バッチ/コマンド (BAT ファイルと CMD ファイル)
- JScript
- VBScript
- CSScript

ネットワークのサポート

Windows CE 6.0 オペレーティングシステムは以下のネットワーク機能をサポートしています。

- Winsock のサポート
- ネットワークユーティリティ - ipconfig、ping、route
- ネットワーク・ドライバ・アーキテクチャ (NDIS)
- Windows ネットワーキング API/リダイレクタ
- ワイヤード・ローカル・エリア・ネットワーク、802.3、802.5

サーバのサポート

以下の表に、Windows CE 6.0 オペレーティングシステムでサポートされているサーバのリストを示します。




表 47 – Windows CE 6.0 でのサーバのサポート

サーバ	デフォルトの状態	説明
Webサーバ	有効	Webサーバは、Web上でHTTPプロトコルを使用して、Webページなどのコンテンツを配信する。
FTPサーバ	有効	ファイル転送プロトコル(FTP)は、インターネット(TCP/IPベースのネットワーク)上でファイルを交換するための標準のネットワークプロトコル
UPnPサーバ	有効	Universal Plug and Play(UPnP)は、機器の取付け後にネットワークへのシームレスな接続を可能にするネットワーキングプロトコルのセット
ファイルサーバ	有効	ネットワーク上のコンピュータ間でファイル、プリンタ、シリアルポート、および各種通信への共有アクセスを可能にするネットワークプロトコル
VNCサーバ	無効	Virtual Network Computing (VNC)は、別のコンピュータを遠隔操作で制御するために使用されるグラフィカルデスクトップ共有システムであり、キーボード/マウスのイベントをネットワーク上のコンピュータ間で送信する。
ViewPointサーバ	有効	PanelView Plus 6 - 700~1500ターミナルでサポート。 ターミナルで実行中のFactoryTalk View Machine Edition HMIアプリケーションへの、Webブラウザを介したリモート・ユーザ・アクセスを可能にするWebサーバベースのアプリケーション。ViewPointソフトウェアはロックウエル・オートメーションの製品。
	無効	PanelView Plus 6 - 400および600ターミナルではサポートされていない。

拡張機能付きのWindows CE 6.0

拡張機能付きターミナルおよびロジックモジュール (Cat.No. 2711Pxxxx9 および 2711PRP9x) は、追加のオペレーティング・システム・コンポーネントを提供します。

表 48 – 拡張機能付きのオペレーティングシステム

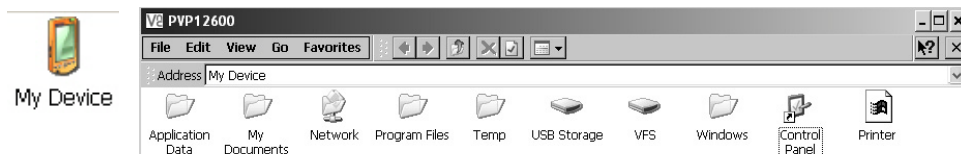
アイコン	ソフトウェア	アイコン	ソフトウェア
	Microsoft Internet Explorer 6WebブラウザとSilverlight 2		Microsoft Office 2003 PowerPointファイルビューワ
	Adobe Flash Lite 3.1 Internet Explorer 6用のActiveXプラグイン		Microsoft Office 2003 Wordファイルビューワ
	Microsoft Remote Desktop Connection ⁽¹⁾		Microsoft Office 2003 Excelファイルビューワ
	Windows Media Player 6.4および7.0 OCX		Westtek JETCET PDFビューワ
	Microsoft WordPadテキストエディタ		

(1) 現時点では、拡張機能付き PanelView Plus 6 - 600 ターミナルは、リモートデスクトップ接続をサポートしていません。

Windows Explorer

デスクトップから Windows Explorer にアクセスするには、複数の方法があります。

- デスクトップで My Device アイコンを開く。
- Start → Settings → Control Panel の順番に選択する。

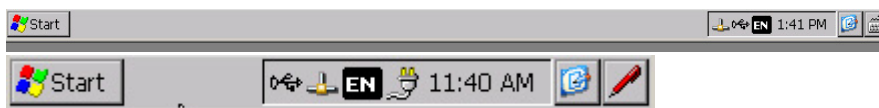


標準のシステムフォルダだけではなく、いくつかのフォルダに、PanelView Plus 6 ターミナルに固有の項目が格納されています。

フォルダ	コンテンツ
Application Data	FactoryTalk View Machine Edition アプリケーションファイルが格納される。 パス: \Application Data\Rockwell Software\RSViewME
VFS (仮想ファイルシステム)	ファームウェアファイル、および現在のシステムイメージのバックアップ/復元ファイルが格納される。 パス: \VFS\Platform Firmware

タスクバー

タスクバーには、Start メニュー、ターミナルの IP 情報、現在の言語と時刻、入力パネル、および開いているプログラムにアクセスするためのアイコンがあります。



タスクバーの表示 / 非表示を切り替えるには、Start → Settings → Taskbar and Start Menu の順番に選択し、Auto Hide チェックボックスをオン / オフにします。

ヒント タッチスクリーンターミナルでは、ディスプレイの最下部をタッチすると、Auto Hide モードのタスクバーが元の位置に表示されます。

入力パネル



データの入力には、異なるソフトキーボードまたは入力パネルを使用できます。これらの入力パネルにはタスクバーからアクセスできます。

- キーボードと拡大キーボード
- CHT Chajei (中国語)
- CHT Phonetic (中国語)
- MS Kana (日本語)
- MS Roma (日本語)
- No IM - 入力方法の選択なし (デフォルト)

ヒント No IM オプションを選択すると、タスクバーの入力パネルを非表示にできます。

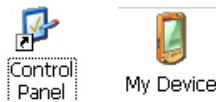
ヒント PanelView Plus 6 - 700 ~ 1500 ターミナルでは、コントロールパネルから入力パネルにアクセスすることもできます。

Windows のコントロールパネル

Windows のコントロールパネルは、ターミナル構成用のデスクトップインターフェイスです。ネットワーク構成、スクリーンセーバの構成、タッチスクリーンのキャリブレーションなど、システム全体およびターミナルのプロパティを設定することができます。

表 49 に、コントロールパネルのアプレットのリストを示します。アプレットの言語は、オペレーティングシステムで設定された言語に基づいています。デフォルト値は English (英語) です。

ヒント 大部分のターミナル設定は、FactoryTalk View ME Station で利用できます。



コントロールパネルにアクセスするには、複数の方法があります。

- Start → Settings → Control Panel の順番に選択する。
- デスクトップで My Device を開いてから、Control Panel を開く。

ヒント 400/600 ターミナルのコントロール・パネル・ダイアログには、表示用のスクロールバーがあります。

表 49 – ターミナルでのコントロール・パネル・アプレットの使用可能

名称	400/600	700~1500	説明
Accessibility	-	•	視覚、聴覚、運動性に関するターミナルの設定を調整する。
Backup & Restore	•	•	HMIターミナルイメージのバックアップおよび復元を実行する。
Certificates	-	•	信頼できるセキュリティ保護された通信の確立のためのデジタル証明書を管理する。
Date and Time	_(2)	•	時刻、日付、およびタイムゾーンを設定する。
Dialing	-	•	ダイヤルパターンと所在地を設定する。
Display	•	•	デスクトップの壁紙、バックライト、スクリーンセーバ、表示されるカーソル設定を変更する。
Error Reporting	-	•	ソフトウェアのエラーレポートを有効にして構成する。
Hardware Monitor	•	•	電圧と温度情報、およびシステム・イベント・ログを表示する。
Input Panel	-	•	ソフトキーボードを構成する。
Internet Options ⁽¹⁾	•	•	Internet Explorer設定を構成する。
Keyboard	_(2)	•	外付けUSBキーボードを構成する。
Keypad	•	•	ターミナルディスプレイ上のキーパッドを構成する(ある場合)。
Logo Manager	•	•	新しい画像をHMIターミナル上のスプラッシュ画面およびスクリーンセーバにロードして適用する。
Mouse	_(2)	•	USBマウスのダブル・クリック・プロパティを設定する。
Network and Dial-up Connections	•	•	直接通信、ダイヤルアップ通信、VPN通信、およびイーサネット通信を作成して構成する。
Owner	-	•	機器およびリモートネットワーク用にオーナーIDとセキュリティを設定する。
Password	-	•	パスワードを設定し、スタートアップおよびスクリーン・セーバ・モードでパスワード保護を有効にする。
PC Connection	-	•	機器とPC間の接続を選択する。
Printers	•	•	ローカルプリンタおよびネットワークプリンタを追加構成する。
Regional Settings	•	•	ロケールを選択し、数値、時刻、日付、および通貨の形式を設定する。
Remove Programs	•	•	アプリケーションをアンインストールする。
Server Config	•	•	ネットワークサーバの構成: VNC、FTP、Web、File、KEP Server
Services	•	•	サービスとサーバを有効/無効にする。
Storage Manager	-	•	ストレージデバイスに関する情報を報告する。ボリュームのスキャン、パーティショニング、デフラグ、およびマウントを行なう。
System	•	•	一般的なシステム情報を提供する。デバイス名とメモリの割当て/利用率を設定し報告する。
Terminal Server Clients ⁽¹⁾	-	•	ターミナルサーバに接続しているデバイスのターミナル・サーバ・クライアント・アクセス・ライセンスを表示する。
Touch	•	•	タッチスクリーンのプロパティとカーソルを設定し、タッチスクリーンのキャリブレーションを行なう(存在する場合)。
User Accounts	•	•	NTLMセキュリティのユーザアカウントを管理する。
Volume & Sound	-	•	イベント、アプリケーション、およびキークリックの音量とサウンドのプロパティを調整する。

(1) 拡張機能とファイルビューワを備えた PanelView Plus 6 ターミナルに適用されます。

(2) これらのプロパティの設定は、FactoryTalk View ME Station で利用できます。

Backup and Restore (バックアップおよび復元)



Backup & Restore アプリケーションを使うと、HMI ターミナルの現在のシステムイメージをバックアップして、そのイメージを同じターミナルに復元するか、他のターミナルに複製することができます。この機能は、ターミナルイメージをバックアップして、そのイメージを複数のターミナルに複製またはコピーする製造装置メーカを対象にしています。

通常のバックアップには以下のものが含まれます。

- ファイルシステム
- ファームウェアイメージ
- Windows レジストリ

Advanced Network & Display Settings (ネットワークおよびディスプレイの高度な設定) チェックボックスをオンにした場合は、追加のユーザ構成データもバックアップ対象に含まれます。

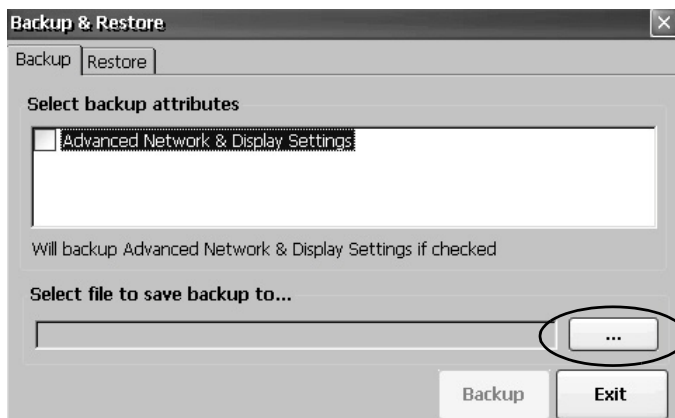
表 50 – ネットワークおよびディスプレイの高度な設定

ネットワークパラメータ	ターミナル固有のパラメータ
Ethernet network	<ul style="list-style-type: none"> • DHCP対応IPアドレスまたは固定IPアドレスおよびサブネットマスクとゲートウェイ • プライマリおよびセカンダリDNS • プライマリおよびセカンダリWNS • 速度および二重設定
USB network	USB IPアドレスとサブネットマスク、ゲートウェイ、DHCP対応IPアドレスまたは固定IPアドレス
Network	デバイス名
Display	<ul style="list-style-type: none"> • ディスプレイの輝度 • スクリーンセーバのディマのタイムアウト

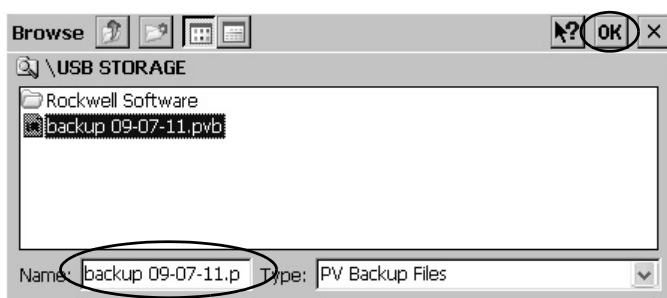
ターミナルイメージを USB フラッシュドライブまたは SD カード上のファイルにバックアップすることができます。

以下の手順に従って、バックアップを行なってください。

1. USB フラッシュドライブまたは SD メモリカードをターミナルの適切なスロットに挿入します。
2. コントロールパネルで、Backup and Restore アイコンをダブルクリックします。
3. Backup タブのブラウズ (...) ボタンをクリックします。



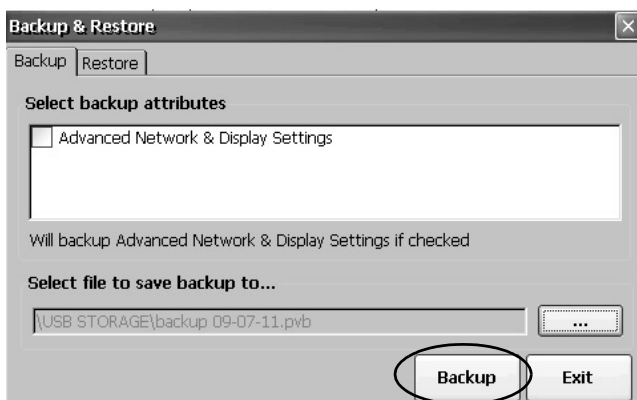
4. バックアップファイルの場所を選択します。
 - USB フラッシュドライブ使用時は USB Storage
 - SD カード使用時は Storage Card2
 - ターミナルにバックアップする場合はターゲットフォルダ
5. バックアップファイルの名前を入力します。バックアップファイルはすべて、.pvb ファイルタイプになります。
6. OK をクリックします。



7. Backup をクリックしてプロセスを開始します。

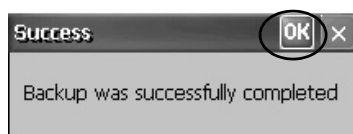
プログレスバーに、バックアップのステータスが表示されます。

バックアップには数分かかることがあります。バックアップが正常に完了すると、通知を受信します。



8. OK をクリックします。

そのファイルがすでに存在する場合は、現在のファイルを上書きするかどうかを確認するメッセージが表示されます。

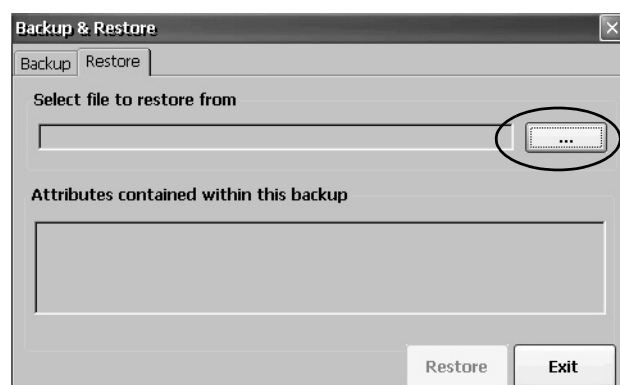


9. Exit をクリックして Backup & Restore ダイアログボックスを閉じます。

ヒント pvb ファイルが正常に作成されたことを確認するには、My Device をダブルクリックしてバックアップの保存場所を選択します。

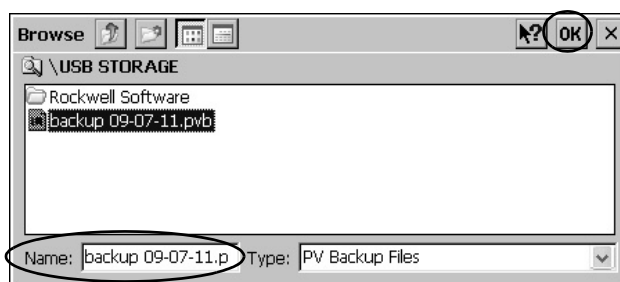
以下の手順に従って、バックアップイメージを USB フラッシュドライブまたは SD カードからターミナルに復元または複製してください。

1. USB フラッシュドライブまたは SD メモリカードをターゲットターミナルの適切なスロットに挿入します。
2. コントロールパネルで、Back & Restore アイコンをダブルクリックします。
3. Restore タブをクリックします。
4. 復元するバックアップファイルを選択するためにブラウズ (...) ボタンをクリックします。



5. バックアップファイルの場所を選択します。
 - USB フラッシュドライブ使用時は USB Storage
 - SD カード使用時は Storage Card2
 - pvb ファイルが格納されているターミナル上のターゲットフォルダ

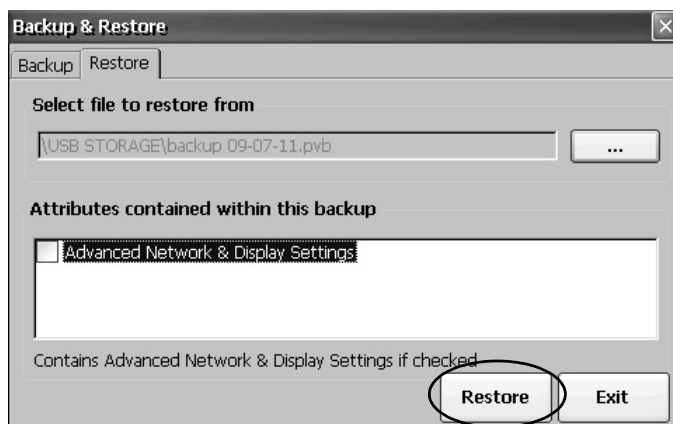
この例では、保存場所として \USB Storage が表示されています。



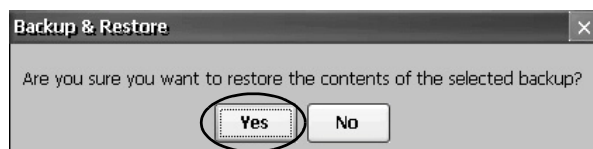
6. 復元する pvb バックアップファイルを選択します。
7. OK をクリックします。

8. Restore をクリックします。

バックアップを実行したときに Advanced Network and Display Settings オプションのチェックボックスがオンになっていた場合は、詳細なネットワークおよびディスプレイ設定が自動的に復元対象に含まれます。



9. Yes をクリックして復元を開始します。



ターミナルで復元プロセスが開始されます。このプロセスには数分かかることがあります。

重要

復元中に USB フラッシュドライブまたは SD カードを取り外したり、ターミナルの電源を接続しないでください。これを行なうと、ファームウェアが破損する恐れがあります。

復元に失敗した場合は、メンテナンスメニューからターミナルをリセットする必要があります。詳細は、[173 ページの「メンテナンス操作へのアクセス」](#)を参照してください。



復元が正常に完了すると、ターミナルが再起動します。

Hardware Monitor (ハードウェアモニタ)



Hardware Monitor

PanelView Hardware Monitor では、実行中のプロセス、システム・イベント・ログの詳細、バッテリー電圧/温度/システムの使用状況 (CPU とメモリの負荷など) のモニタをはじめとする、ターミナルのステータスおよびトラブルシューティング情報を提供します。

プロセス

Hardware Monitor の Processes タブには、PanelView Plus 6 ターミナルで現在実行中のすべてのプロセスと各プロセスのメモリ使用率が表示されます。

ProcessName	ProcessId	Thri	BaseAddr	HeapSize	TotalMem	Committe	Reserved
NK.EXE	00400002	88	80225000	4169328	0	0	0
udevice.exe	01D20002	7	00010000	18400	2269184	1691648	577536
udevice.exe	01EC000A	1	00010000	2464	1814528	1630208	184320
udevice.exe	020F0002	1	00010000	4896	1814528	1630208	184320
udevice.exe	03020006	1	00010000	1536	1814528	1626112	188416
Wt5portm.exe	0592000A	4	00010000	12160	2207744	1847296	360448
servicesd.exe	05F0000A	31	00010000	335088	5398528	2379776	3018752
RSlinxNG.exe	04FB001E	19	00010000	1292800	4907008	3211264	1695744
RSVncHost.exe	05EC00A2	13	00010000	108256	2789376	1900544	888832
udevice.exe	07660006	1	00010000	2560	1949696	1642496	307200
explorer.exe	07490596	6	00010000	51136	2691072	2019328	671744
fselect.exe	065A0696	1	00010000	2048	1818624	1630208	188416
CeVncServer.exe	04F10342	3	00010000	1132752	3252224	2838528	413696
control.exe	077B0092	1	00010000	22688	1818624	1667072	151552

Memory load 3766894592/320880640 [9%]

システム・イベント・ログ

PanelView Hardware Monitor の System Event Log タブには、ターミナルでログに記録された警告、エラー、およびイベントが表示されます。

Type	Date	Time	Category	MsgId	Message
Information	10/20/2011	12:36:19 AM	PVP	16777218	SYSMON: System boot. Reason: Normal
Information	10/20/2011	12:35:59 AM	None	65539	Microsoft (R) Windows CE (R) 6.00.0000
Information	10/20/2011	12:35:59 AM	None	65540	The Event log service was started.
Information	10/20/2011	12:23:58 AM	PVP	16777218	SYSMON: System boot. Reason: Normal
Information	10/20/2011	12:23:55 AM	PVP	16777218	SYSMON: Factory reset requested by
Information	10/20/2011	12:23:55 AM	PVP	16777218	SYSMON: NEW registry created by OS ver
Information	10/20/2011	12:21:57 AM	None	65539	Microsoft (R) Windows CE (R) 6.00.0000
Information	10/20/2011	12:21:57 AM	None	65540	The Event log service was started.

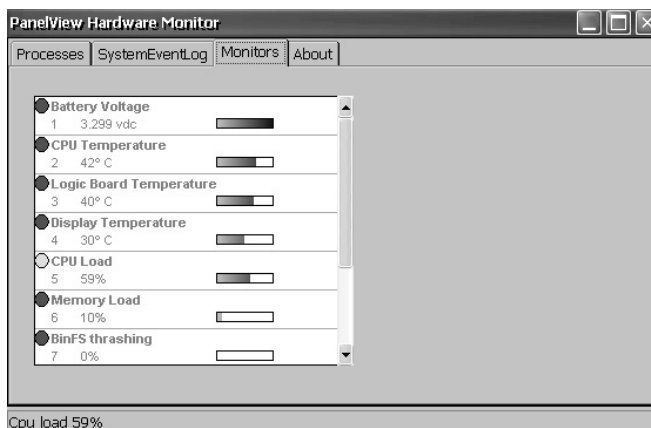
Cpu load 72%

このログは、各イベントの発生日時を示す日付とタイムスタンプおよびイベントについての説明テキストを提供します。このログの最大サイズは 1MB(約 4,000 個のレコード)です。ログが 1MB を超えると、最も古い 512KB 分の情報が削除されます。

- Export Log ボタンをクリックすると、デフォルトのファイル名 SystemLog.csv を使用して、イベント・ログを \Windows フォルダ内の CSV ファイル (*.csv) にエクスポートできます。
- Clear Log ボタンをクリックすると、ログからすべてのイベントを消去できます。
- Details ボタンをクリックすると、選択したイベントの詳細を表示できます。

モニタ

PanelView Hardware Monitor の Monitors タブでは、ターミナルの連続電圧、温度、および負荷情報を提供します。



バッテリー電圧

Monitors タブでは、リアルタイムクロック用のバッテリーのステータスおよび電圧の読取り値がグラフで表示されます。バッテリー電圧は、電源投入時に更新されてから、毎時更新されます。

表 51 – バッテリーの状態

条件	ロジックモジュールのバッテリー
Depleted	2.0V未满是バッテリーの故障またはバッテリー切れを示す。
Low	2.0~2.74V
Normal	2.75V 以上

温度

Monitors タブでは、CPU、ロジックボード、およびターミナルディスプレイのステータスと現在温度がグラフで表示されます。温度は 10 秒おきに更新されます。

表 52 – 温度の状態

条件	ロジックボード	CPU ⁽¹⁾	ディスプレイ ⁽¹⁾
Low	-	-	10°C (50°F)以下
Normal	25~94°C (77~201°F)	25~94°C (77~201°F)	11~59°C (52~138°F)
High	95°C (203°F)以上	95°C (203°F)以上	60°C (140°F)以上

(1) CPU およびディスプレイの温度は、400 および 600 ターミナルでは利用できません。

Keypad Properties (キーパッドプロパティ)



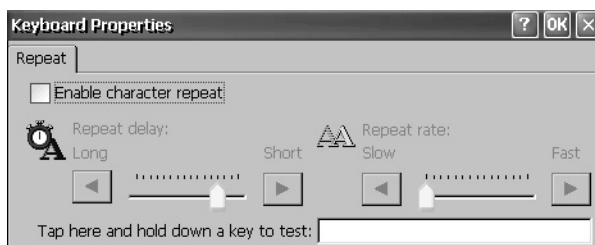
Keyboard

Keypad および Keyboard ダイアログボックスを使用して、ターミナルのメンブレインキーパッドまたは接続された USB キーボードの設定を調整できます。キーボードプレットは常に存在します。Keypad アプレットは、ご使用の機器にキーパッドが装備されている場合のみ表示されます。2 台の USB キーボードを接続している場合は、どちらのキーボードでも有効である設定が使用されます。

Repeat タブ

Keypad Properties または Keyboard Properties ダイアログボックスの Repeat タブでは、キーパッドまたは接続されたキーボード上のキーの文字再入力動作を制御します。

文字再入力を有効にすると、キーの再入力までの待ち時間と再入力の間隔を設定できます。テスト用編集ボックスでキーを押して、設定を確認します。



Touch Properties (タッチプロパティ)

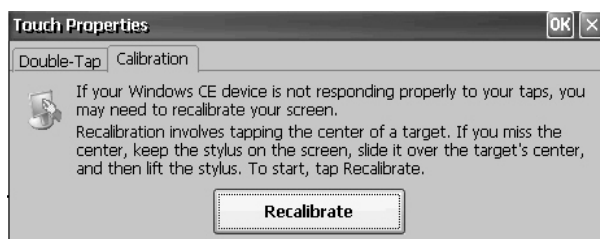


Touch

Touch Properties は、タッチスクリーンを備えた機器でのみアクセスできます。このアプレットを使用すると、タッチスクリーンのキャリブレーションとタッチスクリーンのタップ感度の設定を行なえます。

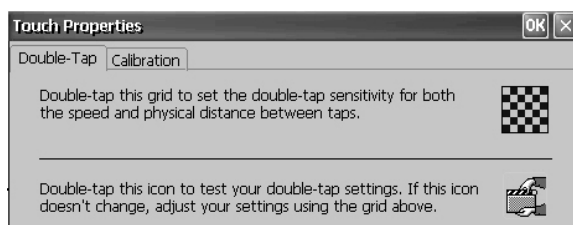
キャリブレーション

Calibration タブでは、画面に触れても機器が適正に応答しない場合にタッチスクリーンを再調整できます。ダイアログボックスの指示に従って再調整してください。



ダブルタップ

Touch Properties ダイアログボックスの Double-Tap タブを使用すると、タッチスクリーンのダブルタップの感度を設定およびテストできます。



Display Properties (ディスプレイプロパティ)



Display

Display Properties は、デスクトップの背景の画像と外観、バックライトの輝度、およびスクリーンセーバ設定を制御するために使用します。

デスクトップの背景

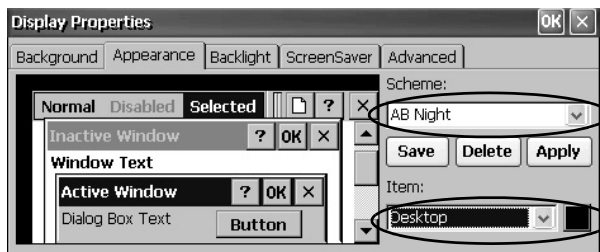
Display Properties の Background タブでは、デスクトップの背景ビットマップを制御します。デフォルトのビットマップは abclocknight です。



プルダウンメニューから別の画像を選択することも、システムを参照してビットマップ画像を選択することもできます。カスタム画像は \Windows フォルダ内にあります。

デスクトップの外観

Display Properties の Appearance タブでは、デスクトップおよび他のウィンドウ要素の表示スタイルおよび色を制御します。

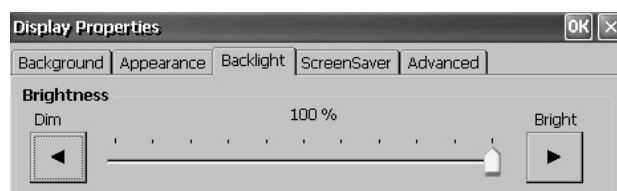


日中または夜間での表示のために2つのカスタム配色とカスタム画像が用意されています。配色を変更するときは、Background タブで画像も変更することを忘れないでください。

配色	デスクトップの色	背景のロゴ
AB Day	青色	abclocknight
AB Night	黒色	abclockday

バックライトの輝度

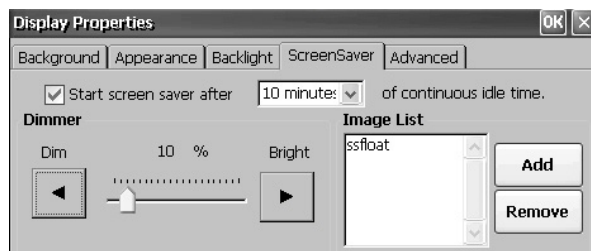
Display Properties の Backlight タブでは、ディスプレイの輝度レベル (1 ~ 100%) を設定できます。1% に設定すると、ディスプレイの明るさは最低になります。



バックライトがオーバドライブモードの場合は、輝度を調整できません。詳細は、[67 ページの「ディスプレイの温度の表示」](#)を参照してください。

スクリーンセーバ

スクリーンセーバは、ターミナルがアイドル状態のときにバックライトを減光することでディスプレイの寿命を延ばします。スクリーンセーバは、連続アイドル時間が経過するとアクティブになり、低減された輝度レベルで動画ビットマップが表示されます。スクリーンセーバがアクティブでなくなると、ディスプレイの輝度は通常のレベルに戻ります。



Display Properties の Screen Saver タブでは以下の操作を実行できます。

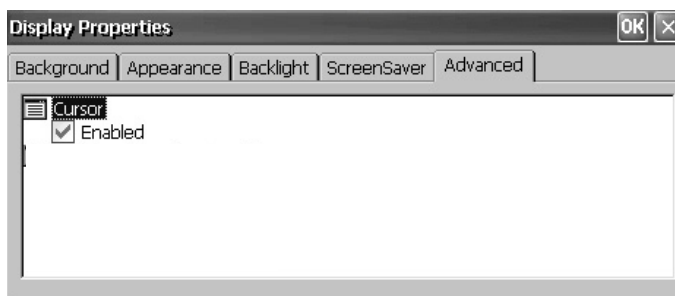
- 指定のアイドルタイムアウトを使ってスクリーンセーバを有効にします。デフォルトのアイドル時間は 10 分です。

スクリーンセーバがアクティブになると、ディマーによってバックライトの輝度レベルが制御されます。ディマーの輝度レベルの設定範囲は 0 ~ 100% であり、デフォルトのディマーの輝度は 10% です。0% に設定すると、バックライトが消灯し、ディスプレイが真っ暗になります。

- システムを参照し、0% 以外の輝度レベルでスクリーンセーバに表示されるビットマップを選択します。デフォルトのスクリーンセーバは SSFloat.bmp です。スクリーンセーバの bitmap を変更するには、Add または Remove をクリックします。システムは \Windows フォルダに格納されているビットマップを認識します。
- Start screen saver チェックボックスをクリアしてスクリーンセーバを無効にします。

カーソル

Display Properties の Advanced タブでは、ディスプレイ上に表示されるカーソルを有効または無効にすることができます。デフォルトでは、カーソルが表示されます。



Logo Manager (ロゴマネージャ)



Logo Manager を使うと、スタートアップ時にスプラッシュ画面に表示されるロゴとデフォルトのスクリーンセーバの画像を変更できます。デフォルト画像はアレン・ブラドリー・ロゴ (ablogo.bmp) です。



ロゴは .bmp、.jpg、.gif、.png 画像のうちのいずれかです。最適な結果を得るには、90x90 ピクセルの16ビットカラー画像でロゴを作成してください。

新しいロゴを適用する前に、以下の操作を行なえます。

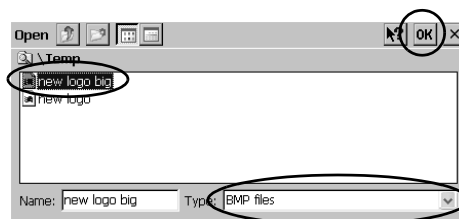
- スプラッシュ画面上でロゴをプレビューする。
- スプラッシュ画面上の固定領域に合わせて画像のサイズを変更する。

以下の手順に従って、新しいロゴをスプラッシュ画面およびスクリーンセーバに適用してください。

1. Logo Manager アイコンをダブルクリックします。
Logo Manager が開き、現在のロゴが表示されます。



2. Load をクリックします。
3. ロードする新しい画像の場所を選択します。
 - フォルダ
 - Storage Card2 - SD カード
 - USB Storage - USB ドライブ

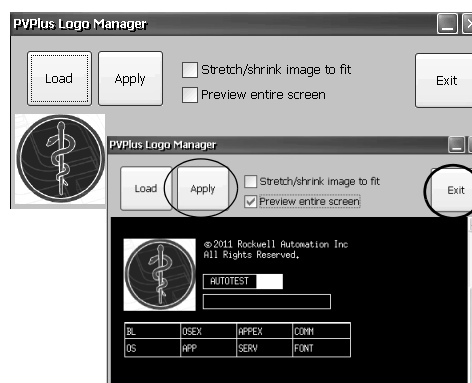


4. ロードする画像ファイルを選択します。
5. ファイルタイプが正しいことを確認します。
6. OK をクリックします。

新しいロゴが Logo Manager ダイアログボックスに表示されます。

7. Preview entire screen をチェックして、スプラッシュ画面上にロゴを表示します。

ロゴが一部欠けて表示されるか、小さすぎる場合は、Stretch/shrink image to fit をチェックして、領域内に収まるようにロゴのサイズを変更します。



8. プレビューしてみて問題がない場合は、Apply をクリックします。
スプラッシュ画面が正常に更新されたことがダイアログボックスに示されます。デフォルトのスクリーンセーバである ssfloat.bmp もまた、新しい画像とともに更新されます。

9. OK をクリックし、Exit をクリックして Logo Manager を閉じます。

System Information (システム情報)



System

System Information ダイアログは、ご使用のターミナルに関するシステム全体のプロパティを表示および設定できるタブを備えています。

全般情報

System Information ダイアログボックスの General タブには、ターミナル上の Windows CE オペレーティングシステムの現在のバージョン、プロセッサのタイプと速度、および RAM メモリが表示されます。



スタートアップオプション

System Information ダイアログボックスの Startup Options タブでは、スタートアップ時に以下のオプションを設定できます。

- バッテリーの警告の表示または非表示
- プラットフォームのオープンシステムまたはクローズドシステムとしての起動
- セーフモード要求の無効 / 有効
- システムのウォッチドッグエラーの表示または非表示



バッテリーの警告

バッテリーが電力低下しているか、検出されないか、故障している場合は、ターミナルが起動するたびに警告が表示されます。

- ヒント**
- ターミナルは、時刻と日付が正確であることが要求されない場合、バッテリーなしでも動作できます。
 - バッテリーを交換するときは、コントロールパネルまたは FactoryTalk View ME Station の構成モードのターミナル設定からシステムの日付と時刻が正しいことを確認できます。



バッテリーの警告を処理するために3つのオプションが用意されています。

バッテリーの警告のスタートアップオプション	説明
Always show at startup (continue with startup)	スタートアップ時に、FactoryTalk View ME Stationソフトウェアがバックグラウンドで実行されている状態でバッテリーの警告を表示する。これがデフォルト値です。
Always show at startup (halt startup)	スタートアップ時にバッテリーの警告を表示するが、起動またはブートプロセスは、OKを押すまで停止する。
Never show at startup	スタートアップ時にバッテリーの警告を非表示にする。

シェルオプション

シェルオプションを使用すると、スタートアップ時にオープンデスクトップまたはクローズドデスクトップを起動したり、ボタンコントロールの外観を設定したりできます。



シェル・スタートアップ・オプション	説明
System Type	<p>スタートアップ時にターミナルをオープンシステムまたはクローズドシステムとして起動する。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Open - スタートアップ時にWindows CEデスクトップを起動する。 • Closed (デフォルト) - スタートアップ時にFactoryTalk View ME Stationの構成モードを開始する。 <p>また、Terminal Settings→Desktop Access Setupの順に押して、FactoryTalk View ME Stationの構成モード内でデスクトップへのアクセスを許可または制限することもできます。54ページの「デスクトップへのアクセス」を参照してください。</p>
User Interface Button Controls	<p>スタートアップ時のコントロールボタンの外観を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Windows XP Style (デフォルト) • Windows 95 Style

ブートオプション

ブートオプションは、スタートアップ時にセーフモードに入ることを可能にします。



Safe Modeオプション	説明
Do not detect Safe mode request at startup	スタートアップ時にセーフモードの検出を無効にする。これがデフォルト値です。
Detect safe mode request at startup	<p>スタートアップ中にターミナルディスプレイの左下隅に小さな白いボックスを表示し、ユーザはこのボックスをタッチするか、[F1]キーを押してセーフモードに入ることができる。これにより、ロードされたFactoryTalk View MEアプリケーションを介さずに直接、構成モードに入ることができる。[F1]キーも押さず白いボックスもタッチしなければ、システムは通常通り起動する。</p> <p>セーフモードに入るもう1つの方法は、メンテナンスモードにアクセスすることです。172ページの「メンテナンス操作へのアクセス」を参照してください。</p>

ウォッチドッグエラー

スタートアップ時にウォッチドッグエラーを表示するか、非表示にすることができます。



ウォッチドッグ・エラー・オプション	説明
Always show watchdog errors at startup	スタートアップ時に重大なウォッチドッグエラー(エラー 02)を表示し、通常のブートプロセスを停止する。これがデフォルト値です。 システムでは、ウォッチドッグエラーが表示されたメンテナンスウィンドウが起動される。ユーザはこのウィンドウからブート処理を続行できる。詳細は、 172ページの「メンテナンス操作へのアクセス」 を参照してください。エラーはシステム・イベント・ログに記録される。
Never show watchdog errors at startup	スタートアップ時にエラーを非表示にし、エラーをシステム・イベント・ログに記録する。

高度な診断

Advanced Diagnostics (高度な診断) は、システムのエラーを診断して解決するための技術サポートで使用されるもので、通常のプロダクション環境で使用するためのものではありません。



デバイス名

System Information ダイアログボックスの Device Name タブでは、デバイス名とデバイスの説明を指定することで、ネットワーク上の他のデバイスに対してユーザのターミナルを識別します。



ヒント 重複する名前を指定すると、競合状態になり、ネットワークの問題が発生します。

User Accounts (ユーザアカウント)



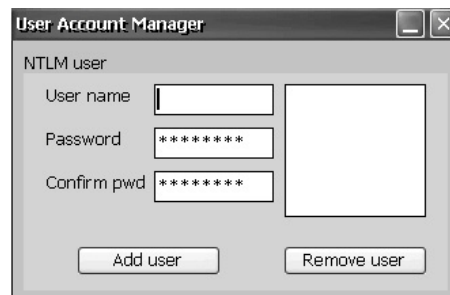
User Accounts (ユーザアカウント) アプリケーションを使うと、FTP サーバ、Web サーバ、およびファイルサーバ使用時のクライアント接続の認証に使用できる NTLM ユーザアカウントを設定できます。

ヒント NTLM は、Windows オペレーティングシステムを実行するネットワークで使用される認証プロトコルです。

ユーザアカウントはユーザ名とパスワードから構成されます。

以下の手順に従って、ユーザアカウントを追加してください。

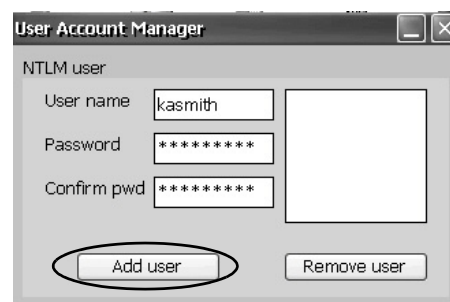
1. ユーザ・アカウント・アイコンをダブルクリックします。



2. User Name フィールド内をクリックして名前を入力します。

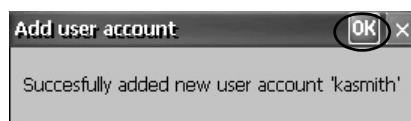
3. Password フィールド内をクリックして、フィールドをクリアしパスワードを入力します。

パスワードを入力していくと、アスタリスク (*) が表示されます。



4. Confirm pwd フィールドにパスワードを再度入力します。
5. Add user をクリックします。

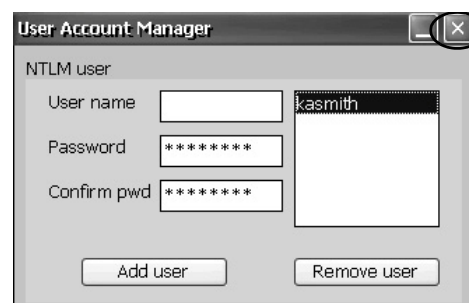
6. OK をクリックして、新しいユーザアカウントを承認します。



新しいユーザ名がユーザリストに追加されます。

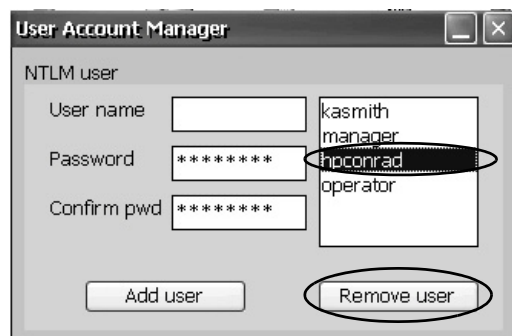
7. さらにユーザアカウントを追加するには、ステップ 1 ~ 6 を繰り返します。

8. 完了したら、X をクリックしてダイアログボックスを閉じます。

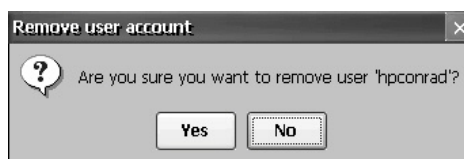


以下の手順に従って、ユーザアカウントを削除してください。

1. ユーザ名のリストで名前を選択します。
2. Remove user をクリックします。



3. Yes をクリックして、選択したユーザアカウントの削除を確定します。
ユーザアカウントが永続的にユーザ・アカウント・リストから削除されます。



4. X をクリックして User Account Manager を閉じます。

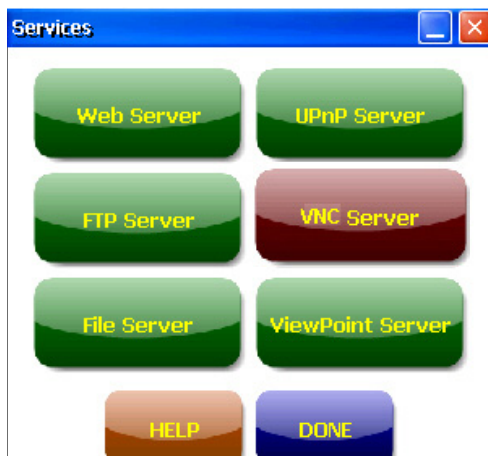
ヒント ユーザアカウントが削除されると、FTP サーバ、Web サーバ、またはファイルサーバ構成の認証リストに入力されているユーザが削除されます。

Services (サービス)



Services

Services アプリケーションを起動すると、ターミナルでサポートされているサーバが表示され、ユーザは各サーバを有効 (起動) または無効 (停止) にできます。ViewPoint サーバは 400 および 600 ターミナルではサポートされておらず、赤色で表示されます。



各ボタンは以下のように色分けされています。

- 緑色は、サーバが現在実行中であり、システムのスタートアップ時に自動的に起動されることを示す。
- 赤色は、サーバが現在実行されていないことを示す。
- 灰色は、サーバがプラットフォーム上で使用不可であることを示す。

サーバを有効または無効にするには、対応するボタンを押します。ボタンの色がそれに応じて変化します。

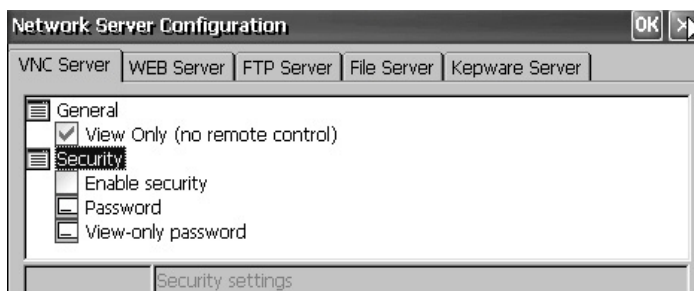
Network Server Configuration(ネットワークサーバ構成)



コントロールパネルの Server Config アプレットを使うと、イーサネットネットワーク上での VNC、FTP、Web、および KEPServer のアクティビティ用の設定を構成できます。

VNC サーバ構成

Network Server Configuration ダイアログボックスの VNC Server タブでは、VNC コネクションを介してターミナルを表示または制御するためにクライアントデバイスで使用される設定を構成します。VNC サービスは2つの同時クライアントコネクションをサポートします。



ヒント 新しい設定を適用するために必ず OK をクリックしてください。すぐにサービスを再起動するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

ターミナルでは、2つの VNC クライアントビューワが提供されます。

- ターミナル上の VNC サーバの接続、表示、制御用に、Vncviewer.exe を PC へ導入できます。このビューワは \Windows フォルダ内にあります。
- 2つの PanelView Plus 6 ターミナル間で VNC コネクションを確立するために、もう1つの VNC ビューワをターミナルで利用できます。このクライアントにアクセスするには、Start → Programs → VNC Viewer の順番に選択します。

表 53 – VNC Server パラメータ

VNCパラメータ	説明	デフォルト
General		
View Only	VNCコネクションを介したターミナルディスプレイの表示をユーザに許可する場合は、このオプションをチェックする。VNCコネクションを介したターミナルディスプレイの制御と表示を両方ともユーザに許可する場合は、このオプションのチェックを解除する。セキュリティが無効になっている場合は、ターミナルへの接続時にユーザは、パスワードの入力を求められない。	表示のみが有効
Security		
Enable Security	ターミナルへのVNCコネクションでパスワード保護を必要とする場合は、このオプションをチェックする。つまり、ユーザはターミナルディスプレイを表示または制御する前に、有効なパスワードを入力する必要がある。セキュリティを有効にしている場合は、以下のいずれかのパラメータとしてパスワードを指定する必要がある。 <ul style="list-style-type: none"> • Password - 操作の制御と表示を行なう場合 • View-only password - 操作の表示のみを行なう場合 	無効(チェック解除)
Password	ターミナルディスプレイの制御のためのVNCコネクションを確立するときにユーザが入力する必要があるパスワードを指定する。チェックボックスをオンにしてから、ダイアログボックスの下部にあるフィールドにパスワードを入力する。このパスワードは最大7文字です。Password保護は、以下の場合にターミナルディスプレイの制御が必要とされる。 <ul style="list-style-type: none"> • View Onlyのチェックを解除している(制御アクセスを許可している)。 • セキュリティが有効になっている。 	パスワードなし
View-only password	ターミナルディスプレイの表示のためのVNCコネクションを確立するときにユーザが入力する必要があるパスワードを指定する。チェックボックスをオンにしてから、ダイアログボックスの下部にあるフィールドにパスワードを入力する。このパスワードは最大7文字です。 ヒント: パラメータのView Onlyのチェックを解除している場合は、ターミナルへの制御アクセスと表示アクセスを持つことになる。制御アクセスが有効な状態においては、View-only passwordを指定することで、一人以上のユーザを表示のみアクセスに制限することができる。 View-only password保護は、セキュリティが有効になっている場合にターミナルディスプレイの表示が必要とされる。 <ul style="list-style-type: none"> • View Onlyをチェックまたはチェック解除している。 • セキュリティが有効になっている。 	パスワードなし

表示専用の動作にパスワードが必要な VNC コネクション

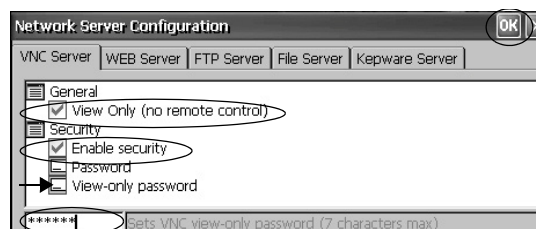
デフォルトの VNC 構成は、ターミナルへの表示専用 (View-only) のアクセスが有効な状態で、パスワードは必要ではありません。この設定は、ターミナル上にある VNC ビューワとユーザがコンピュータに導入可能なビューワに適用されます。

この例では、HMI ターミナルに接続されるコンピュータに導入されている VNC ビューワが使用されています。

ヒント ターミナルの \Windows フォルダにある vncviewer.exe をご使用のコンピュータにコピーして、TightVNC ソフトウェアをインストールしてください。

以下の手順に従って、ターミナルの動作を表示するためにパスワードを必要とする VNC コネクションを構成してください。

1. VNC Server タブで、以下のオプションをチェックします。
 - View Only
 - Enable security

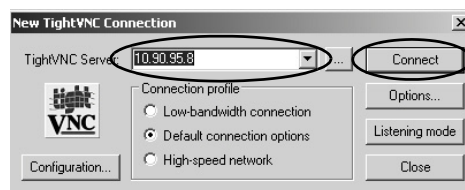


2. View-only password を選択し、表示されたフィールドに7文字のパスワードを入力します。
3. OK をクリックして、サービスを再起動して新しい設定を適用します。

以下の手順に従って、ターミナルの動作を表示するための VNC コネクションを起動してください。

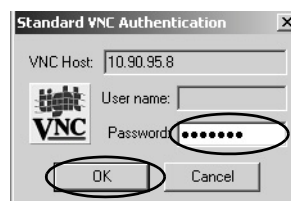
1. コンピュータから Start → Programs → TightVNC → TightVNC Viewer の順番に選択します。

2. ご使用のターミナルの IP アドレスを入力し、Connect をクリックします。
システムトレイにあるネットワーク接続アイコンをクリックして IP アドレスを表示します。



ヒント セキュリティが無効になっている場合、パスワードは必要ありません。

3. VNC 構成で定義された View-only password を入力し、OK をクリックします。



PanelView VNC Server が開き、デスクトップ上の HMI ターミナルの現在のビューが表示されます。ユーザはターミナルの動作を見ることはできますが、制御することはできません。

4. 完了したら、PanelView VNC サーバを閉じます。

動作の表示と制御を行なうために別々のパスワードを使用する VNC コネクション

表示専用と動作の制御を行なうために別々のパスワードを必要とするように VNC サーバを構成できます。

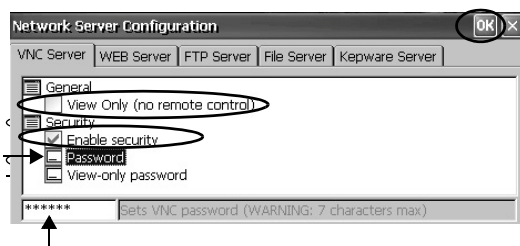
この例では、HMI ターミナルに接続されるコンピュータに導入されている VNC ビューワが使用されています。

ヒント ターミナルの \Windows フォルダにある vncviewer.exe をご使用のコンピュータにコピーして、TightVNC ソフトウェアをインストールしてください。

以下の手順に従って、表示専用と動作の制御を行なうためのパスワードを必要とするように VNC サーバを構成してください。

1. VNC Server タブで、以下の操作を行ないます。

- View Only のチェックを解除する。
- Enable security をチェックする。



2. Password を選択して、制御特権用のパスワードを入力します。パスワードは最大 7 文字です。

3. View-only password を選択して、表示専用の特権用のパスワードを入力します。

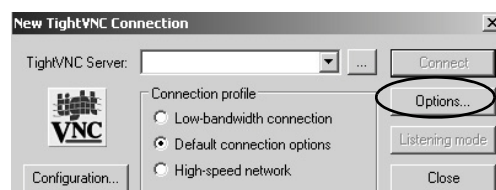
4. OK をクリックして、サービスを再起動して新しい設定を適用します。



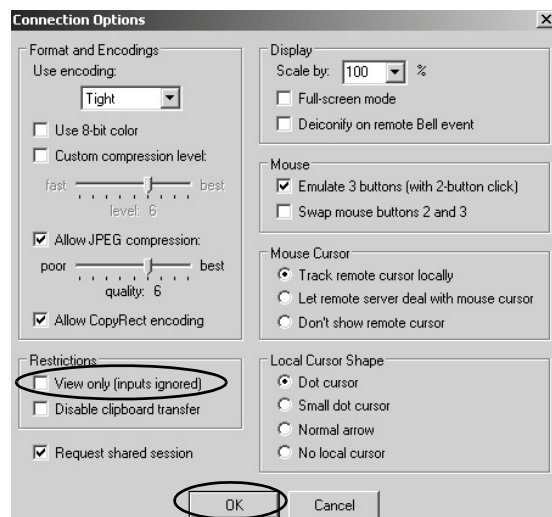
以下の手順に従って、ターミナルの制御を有効にするための VNC コネクションを起動してください。

ヒント 表示のみの操作を行なうためのパスワード保護を必要とする VNC コネクションをコンピュータから起動する場合は、[105 ページ](#)を参照してステップ 1～4 を実行してください。

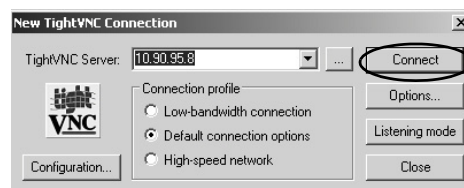
1. コンピュータから Start → Programs → TightVNC → TightVNC Viewer の順番に選択します。
2. Options をクリックします。



3. View only のチェックを解除します(入力は無視される)。
4. OK をクリックします。

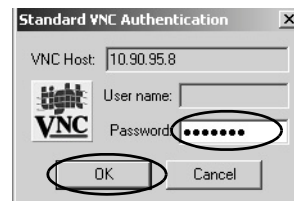


5. ご使用のターミナルの IP アドレスを入力し、Connect をクリックします。
システムトレイにあるネットワーク接続アイコンをクリックして、IP の情報を表示します。



Standard VNC Authentication ダイアログボックスが開きます。

6. ターミナルの VNC 構成ダイアログボックスで定義された制御用パスワードを入力し、OK をクリックします。

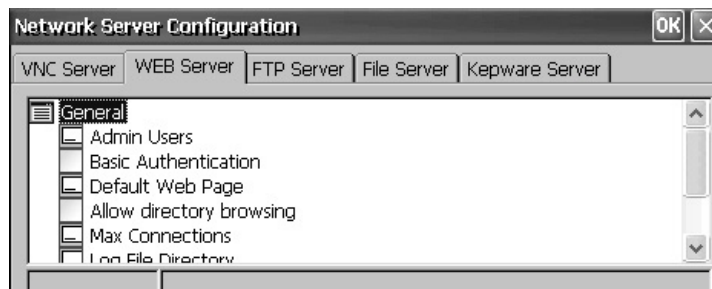


PanelView VNC ビューワが開きます。

7. コンピュータでいくつかの操作を実行して、ターミナルを制御できていることを確認します。
8. 完了したら、PanelView VNC サーバを閉じます。

Web サーバ構成

Network Server Configuration ダイアログボックスの Web Server タブでは、HTTP Web アクティビティ用の設定を構成します。これらは、Microsoft Windows CE の標準パラメータです。



ヒント 新しい設定を適用するために必ず OK をクリックしてください。すぐにサービスを再起動するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

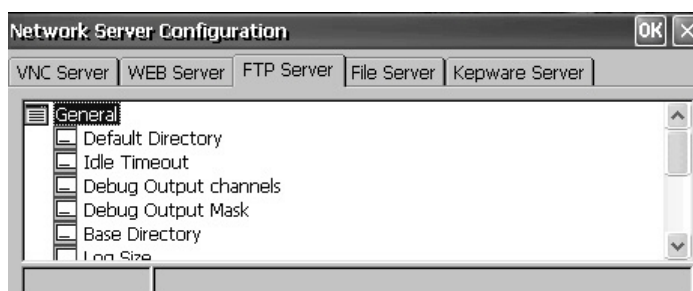
表 54 – Web Server パラメータ

パラメータ	説明	デフォルト
Admin Users	Web アクティビティの管理が許可されているユーザのリストを指定する。 選択されている場合は、ダイアログボックスの下部に表示されるフィールドに、ユーザ名のリストをセミコロンで区切って入力できる。	ADMIN
Basic Authentication	Web サーバへのアクセスでユーザ名とパスワードを必要とする場合は、このオプションをチェックする。	無効(チェック解除)
Default Web Page	ユーザがアクセスを許可されるデフォルトの Web ページを指定する。	default.htm;index.htm
Allow Directory Browsing	Web サーバ上のディレクトリをユーザが参照できるようにする場合は、このオプションをチェックする。	無効(チェック解除)
Max Connections	着信 Web コネクションの最大数を指定する。	256
Log File Directory	ログファイルの格納先のパスを指定する。このファイルには Web アクティビティが記録される。	\\windows\www
Max Log Size	ログ・ファイル・ディレクトリに格納されるログファイルの最大サイズを指定する。 カレント・ログ・ファイルが最大サイズに達すると、ログファイルが新規作成される。	32768 バイト
NTLM Authentication	Web サーバへのアクセスで有効なユーザ名とパスワードを必要とする場合は、このオプションをチェックする。 NTLM Authentication が有効になっている場合は、Admin Users フィールドに有効なユーザ名を入力する必要がある。 NTLM ユーザアカウントは、コントロールパネルの User Account Manager で定義される。	有効(チェックする)

FTP サーバ構成

Network Server Configuration ダイアログボックスの FTP Server タブでは、ネットワーク上でのファイル交換用の設定を構成します。これらは、Microsoft Windows CE の標準パラメータです。

デフォルトの FTP 構成では、すべてのユーザが、匿名でログインして FTP デフォルトディレクトリ (\Temp) からファイルをダウンロードすると、HMI ターミナルへの FTP コネクションを確立することができます。



ヒント 新しい設定を適用するために必ず OK をクリックしてください。すぐにサービスを再起動するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

表 55 – FTP Server パラメータ

FTPパラメータ	説明	デフォルト
General		
Default Directory	ファイルを転送するためにHMIターミナル上のファイルの格納場所を指定する。 ユーザが最初にFTPサーバに接続するときにアクセスするディレクトリ	\Temp\
Idle Timeout	データの転送中に非アクティブな状態の制御コネクションを閉じるまでの待ち時間を秒単位で指定する。FTPセッションでは、ファイルの転送中に1つの制御コネクションと1つのデータコネクションが必要とされる。タイムアウトを設定しないと、対応するクライアントが制御コネクションを閉じずにクラッシュした場合にFTPサーバプロセスがいつまでも待ち状態のまま放置される可能性がある。	300秒 (5分)
Debug Output Channels	デバッグ出力チャンネルの数を指定する。	2
Debug Output Mask	デバッグで使用される出力マスクのポート番号を指定する。	23
Base Directory	FTP ログファイルと他のサポートファイルの格納先のパスを指定する。	\Windows
Log Size	FTPアクティビティを記録するファイルの最大サイズを指定する。ログファイルはベースディレクトリに格納される。 カレント・ログ・ファイルが最大サイズに達すると、ログファイルが新規作成される。	4096バイト
Securityパラメータ		
Use Authentication	FTPサーバへのアクセスで有効なNTLMユーザ名とパスワードを必要とする場合は、このオプションをチェックする。 認証が有効になっている場合は、User Listフィールドに1つ以上の有効なユーザ名を入力する必要がある。 NTLMユーザアカウントは、コントロールパネルのUser Account Managerで定義される。	有効(チェックする)
Allow Anonymous Logins	すべてのユーザに、FTPサーバへの接続を許可する場合は、このオプションをチェックする。匿名ログインでは、ユーザ名とパスワードは必要とされない。	有効(チェックボックスがオン)
Allow Anonymous Uploads	匿名でログインしているユーザがファイルをFTPサーバ(またはデフォルトディレクトリ)にアップロードする(書込む)ことを許可する場合は、このオプションをチェックする。 チェックしていない場合、匿名でログインしているユーザは、サーバからファイルをダウンロード(コピー)できる。	無効(チェック解除)
Allow Anonymous VRoots	匿名でログインしているユーザが仮想ルートにアクセスすることを許可する場合は、このオプションをチェックする。	無効(チェック解除)
User List	FTPサーバにアクセスしてデフォルトディレクトリとの間でファイルを交換することを許可されるNTLMユーザを指定する。 チェックボックスがオンになっている場合は、ダイアログボックスの下部に表示されるフィールドに、NTLMユーザ名のリストをセミコロンで区切って入力できる。ユーザ名とパスワードは、コントロールパネルのUser Account Managerで定義される。	なし

FTP 匿名ログインとアップロード

以下の手順に従って、匿名ログインを許可し、ターミナル上のデフォルト FTP フォルダとの間でファイル転送を可能にすることで、ターミナルへの FTP コネクションを確立してください。



ヒント Allow Anonymous Uploads をチェック解除している場合、ターミナル上のデフォルト FTP フォルダからファイルをコピーすることはできません。

1. Web ブラウザまたはコンピュータ上の任意のフォルダを開きます。

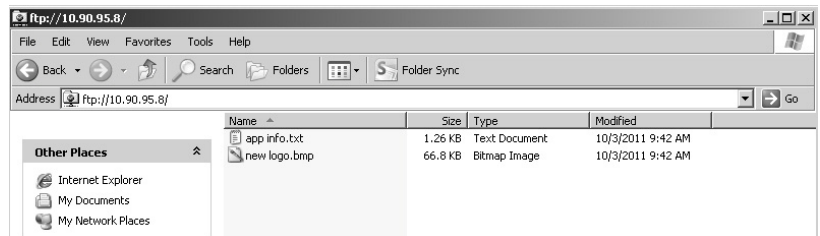


ヒント FTP コネクションを確立するには、ご使用の HMI ターミナルの IP アドレスが必要になります。システムトレイにあるネットワーク接続アイコンをクリックして、IP の情報を表示します。

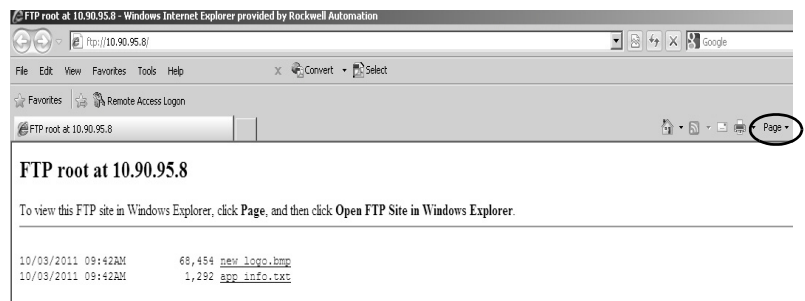
2. 構文 ftp://ipaddress_of_hmi_terminal を使用して、アドレスフィールドにターミナルの IP アドレスを入力します。

ftp://90.95.80.8

ターミナル上の FTP デフォルトディレクトリである \Temp フォルダに対して匿名コネクションが確立されます。このフォルダ内には 2 つのファイルが表示されます。



ブラウザから FTP コネクションを起動した場合は、以下のようなビューが表示されることがあります。

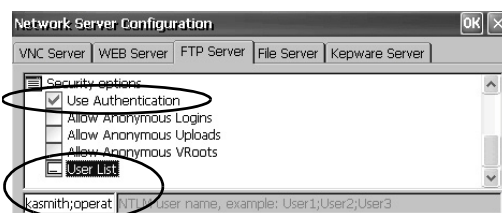


フォルダビューを表示するには、File メニューから Page をクリックしてから、Windows Explorer で Open FTP site を選択します。

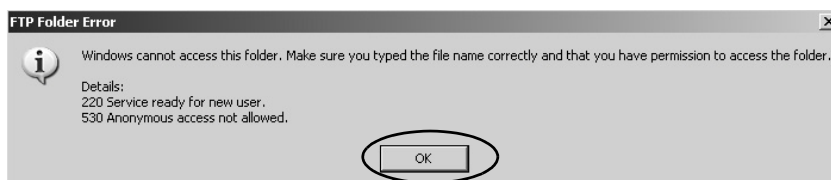
3. コンピュータと FTP フォルダ間でファイル転送を行ないます。
 - ファイルを FTP フォルダからコンピュータへドラッグまたはコピーする。
 - ファイルをコンピュータから FTP フォルダへドラッグまたはコピーする。

ユーザ認証を必要とするFTP コネクション

以下の手順に従って、最初に有効なユーザ名とパスワードを入力することで、ターミナルへのFTP コネクションを確立してください。



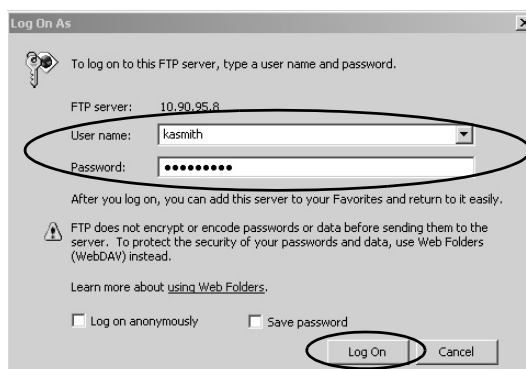
1. Web ブラウザまたはコンピュータ上の任意のフォルダを開きます。
2. 構文 `ftp://ipaddress_of_hmi_terminal` を使用して、アドレスフィールドに HMI ターミナルの IP アドレスを入力します。
`ftp://90.95.80.8`
3. FTP Folder Error ダイアログボックスが表示されたら OK をクリックします。



ブラウザからFTP コネクションを起動した場合は、Internet Explorer でこの Web ページを表示できないというメッセージが表示されることがあります。Windows Explorer で、Page → File → Open FTP の順番に選択します。

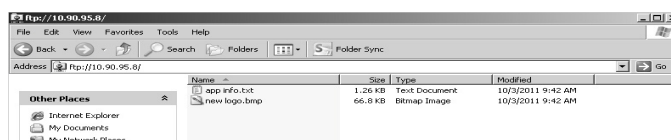
4. File メニューで、Login As を選択します。

User name フィールドには、FTP 構成の User List に入力されている最初のユーザ名が表示されます。



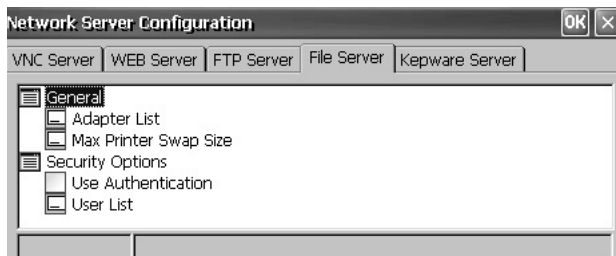
ヒント 入力するユーザ名は、FTP 構成の User List に含まれている必要があり、User Accounts アプリケーションで有効なアカウントとして事前に設定済みでなければなりません。

5. 有効なユーザ名とパスワードを入力し、Log On をクリックします。ターミナル上のデフォルト FTP ディレクトリが開きます。このフォルダとの間でファイル転送を行なうことができます。



ファイルサーバ構成

Network Server Configuration ダイアログボックスの File Server タブでは、ネットワーク上のコンピュータ間でファイル、プリンタ、シリアルポート、および各種通信への共有アクセスを可能にするための設定を指定します。これらは、Microsoft Windows CE の標準パラメータです。



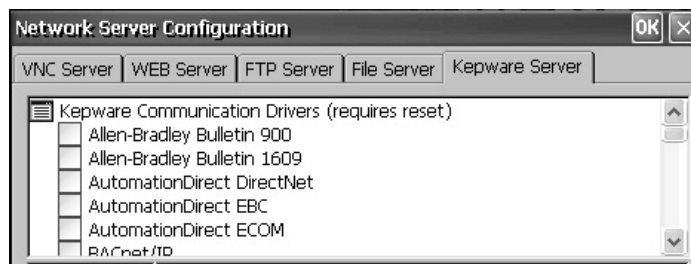
ヒント 新しい設定を適用するために必ず OK をクリックしてください。すぐにサービスを再起動するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

表 56 – ファイルサーバ構成

パラメータ	説明	デフォルト
General		
Adapter List	有効なアダプタのリストを示す。	*(すべてのアダプタ)
Max Printer Swap Size	プリンタのスワップファイルの最大サイズを指定する。	4096バイト
Security Options		
Use Authentication	ファイルサーバへのアクセスで有効なNTLMユーザ名とパスワードを必要とする場合はこのオプションをオンにする。 認証が有効になっている場合は、User Listフィールドに1つ以上の有効なユーザ名を入力する必要がある。 NTLMユーザアカウントは、コントロールパネルのUser Account Managerで定義される。	無効(チェック解除)
User List	ファイルサーバへのアクセスを許可されている有効なNTLMユーザのリストを指定する。 チェックボックスがオンになっている場合は、ダイアログボックスの下部に表示されるフィールドに、NTLMユーザ名のリストをセミコロンで区切って入力できる。ユーザ名とパスワードは、コントロールパネルのUser Account Managerで定義される。	なし

KEPServer 構成

Network Server Configuration ダイアログボックスの KEPServer タブでは、接続されたデバイス用の Kepware 通信ドライバを選択できます。



ヒント 新しい設定を適用するために必ず OK をクリックしてください。すぐにサービスを再起動するかどうかを確認するメッセージが表示されます。ユーザはさらに、ターミナルをリセットする必要もあります。

Printer Support (プリンタのサポート)

ターミナルは、キヤノン社、エプソン社、ヒューレットパッカード社、およびブラザー社などの選択された USB プリンタに対応しています。適切なプリンタドライバが使用可能な場合は、プラグ & プレイ機能を使用したプリンタの自動インストールがサポートされ、また手動インストールもサポートされます。プリンタは、ターミナル上の USB ポートに接続できます。

サポートされているプリンタについては、ナレッジベース (<http://www.rockwellautomation.com/support/>) にアクセスして、Search Answers ボックスで ID 111636 を検索してください。

プリンタを構成および管理するには、デスクトップのコントロールパネルにある Printers を使用します。プリンタのタイプごとのウィザードがサポートされています。



表 57 – プリンタのサポート

プリンタのタイプ	説明
ローカルUSB	JETCETがサポートされているプリンタをUSBホストポートに接続できる。USBホストポートに接続されているプリンタは、リモートターミナル上のネットワークプリンタとして構成されている場合、そのリモートターミナルとの共有が可能である。
Network	ターミナルは、イーサネットポートを介してネットワークに接続されているリモートプリンタをサポートしている。この種のプリンタは、デバイス名またはIPアドレスによってアドレス指定できる。
RDP /ICA	ターミナル上のRDP (Remote Desktop Protocol)セッションで実行されているWindowsサーバアプリケーションに対してローカルプリンタを使用可能にすることができる。 ⁽¹⁾

(1) 拡張機能を備えた PanelView Plus 6 ターミナルのみに適用されます。

プリンタを構成し終わったら、デスクトップアプリケーションや FactoryTalk View ME Station の構成モードから Terminal Settings → Print Setup の順に押して、そのプリンタにアクセスできます。また、アプリケーションではプリンタの選択と共有を行なうこともできます。

プリンタの自動インストール

以下の手順に従って、Windows デスクトップからプラグ & プレイプリンタをインストールしてください。プリンタの手動インストールについては、[115 ページ](#)を参照してください。

ヒント この手順では、例として、ヒューレットパッカード社の HP deskjet 5650 プリンタの自動プラグ & プレイインストールを取り上げます。

1. プリンタは、ターミナル上の USB ホストポートに接続します。
2. プリンタの電源コードをコンセントに差し込んで、プリンタの電源を投入します。

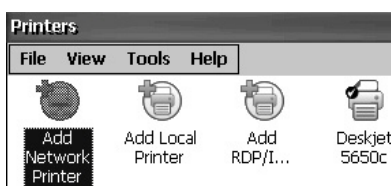
Windows がプラグ & プレイプリンタを検出したら、ほとんどの場合、ユーザによる選択操作を必要とせずにプリンタがインストールされます。

プリンタの印刷準備が完了します。

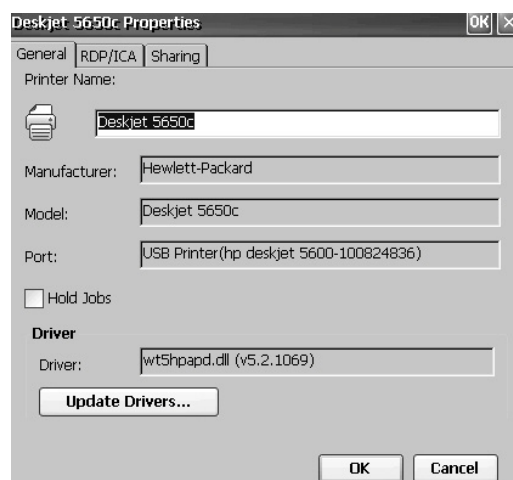
重要 自動プラグ & プレイインストールがプリンタでサポートされていない場合は、以下のエラーが、Hardware Monitor のシステム・イベント・ログに記録されます。
 'JETCET PRINT was unable to auto-configure printer. To manually configure printer, go to the Printers folder from the Control Panel.' (JETCET PRINT はプリンタを自動構成できませんでした。プリンタを手動で構成するには、コントロールパネルから Printers フォルダにアクセスしてください。)

3. デスクトップのコントロールパネルから Printers アプレットを開いてプリンタのインストールを確認します。

Deskjet 5650C プリンタのアイコンが表示されます。チェックマークは、このプリンタがデフォルトプリンタであることを示しています。



4. File メニューから、Properties を選択してプリンタのプロパティを表示します。

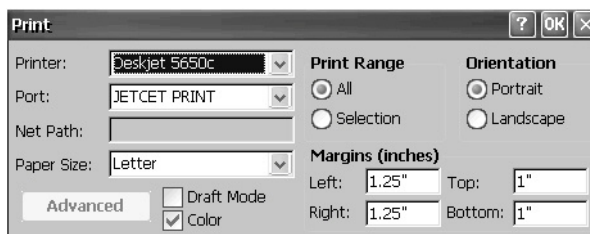


プリンタ構成には、プリンタ名、メーカー名とモデル、プリンタドライバ、およびポート固有のパラメータが含まれます。

- ヒント**
- 新しいプリンタ構成は、電源を切切断してから再投入した後も保持されます。
 - デスクトップのコントロールパネルを通じたプリンタ設定は、FactoryTalk View ME Station の構成モードで Terminal Settings → Print Setup の順に押すことでも使用できます。

5. プリンタを右クリックし、テストページを印刷してインストールを確認します。

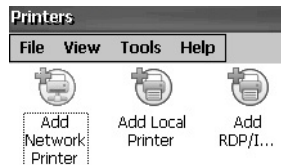
WordPad などのアプリケーションから印刷するときは、必要に応じて印刷設定を調整できる Print ダイアログボックスが開きます。



プリンタの手動インストール

以下の手順に従って、サポートされているプリンタを手動で設定してください。

1. プリンタを USB ポートに接続します。
2. プリンタの電源コードをコンセントに差し込んで、プリンタの電源を投入します。
3. デスクトップのコントロールパネルから、**Printers** を開きます。
4. **Add Local Printer** をクリックします。



5. **Add Local Printer** ウィザードの手順に従ってプリンタを構成します。
 - a. 接続されたプリンタが **USB** プリンタポート上に表示されることを確認します。
 - b. **JETCET** プリンタのメーカー名とモデルを選択します。
 - c. デフォルトのプリンタ名をそのまま使用するか、別の名前を入力します。
 - d. テストページを印刷して、インストールされたプリンタを確認します。
 - e. ネットワーク上でプリンタを共有するかどうかを指定します。

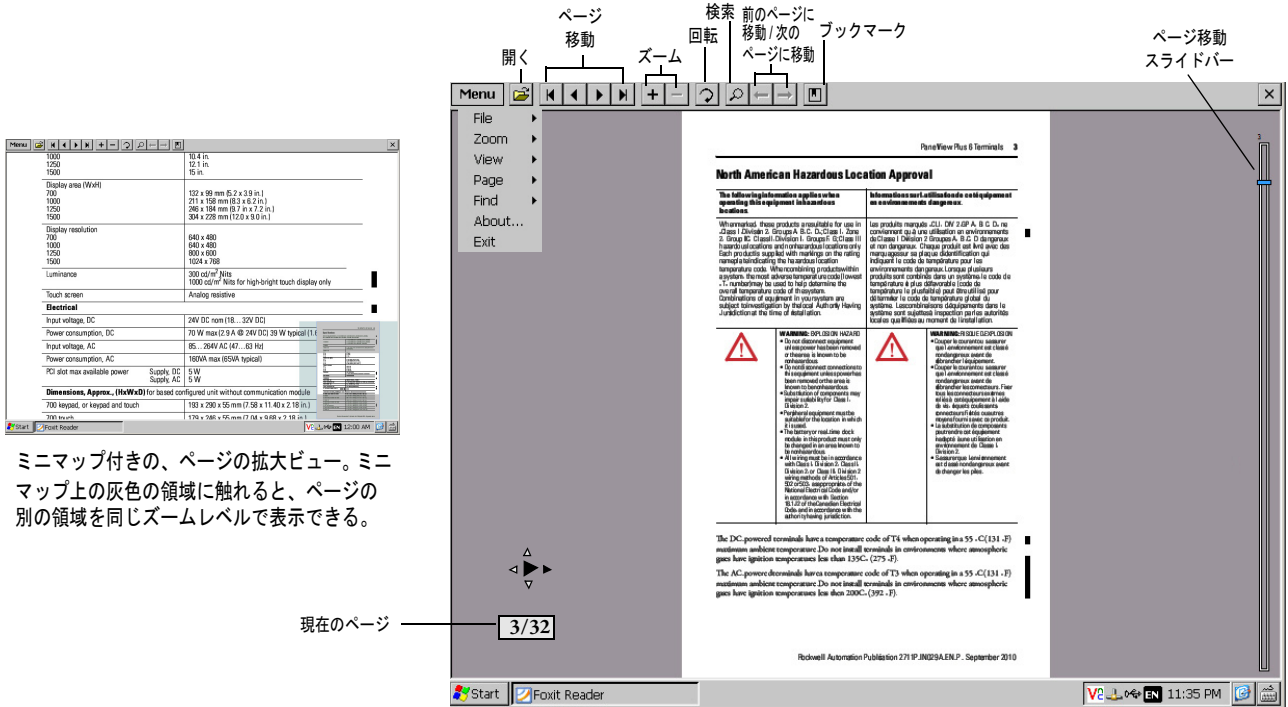
PDF Reader (PDF リーダ)



PDF リーダは、すべての PanelView Plus 6 ターミナルで使用でき、標準の PDF 表示および検索機能を備えています。PDF リーダは、Windows デスクトップまたはコマンドプロンプトから実行できます。

PDF ドキュメントを表示するときは、メニューまたはツールバーから機能を開始できます。オリジナルの PDF で作成されたブックマークが「しおり」に表示されます。

図 13 – PDF リーダのワークスペース



ミニマップ付きの、ページの拡大ビュー。ミニマップ上の灰色の領域に触れると、ページの別の領域を同じズームレベルで表示できる。

現在のページ

ヒント キーボードが接続されている場合は、ページの移動に [Page Up] キーおよび [Page Down] キーを使用できます。キーパッドターミナルでは、[Alt] キーを押したまま、上/下カーソルキーを押します。

タッチスクリーンターミナルでは、画面に触れるかまたはドラッグによって一部の表示機能を開始できます。

表 58 – タッチスクリーンでの操作

機能	操作	インジケータ
ズームインまたはズームアウト	ズームインを行なうには画面を1回タップする。 ズームアウトを行なうには画面をもう1回タップする。 メニューでView→Minimapの順番に選択すると、ページの縮小ビューがワークスペースの右下に表示される。灰色の領域をタップしてビューを変更できる。	
ページの移動	<ul style="list-style-type: none"> 次のページまたは前のページを表示するには、スタイラスまたは指を右方向/左方向にドラッグする。インジケータによって、ドラッグしている方向が表示される。ボックスに、現在のページ/総ページ数が表示される。 画面を上方向/下方向にドラッグして、右側にあるページ移動バーをアクティブにする。ページ移動を行なうには、スライダバーを上方向または下方向に動かす。 	 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">3/32</div> 図13のページ移動バーを参照。
回転	ページを回転させるには、時計回りまたは反時計回りの回転方向にドラッグする。	

コマンド・プロンプト・パラメータ

PDF リーダを Windows コマンドプロンプトから実行するには、Start → Programs → Command Prompt の順番に選択して、[表 59](#) に示されたコマンドパラメータを実行します。

コマンドプロンプトの構文

Foxitreader “ファイルパス/ファイル名 .pdf” パラメータ パラメータ値

- ファイルパスとファイル名を二重引用符で囲んで入力し、スラッシュを使用して、ファイル・パス・ディレクトリとファイル名を区切ります。
- パラメータとファイル、およびパラメータとオプションのパラメータ値を区切るには、スペースを使用します。

コマンドプロンプトの例

Foxitreader “windows/desktop/example.pdf” -p 4

このコマンドプロンプトは、Foxit Reader で example.pdf のページ 4 を開きます。

表 59 – コマンド・プロンプト・パラメータ

パラメータ	パラメータの機能	例	説明
-p	ページに移動	Foxitreader “ファイルパス/ファイル名.pdf” -p 2 -zw	PDF ファイルのページ2を開く。
-zw	画面幅に合わせる	Foxitreader “ファイルパス/ファイル名.pdf” -zw	PDF ファイルを開き、ページを画面幅に合わせて表示する。
-zp	画面にページ全体を表示する	Foxitreader “ファイル名.pdf” -zp	PDF ファイルを開き、ページ全体を表示する。
-z	拡大/縮小	Foxitreader “ファイル名.pdf” -z 150	PDF ファイルを開き、150%に拡大する。
複数のパラメータ	パラメータとパラメータ値の間にスペースを入力する。	Foxitreader “ファイルパス/ファイル名.pdf” -p 2 -zw	PDF ファイルのページ2を開き、ページを画面幅に合わせて表示する。
-b	ブックマークに移動	Foxitreader “ファイルパス/ファイル名.pdf” -b “Bookmark1”	Bookmark1 内の指定された場所に移動して PDF ファイルを開く。
-d	指定されたジャンプ先へ移動	Foxitreader “ファイルパス/ファイル名.pdf” -b “Destination1”	Destination1内の指定された場所に移動して PDF ファイルを開く。
-g	メニューのFile→OpenコマンドおよびOpenフォルダボタンを無効にする。	Foxitreader “ファイルパス/ファイル名.pdf” -g	PDF ファイルを開き、メニューのFile→OpenコマンドとOpenボタンを淡色表示にする。

Image Viewer (画像ビューワ)

bmp、jpg、および png 画像を表示するには、画像ビューワを使用します。スライドショーを作成するために画像をどのように表示するかを制御できます。画像の並べ替え、回転、ズームが可能です。スライドを切替えるタイミングを設定したり、他のトランジション効果を使用したりできます。

画像ビューワを実行するには、Start → Programs → File Viewers → Image Viewer → imageviewer の順番に選択します。

このビューワの使用法については、Image Viewer メニューから利用できるヘルプを参照してください。

Notes:

コンポーネントの取付けおよび交換

項目	参照ページ
ロジックモジュールの取付けおよび交換	120
通信モジュールの取付けおよび交換	121
ディスプレイモジュールの交換	123
ベゼルの交換	124
バックライトの交換	126
バッテリーの交換	130
AC電源モジュールの取付け	132
製品IDラベルの除去	134
キーボードの刻印文字の差込みシートの交換	135
SDカードのロード	137
ディスプレイの清掃	138



注意：静電防止対策

この機器は、静電気の影響を受けやすいため、静電気によって内部が損傷し、通常の動作に影響が出る場合があります。

この機器を取り扱うときは以下のガイドラインに従ってください。

- 接地した物体に触れて、体内の静電気を放電してください。
- 適切に接地されたリストバンドを着用してください。
- コンポーネントのボード上のコネクタまたはピンには触れないでください。
- 機器内部の回路部品には触れないでください。
- 静電気対策が取られているワークステーションを使用してください(入手可能な場合)。
- 機器を使用しない間は、適切な静電気対策が取られている梱包材に包んで保管してください。



注意：感電の危険

コンポーネントの取付けまたは交換の前に、ターミナルからすべての電源を切断してください。電源を切断しないと、感電またはターミナルの損傷が発生する恐れがあります。

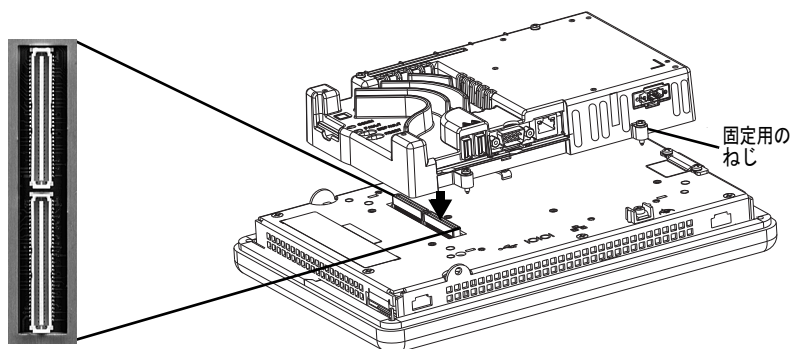
必要な工具

コンポーネントの一部を交換するために #1/#2 プラスドライバーが必要です。

ロジックモジュールの取付けおよび交換

700、1000、1250、および 1500 ターミナルのディスプレイモジュールとロジックモジュールは、現場での設置状況に応じて個別にコンポーネントを注文することができます。モジュールを個別にご注文いただく場合は、パネル取付け前にロジックモジュールをディスプレイモジュールに取付けてください。

1. ターミナルから電源が切断されていることを確認します。
2. きれいに片付いた安定した平らな場所に、ディスプレイ側を下にしてディスプレイモジュールを置きます。
3. ロジックモジュールとディスプレイモジュールのコネクタの位置を合わせて、ロジックモジュールをディスプレイモジュールの背面に置きます。



4. ロジックモジュールがしっかりと固定されるまで押込みます。
5. ロジックモジュールをディスプレイモジュールに固定するために、4つの固定用のねじを 0.58Nm (5 ~ 7 ポンドインチ) のトルクがかかるように締めます。

通信モジュールが取付けられている場合は、ロジックモジュールを交換する前に、先に通信モジュールを取り外す必要があります。

以下の手順に従って、ロジックモジュールを交換してください。

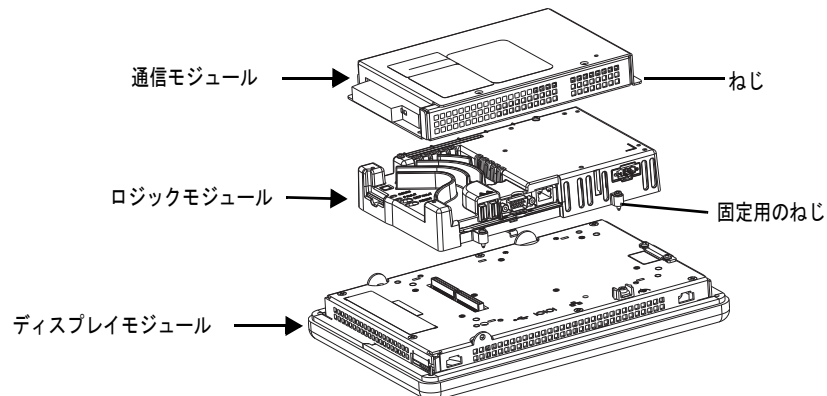
1. ターミナルの電源を切断します。
2. すべての電源ケーブルおよび通信ケーブルを外します。



警告： この機器またはネットワーク上の機器に電力が印加されている状態で、通信ケーブルの取付けまたは取り外しを行わないでください。危険な環境で取付けを行なうと、電気的なアークによって爆発が起こる可能性があります。作業を行なう前に、電源が切断されているか、または周辺に危険がないかを確認してください。

3. きれいに片付いた安定した平らな場所に、ディスプレイ側を下にしてディスプレイモジュールを置きます。

- 通信モジュールが取付けられている場合は、4つの固定用のねじを外して通信モジュールをロジックモジュールから取り外し、別の場所に保管しておきます。



- ロジックモジュールをディスプレイモジュールに固定している4つの固定用のねじを緩めます。
- ロジックモジュールをディスプレイモジュールの背面から注意して持ち上げます。



注意：ロジックモジュール内部の電子部品に触るときは、適切に接地されたESDリストバンドを着用して作業してください。

- 新しいロジックモジュールを取付け、4つの固定用のねじを0.58Nm (5～7ポンドインチ)のトルクがかかるように締めます。
- 必要に応じて、通信モジュールを取付けて、4つのねじを0.58Nm (5～7ポンドインチ)のトルクがかかるように締めます。

通信モジュールの取付け および交換

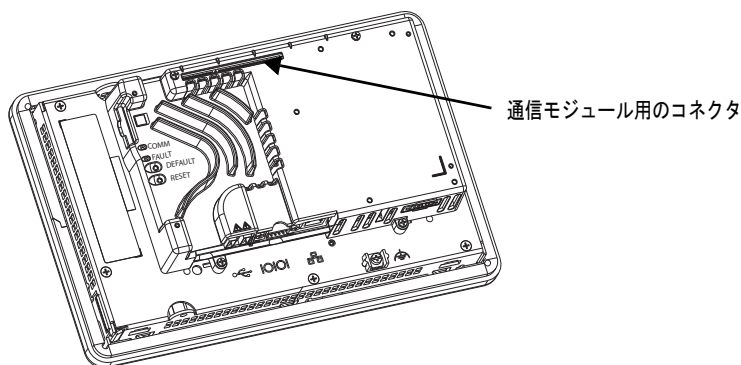
通信モジュールはロジックモジュールの上を取付けられます。700、1000、1250、および1500ターミナルの通信モジュールは、現場での設置状況に応じて個別のカタログ番号でご注文いただけます。

ヒント 通信モジュールを取付ける前に、ロジックモジュールをディスプレイモジュールに取付けてください。

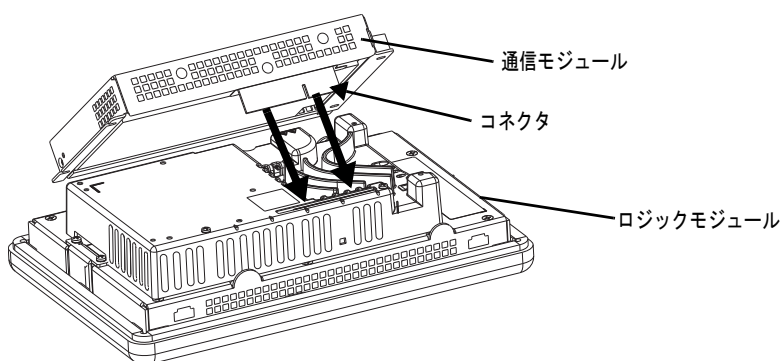
以下の手順に従って、通信モジュールを取付けてください。

- ターミナルの電源を切断します。

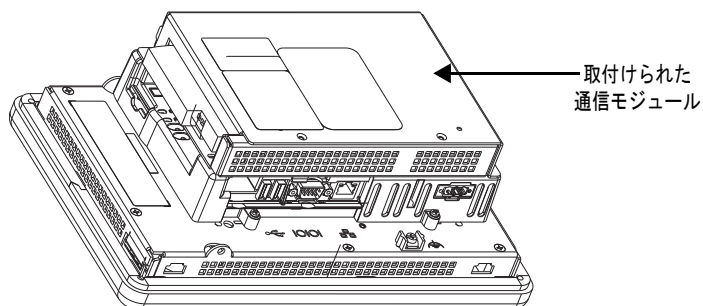
2. ディスプレイモジュールがパネルから取り外されている場合は、きれいに片付いた安定した平らな場所に、ディスプレイ側を下にしてターミナルを置きます。



3. 通信モジュールの底面にあるコネクタとロジックモジュールのコネクタの位置を合わせて、通信モジュールをロジックモジュールの上に置きます。
4. モジュールとモジュールの間で発生する ESD を防止するために、通信モジュールをロジックモジュールに接触させてから、接続を行なってください。



5. コネクタがしっかりはまるまで通信モジュールを押し込みます。
6. 通信モジュールをロジックモジュールに固定するために、4つのねじを 0.58Nm (5 ~ 7 ポンドインチ) のトルクがかかるように締めます。



以下の手順に従って、通信モジュールを交換してください。

1. ターミナルの電源を切断します。
2. モジュールから通信ケーブルを外します。

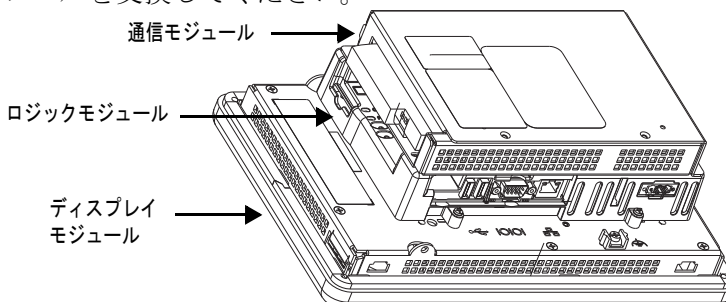


警告：この機器またはネットワーク上の機器に電力が印加されている状態で、通信ケーブルの取付けまたは取り外しを行わないでください。危険な環境で取付けを行なうと、電気的なアークによって爆発が起こる可能性があります。作業を行なう前に、電源が切断されているか、または周辺に危険がないかを確認してください。

3. 通信モジュールを固定している4つのねじを外します。
4. 通信モジュールをロジックモジュールから注意して持ち上げて外します。
5. [121 ページの「通信モジュールの取付けおよび交換」](#)の手順4～6に従って、新しい通信モジュールを取付けます。

ディスプレイモジュールの交換

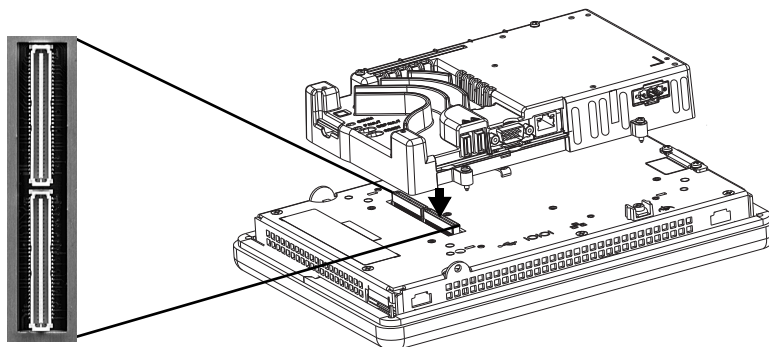
以下の手順に従って、700、1000、1250、または1500ディスプレイモジュールを交換してください。



以下の手順に従って、ディスプレイモジュールを交換してください。

1. ターミナルの電源を切断します。
2. パネルからターミナルを取り外します。
3. 通信モジュールが取付けられている場合は、4つのねじを外して通信モジュールをロジックモジュールから取り外します。
4. ロジックモジュールをディスプレイモジュールに固定している4つの固定用のねじを緩めます。
5. ロジックモジュールをディスプレイモジュールから注意して持ち上げます。
6. ディスプレイモジュールを別の場所に保管しておきます。

7. コネクタの位置を合わせて、ロジックモジュールを新しいディスプレイモジュールの上に置きます。



8. しっかりとハマるまでロジックモジュールを押し込みます。
9. ロジックモジュールをディスプレイモジュールに固定するために、4つの固定用のねじを 0.58Nm (5 ~ 7 ポンドインチ) のトルクがかかるように締めます。
10. 必要に応じて、通信モジュールを取付けて、4つのねじを 0.58Nm (5 ~ 7 ポンドインチ) のトルクがかかるように締めます。

ベゼルの交換

700、1000、1250、および 1500 ターミナルではベゼルを交換できます。700 タイプのターミナル以外では、ベゼルを取り外す前にロジックモジュールまたは通信モジュールを取り外す必要はありません。

ディスプレイモジュールのベゼルの取り外し

以下の手順に従って、ディスプレイモジュールのベゼルを取り外してください。

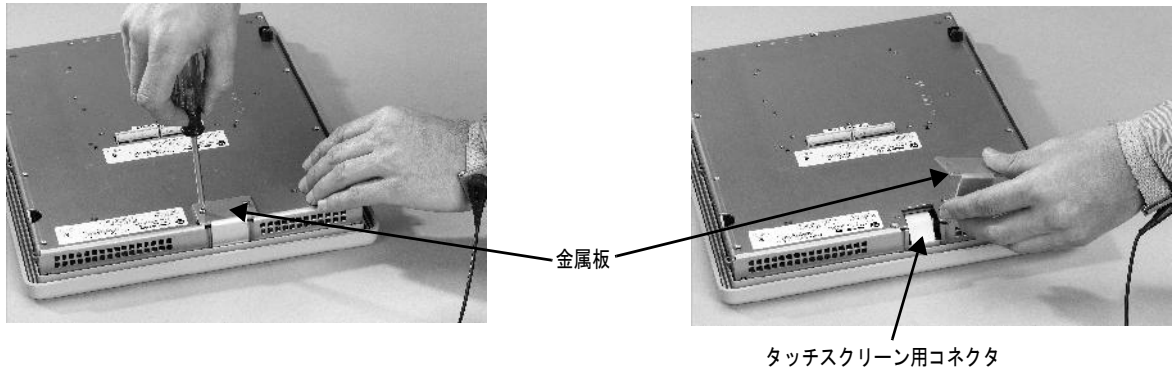
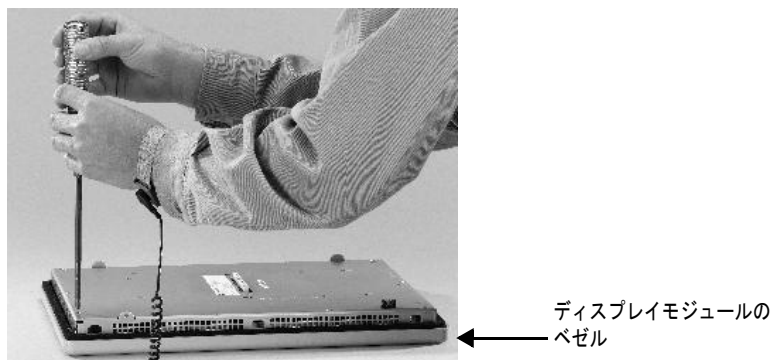
1. ターミナルの電源を切断します。
2. 安定した平らな場所に、ディスプレイ側を下にしてターミナルを置きます。



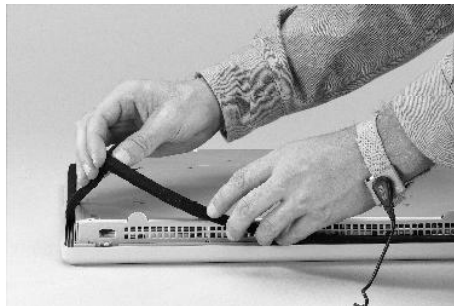
注意：ロジックモジュール内部の電子部品に触るときは、適切に接地された ESD リストバンドを着用して作業してください。

3. タッチスクリーンのみを備えているターミナルでは、小さな金属板をディスプレイモジュールの背面に固定している 2 つのねじを外します。

4. タッチスクリーン用コネクタを切り離します。

5. ディスプレイモジュールの背面のねじを外します。
ねじの数はターミナルのタイプごとに異なります。

6. シーリングガスケットを取り除きます。



7. ディスプレイモジュールの背面部をベゼルから持ち上げます。
ディスプレイをほこり、キズ、損傷から保護するために、きれいに片付いた安定した平らな場所で作業を行なってください。
8. コネクタを取り外します。
- ファンクションキー用コネクタ
 - キーパッドまたはキーパッド/タッチユニットのコネクタ
9. ベゼルを別の場所に保管しておきます。

ディスプレイモジュールのベゼルの交換

以下の手順に従って、ディスプレイモジュールのベゼルの交換してください。

1. 取付ける前に、ベゼルにほこりやキズが付いていないことを確認します。
2. コネクタを取付けます。
 - ファンクションキー用コネクタ
 - キーパッドまたはキーパッド/タッチユニットのコネクタ
3. ディスプレイモジュールの背面部をベゼルの上に置きます。
ケーブルをはさまないように注意してください。タッチスクリーン用コネクタがアクセス用の開口部から突き出るようにします。
4. タッチスクリーン用コネクタを接続します。
5. 新しいシーリングガasketを元通り装着します。
6. ディスプレイモジュールをベゼルに固定するために、ねじを 1.35 ~ 1.58Nm (12 ~ 14 ポンドインチ) のトルクがかかるように締めます。
7. タッチスクリーンターミナルでは、ディスプレイモジュールの背面に小さな金属板を元通り取付け、2つのねじを 0.58Nm (5 ~ 7 ポンドインチ) のトルクがかかるように締めます。

バックライトの交換

700、1000、1250、および 1500 CCFL ディスプレイモジュールには、交換可能なバックライトが装備されています。交換用バックライトは、LED ディスプレイには利用できません。

表 60 – 交換用 CCFL バックライト⁽¹⁾

使用するCat. No.	PanelView Plus 6 ディスプレイモ ジュールのサイズ	シリーズ	CCFLバックライトの数
2711P-RL7C	700	AおよびB	1
2711P-RL7C2		CおよびD	1
2711P-RL10C	1000	A	1
2711P-RL10C2		BおよびC	1
2711P-RL12C	1250	AおよびB	2
2711P-RL12C2		C	1
2711P-RL15C	1500	B	2

(1) これらの交換用 CCFL バックライトのカタログ番号は、LED ディスプレイには当てはまりません。

重要 廃棄：上記の製品のバックライトには水銀が含まれています。廃棄する場合は、適用される法規に従ってください。

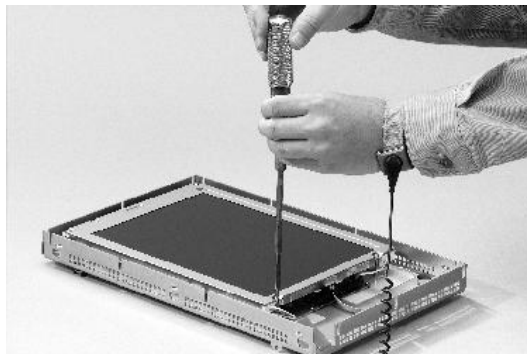
以下の手順に従って、バックライトを交換してください。

1. ターミナルの電源を切断します。
2. ディスプレイモジュールのベゼルを取り外します。

重要 700 シリーズ C のディスプレイはねじで固定されておらず、ブラケットのみで留められています。ベゼルを取り外した後に、ディスプレイを落とさないようご注意ください。

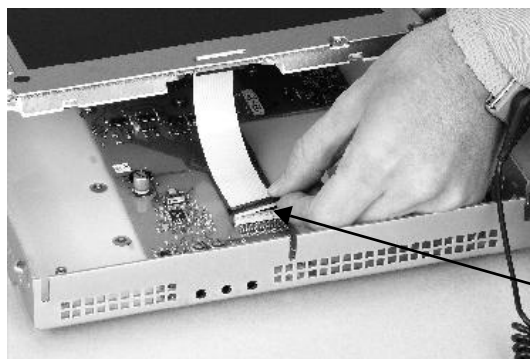
3. LCD ディスプレイを固定している 4 つのねじを外します。

700 タイプのディスプレイの場合は、ディスプレイのブラケットを固定している 4 つのねじを外します。



4. LCD ディスプレイを持ち上げて、回路基板からディスプレイ用コネクタを取り外します。

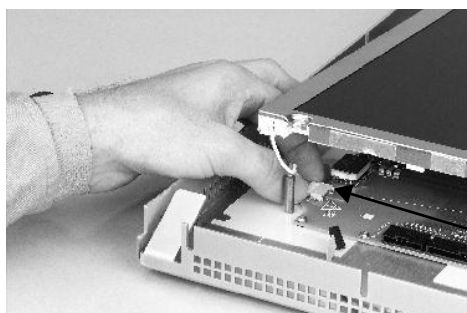
回路基板の設計はターミナルモデルごとに異なり、コネクタの位置もモデルによって異なります。



ディスプレイ
コネクタ

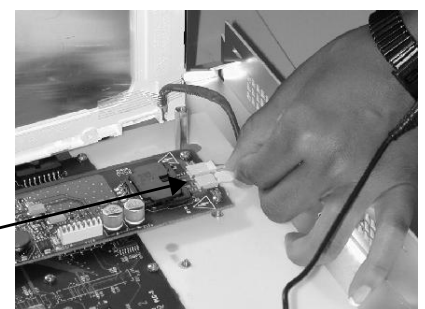
5. 回路基板からバックライト用コネクタを取り外します。

- 1250 タイプには、ディスプレイのシリーズに応じて 1 つまたは 2 つのバックライト用コネクタがあります。
- 1500 タイプには 4 つのバックライト用コネクタがあります。



1250

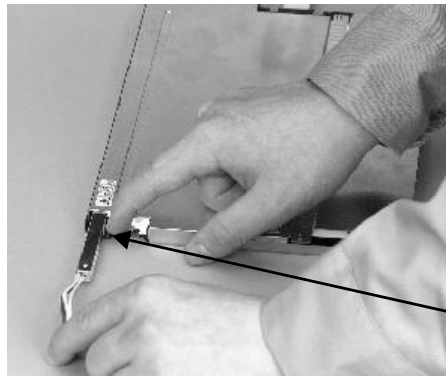
バックライト
コネクタ



1500

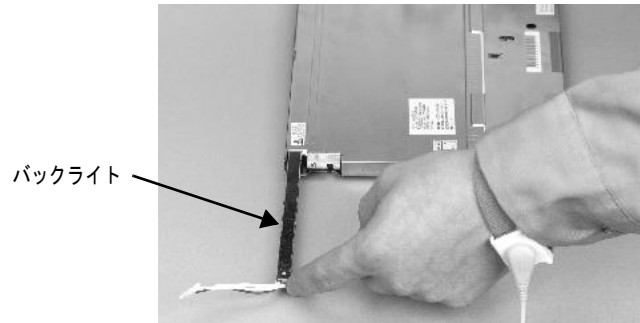
6. 700 および 1000 タイプのディスプレイの場合は、以下の手順を行なってください。

- a. バックライトを固定している固定タブを押して、バックライトを引き出します。



バックライト
固定タブ

- b. 新しいバックライトを差し込みます。



バックライト

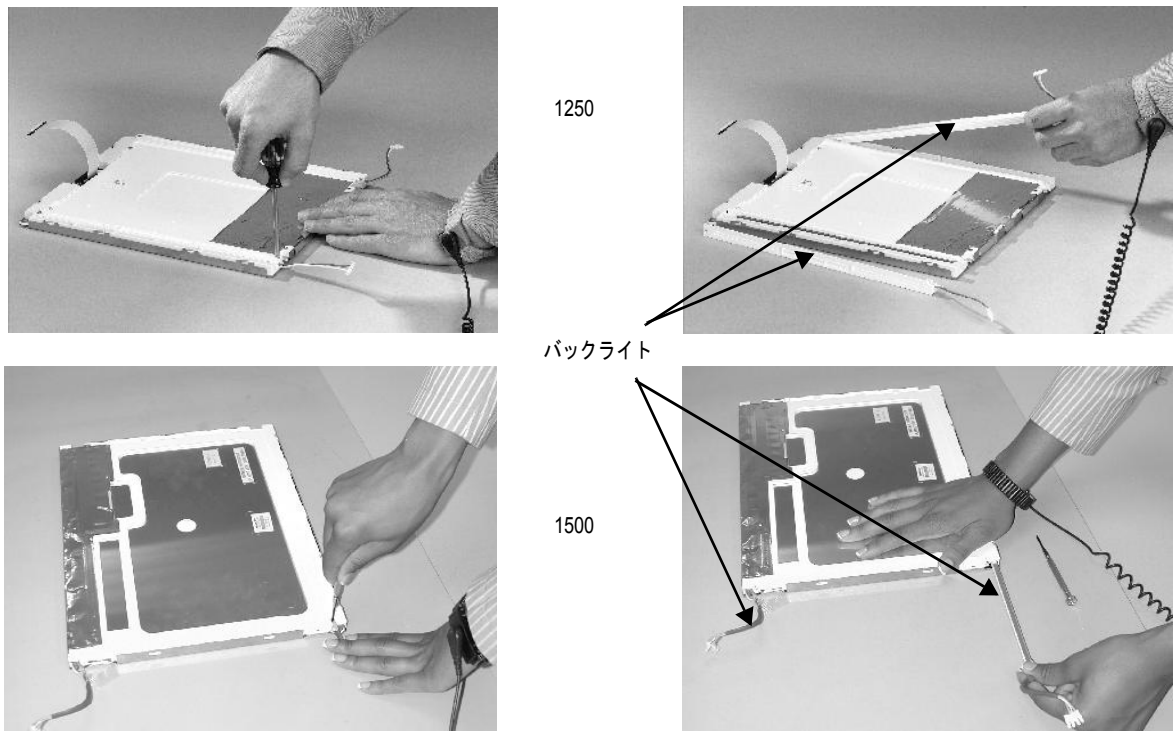
7. 1250 および 1500 タイプのディスプレイの場合は、以下の手順を行なってください。

- a. バックライトを固定しているねじを外し、バックライトを取り外します。

1250 タイプ/シリーズ A および B のディスプレイでは、2 つのバックライトがそれぞれ 2 つのねじで固定されています。

1250 タイプ/シリーズ C のディスプレイにはバックライトが 1 つあり、1 つのねじで固定されています。

1500 タイプ/シリーズ B のディスプレイでは、テープをはがしてから、バックライトを取り外します。



- b. 新しいバックライトを差し込み、前の手順で外した同じねじを 0.117Nm (1.04 ポンドインチ) のトルクがかかるように締め、各バックライトを固定します。

8. LCD ディスプレイ用コネクタを回路基板に取付けます。

[ステップ 4](#) を参照してください。

9. バックライト用コネクタを回路基板に取付けます。

[ステップ 5](#) を参照してください。

10. LCD ディスプレイを固定します。

- a. 700 タイプ/シリーズ C のディスプレイでは、ディスプレイのブラケットを取付けて、ブラケットでディスプレイを固定します。

- b. 他のすべてのディスプレイでは 4 つのねじを取付けます。

ねじを 0.58Nm (5 ~ 7 ポンドインチ) のトルクがかかるように締めます。

11. ディスプレイモジュールのベゼルを元通りに取付けます。

バッテリーの交換

製品には、リアルタイムクロックで使用されるリチウムバッテリーが内蔵されています。このバッテリーはバックアップまたは保存には使用されません。



この製品には、製品のライフサイクル中に交換が必要となる密閉型リチウムバッテリーが含まれています。

使用済みのバッテリーは、一般のごみとは別にして廃棄する必要があります。バッテリーの回収とリサイクルは、環境の保護に役立つとともに、貴重な資源を再利用することで天然資源の保全に役立ちます。



注意：感電の危険

適切な安全対策に従わないと、重大な感電事故が起こったり、ターミナルが損傷する恐れがあります。



警告：この製品内のリチウムバッテリーまたはリアル・タイム・クロック・モジュールを誤った方法で交換すると、爆発の危険があります。電源を切断して、かつ周辺に危険がないことを確認するまでは、バッテリーまたはリアル・タイム・クロック・モジュールを交換しないでください。

Cat.No. 2711P-RY2032 のバッテリーまたは同等のコイン型バッテリー CR2032 を使用してください。

リチウムバッテリーまたはリアル・タイム・クロック・モジュールを火に投げ入れたり、焼却炉に廃棄してはなりません。使用済みのバッテリーは、地域で定められた規則に従って廃棄してください。

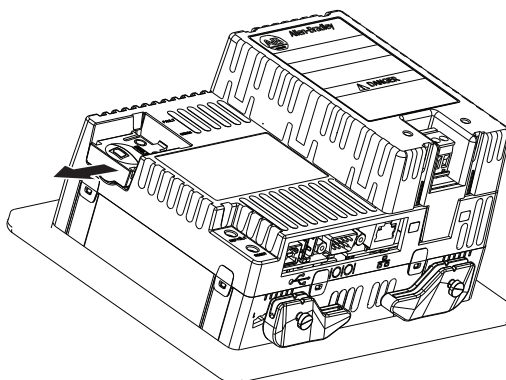
液漏れしているバッテリーの取扱いと廃棄をはじめとする、リチウムバッテリーの取扱いに関する安全情報は、『Guidelines for Handling Lithium Batteries』(Pub. No. [AG 5-4](#)) を参照してください。

400 および 600 ターミナル

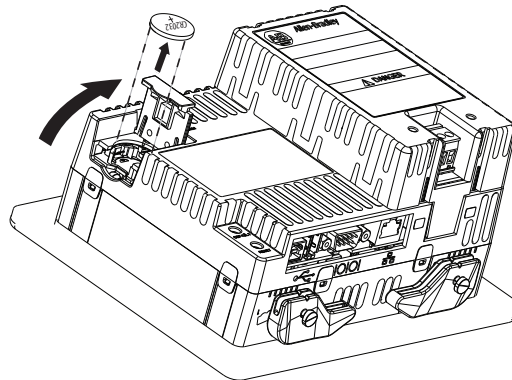
バッテリーは、ターミナルがパネルに取付けられた状態のままで交換できます。バッテリーを取り外すのに、特別な工具は必要ありません。

以下の手順に従って、400 または 600 ターミナルのバッテリーを交換してください。

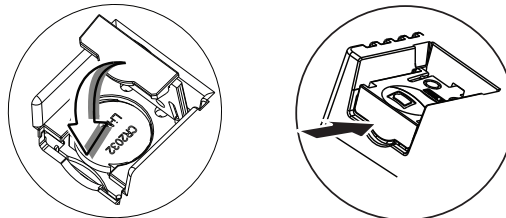
1. ターミナルの電源を切断します。
2. まっすぐ引っ張ってバッテリーカバーのラッチを解除します。



3. カバーを持ち上げます。
4. バッテリーを取り外します。



5. プラス (+) 極を上向きにして新しいバッテリーを取付け、カチッと音がしてバッテリーがはまるまで軽く押しします。

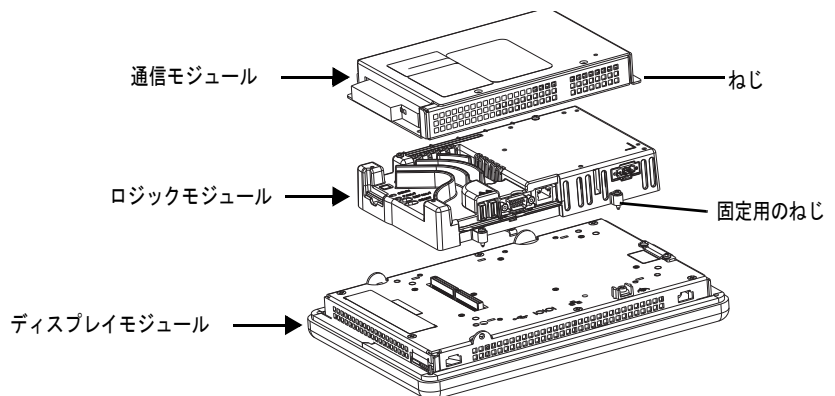


6. バッテリーカバーを閉めて、カチッという音がするまで端を押し込みます。

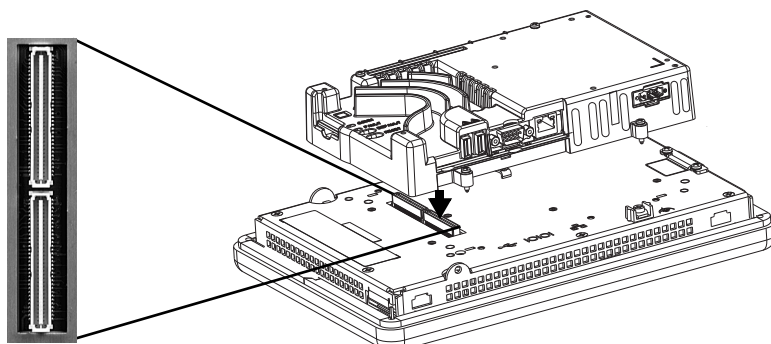
700 ~ 1500 ターミナル

以下の手順に従って、バッテリーを交換してください。

1. ターミナルの電源を切断します。
2. 安定した平らな場所に、ディスプレイ側を下にしてターミナルを置きます。
3. 通信モジュールが取付けられている場合は、4つのねじを外して通信モジュールをロジックモジュールから取り外します。
4. ロジックモジュールをディスプレイに固定している4つの固定用のねじを緩めます。



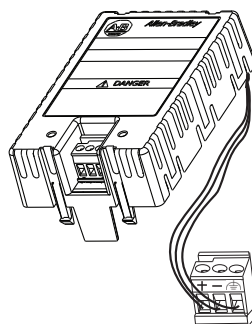
5. ロジックモジュールをターミナルから注意して持ち上げて、裏返して回路基板が見えるようにします。
6. 回路基板上のバッテリーの位置を確認します。
7. バッテリーの側面を持ち上げてバッテリーを外します。
バッテリーを外しても、約 15 秒間は時計やカレンダーのデータは失われません。
8. 新しいバッテリーを差し込みます。
9. ロジックモジュールの底面にあるコネクタとディスプレイモジュールの背面にあるコネクタの位置を合わせて、ロジックモジュールを元通り取付けます。



10. ロジックモジュールがしっかりと固定されるまで押込みます。
11. ロジックモジュールを固定するために、4つの固定用ねじを 0.58Nm (5 ~ 7 ポンドインチ) のトルクがかかるように締めます。
12. 必要に応じて、通信モジュールを取付け、4つのねじを 0.58Nm (5 ~ 7 ポンドインチ) のトルクがかかるように締めます。

AC 電源モジュールの取付け

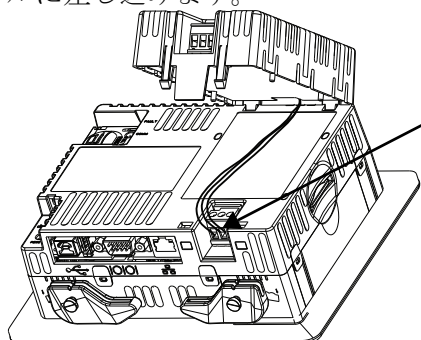
400 および 600 ターミナル (Cat.No. 2711P-6RSA) の AC 電源モジュールは、DC 電源ターミナルの裏面に取付けられ、ターミナルを DC 電源から AC 電源に変換します。AC モジュールは、ターミナルがパネルに取付けられた状態のまま取付けることができます。特別な工具は必要ありません。



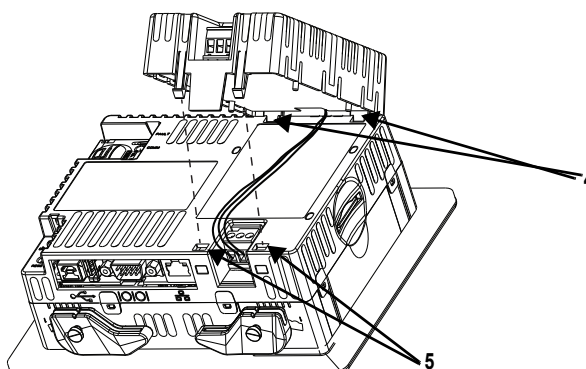
以下の手順に従って、AC 電源モジュールを取付け、配線してください。

1. ターミナルの電源を切断します。
2. ターミナルに現在取付けられている DC 電源端子台を取り外します。
[37 ページの「電源装置の端子台の取り外しおよび取付け」](#)を参照してください。

3. AC 電源モジュールに接続されている DC 電源端子台をターミナルに差し込みます。



4. AC モジュールの短い 2 つのタブをターミナルの後ろにあるスロットに挿入します。



5. 2 つの長いツマミがターミナルの反対側のスロットにパチッと止まるまでモジュールを押し下げます。

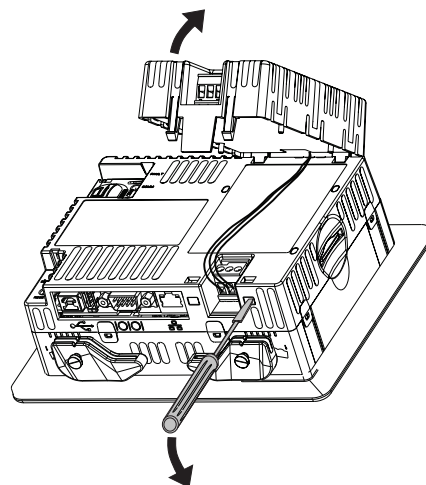
モジュールがしっかり接続され、電源ワイヤがモジュールとターミナルの間に挟まっていないことを確認します。

6. AC 電源を AC モジュールの端子台に接続します。

電源の配線方法の詳細は、[42 ページの「AC 電源の接続」](#)を参照してください。

以下の手順に従って、AC 電源モジュールを取り外してください。

1. ターミナルの電源を切断します。
2. AC 電源の配線を電源端子台から取り外します。
3. 小型マイナスインスライバを AC モジュールの下にある 2 つのスロットのいずれかに挿入し、慎重にてこの原理で動かして、スロットからツマミを外します。
4. モジュールの前面を引き出し、後ろのツマミを外します。
5. DC 電源端子台と配線をターミナルから取り外します。



製品 ID ラベルの除去

ターミナルの製品 ID ラベルをカスタムラベルと交換します。

1. 指またはピンセットでアレン・ブラドリーのラベルをはがします。



2. ぬれた布またはイソプロピルアルコールで貼り付け場所を拭き取ります。
3. 新しいラベルの接着面をはがし、同じ場所に貼ります。

キーパッドの刻印文字の 差込みシートの交換

刻印文字シートは、400 キーパッドターミナルを除きキーパッドターミナル向けに個別のカタログ番号でご注文いただけます。刻印文字シートの片面にはデフォルトのキー刻印文字が印字され、別面はカスタム刻印文字を作成するために空白になっています。

600 ターミナル

ファンクションキー F1 ～ F10 の刻印文字の差込みシートは、ユニットの背面からアクセスでき、パネルに取付けたターミナルと交換できます。

以下の手順に従って、刻印文字の差込みシートを交換してください。

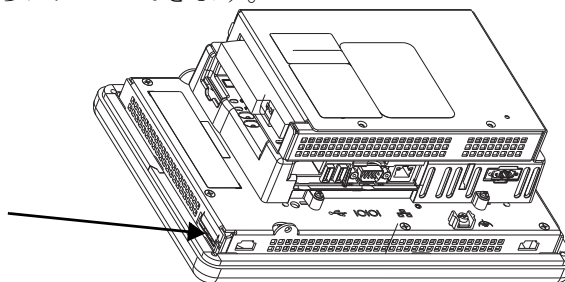
1. ターミナルの電源を切断します。
2. ユニットの背面から、スロットの刻印文字シートを引き出します。



3. 新しい刻印文字の差込みシートを同じスロットに差し込みます。

700 ～ 1500 ターミナル

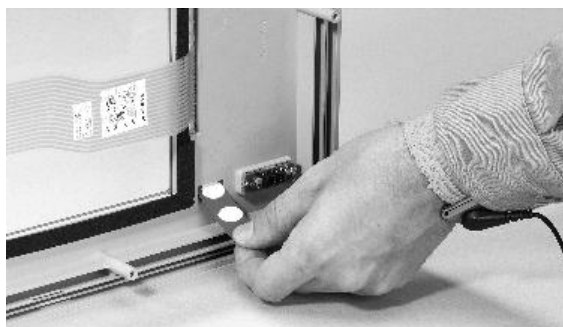
700 ～ 1500 ターミナルでは、F1-Fxx の刻印文字シートにユニットの背面からアクセスできます。



ディスプレイのベゼルを取り外すと、K1-Kxx の刻印文字差し込みシートにアクセスできます。

以下の手順に従って、K1-Kxx キーの刻印文字の差し込みシートを交換してください。

1. ターミナルの電源を切断します。
2. [124 ページ](#)の説明に従ってディスプレイモジュールのベゼルを取り外します。
3. ベゼルのスロットから刻印文字差し込みシートを引き出します。



4. エンドタブしか見えなくなるまで、新しい刻印文字差し込みシートをスロットに差し込みます。
5. ディ스플레이モジュールのベゼルを元通りに取付けます。

SD カードのロード

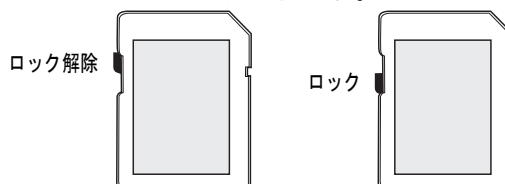
セキュアデジタル (SD) カードを SD カードスロットに差し込むと、格納容量を追加できます。サポートされているカードには Cat.No. 1784-SDx などがあります。

SD カードはホットスワップ可能なので、ターミナルが動作中でも挿入したり、取り外したりすることができます。

SD カードスロットには内側から、またはターミナルが設置されているパネルの後ろからアクセスできます。

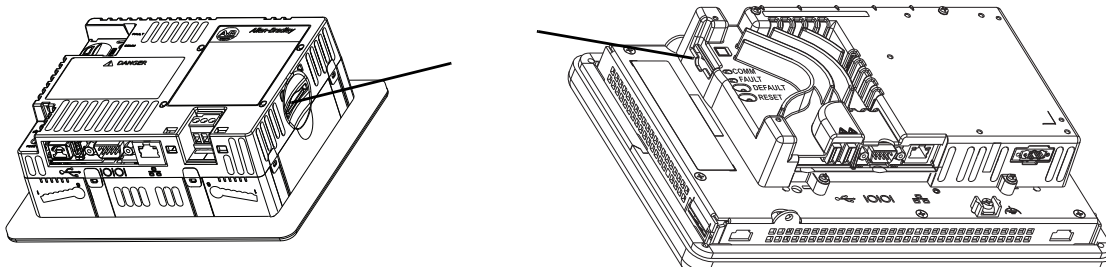
以下の手順に従って、SD カードをカードスロットに取付けてください。

1. 希望の運用に応じて SD カードがロックまたはロック解除されていることを確認します。
 - ロックが解除されている場合、ターミナルはカードのデータを読み書きできます。
 - ロックされている場合、ターミナルはカードのデータを読み取るのみ可能です。



注意: スロットに挿入する前に、SD カードの向きを確認してください。スロットにカードを無理やり押し込むと、カードやターミナルが損傷することがある。

2. カチッというまで SD カードをスロットにしっかり挿入します。



カードをスロットから取り出すには、SD カードを押して外します。

- ヒント**
- SD カードのボリューム名は Storage Card2、Storage Card3... のようになります。
 - SD カードのボリュームと物理的特性は、他の PanelView Plus 製品で使用されている CompactFlash カードに適合しています。CompactFlash カード内のアプリケーションは SD カードに移行できます。

ディスプレイの清掃

保護用の反射防止オーバーレイを使用すると、ディスプレイの画面を清掃しやすくなります。



注意：研磨性の洗剤や溶剤は、ディスプレイを損傷させることがあります。ディスプレイをごしごし磨いたり、ブラシを使用したりしないでください。

以下の手順に従って、ディスプレイ画面を清掃してください。

1. ターミナルの電源を切断します。
2. 清潔なスポンジまたは柔らかい布と、低刺激性の石けんまたは洗剤を使用して、ディスプレイを清掃します。
3. セーム皮または湿ったセルローススポンジでディスプレイを拭いて、水濡れを防ぎます。

イソプロピルアルコール (70% の濃度) で軽く拭いて乾かす前に、新たに付いた塗料のはねやグリースを拭き取ってください。その後で、低刺激性の石けんまたは洗剤を使用してディスプレイを洗浄し、きれいな水ですすぎます。

ターミナルの接続

項目	参照ページ
USBポート	140
イーサネット接続	142
シリアル接続	144
DH-485/DH+通信モジュール	147
ControlNet通信モジュール	150
コントローラ接続	153



注意：配線および安全に関するガイドライン

デバイスの配線を行なう場合は、NFPA 70E 『Electrical Safety Requirements for Employee Workplaces』、IEC 60364 『Electrical Installations in Buildings』、または設置する国の他の適合する配線の安全要件を参照して使用してください。NFPA ガイドラインの他に、以下の点にもご注意ください。

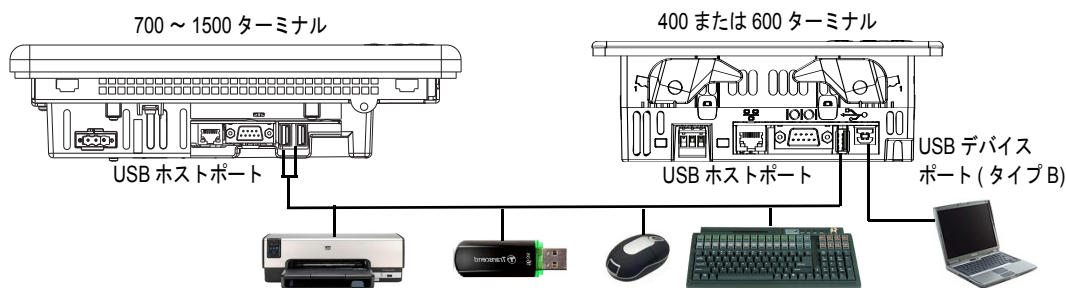
- 通信ケーブルは、入力電源とは異なる経路で機器まで配線してください。同じ配線管内で信号配線と電源配線を行なわないでください。
- 電力線および通信線を交差しなければならないときは、垂直交差になるようにしてください。
- 通信線は、低レベル DC I/O 回線 (10V 未満) と同じ配線管に入れることができます。
- 電磁干渉 (EMI) を防止するために、ケーブルを適切にシールドし、接地してください。EMI によるノイズを最小限に抑えることができます。接地処理は電気設備における安全対策です。

推奨される接地方法については、米国消防協会 (NFPA) が公表する米国電気工事規定 (NEC) を参照してください。

USB ポート

すべてのターミナルには1つまたは2つの USB 2.0 ホストポートがあり、400 および 600 ターミナルには1つの USB 2.0 デバイスポートがあります。

図 14 – USB ポート



重要 USB ホストおよびデバイスポートは一時的な利用のみを目的としており、ランタイムの操作には使用されません。

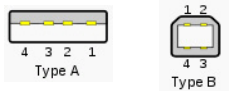
表 61 – USB デバイスのサポート

USB ポートタイプ	サポートされるUSBデバイス	ヒント
ホストポート (タイプ A)	<ul style="list-style-type: none"> キーボードまたはマウス、ネイティブ・デバイス・ドライバのあるHIDデバイス 外付けストレージ向けUSBフラッシュドライブ サポートされているプリンタ カメラ、モデム、およびバーコードリーダー 	互換性のあるUSBデバイスのリストについては、ナレッジベース (http://www.rockwellautomation.com/knowledgebase) にアクセスして、ID 115072 を検索してください。 USBフラッシュドライブのボリューム名は、USB Storage、USB Storage2のようになります。USBフラッシュドライブのパーティションは、コントロールパネルのStorage Managerによって管理されます。
デバイスポート (タイプB、400および600ターミナルのみ)	USBリモートRNDISネットワーク・デバイス・ドライバがインストールされているホストコンピュータ。	USBリモートNDISドライバをコンピュータにインストールし、USB接続のためにターミナルを構成する方法については、 http://www.rockwellautomation.com/knowledgebase にアクセスして、ナレッジベースでID 115608を検索してください。

重要 USB ホストポートと USB 周辺機器を危険な領域で使用する場合は、[29 ページ](#)の情報を参照してください。

USB ポートは USB アイコンによって識別されます。各 USB ホストポートは、DC5V 時に 0.5A をサポートします。接続された USB デバイスがこの電力負荷を超えないようにしてください。

表 62 – USB コネクタのピン配列

USBアイコン	USBポート	ピン	信号	説明
		1	VCC	+5V
		2	D	データ+
		3	D	データ+
		4	GND	接地

エラーのない伝送を実現するため、Hi-speed USB 2.0 認定ケーブルを推奨します。



警告： USB ポートから給電されない USB 機器は、ターミナルと同じエンクロージャ内に配置する必要があります。USB 機器はターミナルと同じ接地システムに接続し、ガルバニ絶縁を提供する USB ハブと使用する必要があります。

ターミナルには外部電源から給電される USB ハブのみを使用します。USB ハブにデバイスを取付ける前に、電源アダプタが接続され電源が投入されていることを確認してください。

イーサネット接続

イーサネットポートは、標準イーサネットおよびネットワーク接続を使用して EtherNet/IP ネットワーク上のコントローラに接続します。イーサネットポートは、アプリケーション転送と印刷もサポートしています。

ヒント 別のイーサネットポートが必要な場合は、2711P-RN20 イーサネット通信モジュールを 700 ~ 1500 ターミナル用に使用できます。このモジュールは各自固有の IP アドレスを持ちます。

イーサネットコネクタ

イーサネットポートは、ネットワーク通信用に RJ45、10/100Base-T コネクタを持ち、MDI/MDI-X 接続をサポートしています。

図 15 – イーサネットコネクタ

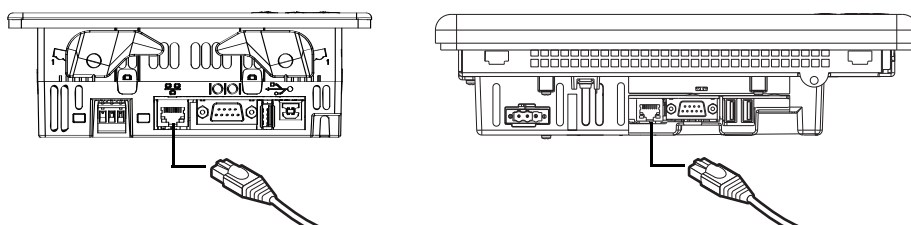


表 63 – イーサネットコネクタのピン配列

コネクタ	ピン	ピン名	ピン	ピン名
RJ45 コネクタ  緑色 黄色 インジケータインジケータ	1	送信-	5	未使用
	2	送信-	6	受信+
	3	受信+	7	未使用
	4	未使用	8	未使用

表 64 – イーサネット・ステータス・インジケータ

インジケータ	LEDの色	説明
リンクの整合性	黄色	リンクが存在するときにアサートされている。
アクティビティ LED	緑色	受信/送信アクティビティが存在するときにパルスがアクティブになっている。

イーサネットケーブル

表 65 – イーサネットケーブルの要件

対象ターミナルモデル	使用するイーサネットケーブル
700~1500ターミナル	船舶放出規制およびEU 89/336/EEC EMC指令に適合するために、TIA 568-B.1に準拠したBelden 7921Aシールド・イーサネット・カテゴリ5eケーブルと、IEC 60603-7に準拠したRJ45コネクタ。
400~600ターミナル	カテゴリ5のより線ケーブルを使用。 ロジックコントローラまたはスイッチに直接接続する場合は、Cat.No. 2711P-CBL-EX04などの標準イーサネットケーブルまたはクロスオーバーケーブルを使用できる。

イーサネットポートとイーサネットハブ(リピータまたはファイバーなし)の10/100 Base-Tポートとの間の最大ケーブル長は、100m(328フィート)です。



警告: この機器またはネットワーク上の機器に電力が印加されている状態で、通信ケーブルの取付けまたは取り外しを行なわないでください。危険な環境で取付けを行なうと、電気的なアークによって爆発が起こる可能性があります。作業を行なう前に、電源が切断されているか、または周辺に危険がないかを確認してください。

セキュリティに関する注意事項

IGMP (Internet Group Management Protocol) は、IPv4 マルチキャスト用のプロトコルです。マルチキャストとは、ネットワーク上の単一の送信機と複数の受信機との間で行なわれる通信です。IGMP は、マルチキャストをサポートする IPv4 ルータとマルチキャストグループのメンバー間でメンバーシップ・ステータス・データをやり取りするために使用されます。ルータは、ネットワーク内でメッセージパケット用の最も効率的なルートを検出するか、サブネットワーク間でパケットをルーティングすることによって通信ネットワーク上でメッセージの配信を迅速化する中継デバイスです。サブネットワークは、IP アドレス指定を通じて識別される組織のネットワークに属する個別の部分です。

PanelView Plus ターミナルは、RFC 1112 および RFC 2236 に記載の通り、IPv4 マルチキャスト (IGMP バージョン 2) に対するレベル 2 (フル) サポートを提供します。

SNMP (Simple Network Management Protocol) は、内部ネットワーク管理用のプロトコルであり、サポートされていません。

通常、ポート 137 と 138 は、他の Microsoft および IBM ネットワーク・オペレーティング・システムと同様に Windows CE.NET で使用される NetBIOS プロトコルをサポートするために開放されています。

シリアル接続

RS-232 シリアルポートは多目的に使用でき、以下の接続をサポートしています。

- シリアル接続を介した DH-485 通信
- 直接接続またはモデム接続を使用した、コントローラとの DF1 全二重通信
- サードパーティのポイント・ツー・ポイント通信
- アプリケーションの転送と印刷

シリアルポートは、9 ピンオス型 RS-232 コネクタです。表 66 に、ピン配列の説明およびこれらのピンのコントローラ上のシリアルポートとの対応を示します。

シリアル接続の最大ケーブル長は 15.24m (50 フィート) です。

図 16 – RS-232 シリアルポート

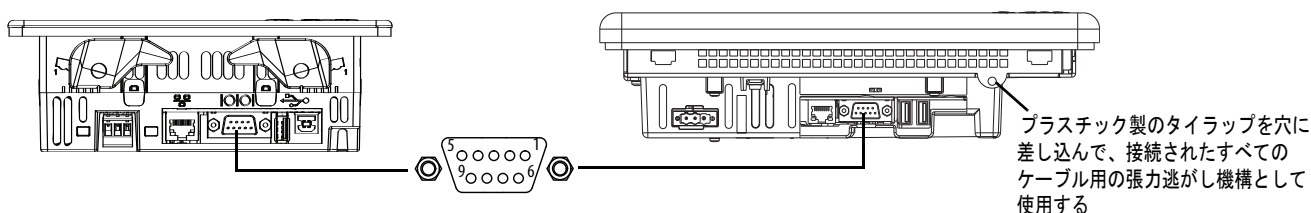


表 66 – RS-232 シリアル・ポート・コネクタのピン配列

PanelView Plus 6のRS-232ポート 9ピンDCE		SLCまたはLogix 9ピン	PLC 25ピン	MicroLogix/ ENI 8ピンDIN
1				
2	RXD →	2	3	4
3	← TXD	3	2	7
4	← DTR	4	20	
5	← COM →	5	7	2
6	→ DSR	6	6	
7	← RTS	7	4	
8	→ CTS	8	5	
9				
コネクタシェル	シャーシ グラウンド			

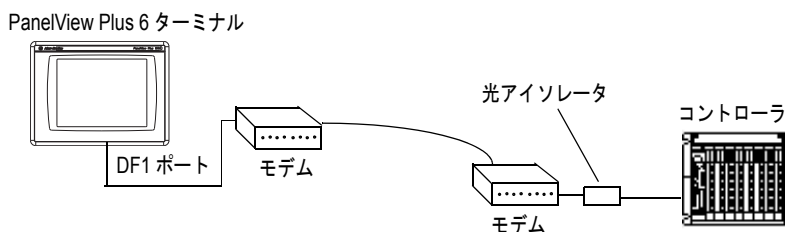


警告：ターミナル、またはケーブルの他方の端にあるシリアルデバイスに電力が印加されている状態で、通信ケーブルの取付けまたは取り外しを行わないでください。危険な環境で取付けを行なうと、電気的なアークによって爆発が起こる可能性があります。作業を行なう前に、電源が切断されているか、または周辺に危険がないかを確認してください。

モデム接続

ターミナルとコントローラ間で有線または無線モデム接続が可能です。各モデムは全二重通信をサポートしている必要があります。設定および構成の詳細は、ご使用のモデムのユーザーズマニュアルを参照してください。

図 17 - モデム接続



ヌル・モデム・ケーブルの構成

ヌル・モデム・ケーブルを構成するには、以下のピン配列を参照してください。

表 67 - ヌルモデムのピン配列

ピンの説明	PanelView Plus 6 9ピン	9ピンモデム	PanelView Plus 6 9ピン	25ピンモデム	ピンの記号
FG (フレームグラウンド)	-	-	-	1	FG
TD (データ送信)	3	2	3	3	RD
RD (データ受信)	2	3	2	2	TD
RTS (送信要求)	7	8	7	5	CTS
CTS (送信クリア)	8	7	8	4	RTS
SG (信号グラウンド)	5	5	5	7	SG
DSR (データ・セット・レディ)	6	4	6	20	DTR
DSR (データ端末レディ)	4	6	4	6	DSR

コンピュータ接続

RS-232 シリアルポートは、ターミナルとコンピュータ間の直接接続を使用した、アプリケーションのアップロード/ダウンロードをサポートしています。

図 18 – コンピュータへのシリアルポート接続

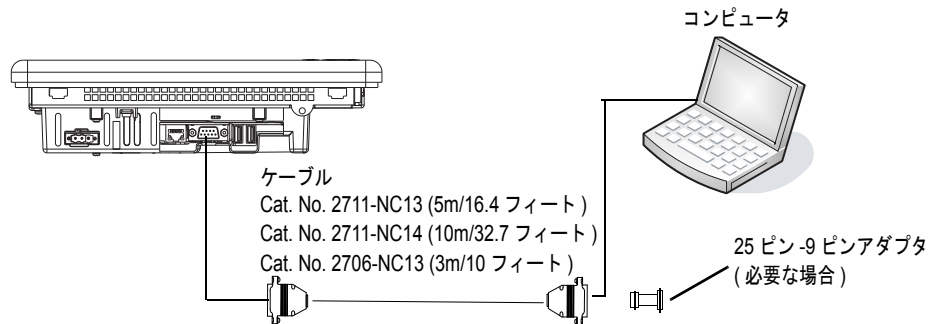


表 68 – ハンドシェイクを使用するアップロード/ダウンロードケーブル

PanelView Plus 6ポート(DCE)		ハンドシェイクを使用する コンピュータポート(DTE)
9ピン/オス		9ピン/オス
1 NC		1 DCD
2	RXD →	2 RXD (データ受信)
3	← TXD	3 TXD (データ送信)
4 NC		4
5	← COM →	5 COM
6 (+12V まで上昇)	DSR →	6 DSR
7	← RTS	7 RTS
8	CTS →	8 CTS
9 NC		9 NC

表 69 – ハードウェアのハンドシェイクを使用しないアップロード/ダウンロードケーブル

PanelView Plus 6ポート (DCE)		コンピュータ ポート(DTE)
9ピン/オス		9ピン 25ピン
2	RXD →	2 3
3	← TXD	3 2
5	← COM →	5 7

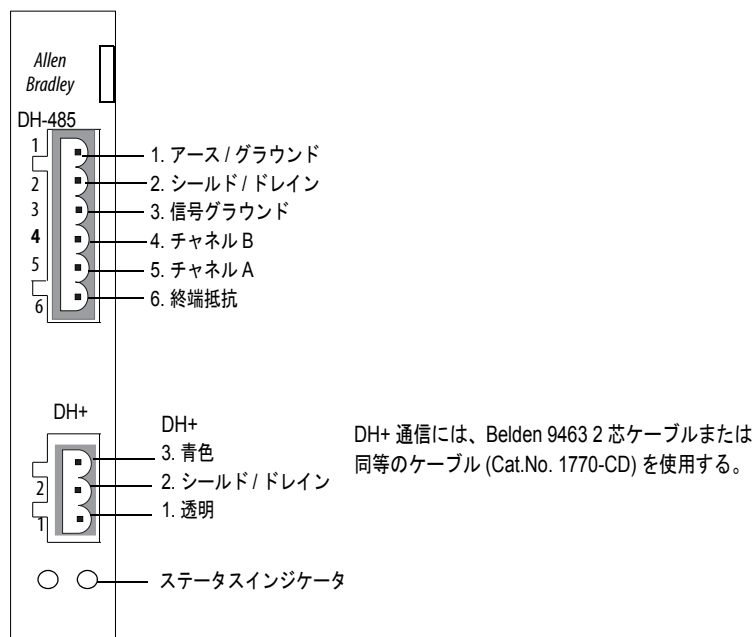
DH-485/DH+ 通信 モジュール

Cat.No. 2711P-RN6 または 2711P-RN6K 通信モジュール付きの 700 ～ 1500 ターミナルは以下のネットワークとの通信をサポートしています。

- DH+ ネットワーク
- DH-485 ネットワーク

この通信モジュールは、通信プロトコルごとに個別のポートを備えています。ユーザは一度に1つのネットワークとしか通信することはできません。

図 19 – DH-485/DH+ 通信モジュールのコネクタ



重要 適切なコントローラ接続については、ご使用のコントローラのマニュアルを参照してください。

ステータスインジケータ

このモジュールには、DH-485 または DH+ ネットワーク接続のステータスを示すインジケータがあります。

表 70 – DH-485 および DH+ ステータスインジケータ

インジケータの状態	説明
消灯	チャンネルがオンラインではない。
点滅/緑色	デバイスはネットワーク上でただ1つのノード
点灯/緑色	デバイスはオンラインであり、トークンを受信中
点滅/赤色	DH-485: ノードの重複 DH+: パリティエラー
点灯/赤色	自己診断テストに失敗

DH-485 ネットワークポートの配線

図を参照して、Belden 3106A または 9842 ケーブルに RS-485 コネクタを接続します。標準のアレン・ブラドリーのケーブルを使用する場合は、[153 ページの「コントローラ接続」](#)を参照してください。

重要 デイジー・チェーン・ネットワークを推奨します。図に示されているようなスター型/デイジーチェーンが混成するネットワークはお奨めできません。

図 20 – デイジーチェーン接続

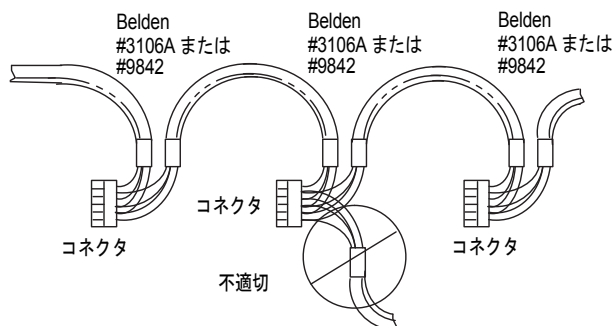


図 21 または 図 22 に示されているように、Belden 3106A または 9842 ケーブルにコネクタを接続します。

図 21 – シングルケーブル接続

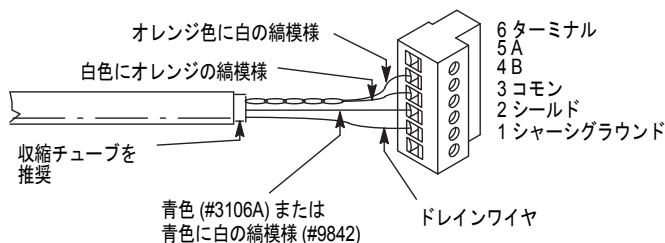


図 22 – 複数ケーブル接続

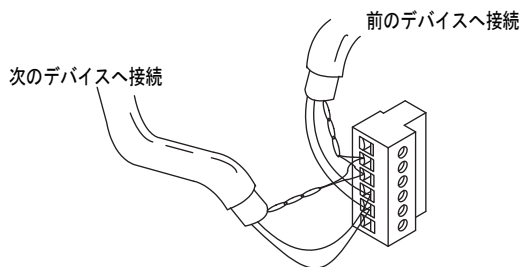


表 71 – Belden 3106A のワイヤ接続

ワイヤ/ペア	接続するワイヤ	接続先の端子
シールド/ドレイン	被膜なし	端子2 - シールド
青色	青色	端子3 - (コモン)
白色/オレンジ色	白色にオレンジの縞模様	端子4 - (データB)
	オレンジ色に白の縞模様	端子5 - (データA)

DH+ ネットワーク接続

Belden 9463 2 芯ケーブルまたは同等のケーブル (Cat.No. 1770-CD) を使用して、端子を DH+ リンクに接続します。

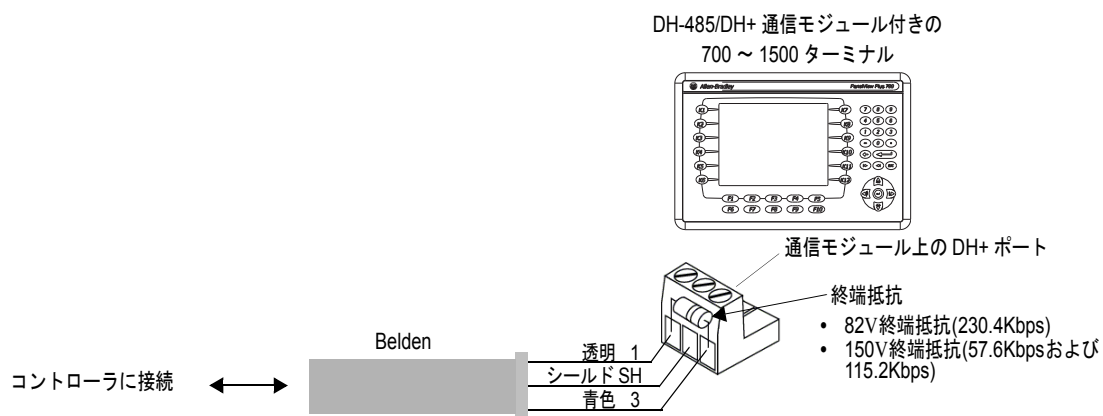
DH+ リンクは、以下の 2 通りの方法で接続できます。

- トランクライン/ドロップライン - ドロップラインから、プロセッサの DH+ コネクタのねじ端子までを接続
- デイジーチェーン - プロセッサの DH+ コネクタのねじ端子までを接続

DH+ 通信リンクを取付けるときは以下のガイドラインに従ってください。

- 以下のケーブル長を超えてはなりません。
 - トランク・ライン・ケーブル長 : 3,048m (10,000 フィート)
 - ドロップ・ライン・ケーブル長 : 30.4m (100 フィート)
 最大ケーブル長は通信速度によって決まります。
- 1 つの DH+ リンクで接続するステーションの数は 64 を超えてはなりません。

図 23 - DH+ リンクへのターミナルの接続



ControlNet 通信 モジュール

Cat.No. 2711P-RN15S または 2711P-RN15SK 通信モジュール付きの 700 ~ 1500 ターミナルは、ControlNet 通信および ControlNet ネットワーク上のデバイス間でのアプリケーションの転送をサポートしています。

参考資料

ControlNet 製品の詳細は、以下の資料を参照してください。

- 『NetLinx Selection Guide』 (Pub.No. [NETS-SG001](#))
- 『ControlNet Coax Media Planning and Installation Guide』 (Pub.No.[CNET-IN002](#))

ロックウェル・オートメーションの Web サイトに、ControlNet 製品の情報と製品説明を掲載しています。 <http://www.rockwellautomation.com>

ControlNet プロトコル

ターミナルは、PLC-5C コントローラと ControlLogix コントローラでの非スケジュール型 / スケジュール型メッセージ、スケジュール型 I/O、および冗長ケーブル配線をサポートしています。

ControlNet アーキテクチャは、複数のプロセッサをサポートし、ネットワークのトランクケーブルに沿った任意の場所において最大 99 のノード (タップを介して) をサポートします。タップによる離隔距離には下限がなく、ユーザは、あらゆるノード (アダプタを含む) から ControlNet ネットワークにアクセスできます。

互換性のある ControlNet コントローラ

ControlNet モジュール付きの PanelView Plus 6 ターミナルは、非スケジュール型メッセージを使用して PLC-5C または ControlLogix コントローラと通信します。

- PLC-5C (PCCC コマンド)
- ControlLogix コントローラ (CIP プロトコル)

以下のコントローラがサポートされています。

- 1756-CNB ControlNet モジュール付きの ControlLogix コントローラ
- PLC-5/20C、PLC-5/40C、PLC-5/60C、PLC-5/80C

ソフトウェアおよびファームウェア要件

ControlNet ネットワーク上でアレン・ブラドリー・コントローラを構成して通信を行なうには、開発用コンピュータおよび PanelView Plus 6 ターミナルにソフトウェアおよびファームウェアをインストールする必要があります。

表 72 – ControlNet 非スケジュール通信

ソフトウェア/ファームウェア	最低限のバージョン
FactoryTalk View Studio	6.0以降
FactoryTalk View Machine Edition ランタイム	6.0以降
ControlNet モジュールファームウェア	2711P-RN15S、シリーズA、Rev A (ファームウェアリビジョン2.07以降) ⁽¹⁾

(1) これは、ControlNet モジュール付きの事前構成済みのユニットとして注文されたターミナルに適用されます。

表 73 – ControlNet スケジュール通信

要件	最低限のバージョン
FactoryTalk View Studio	6.0以降
FactoryTalk View Machine Edition ランタイム	6.0以降
RSNetWorx™ for ControlNet	5.11以降
Studio 5000	21.00.00以降
ControlNet モジュールファームウェア	2711P-RN15S、シリーズA、Rev C (ファームウェアリビジョン3.08以降) ⁽¹⁾

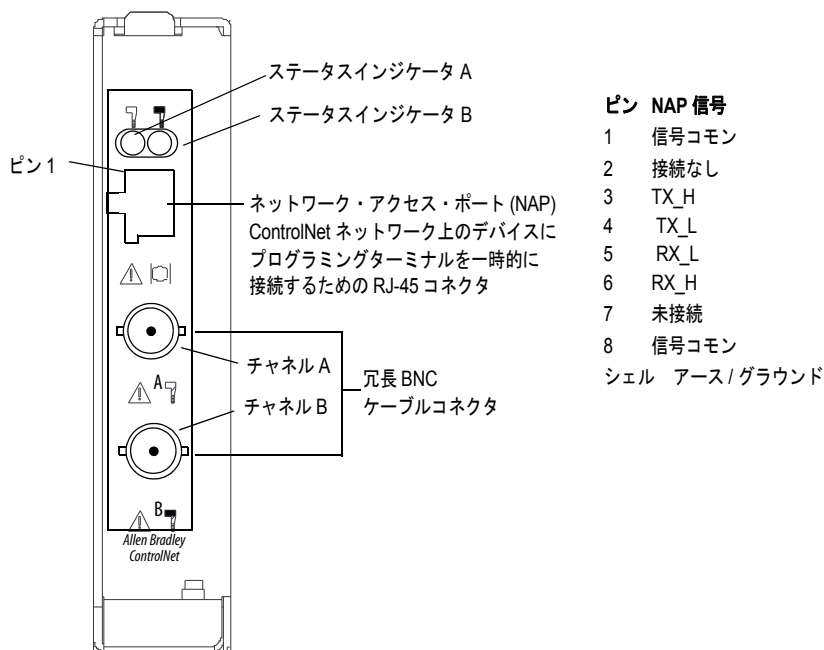
(1) これは、ControlNet モジュール付きの事前構成済みのユニットとして注文されたターミナルに適用されます。



警告 : ControlNet 通信モジュール (Cat.No. 2711P-RN15S または 2711P-RN15SK) は、FactoryTalk View ME ファームウェアリビジョン 3.20.04 以前では動作しません。リビジョン 3.07 のファームウェアが搭載されたすべての ControlNet モジュールは、リビジョン 3.08 以降にアップグレードする必要があります。そうしない場合は、出力が不確定な状態になる可能性があります。

ControlNet モジュールのコネクタ

図 24 – Cat. No. 2711P-RN15S または 2711P-RN15SK 通信モジュール



重要 冗長ケーブル用の BNC コネクタとネットワーク・アクセス・ポート (NAP) の両方を使用してネットワークにアクセスすることはできません。

ControlNet ネットワークへのモジュール接続

ControlNet 通信モジュールを使用して以下の接続を行なうことができます。

- ControlNet ネットワークへ直接接続する。この場合はタップを必要とする。



注意：複数の ControlNet ネットワークを通信モジュールに接続してはなりません。第 2 のネットワークをモジュールに接続しようとした場合、通信システムに誤動作が発生する場合があります。

- すでに ControlNet ネットワークに接続されているデバイスに接続する。

ControlNet コンポーネントの詳細は、『ControlNet Coax Media Planning and Installation Guide』(Pub.No. [CNET-IN002](#)) を参照してください。



警告：クラス I、ディビジョン 2 の危険な領域で使用するとき、所轄機関の電気工事規定に準拠する正しい配線を行なって、この機器を適切なエンクロージャ内に取付ける必要があります。



警告：この機器またはネットワーク上の機器に電力が印加されている状態で、通信ケーブルの取付けまたは取り外しを行なわないでください。危険な環境で取付けを行なうと、電気的なアークによって爆発が起こる可能性があります。作業を行なう前に、電源が切断されているか、または周辺に危険がないかを確認してください。

コントローラ接続

以下の表に、ランタイム通信用のコントローラおよびインターフェイスモジュールへの PanelView Plus 6 接続について概要を示します。

表 74 – PanelView Plus 6 ターミナルから SLC コントローラに接続

プロトコル	PanelView Plus 6通信ポート	SLC 500、5/01、5/02 CH1 RJ45 (DH-485)	SLC 5/03、5/04、5/05 CH0 (9ピンRS-232) (DF1またはDH-485)	LC 5/03 CH1 RJ45 (DH-485)	SLC 5/04 CH1 (DH+)	SLC 5/05 CH1 (ENET)
DF1	RS-232 (DF1)ポート (9ピン) すべてのターミナル	-	2711-NC13 (5m/16フィート) 2711-NC14 (10m/32フィート)	-	-	-
DH-485	RS-232 (DH-485)ポート (9ピン) すべてのターミナル	AIC+モジュール (1761-NET-AIC)を使用して ポート1または2に接続	2711-NC13 (5m/16フィート) 2711-NC14 (10m/32フィート)	AIC+モジュール (1761-NET-AIC)を使用 してポート1または 2に接続	-	-
	DH-485ポート 700~1500ターミナルのみ 2711P-RN6、2711P-RN6Kが必要	1761-CBL-AS03 (3m/10フィート) 1761-CBL-AS09 (9m/30フィート)	AIC+モジュール (1761-NET-AIC) を使用してポート3に接続	1761-CBL-AS03 (3m/10フィート) 1761-CBL-AS09 (9m/30フィート)	-	-
EtherNet/IP	EtherNet/IPポート すべてのターミナル 2711P-RN20は、追加ポートを提供 - 700~1500ターミナルのみ	-	イーサネットケーブル付きの 1761-NET-ENIモジュールを使用	-	-	1585J-Mタイプケーブルま たは2711P-CBL-EX04 (4m/14フィート)
ControlNet	ControlNetポート 700~1500ターミナルのみ 2711P-RN15S、2711P-RN15SKが必要	-	-	-	-	-
DH+	DH+ポート - 700~1500ターミナルのみ 2711P-RN6、2711P-RN6Kが必要	-	-	-	シールド2芯 ケーブル (1770-CD)	-

表 75 – PanelView Plus 6 ターミナルから PLC-5 および MicroLogix コントローラに接続

プロトコル	PanelView Plus 6通信ポート	PLC-5、PLC-5C、PLC-5E CH0 (25ピンRS-232) (DF1)	MicroLogix 1400、 1500LRP CH1/CH2 (9ピンRS-232) (DF1またはDH-485)	MicroLogix 1000、1100、 1200、1400、1500LSP CH0 (8ピンMini DIN) (DF1またはDH-485)	MicroLogix 1100、1400 イーサネット
DF1	RS-232 (DF1)ポート (9ピン) すべてのターミナル	2711-NC13 (5m/16フィート) 2711-NC14 (10m/32フィート) (9ピン-25ピンアダプタが必要)	2711-NC13 (5m/16フィート) 2711-NC14 (10m/32フィート)	2711-NC21 (5m/16フィート) 2711-NC22 (15m/49フィート) ⁽¹⁾	-
DH-485	RS-232 (DH-485)ポート (9ピン) すべてのターミナル	-	2711-NC13 (5m/16フィート) 2711-NC14 (10m/32フィート)	2711-NC21 (5m/16フィート) 2711-NC22 (15m/49フィート)	-
	DH-485ポート 700~1500ターミナルのみ 2711P-RN6、2711P-RN6Kが必要	-	-	AIC+モジュール (1761-NET-AIC) を使用してポート3に接続	-
EtherNet/IP	EtherNet/IPポート すべてのターミナル 2711P-RN20は、追加ポートを提供 - 700~1500ターミナルのみ	PLC-5Eへの接続 (1585J-Mタイプケーブルまたは 2711P-CBL-EX04 (4m/14フィート)を使用)	イーサネットケーブル付きの1761-NET-ENIモジュールを使用	-	1585J-Mタイプケーブルまたは 2711P-CBL-EX04 (4m/14フィート) ⁽¹⁾
ControlNet	ControlNetポート 700~1500ターミナルのみ 2711P-RN15S、2711P-RN15SKが必要	PLC-5Cに接続 (ControlNetケーブルを使用)	-	-	-
DH+	DH+ポート 700~1500ターミナルのみ 2711P-RN6、2711P-RN6Kが必要	シールド2芯ケーブル (1770-CD)	-	-	-

(1) ターミナルとコントローラが同じ電源を使用しないときは、絶縁のために AIC+ モジュールを使用することをお奨めします。

表 76 – PanelView Plus 6 ターミナルから Logix コントローラに接続

プロトコル	PanelView Plus 6 通信ポート	ControlLogix CH0 (9ピンRS-232) (DF1)	CompactLogix CH0 (9ピンRS-232) (DF1またはDH-485)
DF1	RS-232 (DF1)ポート (9ピン) すべてのターミナル	2711-NC13 (5m/16フィート) 2711-NC14 (10m/32フィート) 2706-NC13 (3m/10フィート)	2711-NC13 (5m/16フィート) 2711-NC14 (10m/32フィート) 2706-NC13 (3m/10フィート)
DH-485	RS-232 (DH-485)ポート (9ピン) すべてのターミナル	–	2711-NC13 (5m/16フィート) 2711-NC14 (10m/32フィート) 2706-NC13 (3m/10フィート)
	DH-485ポート 700~1500ターミナルのみ 2711P-RN6、2711P-RN6Kが必要	–	AIC+モジュール (1761-NET-AIC) ポート3に接続
EtherNet/IP	EtherNet/IPポート すべてのターミナル 2711P-RN20は、追加ポートを提供 - 700~1500 ターミナルのみ	1585J-Mタイプケーブルまたは 2711P-CBL-EX04 (4m/14フィート)付きの 1756-EN2Tまたは1756-ENBTモジュールを使用	1769-L35E、1769-L23E、1769-L32E、 または1768-ENBTモジュールに接続 (1585J-Mタイプケーブルまたは2711P-CBL-EX04 (4m/14フィート)を使用)
ControlNet	ControlNetポート (700~1500ターミナルのみ) 2711P-RN15S、2711P-RN15SKが必要	1756-CNBモジュールをControlNetケーブルで 使用する。	ControlNetケーブル付きの1769-L35CR、1769-L32C、 1768-CNB、または1768-CNBR
DH+	DH+ポート (700~1500ターミナルのみ) 2711P-RN6、2711P-RN6Kが必要	シールド2軸ケーブル(1770-CD)付きの 1756-DHRIOモジュールを使用	–

表 77 – PanelView Plus 6 ターミナルからインターフェイスモジュールに接続

プロトコル	PanelView Plus 6 通信ポート	1747-AIC	1761-NET-AIC			1761-NET-ENI
			ポート1 (9ピン)	ポート2 (8ピンMini DIN)	ポート3 (DH-485)	ポート2 (8ピンMini DIN)
DF1	RS-232ポート (9ピン) すべてのターミナル	–	2711-NC13 (5m/16フィート) 2711-NC14 (10m/32フィート)	2711-NC21 (5m/16 フィート) 2711-NC22 (15m/49 フィート) ヌルモデムが必要	–	1761-CBL-AP00 (5m) 1761-CBL-PM02 (2m) 2711-CBL-PM05 (5m) 2711-CBL-PM10 (10m)
DH-485	RS-232ポート (9ピン) すべてのターミナル	–	2711-NC13 (5m/16フィート) 2711-NC14 (10m/32フィート)	2711-NC21 (5m/16 フィート) 2711-NC22 (15m/49 フィート) ヌルモデムが 必要	–	–
	DH-485ポート (700~1500ターミナルのみ) 2711P-RN6、2711P-RN6Kが必要	Belden 9842ケーブル を使用して1つのAIC に直接接続 ⁽¹⁾	–	–	Belden 9842ケーブルを使用 して1つのAIC+に直接接続 ⁽¹⁾	–

(1) DH-485 ネットワークソリューションには、AIC+ モジュール付きの PanelView Plus 6 ターミナルのシリアルポートを使用します。

ファームウェアのアップグレード

項目	参照ページ
ターミナルのファームウェア	155
ファームウェアファイルのダウンロード	156
ファームウェア・アップグレード・ウィザード	156
ストレージデバイスからのターミナルのファームウェアのアップグレード	157
ネットワークを介してターミナルのファームウェアをアップグレード	160

ターミナルのファームウェア

ファームウェアコンポーネントは、1つのシステムコード (SC) .img ファイル内に XIP(execute-in-place) リージョンとしてパッケージ化されています。この SC .img ファイルをターミナルの仮想ファイルシステム (VFS) にコピーすると、ターミナルの XIP リージョンが更新され、ターミナルが自動的に再起動されます。以下のファームウェアコンポーネントがアップグレード時の対象になります。

- FactoryTalk View Machine Edition Station ソフトウェア
- 通信プロトコルおよびドライバ (Kepware ドライバを含む)
- Windows フォント
- Windows CE コンポーネント
- FactoryTalk コンポーネント
- ユーザによる機能拡張

以下のターミナルのコンポーネントまたは設定は、ファームウェアのアップグレードの対象とはなりません。

- Windows レジストリ
- ターミナルにロードされている FactoryTalk View Machine Edition アプリケーションを含むファイルシステム
- ネットワークデバイス名、DHCP 対応 / 静的 IP アドレス、速度、二重設定などのネットワークパラメータ
- ディスプレイ設定
- スクリーンセーバ構成
- タッチスクリーンのキャリブレーション

ファームウェアファイルのダウンロード

ロックウェル・オートメーションの Web サイトから適切なファームウェア・インストール・パッケージをダウンロードします。パッケージは以下のような名前になります。

PVP6_<ターミナルファミリー>_6.x-yyyymmdd.exe。この場合、

- <ターミナルファミリー>は、400 ～ 600 または 700 ～ 1500 です。
- 6.x は、このパッケージに含まれている FactoryTalk View ME ソフトウェアのバージョンです。
- yyyymmdd は、パッケージの作成日 (年、月、日) です。

このインストールパッケージの内容は以下の通りです。

- ファームウェア・アップグレード・パッケージ (FUP) には、1 つの自動実行ファイルと新しいファームウェアファイルが含まれています。
- ファームウェア・アップグレード・ウィザード (FUW) バージョン 6.10 以降は、FUP の内容を使用してターミナルのファームウェアをアップグレードするために使用されます。

FUP と FUW は、ダウンロード時に、コンピュータにコピーされます。

以下の手順に従って、ファームウェア・インストール・ファイルをコンピュータにダウンロードしてください。

1. <http://www.rockwellautomation.com/support> にアクセスして、Firmware Updates リンクをクリックします。
2. Computers & Operator Interface を選択して、次に PanelView Plus を選択します。
3. Web サイトの指示に従って、適切な PanelView Plus 6 ターミナル用のファームウェア・インストール・パッケージを見つけます。
4. アップグレードファイル (.exe) を FactoryTalk View Machine Edition (ME) ソフトウェアと同じドライブ上のテンポラリフォルダにダウンロードします。
5. 以下のアップグレードファイル (.exe) のインストール手順を実行します。
 - FUW は FactoryTalk View ME フォルダにインストールされます。
 - ファームウェア・アップグレード・パッケージ (.fup) ファイルは、インストール手順の間に指定されたフォルダにインストールされます。

ヒント FUP 名は ME_PVP6xX_6.x-yyyymmdd (700 ～ 1500) または ME_PVP6xA_6.x-yyyymmdd (400 および 600)。

- yyyymmdd は、ファームウェアパッケージの作成日です。
- 6.x は、このパッケージに含まれている ME のバージョン。

これで、FUW の実行により、USB フラッシュドライブ /SD カードまたはネットワーク接続を使用してターミナルのファームウェアのアップグレードを行なう準備が完了しました。

ファームウェア・アップグレード・ウィザード

ファームウェア・アップグレード・ウィザード (FUW) は、ターミナルのファームウェアをアップグレードするために使用します。ファームウェアをアップグレードするために以下の 2 つの方法が示されます。

- FUP ファイルの内容を使用してファームウェア・アップグレード・カードを作成し、そのカードをターミナルに装着することで、ファームウェアをアップグレードします。

ファームウェア・アップグレード・カードは USB フラッシュドライブまたは SD カード (Cat.No. 1784-SDx) のいずれかになります。

- ネットワーク直接接続を通してコンピュータに接続されているターミナルでファームウェアをアップグレードします。ネットワーク接続を行なうには、RSLinx Enterprise ソフトウェア (Ver. 5.0 以降) が実行されているコンピュータが必要です。RSLinx Enterprise ソフトウェアで、アップグレードするターミナルを選択します。

FUW は、FactoryTalk View Studio ソフトウェア内から、またはコンピュータの Programs メニューから実行できます。

- FactoryTalk View Studio ソフトウェアで、Tools メニューから Firmware Upgrade Wizard を選択します。
- Start → Programs → Rockwell Software → FactoryTalk View → Tools → ME Firmware Upgrade Wizard を順番に選択します。

ストレージデバイスからのターミナルのファームウェアのアップグレード

ストレージデバイスからファームウェアをアップグレードするプロセスは2つの手順で構成されています。最初に、必要なファームウェアファイルを使ってファームウェア・アップグレード・カードを作成し、次に、そのカードをターゲットのターミナルに装着してファームウェアをアップグレードします。

ファームウェア・アップグレード・カードは USB フラッシュドライブまたは SD カードのいずれかになります。

ファームウェア・アップグレード・カードの作成

以下の手順に従って、ファームウェアファイルを USB フラッシュドライブまたは SD カードにコピーしてください。

1. USB フラッシュドライブまたは SD カードをコンピュータ上の適切なスロットに挿入します。
2. ファームウェア・アップグレード・ウィザードを実行します。
 - FactoryTalk View Studio ソフトウェアで、Tools メニューから Firmware Upgrade Wizard を選択します。
 - Start → Programs → Rockwell Software → FactoryTalk View → Tools → ME Firmware Upgrade Wizard を順番に選択します。
3. 最初の Firmware Upgrade Wizard ダイアログボックスで、以下の手順を行なってください。

a. Create firmware upgrade card をクリックします。

b. コンピュータに装着されているストレージカードのルートディレクトリ (E:\ など) を参照して、ファームウェアカードの場所を選択します。

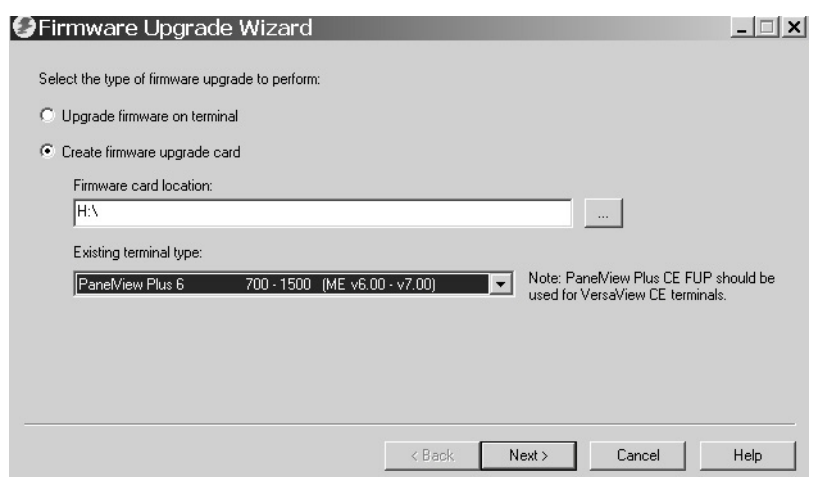
ファームウェアファイルはこの場所にコピーされます。また、ハードドライブ内のフォルダを指定することもできます。

c. Existing terminal type プルダウンメニューからバージョン v6.00 ~ v7.00 の PanelView Plus 6 ターミナルを選択します。

この例では、700 - 1500

PanelView Plus 6 ターミナルのファームウェアのアップグレードが示されています。

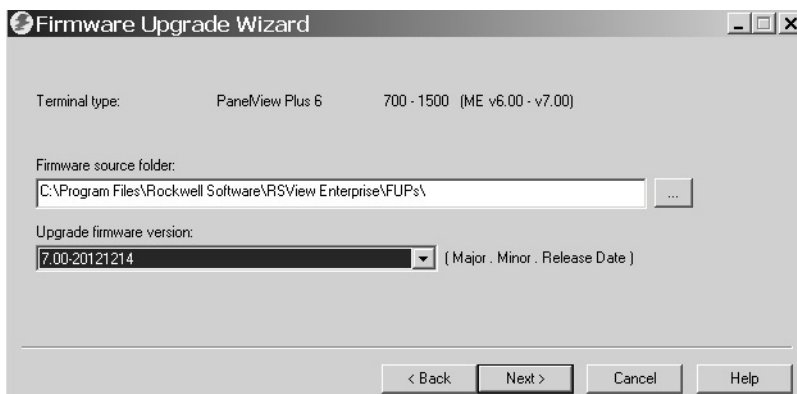
d. Next をクリックします。



4. ここに示すダイアログボックスで、以下の手順を行なってください。

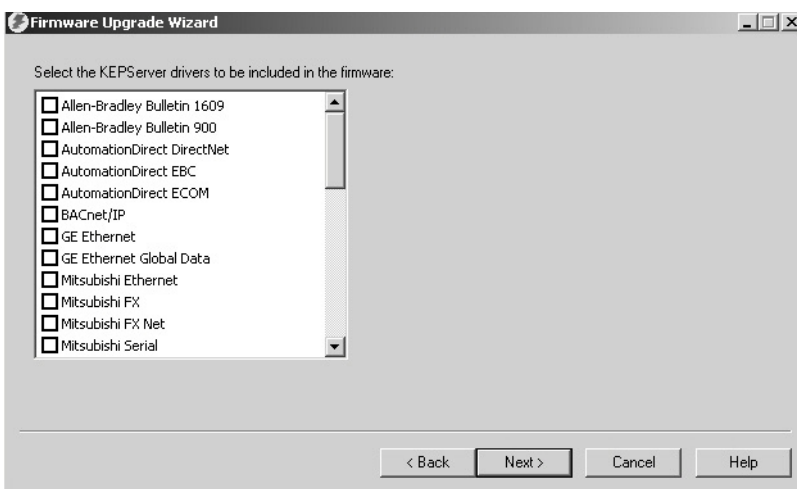
- a. コンピュータ上のファームウェア・ソース・ファイルの場所を参照して選択します。このフォルダは、FUP がインストールされていた場所です。
- b. アップグレード用のファームウェアリビジョンを選択します。
- c. Next をクリックします。

次のダイアログボックスが表示されるまでに (FUP が検索される間)、数秒かかることがあります。



5. ここに示すダイアログボックスでは、オプションとして、ファームウェアに含める KEPServer ドライバを選択し、Next をクリックします。

Keeware ドライバは、PanelView Plus 6 ターミナルにすでにインストールされています。



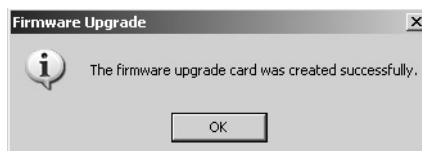
最後のダイアログボックスに、ファームウェア・アップグレード・カードを作成するために選択した内容のサマリが表示されます。

6. Finish をクリックして、ファームウェアファイルをファームウェア・アップグレード・カードにコピーします。

ファイルが USB フラッシュドライブまたは SD カードにコピーされている間、プログレスバーが自動的に更新されます。



7. ファームウェアアップグレードが正常に完了したら、OK をクリックします。



ヒント ファームウェアファイルがハードドライブにコピーされた場合は、それらのファイルを USB フラッシュドライブまたは SD カードのルートディレクトリにコピーします。

8. USB フラッシュドライブまたは SD カードをコンピュータから取り外します。
9. 次のセクションに進んで、このファームウェア・アップグレード・カードを使ってターミナルのファームウェアをアップグレードします。

ファームウェア・アップグレード・カードを使用してターミナルのファームウェアをアップグレード

以下の手順に従って、ファームウェアファイルを USB フラッシュドライブまたは SD カードからターミナルに転送してください。ここで使用するのは、前のセクションで作成したファームウェア・アップグレード・カードです。

- 重要**
- ファームウェアのアップグレード処理中に USB フラッシュドライブまたは SD カードを取り外したり、誤って接続を切断したりしないでください。これに従わないと、ファームウェアが破損し、ターミナルが不安定な状態になる恐れがあります。
 - ファームウェアのアップグレード中はターミナルの電源を切断しないでください。
 - USB ハブは、予期しない動作をすることがあるため、使用しないようにしてください。

1. USB フラッシュドライブまたは SD カードをターミナルの適切なスロットに挿入します。

ファームウェアのアップグレードが自動的に開始され、ここに示すダイアログボックスが表示されます。

2. Upgrade またはターミナルの F7 キーを押して、ファームウェアのアップグレードを開始します。

ターミナルが再起動され、アップグレード処理中にプログレスバーが表示されます。

アップグレードが完了すると、ターミナルが再起動され、新しいファームウェアが実行されます。



3. USB フラッシュドライブまたは SD カードをターミナルから取り外します。

- 重要**
- 停電のためファームウェアのアップグレードに失敗した場合や、ファームウェア・アップグレード・カードを間違えて取り外した場合は、ターミナルを工場出荷時の設定のファームウェアに戻すことができます。工場出荷時の初期設定に戻す方法については、[172 ページの「メンテナンス操作へのアクセス」](#)を参照してください。

ネットワークを介してターミナルのファームウェアをアップグレード

ネットワーク直接接続を通してコンピュータに接続されているターミナルでファームウェアをアップグレードすることができます。ネットワーク接続を行なうには、ファームウェア・アップグレード・ウィザード (FUW) と RSLinx Enterprise ソフトウェア (Ver. 5.0 以降) が実行されているコンピュータが必要です。

RSLinx Enterprise ソフトウェアは、ネットワーク上のターミナルを選択するために必要とされます。

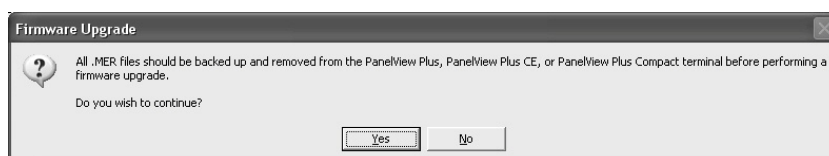
以下の手順に従って、RSLinx Enterprise ソフトウェアとイーサネット通信を使用してネットワーク上でファームウェアファイルをターミナルにコピーしてください。

1. ファームウェア・アップグレード・ウィザードを実行します。
 - FactoryTalk View Studio ソフトウェアで、Tools メニューから Firmware Upgrade Wizard を選択します。
 - Start → Programs → Rockwell Software → FactoryTalk View → Tools → ME Firmware Upgrade Wizard を順番に選択します。
2. Upgrade firmware on terminal を選択して Next をクリックします。



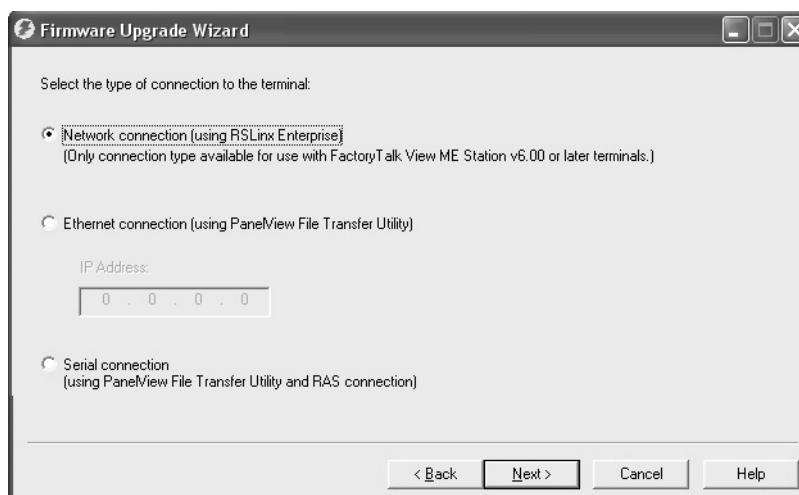
3. Yes をクリックして続行します。

PanelView Plus 6 ターミナルでファイルのバックアップを行なう必要はありません。

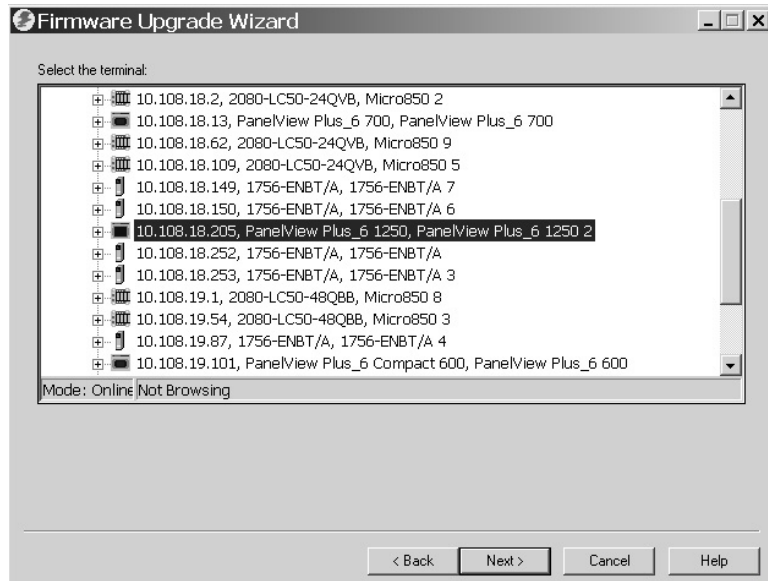


4. Network Connection (using RSLinx Enterprise) をクリックして、Next をクリックします。

PanelView Plus 6 ターミナルについて有効な選択オプションは、これだけです。

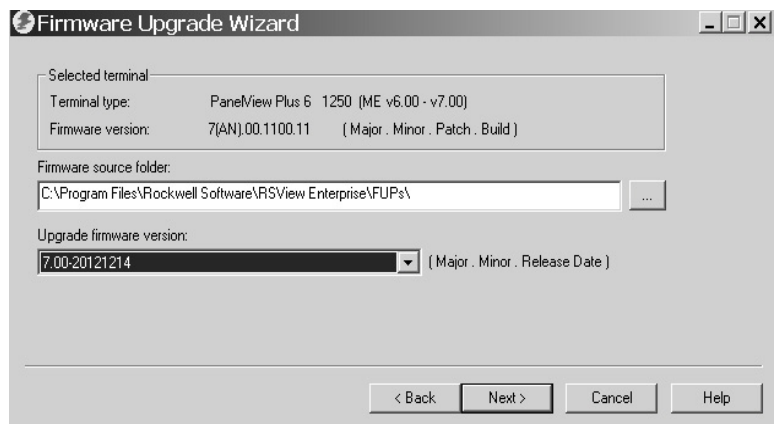


5. ファームウェアアップデートを受信するターミナルに移動して選択し、Next をクリックします。



6. ここに示すダイアログボックスで、以下の手順を行なってください。

- a. コンピュータ上のファームウェア・ソース・ファイルの場所を参照して選択します。このフォルダは、FUP がインストールされていた場所です。デフォルトの場所が表示されます。
- b. アップグレード用ファームウェアのバージョンをプルダウンメニューから選択します。
- c. Next をクリックします。



次のダイアログボックスが表示されるまでに (FUP が検索される間)、数秒かかることがあります。

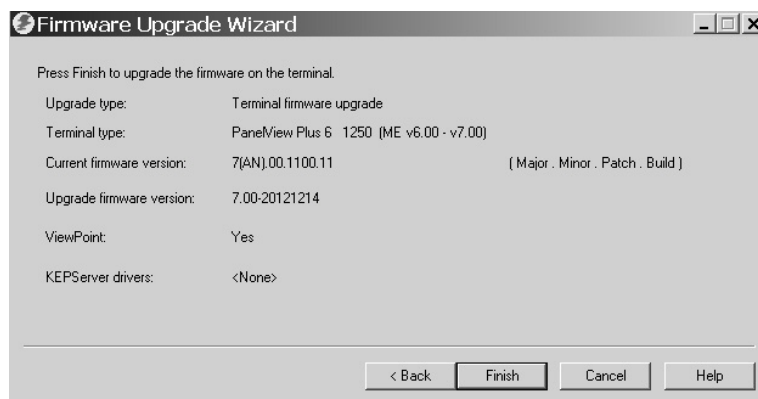
7. ここに示すダイアログボックスでは、オプションとして、ファームウェアに含める KEPServer ドライバを選択し、Next をクリックします。

Kepware ドライバは、PanelView Plus 6 ターミナルにすでにインストールされています。



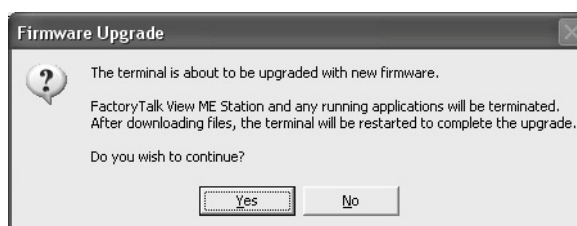
最後のダイアログボックスに、ターミナルのファームウェアをアップグレードするために選択した内容のサマリが表示されます。

8. **Finish** をクリックして、ターミナルのファームウェアを更新します。



9. **Yes** をクリックして更新を続行します。

ファームウェアファイルがターミナルにコピーされる間、プログレスバーが更新されます。



10. ファームウェアのアップグレードが完了したら、**OK** をクリックします。

ターミナルが再起動され、新しいファームウェアが実行されます。



重要

停電などのためファームウェアのアップグレードに失敗した場合などは、ターミナルを工場出荷時の設定のファームウェアに戻すことができます。工場出荷時の初期設定に戻す方法については、[172 ページの「メンテナンス操作へのアクセス」](#)を参照してください。

トラブルシューティング

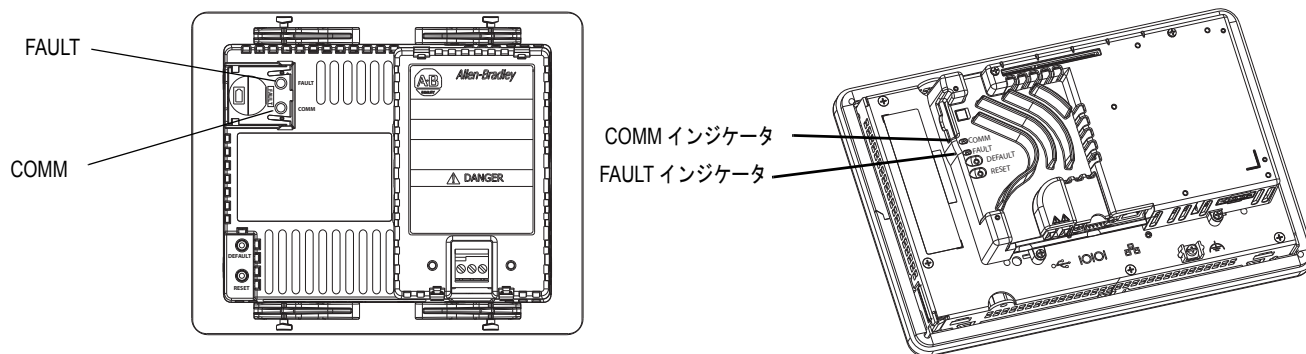
項目	参照ページ
ステータスインジケータ	163
ターミナルが正常に起動しない	164
スタートアップメッセージおよびコード	166
ターミナルのコンポーネントの確認	168
イーサネット接続	169
プログラムランチャー ActiveXコントロール	170
アプリケーションが実行されない	170
構成モードへのアクセス	170
ファイル・システム・エラー	171
高度な診断	171
メンテナンス操作へのアクセス	172
工場出荷時の設定の復元	174

ステータスインジケータ

ターミナルには、動作上の問題を特定するための2つのステータスインジケータがあります。

- 通信用の COMM インジケータ (緑色)
- ハードウェアフォルトおよびファームウェアフォルト用のフォルトインジケータ (赤色)

図 25 - ステータスインジケータ



ターミナルが正常に起動しない

ここには、問題を特定しようとしたときに役立つ一般的なトラブルシューティング情報を記載します。

適切な電源の確認

ターミナルが適切に給電されていない場合は、予期しない動作が発生することがあります。電源に関する要件については、[第 2 章](#)を参照してください。

スタートアップ時のインジケータの確認

ターミナルのスタートアップ時、FAULT インジケータおよび COMM インジケータが点滅してから、COMM インジケータが点滅して起動中の進捗状況を知らせます。起動が完了すると、COMM インジケータは点灯したままの状態になり、通信ドライバまたはアプリケーションによって制御されます。通常、COMM インジケータは通信がアクティブなときに点滅します。

インジケータが消えたままの場合は、電源またはロジックモジュールに問題が発生しています。電源ケーブルを確認してください。

- 電源が範囲外の場合は、電源を交換してください。
- 電源が範囲内の場合は、ロジックモジュールまたはターミナルを交換してください。

次の表は、ターミナルの電源投入後に起動が停止した場合のインジケータの状態を示しています。

表 78 – スタートアップ時にターミナルが停止した場合のインジケータの状態

FAULT (赤色) インジケータ	COMM (緑色) インジケータ	説明
点滅	消灯	回復可能なファームウェアエラー。前回のファームウェアのダウンロードに失敗。 ファームウェア・アップグレード・ウィザード(FUW)を使用してファームウェアを再ロードしてください。
点灯	消灯	回復不能なロジックモジュールのハードウェアフォルト。 <ul style="list-style-type: none"> • 400および600ターミナルの場合は、ターミナルを交換してください。 • 700～1500ターミナルの場合は、ロジックモジュールを交換してください。
	点滅	回復不能なディスプレイモジュールのハードウェアフォルト。 <ul style="list-style-type: none"> • 400および600ターミナルの場合は、ターミナルを交換してください。 • 700～1500ターミナルの場合は、ディスプレイモジュールを交換してください。

スタートアップメッセージおよびコードの確認

スタートアップ時にスプラッシュ画面に表示される可能性があるステータスメッセージおよびエラーコードのリストについては、[166ページの「スタートアップメッセージおよびコード」](#)を参照してください。

電圧と温度の確認

バッテリー電圧、プロセッサ温度、およびディスプレイ温度を確認します。

表 79 – 電圧および温度条件の確認

以下の条件を確認	操作を行なう場所	操作	
バッテリー電圧	<DC2.75V	<ul style="list-style-type: none"> ターミナルのデスクトップから、94ページの「バッテリー電圧」を参照してください。 FactoryTalk View ME Station構成モードから。 	必要ならばバッテリーを交換する。
CPUの温度	>95°C (203°F)	<ul style="list-style-type: none"> ターミナルのデスクトップから、94ページの「温度」を参照してください。 FactoryTalk View ME Station構成モードから。 	シャーシの空気の流れが遮断されていないか確認して、エンクロージャ内と周辺の気温が適温になるように調節してください。
ディスプレイの温度	>55°C (131°F)	<ul style="list-style-type: none"> ターミナルのデスクトップから、94ページの「温度」を参照してください。 FactoryTalk View ME Station構成モードから。 	

システム・イベント・ログの確認

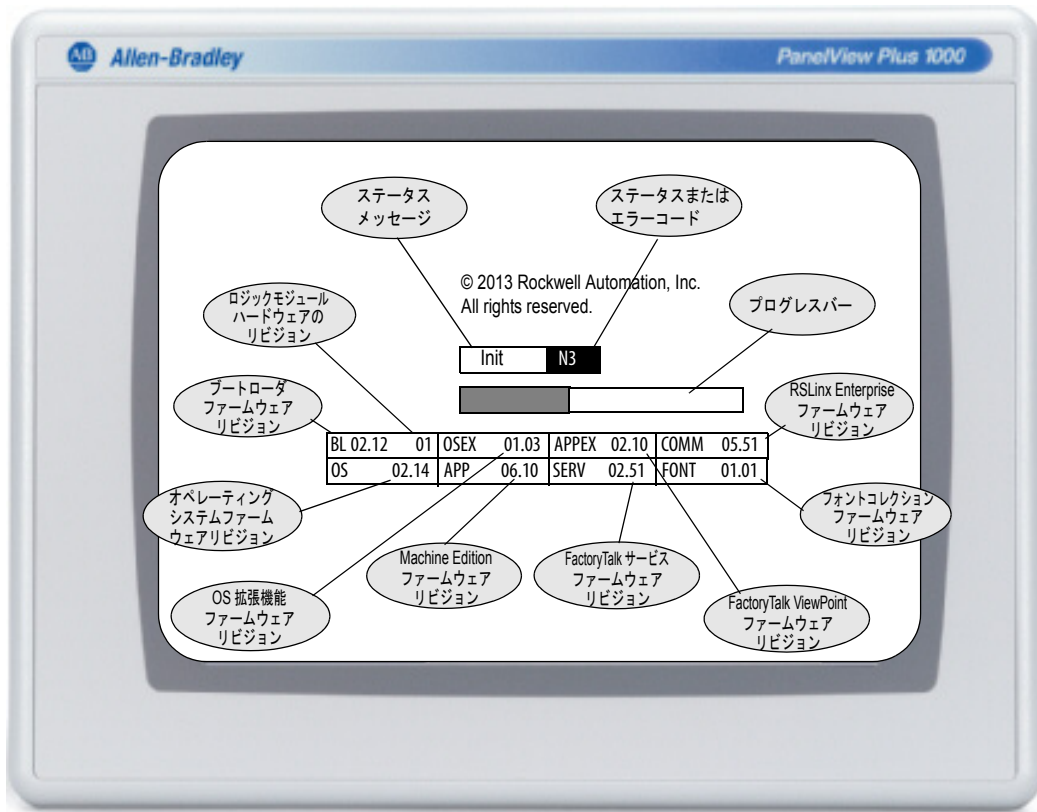
システム・イベント・ログを調べて、エラーや予期しない動作が発生していないか確認してください。

- FactoryTalk View ME Station の構成モードから Terminal Settings → System Event Log の順に押す。[76ページの「システム・イベント・ログの表示と消去」](#)を参照してください。
- コントロールパネルで、Hardware Monitor を開き、System Event Log タブをクリックします。[93ページの「システム・イベント・ログ」](#)を参照してください。

スタートアップメッセージおよびコード

スプラッシュ画面には、スタートアップ時に発生した動作やステータスが報告されます。これには、ファームウェアおよびハードウェアのリビジョン情報も含まれています。

図 26 – スタートアップ時のスプラッシュ画面



以下の表に、各ステータスに関連付けられているメッセージと対応するステータス/エラーコードを示します。

表 80 – スタートアップメッセージおよびコード

ステータスメッセージの説明	ステータスメッセージ	コード	処置
通常のスタートアップメッセージ			
ブートローダが、USBデバイス経由でPCへのコネクションを試行	AutoTest	OA	スタートアップのこのフェーズで表示されるメッセージは参考情報です。
ブートローダが、ファームウェアイメージをRAMにロード	AutoTest	E6	
ブートローダが、オペレーティングシステムにジャンプ	AutoTest	FF	
オペレーティングシステムの起動	Boot	G0	
オペレーティングシステムの登録および初期化	Init	H1 - JA	
Machine Editionの登録および初期化	Init	K1 - MA	
Machine Editionのロードおよび実行	Init	ME	

表 80 – スタートアップメッセージおよびコード

ステータスメッセージの説明	ステータスメッセージ	コード	処置
ファームウェアのインストールおよびロード			
ファームウェアイメージをRAMにロードします。	Update	1E	ファームウェアのインストールおよびロード中に表示されるメッセージは参考情報です。
ファームウェアイメージをストレージに書き込み	Update	A5	
工場出荷時設定のファームウェアイメージをRAMにロード	Restore	E6	
工場出荷時設定のファームウェアイメージをストレージに書き込み	Restore	A5	
工場出荷時設定の構成データを復元	Restore	DC	
ファームウェアの妥当性確認(CRC/フォーマット)エラー	Fatal	1E	ファームウェアのインストール中またはロード中に発生した致命的なエラーは、通常、以下のいずれかの操作で回復することが可能です。 <ul style="list-style-type: none"> メンテナンスメニューから、ターミナルをリセットします。 メンテナンスメニューから工場出荷時の設定の復元。復元方法は、174ページを参照してください。 ファームウェアを再インストールします。ターミナルをリセットして工場出荷時の設定に戻す方法の詳細は、172ページの「メンテナンス操作へのアクセス」を参照してください。
ファームウェアでファームウェアリビジョンの互換性インデックスの妥当性確認に失敗	Fatal	1F	
ファームウェア・アップデート・エラー	Fatal	0F	
ファームウェアのストレージ書き込みエラー	Fatal	A5	
保存されたファームウェアイメージの検証エラー	Fatal	D2	
OSファームウェアイメージが無効または検出されない	Fatal	FF	
電源投入時の自己診断テスト (POST) エラー			
RAMエラー	Fatal	03	POST中の致命的なエラーは、通常、故障したハードウェアが原因です。 <ul style="list-style-type: none"> RAMが機能しない場合は、ロジックモジュール(700~1500)またはターミナル(400および600)を交換してください。 キーボード操作/タッチ操作不能の場合やバックライトが故障した場合は、ディスプレイモジュールを交換してください。
キーボード操作不能	Fatal	31	
タッチ操作不能	Fatal	3A	
バックライトに障害が発生	Fatal	3B	
復元操作エラー			
復元操作の初期化に失敗	Fatal	R0	復元操作中に発生した致命的なエラーは、通常、メンテナンスメニューからターミナルをリセットすることで回復することが可能です。 ターミナルのリセット方法の詳細は、 172ページの「メンテナンス操作へのアクセス」 を参照してください。
pvbファイル内の無効なヘッダによる復元の失敗	Fatal	R1	
無効なヘッダによる復元の失敗	Fatal	R2	
中間ファイルをターミナルに書き込むことができなかったことによる復元の失敗	Fatal	R3	
破損した.pvbファイルに起因する復元の失敗	Fatal	R4	
ウォッチドッグ			
ウォッチドッグのリセット	Fatal	02	ウォッチドッグのリセットは、通常、ソフトウェア障害による一時的な制御不能状態です。再発する場合に対策が施せるよう、このエラーをモニタしてください。

ターミナルのコンポーネントの確認

ここでは、ディスプレイ、タッチスクリーン、キーパッド、接続されたキーボード、またはマウスに関する問題を特定する方法についてヒントを記載します。問題を解決できない場合は、タッチスクリーンのディスプレイモジュール (700 ~ 1500) またはターミナル (400 ~ 600) を交換してください。

表 81 – タッチスクリーンに関する問題の解決

症状	処置
ディスプレイがタッチスクリーンを備えていない	装置のカタログ番号を確認します。ターミナルのラベルを調べて、ディスプレイがタッチスクリーンであることを確認します。
タッチスクリーンが正常に動作しない	タッチスクリーンをキャリブレーションします。 <ul style="list-style-type: none"> FactoryTalk View ME Stationの構成モードで、Terminal Settings→Input Devices→Touch Screen→Calibrationの順に押します。 ターミナルデスクトップのコントロールパネルから Touchダイアログボックスを開き、Calibrationタブをクリックします。
タッチ入力やドラッグの操作が不正確。タッチスクリーンが存在し機能しているが、タッチスクリーンのキャリブレーションが必要	キャリブレーション操作では、5回画面をタップする必要があります。5回画面をタップしても、キャリブレーションが十分でない場合は、追加の画面のタップを行なうよう繰返し求められます。このプロセスは、有効なキャリブレーションが実行されるまで続きます。 キャリブレーションされていないタッチスクリーンは、存在していないか、正常に機能していません。タッチスクリーンのディスプレイモジュール(700~1500)またはターミナル(400~600)を交換してください。
画面上のカーソルが表示されない	カーソルが有効な状態であることを確認します。 <ul style="list-style-type: none"> FactoryTalk View ME Stationの構成モードで、Terminal Settings→Display→Cursorの順に押します。 デスクトップのコントロールパネルから、Displayを開いて Advancedタブをクリックします。
タッチスクリーンがタッチ入力を受け付けない	USBマウスを接続して、問題がタッチスクリーンまたはアプリケーションのどちらにあるか確認します。 <ul style="list-style-type: none"> マウスは機能するが、タッチスクリーンが機能しない場合は、タッチドライバまたはタッチスクリーンが動作していません。 マウスとタッチスクリーンが両方とも機能しない場合は、アプリケーションに問題があります。

表 82 – ディスプレイに関する問題の解決

症状	処置
ディスプレイが暗くなるか、読取り不能	輝度の設定を確認します。 <ul style="list-style-type: none"> FactoryTalk View ME Stationの構成モードから Terminal Settings→Display→Display Intensityの順に押します。 デスクトップのコントロールパネルから、Displayを開いて Backlightタブをクリックします。
バックライトが消灯しているか、ディスプレイが突然真っ暗になる	スクリーンセーバの設定を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> FactoryTalk View ME Stationの構成モードから Terminal Settings→Display→Screen Saverの順に押します。 デスクトップのコントロールパネルから、Displayを開いて Screen Saverタブをクリックします。
スタートアップ時にスタートアップエラーが表示される	メッセージを記録して、 166ページ のスタートアップ・エラー・メッセージの表と照合します。

表 83 – マウスに関する問題の解決

症状	処置
マウスが正常に動作しない	USBケーブルおよび接続を確認します。マウスを取り外してから、再度取付けます。ターミナルの電源を切断してから再投入します。
画面上のカーソルが表示されないか、マウス設定の調整が必要です。	画面上のカーソルが無効な状態であるか確認します。 <ul style="list-style-type: none"> FactoryTalk View ME Stationの構成モードから Terminal Settings→Display→Cursorの順に押します。 デスクトップのコントロールパネルから、Displayを開いて Advancedタブをクリックします。 マウスの設定を確認します。 <ul style="list-style-type: none"> FactoryTalk View ME Stationの構成モードから Terminal Settings→Input Devices→Mouseの順に押します。 ターミナルデスクトップのコントロールパネルから、Mouseダイアログボックスを開きます。
マウスがUSB複合デバイス(キーボード + マウス)である。	スタンドアロン型 USB マウスを接続します。 互換性のあるUSBデバイスのリストについては、ロックウェル・オートメーションの技術サポートサイトのナレッジベース (http://www.rockwellautomation.com/knowledgebase) にアクセスして、ID 115072を検索してください。
USBマウスが機能しない	マウスが不適合である可能性があります。USBマウスを交換します。異なる機種またはメーカーを試してみます。新しいマウスを接続して、問題が解決した場合は、古いマウスが不適合であったと考えられます。 互換性のあるUSBデバイスのリストについては、ロックウェル・オートメーションの技術サポートサイトのナレッジベース (http://www.rockwellautomation.com/knowledgebase) にアクセスして、ID 115072を検索してください。

表 84 – キーボードに関する問題の解決

症状	処置
キーボードが正常に動作しない	USBケーブルおよびコネクタを確認します。キーボードを取り外してから、再度取付けます。接続に問題がないことを確認します。ターミナルの電源を切断してから再投入します。
キーボードがキー入力を受付けない	<p>キーパッドを使用してキー入力を確認します。</p> <ul style="list-style-type: none"> キーパッドは機能しているが、キーボードが機能していない場合は、キーボードドライバまたはキーボードが正常に動作していません。 キーパッドとキーボードの両方が機能していない場合、問題はアプリケーションの障害にあると考えられます。 <p>キーボード入力に関する問題はアプリケーションのフォルトである場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> シェル内の編集ボックスなど、アプリケーションの外部でキーを押します。アプリケーションの外部でキーパッドが機能する場合は、そのアプリケーションに障害が発生しています。 Ctrl+Escキーを同時に押してStartメニューを開き、カーソルをRunに移動して数字および表示可能な文字をRunダイアログボックスに入力します。
キーボードがUSB複合デバイス(キーボード + マウス)である	スタンドアロン型 USB キーボードを接続します。
USBキーボードが機能しない	<p>キーボードが不適合である可能性があります。USB キーボードを交換します。異なる機種またはメーカーを試してみます。新しいキーボードに交換して、問題が解決した場合は、古いキーボードが不適合であったと考えられます。</p> <p>互換性のあるUSBデバイスのリストについては、ロックウェル・オートメーションの技術サポートサイトのナレッジベース (http://www.rockwellautomation.com/knowledgebase) にアクセスして、ID 115072を検索してください。</p>

イーサネット接続

以下の表では、イーサネットに関する問題を特定する方法についてヒントを提供します。

表 85 – イーサネットに関する問題の解決

動作	説明
イーサネット接続のステータスインジケータを確認します。	<ul style="list-style-type: none"> 通信リンクを示す緑色が通常は点灯しているはずですが。 データアクティビティを示す黄色が通常は点滅しているはずですが。
ケーブル接続およびケーブルの品質を確認します。	<p>以下を確認します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ケーブルの折れ曲がり イーサネットハブ/スイッチ接続 アップリンクポート
内蔵イーサネットコントローラのIPアドレスを確認します。	<ul style="list-style-type: none"> FactoryTalk View ME StationからTerminal Settings→Networksを選択してから、Communications→Network Connections→Network Adaptersの順番に選択する。 ターミナルデスクトップのコントロールパネルから、Network and Dial-up Connectionsを開く。DHCPが有効になっている場合は、起動後数秒以内にそのデバイスの有効なIPアドレスが取得されると予想されます。デバイスがサーバからIPアドレスを取得できない場合は、TCP/IPプロトコルが自動的に169.254.nnn.nnnを割り付けます。一般に、169で始まるIPアドレスはネットワーク接続をサポートしません。 <p>イーサネット接続が不正であり、有効なIPアドレスがないと、通常、通信エラー・メッセージ・ボックスに報告され、Winsock critical error 10065 - No route to hostと表示されます。</p>
IPアドレスが競合していないか確認します。	DHCPが有効でない場合は、ターミナルのIPアドレスが、ネットワーク上の別のデバイスのアドレスと競合状態にないことを確認してください。
ターミナルのデバイス名を確認します。	<p>ネットワーク上の機器が同じホスト名であってはなりません。</p> <ul style="list-style-type: none"> From FactoryTalk View ME StationでTerminal Settings→Networksを選択してから、Communications→Network Connections→Device Nameの順番に選択する。 ターミナルデスクトップのコントロールパネルから、Systemアプレットを開いてDevice Nameタブをクリックする。
ネットワーク管理者に問い合わせ、ピアまたはサーバ設定を確認します。	イーサネット接続の他方の側に問題が発生している可能性があります。
ネットワークアプリケーションの要件を確認します。	ネットワークアプリケーションは、Internet Explorerのプロキシ設定やActiveSyncのイーサネット構成のように固有の要件を備えていることがあります。
マルチ・ホーム・デバイスを確認します。	マルチ・ホーム・デバイス、つまり複数のイーサネットノードは、不明確で混乱を生じさせる可能性があります。ネットワーク接続はできるだけ簡潔なものにしてください。
デスクトップから、ネットワークツールであるPing.exeとIpconfig.exeを使用して、IPアドレスとホストデバイスに関する問題を診断します。	<p>これらのネットワークユーティリティは診断ツールです。</p> <ul style="list-style-type: none"> Pingは、パケットを送出して応答を待つことで、特定のIPアドレスがオンライン接続可能かどうかを決定するためのインターネットユーティリティです。Pingは、ネットワークのテストとデバッグ、およびユーザまたはサーバがオンライン状態であるかどうかの確認に使用されます。 IPconfigは、実行されているマシンに割り付けられているIPアドレスを管理するWindowsコマンド行ユーティリティです。IPconfigは、コンピュータに現在割り付けられているIP、サブネットマスク、およびデフォルトのゲートウェイアドレスを表示します。

プログラムランチャー ActiveX コントロール

デスクトップへのアクセスが制限されている場合に、プログラムランチャーである ActiveX コントロールを使用してファイルビューワ、テキストエディタ、または PDF リーダを起動するときは、ファイルを開こうとするとシステムがロックされます。

この問題が発生しないようにするには、起動するアプリケーションにファイルに関連付けます。ファイルが関連付けられると、ビューワ、エディタ、または PDF リーダが自動的に起動されるようになります。

アプリケーションが実行 されない

ターミナルのアプリケーションがスタートアップ時に実行されない場合は、FactoryTalk View Machine Edition (ME) アプリケーションに問題がある可能性があります。

- スタートアップ画面が構成済みであり、ランタイムファイルが互換バージョンであることを確認します。
- アプリケーションを手動で実行してみます。手動でアプリケーションを実行できた場合は、オペレーティングシステムが無効なショートカットパスを使って起動している可能性があります。Windows の StartUp フォルダにあるショートカットを確認します。

\\Windows\StartUp

StartUp フォルダにある各ショートカットパスの構文をチェックし、有効なターゲットアプリケーションが存在することを確認します。

- コンポーネントや必須の DLL がアプリケーションに欠けていないか確認します。アプリケーションを削除し再ロードします。

構成モードへのアクセス

アプリケーションの実行中に構成モードにアクセスするには、FactoryTalk View ME アプリケーションで表示される画面に Goto Configuration Mode ボタンが存在していなければなりません。アプリケーションの実行中は、このボタンを押して構成モードにアクセスできます。

実行中のアプリケーションで Goto Configuration Mode ボタンが表示されない場合は、スタートアップ時に、以下のいずれかの方法で構成モードにアクセスできます。

- 通常のメンテナンス画面からセーフモードに入ります。詳細は、[172 ページ](#)を参照してください。
- コントロールパネルの System ダイアログボックスでセーフモード要求オプションを有効にして、スタートアップ時にセーフモード要求を検出します。詳細は、[100 ページ](#)を参照してください。

ヒント ターミナルが、スタートアップ時に構成モードに入るように構成されているにもかかわらず、構成モードに入らない場合は、ファームウェアを再ロードしてください。

ファイル・システム・エラー

内部ファイルシステムはトランザクションセーフなので、ファイル・システム・エラーが発生することがまれです。電源を切る前に必ずアプリケーションを停止してください。これにより、データがファイルシステムへすべて送出され、ファイルシステムを正常に停止させることができます。

外付け USB/SD ストレージデバイスへの書き込み実行中はデバイスを取り外さないでください。FactoryTalk View Machine Edition (ME) アプリケーションは RAM から実行されますが、データのロギング、イベントのロギング、履歴のトレンド分析などの機能は不揮発性メモリに対して書き込みを行いません。したがって、電源を切断する前にこれらの機能を停止する必要があります。

高度な診断

IP と Winsock エラーコードに関する多少の知識があれば、Ping と ipconfig はネットワークのデバッグ用の有益なツールです。

- 宛先ホストに対して ping を試行します。
- 宛先アドレスを確認します。
- ご使用のネットワークシステム (WinSock の実装) でルータが構成されているかどうかを確認します。
- デスクトップ上のコマンドプロンプトで tracert コマンドを使用して、ユーザのホストと宛先ホスト間のルートに沿った障害の発生場所を特定してみます。

役立つかもしれないその他の診断のヒントを以下に示します。

- 代替接続、つまり、タッチスクリーンに対してマウス、キーボードに対してキーボード、シリアル通信に対して代替のイーサネット接続を利用します。
- アプリケーションまたはオペレーティングシステムのクラッシュが疑われるときは、\Windows\DumpFiles フォルダを調べてクラッシュログを確認します。

クラッシュ・ダンプ・ファイルは、オフラインで Visual Studio や WinDBG などの一般的な Windows 開発またはデバッグツールを使用してワークステーションに表示することができます。クラッシュ・ダンプ・ファイルの情報によって、少なくとも例外の日時、例外のタイプ、問題のあるプロセスの名前とプログラムカウンタを含むレジスタの状態が明らかになります。

- Autorun.exe ユーティリティを SD カードに格納しておく、そのカードをターミナルの SD カードスロットに差し込むだけで簡単にそれらのユーティリティを実行することができます。
- 便利なキーボードショートカットを覚えておくと、マウスやタッチスクリーンなしでシステムのさまざまな操作を実行できます。
- Hardware Monitor コントロール・パネル・アプリケーションを選択するか、FactoryTalk View ME の構成モードで Terminal Settings → System Event Log の順番に選択して、システム・イベント・ログを確認します。予期しない動作や再起動を引き起こした可能性があるエラー状態または理由を探します。
- ターミナルデスクトップのコントロールパネルまたは FactoryTalk View ME の構成モードにおいて構成設定を確認します。

メンテナンス操作へのアクセス

ターミナルでは、通常、スタートアップ時に Windows デスクトップまたは FactoryTalk View ME アプリケーションが起動します。さらに、診断および修復のために、システムをメンテナンスモードで起動することもできます。

表 86 – スタートアップ時のメンテナンス操作

操作	説明
なし	メンテナンスモードを終了し、通常の再起動を継続する。
セーフモード	システムをセーフ動作モードで起動する。これは、診断モードの1つであり、機能を減らすことで、ソフトウェアエラーからの回復を可能にする。 anomaly. セーフモードでは、エラーの原因となった障害のあるアプリケーションや変更内容を修復できる。 重要: FactoryTalk View ME Station ソフトウェアは、スタートアップ時に HMI .mer アプリケーションがロードされている場合でも当該アプリケーションを実行せず、かわりに構成モードに入る。HMI アプリケーションは、次にシステムがリセットされたときに実行される。
工場出荷時の設定の復元	ターミナル上のすべての記憶媒体を元の工場出荷時の初期設定状態に復元する。これには、ファームウェア、レジストリ、ファイルシステム、構成データが含まれる。 通常、このオプションは、ファームウェアのアップグレードの失敗からの復元に使用される。 重要: すべての格納メディアは、購入当時の元の状態に戻る。ユーザがインストールしたファームウェアアップデートもすべて削除される。 復元方法については、 174ページの「工場出荷時の設定の復元」 を参照してください。
ターミナルのリセット	ターミナル上でユーザがアクセス可能なストレージおよび構成データを元の初期設定状態に復元する。現在のファームウェアリビジョンは保持される。 重要: ファームウェアを除き、すべての格納メディアは、購入当時の元の状態に戻る。 purchased except for the firmware. 最新の FactoryTalk View ME イメージが保持される。ユーザによるデータの変更または追加内容はすべて失われる。
ディスプレイ解像度 (700~1500 ターミナルのみ)	スタートアップ時のディスプレイ解像度を設定する。システムが解像度を検出できない場合は、ターミナルモデル別に適切な解像度を選択できる。 <ul style="list-style-type: none"> • Auto - ディスプレイ解像度を自動検出 • VGA - 700 および 1000 タイプのターミナルでは解像度を 640x480x16 に設定 • SVGA - 1250 タイプのターミナルでは解像度を 800x600x16 に設定 • XVGA - 1500 タイプのターミナルでは解像度を 1024x768x16 に設定 400 および 600 ディスプレイは 320x240 QVGA である。

上記の順序でメンテナンス操作を実行することで、ターミナルの動作の問題を診断し修復します。

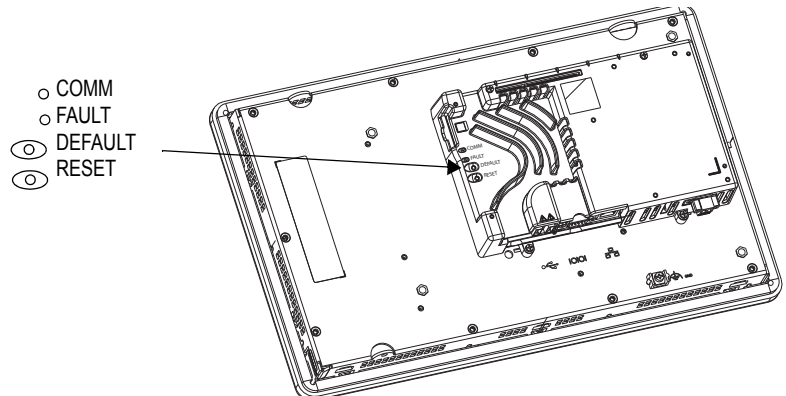
1. Safe mode - アプリケーションが自動起動するのを阻止します。
2. Reset terminal - ユーザがインストールしたアプリケーション、ユーザによる構成変更、およびユーザがアクセス可能なデータを削除します。
3. Restore factory defaults - ターミナルを元の追加設定なしの状態に戻します。

メンテナンス操作へのアクセス

以下の手順に従って、スタートアップ時にメンテナンス操作にアクセスしてください。

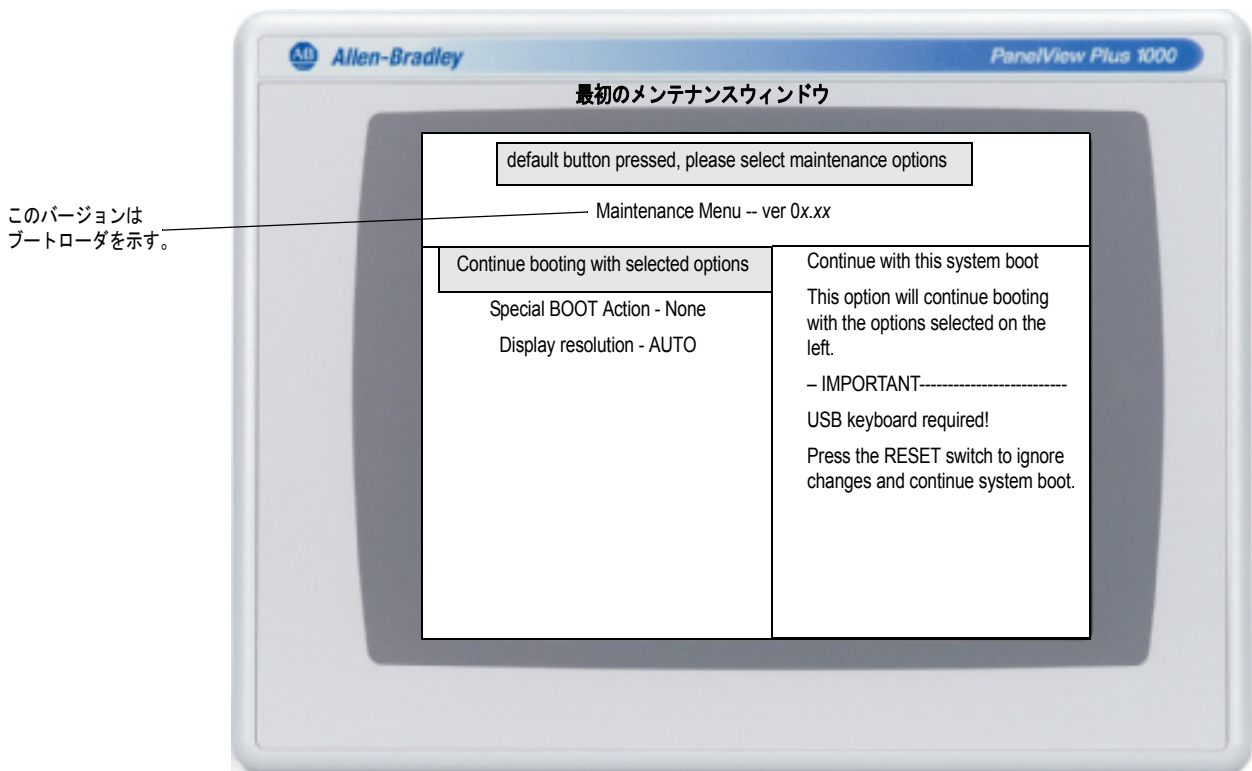
ヒント メンテナンスモード中に操作を行なうために、ターミナルに USB キーボードを接続する必要があります。

1. ロジックモジュール背面の Default と記された穴に、細い非伝導のピンを挿入してスイッチを押します。



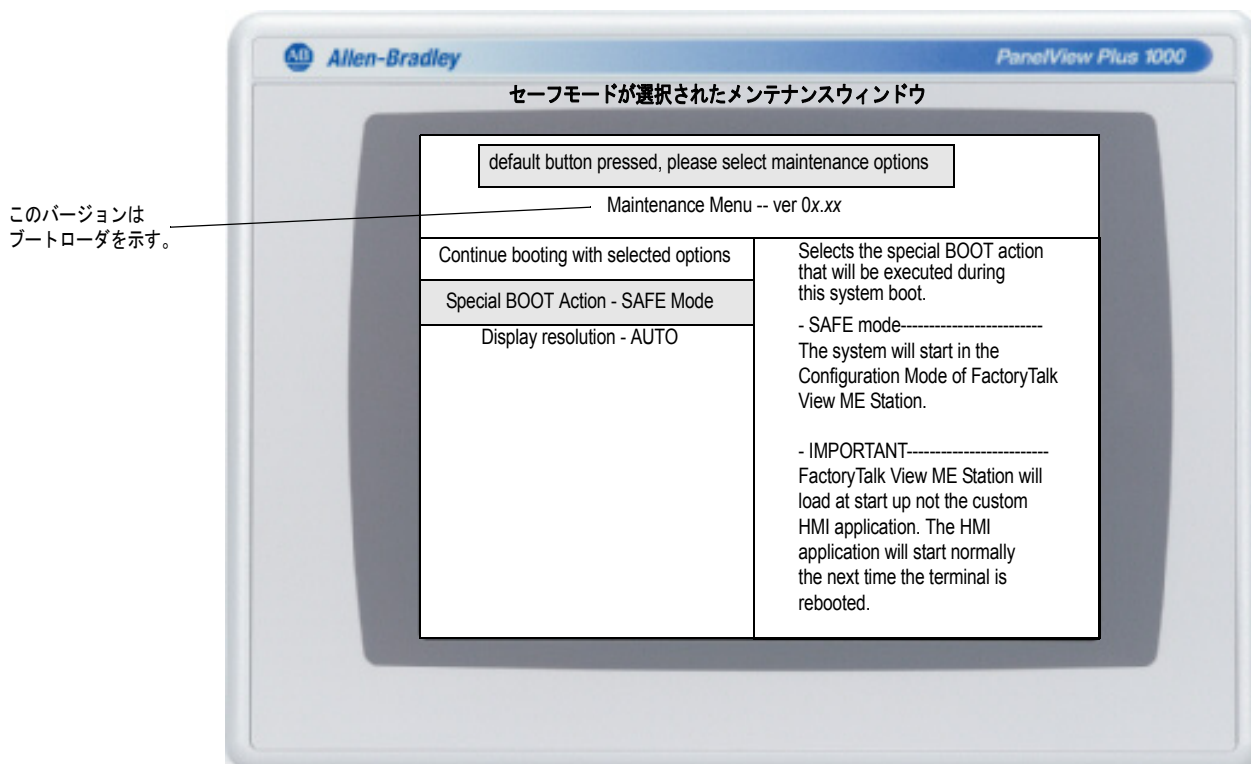
ヒント フォルト状態からこのメニューにアクセスするには、Reset スイッチを押してから、メニューが表示されるまで Default スイッチを押したままにします。

ディスプレイ輝度が 100% のメンテナンスモードで、ターミナルが起動します。メンテナンス操作については、[172 ページの表 86](#) を参照してください。



ヒント ウィンドウ下部にあるキーを使用して選択してください。

2. キーボードまたは接続されたキーボードの上 / 下矢印キーを押して、メンテナンスオプションのリスト内を上下に移動します。
 - Continue booting with selected options
 - Special Boot Action
 - Display Resolution(400 および 600 ターミナル以外)
3. オプションを選択したら、右 / 左矢印キーを押して、使用可能な操作または設定を順番に切替えます。
各操作を選択した結果の説明が右側に表示されます。



4. 選択を終えたら、以下の手順に従います。
 - a. 上矢印を押して、「Continue booting with selected options」に戻ります。
 - b. [Enter] キーを押して、ブートを続行します。

工場出荷時の設定の復元

Fatal コード 0F などのファームウェアアップデートの失敗から回復するには、ターミナルを追加設定なしの工場出荷時の初期状態に復元する必要があります。

以下の手順に従って、メンテナンスモードから工場出荷時の設定を復元してください。

ヒント メンテナンスモード中に操作を行なうために、ターミナルに USB キーボードを接続する必要があります。

1. ロジックモジュールの背面にある Default スイッチを押したまま、Reset スイッチを押してから離します。

Reset スイッチを離したら、Default スイッチを離してメンテナンスモードに入ります。



ヒント ウィンドウ下部にあるキーを使用して選択してください。

2. キーボードの下矢印▼を押して、以下のオプションを選択します。
Special BOOT Action - None
3. 右矢印を3回押して、以下のオプションを選択します。
Special BOOT Action - Restore Factory Defaults.



4. 上矢印を押して、「Continue booting with selected options」を選択します。
5. キーボードの [Enter] キーを押して、工場出荷時の設定の復元プロセスを開始します。
ファームウェア、レジストリ、ファイルシステム、格納領域を含めて、ターミナルは元の追加設定なしの状態に戻ります。復元後はすべてのユーザデータが失われます。

Notes:

ターミナルの常駐フォント

TrueType フォント

以下の表に、ターミナルに事前にインストールされている TrueType フォントのリストを示します。

デフォルトのシステムフォントは Tahoma です。

ヒント Arial Unicode MS フォントはおよそ 50,000 文字をカバーし、アラビア語、ヘブライ語、ベトナム語、タイ語、ヒンディー語 (デバナガリ文字)、他のインド系言語など、多くの非ラテン系言語およびスクリプトに対するデフォルトの言語サポートを提供しています。このフォントは、中国語、日本語、および韓国語 (CJK) もサポートしています。

フォントファイルをターミナルデスクトップ上の \Windows\Fonts フォルダにコピーすることで、システムに追加のフォントをロードできます。このフォルダにアクセスするには、ターミナルデスクトップ上の “My Device” アイコンを選択するか、Start → Programs → Windows Explorer の順番に選択します。

表 87 – TrueType フォント

TrueType フォント	ファイル名
Arial Unicode MSバージョン1.01	arialuni.ttf
欧文フォント	
Arial	
Arial (サブセット1_30)	arial_1_30.ttf
Arial Black	arialk.ttf
Arial Bold	arialbd.ttf
Arial Bold Italic	arialbi.ttf
Arial Italic	ariali.ttf
Comic Sans MS	
Comic Sans MS	comic.ttf
Comic Sans MS Bold	comicbd.ttf
Courier New	
Courier New (サブセット1_30)	cour_1_30.ttf
Courier New Bold	courbd.ttf
Courier New Bold Italic	courbi.ttf
Courier New Italic	couri.ttf
Georgia	
Georgia	georgia.ttf
Georgia Bold	georgiab.ttf
Georgia Bold Italic	georgiaz.ttf
Georgia Italic	georgiai.ttf
Impact	impact.ttf
Kino	kino.ttf
Microsoft Logo	mslogo.ttf

表 87 – TrueType フォント

TrueType フォント	ファイル名
記号	symbol.ttf
Tahoma	
Tahoma (サブセット 1_07)	tahoma_1_07.ttf
Tahoma Bold	tahomabd.ttf
Times New Roman	
Times New Roman (サブセット 1_30)	times_1_30.ttf
Times New Roman Bold	timesbd.ttf
Times New Roman Bold Italic	timesbi.ttf
Times New Roman Italic	timesi.ttf
Trebuchet MS	
Trebuchet MS	trebuc.ttf
Trebuchet MS Bold	trebucbd.ttf
Trebuchet MS Bold Italic	trebucbi.ttf
Trebuchet MS Italic	trebucit.ttf
Verdana	
Verdana	verdana.ttf
Verdana Bold	verdanab.ttf
Verdana Bold Italic	verdanaz.ttf
Verdana Italic	verdanai.ttf
Webdings	webdings.ttf
Wingding	wingding.ttf
PanelView フォント	
PV 12 x 24、PV 12 x 8	PV12x24.ttf、PV12x8.ttf
PV 16 x 24	
PV 18 x 16、PV 18 x 8	
PV 24 x 32	
PV 32 x 40、PV 32 x 64	
PV 4 x 6	
PV 6 x 16、PV 6 x 24、PV 6 x 8、PV 6 x 9	
PV 8 x 16、PV 8 x 20、PV 8 x 24	
PV Double High	PVdouble_high.ttf
PV Double Wide	PVdouble_wide.ttf
PV Extra Large	PVextra_large.ttf
PV Large	PVlarge.ttf
PV Small	PVsmall.ttf
PV Tiny	PVtiny.ttf
PV Very Tiny	PVvery_tiny.ttf
東アジアフォント	
Gulimバージョン2.21 - 韓国語	gulim.ttc
MS Gothicバージョン2.30 - 日本語	gulim.ttc

高輝度ディスプレイの屋外での取付け

重要な注意事項

高輝度ディスプレイモジュール (Cat.No. 2711PRDT12H) を屋外で使用するときの、フロントベゼルとディスプレイの現場での寿命を最大化するための注意事項は以下の通りです。

- 反射防止オーバーレイおよびソーラーバイザーの使用
- 適切なエンクロージャの選択
- ターミナルの方向

紫外線や赤外線によって、電子デバイスの現場での寿命が短くなることがあります。現場での寿命の長さは、ターミナルベゼルに使用されている材質によって決まりますが、ターミナルを適切に取付けることで寿命を長くすることができます。

重要	この高輝度ディスプレイモジュールは、DC 電源のロジックモジュール (Cat.No. 2711P-RP8D、2711P-RP8DK、2711P-RP9D、2711P-RP9DK) に対してのみ互換性があります。AC 電源のロジックモジュールは使用できません。
-----------	---

反射防止オーバーレイの使用

太陽からの紫外線放射によって、すべてのプラスチックが色あせたり黄色になり、時間とともにもろく壊れやすくなります。反射防止オーバーレイ (Cat.No. 2711PRGT12) を使用すると、ターミナルの前面が紫外線に直接さらされることを防ぎ、現場でのターミナルの寿命が長くなります。

ソーラーバイザーの使用

1 日の最も暑い時間に直射日光が当たり、外部周囲温度が 40°C(104°F) を超えるような環境に高輝度ディスプレイモジュールを設置する場合は、バイザーキット (Cat.No. 2711PRVT12) を使用してください。バイザーはディスプレイの前面の太陽光線の負荷を減らし、内部温度を仕様内に保持することを助けます。

高輝度ディスプレイモジュールには、キャビネット内の温度が 55°C (131°F) を超えるときに自動的にバックライトの輝度を低減するための温度センサを内蔵しています。これによって、ディスプレイが損傷するリスクが減ります。

エンクロージャの選択

塗装の色、サイズ、およびエンクロージャの内部コンポーネントによる熱放散は、キャビネット内の温度の上昇に影響します。ロックウェル・オートメーションの Encompass パートナである Hoffman が、取付けられた装置の温度要件を満たすエンクロージャおよび加熱 / 冷却アクセサリの選択に役立つ情報を提供しています。以下の Web サイトを参照してください：<http://www.hoffmanonline.com> を参照してください。

高度が高く、周囲温度が高い場所で内部エンクロージャ温度を 55°C (131°F) 未満に維持するには、攪拌ファンまたはアクティブ冷却が必要になることがあります。周囲温度が 0°C (32°F) 未満の場所に取付ける場合は、ヒータを使用してください。

バックライト

輝度をフルに設定すると、高輝度ディスプレイのバックライトは大量の熱を発生します。発生する熱量を最小化して、バックライトの寿命を延ばすには、5 ～ 10 分遅延のスクリーンセーバを使用してディスプレイの輝度を下げます。

ターミナルの向き

戸外では、ターミナルを南 (南半球では北) 側またはキャビネットの西側に設置することはできるだけ避けてください。これにより、1 日のうちで最も暑い時間の太陽光線の負荷による熱の上昇を防ぎます。

ディスプレイに対する太陽光線の負荷を最小化するためにターミナルを垂直に取付けます。直接直射日光にさらされることになるときは、傾斜したエンクロージャにターミナルを取付けてはなりません。

A

ActiveX コントロール 12, 78
 プログラムランチャー 170

AC 電源

AC 電源モジュール 132
 機能アースグラウンド 41
 接続 42
 保護アース 41

C

ControlNet

ControlNet プロトコル 150
 概要 150
 ケーブル 152
 互換性のあるコントローラ 150
 ソフトウェア要件 151

D

DC 電源

アースグラウンド 39
 外部電源 38
 接続 40

DH+

ステータスインジケータ 147
 ネットワーク接続 149
 ポートコネクタ 147

DH485

ステータスインジケータ 147
 ネットワーク接続 147
 ポートコネクタ 147

F

FactoryTalk View Machine Edition Station
 13

FactoryTalk View ME 58, 76, 78

IP アドレス 60
 アプリケーションの実行 50
 アプリケーションのロード 50
 アラームディスプレイ、有効 / 無効 78
 イーサネット設定 60
 印刷オプション 72
 カーソル 68
 キーボードまたはキーパッド設定 69
 構成モード 45
 時間と日付操作 78
 システム・イベント・ログ 76
 システム情報 78
 診断 74
 スクリーンセーバ 68
 スタートアップオプション 51
 ターミナル設定 48
 ターミナルのデバイス名 63
 タッチスクリーンのキャリブレーション
 70

地域の設定 81-83
 ディスプレイ設定 67
 ディスプレイの温度 67
 デスクトップへのアクセス 54
 入力デバイス 69
 バッテリ電圧 77
 ファイルの転送 64
 ファイルの整合性チェック 74
 フォントのリンク 84
 プロセッサ温度 77
 文字列入力 69

FactoryTalk View Studio for ME 13

FactoryTalk ViewPoint 13

FTP サーバ 12, 87

構成 109
 セキュリティ 109
 匿名ログインの例 110
 認証を必要とする接続 111

I

IGMP プロトコル 143

K

KEPServer 構成 112

M

Microsoft Office ビューワ

Excel 12, 87
 PowerPoint 12, 87
 Word 12, 87

P

PDF リーダ 12, 87, 116

R

RSLinx 通信設定 58

S

SD カード 24

イメージのバックアップと復元に使用 90
 スロット 137
 ロード 137

System Information (システム情報)

制御パネル 99

U

UPnP サーバ 87

USB フラッシュドライブ

イメージのバックアップおよび復元に使
 用 91

USB ポート

- コネクタのピン配列 140
- 設置 29
- デバイスポート 14, 15, 18, 140
- ホストポート 14, 15, 18, 29, 140

V**VNC サーバ** 87

- クライアントビューワ 86, 104
- 構成 104
- 制御と表示のための接続の例 106
- セキュリティ 104
- 操作の制御 104
- 操作の表示のみ 104
- 表示のみのための接続の例 105

W**Web サーバ** 87

- 構成 108

Web ブラウザ 12**Windows CE オペレーティングシステム** 13, 85

- 拡張機能付き 12
- 拡張機能なし 12

Windows Explorer 88**ア****アースグラウンド**

- DC 電源 39

アクセサリ

- SD カード 24
- アダプタプレート 26
- 交換用ベゼル 26
- ソーラーバイザー 24
- 通信モジュール 23
- 電源および端子台 26
- 取付け具 26
- バックライト 24
- バッテリー 26
- 反射防止オーバーレイ 24
- ロジックモジュール 23

アダプタプレート 26**アプリケーション**

- .MER のロード 50
- 実行 50
- 整合性のチェック 74
- トラブルシューティング 170

アプリケーションのロード 50**アラームディスプレイ、有効 / 無効** 78**イ****イーサネット**

- DHCP 61
- IP アドレス 60
- コネクタのピン配列 142
- ステータスインジケータ 142
- トラブルシューティング 169
- ネーム・サーバ・アドレス 62
- ポート 18
- リンク速度 62

印刷設定

- アラーム用 72
- 診断メッセージ用 72
- ディスプレイ用 72

インターネットグループ管理プロトコル (IGMP) 143**ウ****ウォッチドッグエラー** 101**エ****エラーメッセージ** 166**オ****オープンシステム** 12, 100**オープンシステムとクローズドシステム** 12, 100**オペレーティングシステム** 12, 85

- アプリケーションのサポート 86
- 拡張機能 12
- 拡張機能なし 12
- サーバサポート 87
- スクリプトのサポート 86
- ネットワークのサポート 86

温度

- ディスプレイ 94, 165
- プロセッサ 76, 165
- ロジックモジュール 94

カ**カーソル**

- FactoryTalk View ME 68
- コントロールパネル 97

カードスロット 14, 15, 18**外部電源** 38**拡張機能** 12, 87**カタログ番号**

- 400 および 600 ターミナル 20
- 700 ~ 1500 ターミナル 21
- アクセサリ 22
- 通信モジュール 23
- ディスプレイモジュール 22
- ロジックモジュール 23

環境およびエンクロージャ情報 27

キ

- キーパッド入力 19
- キーボードおよびキーパッド設定
 - FactoryTalk View ME 69
 - コントロールパネル 95
- キーボードとキーパッド設定
 - トラブルシューティング 169
- 危険な領域 28
- 起動
 - 異常 170
 - エラーメッセージ 165, 166
 - 初回 43
- 起動オプション 44
 - FactoryTalk View ME Station の無効 51
 - 構成モードの実行 51
 - 構成モードの無効 51
 - ロードしたアプリケーションの実行 53
- 輝度の調節 67

ク

- クローズドシステム 12, 100

ケ

- ケーブル 153
- 言語 81

コ

- 交換用ベゼル 26
- 高輝度ディスプレイ
 - 設置 179
 - ソーラーバイザー 179
 - 反射防止オーバーレイ 179
- 工場出荷時の設定 172
- 工場出荷時の設定の復元 172, 174
- 構成済みのターミナル 18
 - 400 および 600 ターミナル 20
 - 700 ~ 1500 ターミナル 21
 - 拡張機能付きの 400 および 600 20
 - 拡張機能付きの 700 および 1500 21
- 構成モード
 - アクセス 45
 - アプリケーションの実行 50
 - アプリケーションのロード 50
 - ターミナル設定 48
- 高度な診断 101
- コントロールパネル 89
 - カーソル 97
 - キーボードおよびキーパッド設定 95
 - クリーンセーバ 97
 - 高度な診断 101
 - システム・イベント・ログ 93
 - スタートアップオプション 99
 - タッチスクリーンのキャリブレーション 95

- ディスプレイの温度 94
- デスクトップの背景 96
- 入力パネル 88
- ネットワークサーバ 103
- バックアップおよび復元 90
- バッテリー電圧 94
- バッテリーの警告 99
- プロセスの実行 93
- プロセス温度 94
- ユーザアカウント 102
- ロゴの更新 98

サ

- サーバ
 - FTP 87, 109
 - UPnP 87
 - ViewPoint 87
 - VNC 87, 103, 104
 - Web 87, 108
 - ファイル 87, 112
 - 有効または無効 103

シ

- 時間と日付操作
 - FactoryTalk View ME 78
- システム・イベント・ログ 165
 - FactoryTalk View ME 76
 - コントロールパネル 93
- システム情報
 - FactoryTalk View ME 78
- システムの再起動 43
- シリアル接続
 - ヌル・モデム・ケーブル 145
- シリアル通信
 - DF1 144
 - DH485 144
 - アプリケーションの転送 144
 - 接続 144
 - ポート 144
 - モデムの使用 145
- 診断
 - FactoryTalk View ME 内 75
- シンプルネットワーク管理プロトコル (SNMP) 143

ス

- スクリーンセーバ
 - FactoryTalk View ME 68
 - コントロールパネル 97

スタートアップオプション 13

- FactoryTalk View ME 51
- ウォッチドッグエラーの表示 101
- オープンシステムまたはクローズドシステム 100
- 構成モードの実行 52
- 高度な診断 101
- コントロールパネル 99
- セーフモードの検出 100
- バッテリーの警告の表示 99
- ボタンスタイルの変更 100

ステータスインジケータ 18, 142**寸法**

- 製品 31
- パネルのカットアウト 30

セ**セーフモード** 100, 172**製品寸法** 31**設置**

- 700 ~ 1500 ターミナルの取付けターミナル 35
- USB 周辺機器 29, 140
- 環境およびエンクロージャ 27
- キーパッドの刻印文字差込みシート 135
- 危険な領域 28
- 高輝度ディスプレイ 179
- 製品寸法 31
- 製品ラベル 134
- バックライト 126
- バッテリー 130
- パネルのカットアウト 30
- ベゼル 124

ソ**ソーラーバイザー** 24**ソフトウェアのサポート**

- FactoryTalk View ME Station 13
- FactoryTalk View Studio for ME ソフトウェア 13
- FactoryTalk ViewPoint ソフトウェア 13
- Windows CE オペレーティングシステム 13

タ**ターミナルイメージの復元** 90**ターミナル機能**

- 400 14
- 600 15
- 700 ~ 1500 17

ターミナル設定 48

- 時間形式 82
- 時刻 79
- システム・イベント・ログ 76
- 診断 75
- タイムゾーン 80
- 日付 79
- 短い日付形式 83

ターミナルのリセット 172

- メンテナンスウィンドウから 172
- リセットスイッチ 18, 43

タッチスクリーン 16, 19**タッチスクリーンのキャリブレーション**

- FactoryTalk View ME 70
- コントロールパネル 95

タッチスクリーンの右クリック機能 86**チ****地域の設定**

- FactoryTalk View ME 81-83

ツ**通信**

- ControlNet 150
- DH+/DH485 モジュール 147
- KEPServer 58, 112
- RSLinux Enterprise 58
- イーサネット 60, 142
- コントローラのアドレス 60
- シリアル 144

通信モジュール 17, 23

- 交換 121
- 設置 120

テ**ディスプレイ設定**

- FactoryTalk View ME 67
- 解像度 172
- 構成モード 67
- コントロールパネル 96

ディスプレイの温度

- FactoryTalk View ME 67
- コントロールパネル 94

ディスプレイの輝度

- FactoryTalk View ME 67
- コントロールパネル 96

ディスプレイの清掃 138**ディスプレイモジュール** 17, 19, 22, 138**デスクトップへのアクセス**

- オープンとクローズド 12
- 工場出荷時のデフォルト状態 13
- パスワードの再設定 56
- パスワードの設定 56
- 無効 55
- 有効 54

デスクトップへのアクセスの有効 54

デバイス名 63
 デフォルトスイッチ 173
 電圧
 バッテリー 94, 165
 電源および端子台 26, 37
 電源接続
 AC 電源 41
 DC 電源 38
 再起動 44
 端子台 37

ト

トラブルシューティング 163
 イーサネット接続 169
 一般 164
 キーボード 169
 工場出荷時の設定の復元 172
 構成モードへのアクセス 170
 高度な 171
 スタートアップ・エラー・メッセージ 166
 セーフモードでの起動 172
 ディスプレイ解像度の変更 172
 電源の確認 164
 マウス 168
 メンテナンス操作 172
 取付け 35
 ハードウェア 26

ニ

入力デバイス
 FactoryTalk View ME 69
 コントロールパネル 95
 マウス 69, 71
 入力パネル 47

ネ

ネットワークサーバ 87, 103
 FTP 109
 VNC 104
 Web 108
 ファイル 112
 有効または無効 103

ハ

配線および安全に関するガイドライン 139
 パスワード
 再設定 56
 設定 56
 デスクトップへのアクセス 56
 バックアップ・ターミナル・イメージ 90
 バックアップおよび復元 90
 バックライト 24
 輝度 67, 96

バッテリー 26
 スタートアップ時の警告 99
 交換 130
 バッテリ電圧 76
 FactoryTalk View ME 76
 コントロールパネル 94
 パネルのカットアウト寸法 30
 反射防止オーバレイ 24, 179

ヒ

日付と時刻 79

フ

ファームウェアアップグレード
 ストレージデバイスの使用 157
 ネットワークを介して 160
 ファームウェア・アップグレード・ウィザード 156
 ファームウェアのアップグレード
 障害からの回復 167, 174
 ファームウェアのリビジョン 78
 FactoryTalk View ME 78
 コントロールパネル 99
 ファイルサーバ 87
 構成 112
 ファイルのコピー
 アプリケーション 66
 フォントファイル 66
 ファイルの削除
 アプリケーション 64
 フォントファイル 64
 ログファイル 64
 ファイルの転送 66
 ファイルビューワ 87
 フォント 177
 リンク 84
 プログラムランチャー ActiveX コントロール 170
 プロセッサ温度 76
 FactoryTalk View ME 76
 コントロールパネル 94

ヘ

ベゼルの交換 124

ホ

保護アース
 AC 電源 41
 ボタンのスタイル 100

マ

マウス 69, 71
 トラブルシューティング 168
 マリン認可コンポーネント 19, 23

メ

- メモリ使用率 76
 - FactoryTalk View ME 76
 - コントロールパネル 94
- メンテナンス操作
 - アクセス 173
 - 解像度 172
 - 工場出荷時の設定 172
 - セーフモード 172
 - デフォルトスイッチ 173

モ

- 文字列入力 69

ユ

- ユーザアカウント 102

ラ

- ランタイムケーブル 153

ロ

- ロードしたアプリケーションの実行 50
- ログ
 - アプリケーションファイル 74
 - システム・イベント・ログ 76, 93, 165
 - ランタイムファイル 74
- ロゴマネージャ 98
- ロジックモジュール 17, 18, 23
 - 交換 120

当社のサポートサービス

ロックウェル・オートメーションは、製品の使用を支援するための技術資料を Web で提供しています。<http://www.rockwellautomation.com/support> には、テクニカルノートやアプリケーションノート、サンプルコード、ソフトウェア・サービス・パックへのリンクがあります。また、当社のサポートセンター (<https://rockwellautomation.custhelp.com/>) にアクセスして、ソフトウェアアップデート、サポートチャットやフォーラム、技術情報、FAQ を利用でき、製品更新通知にも登録できます。

また、設置、構成、およびトラブルシューティング用の複数のサポートプログラムも提供されています。詳細は、代理店またはロックウェル・オートメーションの支店に問い合わせるか、または <http://www.rockwellautomation.com/services/online-phone> をご覧ください。

設置支援

設置から 24 時間以内に問題が発生した場合は、このマニュアルに記載されている情報を確認してください。製品を稼働するための初期支援が必要な場合は、カスタマサポートをご利用いただけます。

米国またはカナダ	1.440.646.3434
米国またはカナダ以外	弊社の Web サイト : (http://www.rockwellautomation.com/rockwellautomation/support/overview.page) をご利用いただくか、お近くのロックウェル・オートメーションの代理店にご連絡ください。

製品の返品

ロックウェル・オートメーションでは、工場出荷時にすべての製品をテストし、完全な動作の確認に役立っています。製品が機能しない場合に返品する必要があるときには、以下のように手続きを行なってください。

米国	代理店に連絡してください。返品手続きを行なうには、代理店にカスタマサポートのケース番号を知らせる必要があります (ケース番号は上記の電話番号にお問い合わせください)。
米国以外	返品手続きについては、地域のロックウェル・オートメーションの支店にお問い合わせください。

マニュアルに関するご意見やご要望

お客様のコメントは、マニュアルのニーズによりよく対応するのに役立ちます。マニュアルの改善についてご提案があれば、フォーム (Pub.No. [RA-DU002](http://www.rockwellautomation.com/literature/) (<http://www.rockwellautomation.com/literature/> から入手可能)) にご記入してお送りください。

ロックウェル・オートメーションは、以下の Web サイトで最新の製品環境情報を公開しています。
<http://www.rockwellautomation.com/rockwellautomation/about-us/sustainability-ethics/product-environmental-compliance.page>

www.rockwellautomation.com

Power, Control and Information Solutions Headquarters

Americas: Rockwell Automation, 1201 South Second Street, Milwaukee, WI 53204-2496 USA, Tel: (1) 414.382.2000, Fax: (1) 414.382.4444

Europe/Middle East/Africa: Rockwell Automation NV, Pegasus Park, De Kleetlaan 12a, 1831 Diegem, Belgium, Tel: (32) 2 663 0600, Fax: (32) 2 663 0640

Asia Pacific: Rockwell Automation, Level 14, Core F, Cyberport 3, 100 Cyberport Road, Hong Kong, Tel: (852) 2887 4788, Fax: (852) 2508 1846

ロックウェル オートメーション ジャパン株式会社
本社営業部 〒104-0033 東京都中央区新川1-3-17 Tel (03) 3206-2786 Fax (03) 3206-2796
関西支店 〒532-0003 大阪市淀川区宮原4-1-14 Tel (06) 6397-1020 Fax (06) 6397-1090
中部支店 〒460-0003 名古屋市中区錦1-6-5 Tel (052) 222-7060 Fax (052) 222-7065